

# 高津区区民生活に関わるニーズ調査 報 告 書



2021（令和3）年3月

高 津 区

# はじめに

少子高齢化の進展や人口減少への転換などの社会状況の変化に伴い、それぞれの地域で暮らす人々の生活も大きく変わりつつあり、身近な行政サービスの提供に加えて、住民が主体的に地域におけるさまざまな活動に参加し、お互いに支え合う仕組みづくりが必要となっています。

区役所には地域の課題が複雑化・多様化する中で、それぞれの地域が持つ魅力や特性を活かし、市民・地域・行政など多様な主体が連携しながら地域課題の解決に向けた参加と協働によるまちづくりを進めることが求められています。

高津区においても、防犯・防災、子育て支援、地域包括ケアシステムの推進、地域におけるつながりづくりなど様々な課題がありますが、これらの課題を解決するためには、区民の視点・感覚を踏まえて区政を進めていくことが大切と考えています。

高津区では、区政の主役である区民一人ひとりが個人や地域で抱える課題について、どのような意識や意見を持っているかを把握し、地域の声を最大限に反映できる施策のあり方や解決手法を検討し、選択する際の資料とするため、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を平成18年度より実施しています（2012（平成24）年度からは4年毎）。

今回の調査では、前回調査した「区役所業務に対する要望と評価」、  
「まちの課題・問題点」、「区事業の認知度と評価」、「地域防災」に加えて、「自身の健康」、「公園の整備」、「地域におけるつながり・コミュニティ」という3つのテーマを調査項目として取り上げています。

これらの調査結果を区が行う施策・事業に反映し、区民本位のよりよい区政運営に活かしていきたいと考えております。

2021（令和3）年3月  
高津区長 鈴木 哲朗

|     |                            |     |
|-----|----------------------------|-----|
| I   | 調査概要                       | 1   |
| II  | 調査回答者の属性                   | 7   |
| III | 調査結果                       | 13  |
|     | 1. 区の施策について                |     |
|     | （1）区役所業務の評価                | 15  |
|     | （2）区役所業務への要望               | 18  |
|     | （3）放置自転車対策                 | 21  |
|     | （4）街の安全を守るための対策            | 24  |
|     | （5）地震や風水害対策                | 27  |
|     | （6）健康推進                    | 31  |
|     | （7）高齢者支援                   | 34  |
|     | （8）子育て支援                   | 37  |
|     | （9）地域住民のつながりを深める手法         | 40  |
|     | （10）市民活動支援                 | 44  |
|     | （11）区の情報提供                 | 46  |
|     | （12）区民の意見を区政に反映するための手法     | 49  |
|     | （13）「花と緑のまちづくり」推進          | 52  |
|     | （14）区の文化の振興                | 54  |
|     | （15）「音楽のまち」推進              | 56  |
|     | （16）区のイメージアップ              | 58  |
|     | （17）区の地域資源の魅力の効果的な発信       | 60  |
|     | （18）区役所の窓口サービス向上           | 62  |
|     | （19）区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み | 65  |
|     | （20）地域の地球温暖化緩和策            | 68  |
|     | （21）地球温暖化に伴う自然災害への適応策      | 70  |
|     | （22）スポーツ振興                 | 72  |
|     | （23）生涯学習の支援や推進             | 74  |
|     | （24）まちの課題・問題点              | 76  |
|     | 2. 区の事業について                |     |
|     | （1）各事業の認知度・評価              | 81  |
|     | （2）各事業への参加状況・評価            | 88  |
|     | （3）各広報媒体等の閲覧状況・評価          | 103 |

## 目 次

---

### 3. 地域防災について

|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| (1) 大規模地震発生時の「不安度」          | 107 |
| (2) 大規模地震発生時の「不安内容」         | 112 |
| (3) 災害に対する不安                | 115 |
| (4) 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無     | 119 |
| (5) 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由 | 124 |
| (6) 防災力を高めるために必要なこと         | 129 |
| (7) 大規模災害発生への備え             | 131 |
| (8) 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由 | 135 |
| (9) 避難所における感染症対策            | 139 |
| (10) 避難方法について検討していること       | 141 |

### 4. 自身の健康について

|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| (1) 健康のために気をつけていること         | 143 |
| (2) 食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位 | 146 |
| (3) 最近2週間の睡眠の状態             | 152 |

### 5. 公園整備について

|              |     |
|--------------|-----|
| (1) 公園の利用頻度  | 155 |
| (2) 公園を訪れる目的 | 157 |
| (3) 公園に望む施設  | 159 |

### 6. 地域におけるつながり・コミュニティについて

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| (1) 気軽に人とつながることのできる場所や活動         | 161 |
| (2) 「まちのひろば」の認知度                 | 163 |
| (3) 参加してみたいと思う「まちのひろば」           | 165 |
| (4) 「まちのひろば」を始めてみたいか             | 167 |
| (5) 気軽に集える場所・活動を始める（続ける）にあたり望むこと | 169 |

## IV 使用した調査票

---

|         |     |
|---------|-----|
| 使用した調査票 | 171 |
|---------|-----|

# I 調査概要

## I 調査概要

### 1. 調査の目的

高津区の次年度以降の事業計画等において、区民ニーズ、必要性及び緊急性が高い課題等に対応する事業を効果的・重点的に実施するため、「区民がどのような施策・事業を執行してほしいと思っているのか」、「高津区で実施している施策・事業が区民にどのように評価されているか」等を調査・分析するために実施した。

### 2. 調査の方法

- (1) 調査地域 川崎市高津区全域
- (2) 調査対象 川崎市高津区在住の満 18 歳以上の男女個人（外国人を含む。）
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 令和 2 年 8 月末現在の住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収法
- (6) 調査期間 令和 2 年 10 月 1 日～10 月 31 日
- (7) 調査委託機関 株式会社エスピー研

### 3. 主要な調査項目

- (1) 区役所業務に対する評価と要望
- (2) 区役所の施策・事業についての手法
- (3) まちの課題・問題点
- (4) 区役所事業の認知度と評価
- (5) 地域防災について
- (6) 自身の健康について
- (7) 公園整備について
- (8) 地域におけるつながり・コミュニティについて

### 4. 回収結果

| 標 本 数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|-------|-------|-------|
| 2,000 | 1,080 | 54.0% |

<地区別回収結果>

| 町 名   |                 | 18歳以上人口（構成比） |          | 標本数   | 有効回収数（構成比） |          | 有効回収率 |
|-------|-----------------|--------------|----------|-------|------------|----------|-------|
| 高津地区  | 宇奈根             | 1,228        | （ 0.6%）  | 12    | 6          | （ 0.6%）  | 50.0% |
|       | 梶ヶ谷             | 8,836        | （ 4.5%）  | 91    | 56         | （ 5.2%）  | 61.5% |
|       | 上作延             | 9,331        | （ 4.8%）  | 94    | 59         | （ 5.5%）  | 62.8% |
|       | 北見方             | 7,693        | （ 3.9%）  | 80    | 44         | （ 4.1%）  | 55.0% |
|       | 久 地             | 10,964       | （ 5.6%）  | 113   | 60         | （ 5.6%）  | 53.1% |
|       | 坂 戸             | 7,758        | （ 4.0%）  | 81    | 41         | （ 3.8%）  | 50.6% |
|       | 下作延             | 19,230       | （ 9.9%）  | 196   | 107        | （ 9.9%）  | 54.6% |
|       | 下野毛             | 3,212        | （ 1.6%）  | 32    | 12         | （ 1.1%）  | 37.5% |
|       | 諏 訪             | 5,732        | （ 2.9%）  | 58    | 31         | （ 2.9%）  | 53.4% |
|       | 瀬 田             | 810          | （ 0.4%）  | 9     | 3          | （ 0.3%）  | 33.3% |
|       | 久 本             | 10,691       | （ 5.5%）  | 112   | 63         | （ 5.8%）  | 56.3% |
|       | 二 子             | 12,870       | （ 6.6%）  | 134   | 75         | （ 6.9%）  | 56.0% |
|       | 溝 口             | 14,254       | （ 7.3%）  | 148   | 74         | （ 6.9%）  | 50.0% |
|       | 向ヶ丘             | 2,091        | （ 1.1%）  | 21    | 10         | （ 0.9%）  | 47.6% |
|       | 高津地区・計          | 114,700      | (58.8%)  | 1,181 | 641        | (59.4%)  | 54.3% |
| 橘地区   | 明 津             | 2,828        | （ 1.4%）  | 30    | 10         | （ 0.9%）  | 33.3% |
|       | 蟹ヶ谷             | 7,088        | （ 3.6%）  | 72    | 47         | （ 4.4%）  | 65.3% |
|       | 子母口・<br>子母口富士見台 | 8,150        | （ 4.2%）  | 83    | 48         | （ 4.4%）  | 57.8% |
|       | 新 作             | 13,588       | （ 7.0%）  | 139   | 75         | （ 6.9%）  | 54.0% |
|       | 末 長             | 18,319       | （ 9.4%）  | 190   | 92         | （ 8.5%）  | 48.4% |
|       | 千 年             | 11,153       | （ 5.7%）  | 115   | 54         | （ 5.0%）  | 47.0% |
|       | 千年新町            | 2,590        | （ 1.3%）  | 25    | 14         | （ 1.3%）  | 56.0% |
|       | 野 川             | 3,883        | （ 2.0%）  | 38    | 15         | （ 1.4%）  | 39.5% |
|       | 久 末             | 12,765       | （ 6.5%）  | 127   | 62         | （ 5.7%）  | 48.8% |
| 橘地区・計 |                 | 80,364       | (41.2%)  | 819   | 417        | (38.6%)  | 50.9% |
| 無 回 答 |                 |              |          |       | 22         | （ 2.0%）  |       |
| 全体・計  |                 | 195,064      | (100.0%) | 2,000 | 1,080      | (100.0%) | 54.0% |

※18歳以上人口は、令和2年9月末現在の住民基本台帳による

## 5. 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の通りである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）及び回答の比率（P）によって異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

$N$  = 母集団数（高津区の18歳以上の人口）  
 $n$  = 比率算出の基数（サンプル数）  
 $P$  = 回答の比率（%）

| 回答比率(P)<br>基数 (n) | 10%または<br>90%前後 | 20%または<br>80%前後 | 30%または<br>70%前後 | 40%または<br>60%前後 | 50%前後   |
|-------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|
| 1,080             | ± 2.58          | ± 3.44          | ± 3.94          | ± 4.22          | ± 4.30  |
| 700               | ± 3.21          | ± 4.28          | ± 4.90          | ± 5.24          | ± 5.35  |
| 500               | ± 3.79          | ± 5.06          | ± 5.80          | ± 6.20          | ± 6.32  |
| 300               | ± 4.90          | ± 6.53          | ± 7.48          | ± 8.00          | ± 8.16  |
| 100               | ± 8.49          | ± 11.31         | ± 12.96         | ± 13.86         | ± 14.14 |

※上表は  $\frac{N - n}{N - 1} \div 1$  として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

### ●この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,080で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±4.22%以内（55.78～64.22%）である」とみることができる。

## 6. 報告書の見方

- （1）この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- （2）回答の比率（%）はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、それぞれの回答の比率を足し上げた値とは異なる場合がある。
- （3）本文図表の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- （4）回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない。
- （5）クロス集計の図表では、分析軸となる質問（性別、性・年齢別など）に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- （6）統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

| 例          | 表現     |
|------------|--------|
| 19.5～20.4% | 2割     |
| 20.5～20.9% | 約2割    |
| 21.0～23.9% | 2割を超える |
| 24.0～26.4% | 2割半ば   |
| 26.5～28.9% | 3割近く   |
| 29.0～29.4% | 約3割    |
| 29.5～30.4% | 3割     |

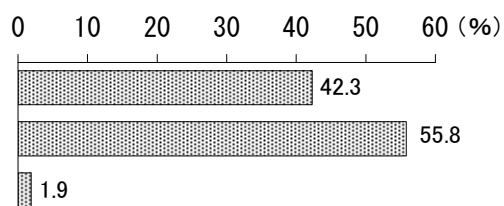


## Ⅱ 調査回答者の属性

## Ⅱ 調査回答者の属性

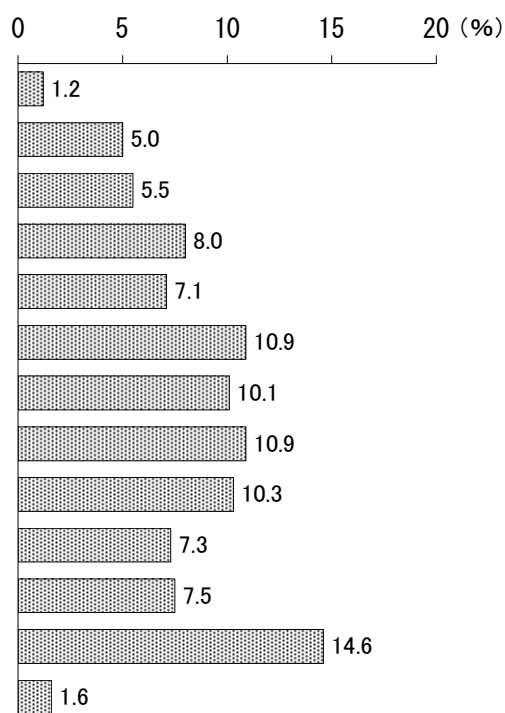
### (1) 性別【F 1】

|         | n     | 構成比   |
|---------|-------|-------|
| 男 性     | 457   | 42.3% |
| 女 性     | 603   | 55.8  |
| (無 回 答) | 20    | 1.9   |
| 合 計     | 1,080 | 100.0 |



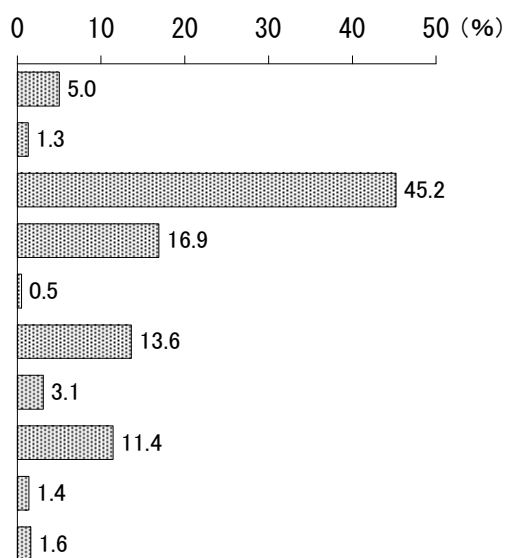
### (2) 年齢【F 2】

|         | n     | 構成比   |
|---------|-------|-------|
| 18～19歳  | 13    | 1.2%  |
| 20～24歳  | 54    | 5.0   |
| 25～29歳  | 59    | 5.5   |
| 30～34歳  | 86    | 8.0   |
| 35～39歳  | 77    | 7.1   |
| 40～44歳  | 118   | 10.9  |
| 45～49歳  | 109   | 10.1  |
| 50～54歳  | 118   | 10.9  |
| 55～59歳  | 111   | 10.3  |
| 60～64歳  | 79    | 7.3   |
| 65～69歳  | 81    | 7.5   |
| 70歳以上   | 158   | 14.6  |
| (無 回 答) | 17    | 1.6   |
| 合 計     | 1,080 | 100.0 |

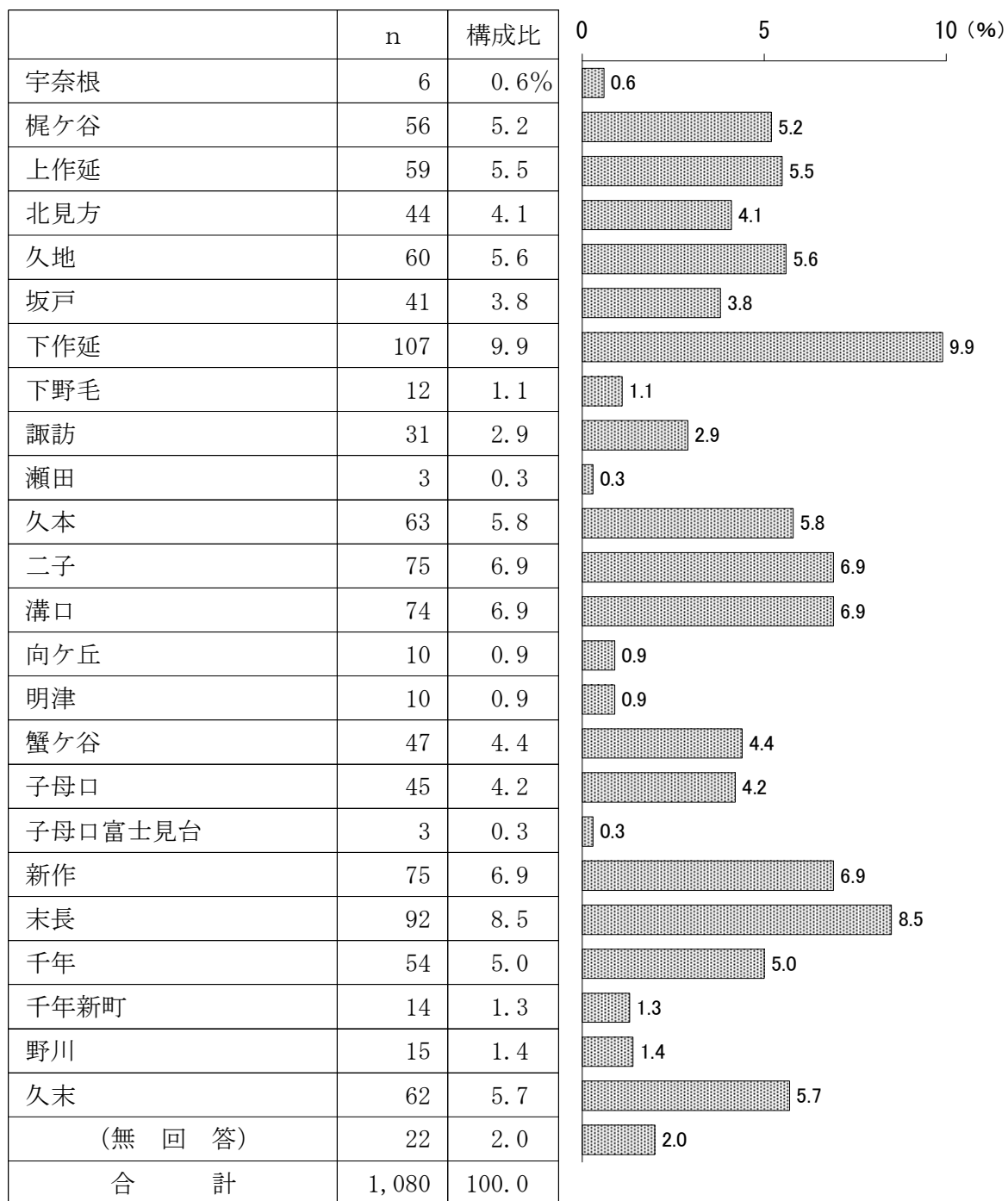


### (3) 職業【F 3】

|              | n     | 構成比   |
|--------------|-------|-------|
| 自営業主         | 54    | 5.0%  |
| 家族従業（家業手伝い）  | 14    | 1.3   |
| 勤め（全日）       | 488   | 45.2  |
| 勤め（パートタイム）   | 183   | 16.9  |
| 内職           | 5     | 0.5   |
| 主婦（仕事はしていない） | 147   | 13.6  |
| 学生           | 34    | 3.1   |
| 無職           | 123   | 11.4  |
| その他          | 15    | 1.4   |
| (無 回 答)      | 17    | 1.6   |
| 合 計          | 1,080 | 100.0 |

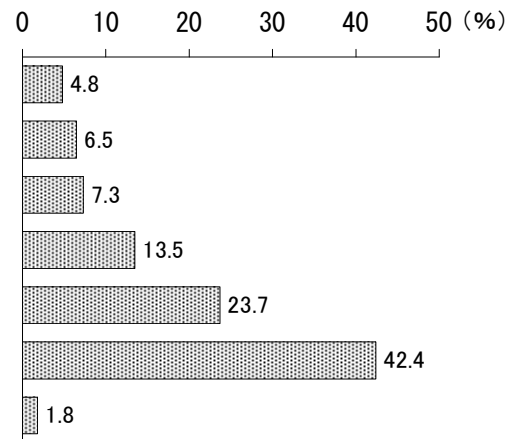


(4) 居住地区【F 4】



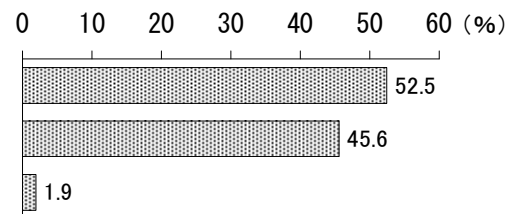
(5) 居住年数【F 5】

|             | n     | 構成比   |
|-------------|-------|-------|
| 1 年未満       | 52    | 4.8%  |
| 1 年～3 年未満   | 70    | 6.5   |
| 3 年～5 年未満   | 79    | 7.3   |
| 5 年～10 年未満  | 146   | 13.5  |
| 10 年～20 年未満 | 256   | 23.7  |
| 20 年以上      | 458   | 42.4  |
| (無 回 答)     | 19    | 1.8   |
| 合 計         | 1,080 | 100.0 |



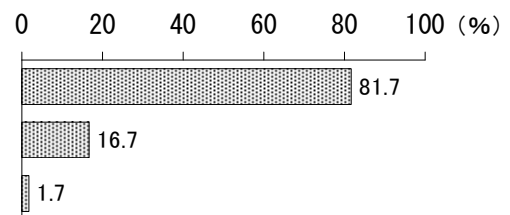
(6) 町内会・自治会加入【F 6】

|               | n     | 構成比   |
|---------------|-------|-------|
| はい (加入している)   | 567   | 52.5% |
| いいえ (加入していない) | 492   | 45.6  |
| (無 回 答)       | 21    | 1.9   |
| 合 計           | 1,080 | 100.0 |



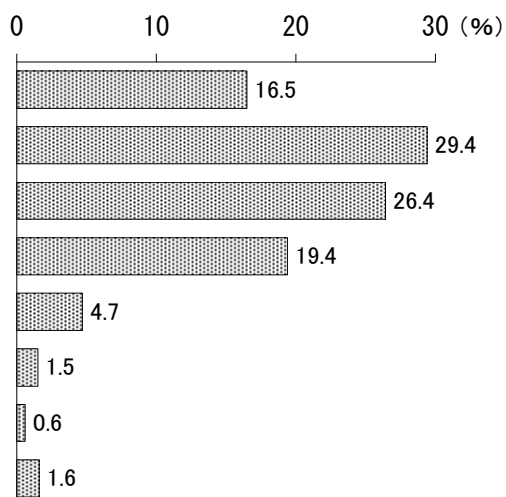
(7) インターネット利用状況【F 7】

|               | n     | 構成比   |
|---------------|-------|-------|
| はい (利用している)   | 882   | 81.7% |
| いいえ (利用していない) | 180   | 16.7  |
| (無 回 答)       | 18    | 1.7   |
| 合 計           | 1,080 | 100.0 |



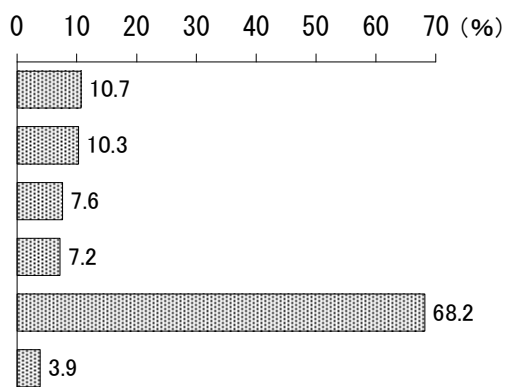
(8) 同居家族人数【F 8】

|         | n     | 構成比   |
|---------|-------|-------|
| 1 人     | 178   | 16.5% |
| 2 人     | 317   | 29.4  |
| 3 人     | 285   | 26.4  |
| 4 人     | 209   | 19.4  |
| 5 人     | 51    | 4.7   |
| 6 人     | 16    | 1.5   |
| 7 人以上   | 7     | 0.6   |
| (無 回 答) | 17    | 1.6   |
| 合 計     | 1,080 | 100.0 |



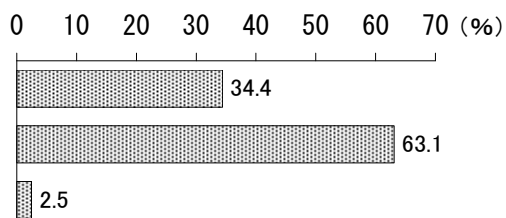
(9) 子どもの成長段階【F 9】

|         | n     | 構成比   |
|---------|-------|-------|
| 未就学児    | 116   | 10.7% |
| 小学生     | 111   | 10.3  |
| 中学生     | 82    | 7.6   |
| 高校生     | 78    | 7.2   |
| いない     | 737   | 68.2  |
| (無 回 答) | 42    | 3.9   |
| 合 計     | 1,080 | 100.0 |



(10) 65 歳以上の方との同居（高齢者世帯）【F 10】

|         | n     | 構成比   |
|---------|-------|-------|
| いる      | 371   | 34.4% |
| いない     | 682   | 63.1  |
| (無 回 答) | 27    | 2.5   |
| 合 計     | 1,080 | 100.0 |



### Ⅲ 調査結果

### Ⅲ 調査結果

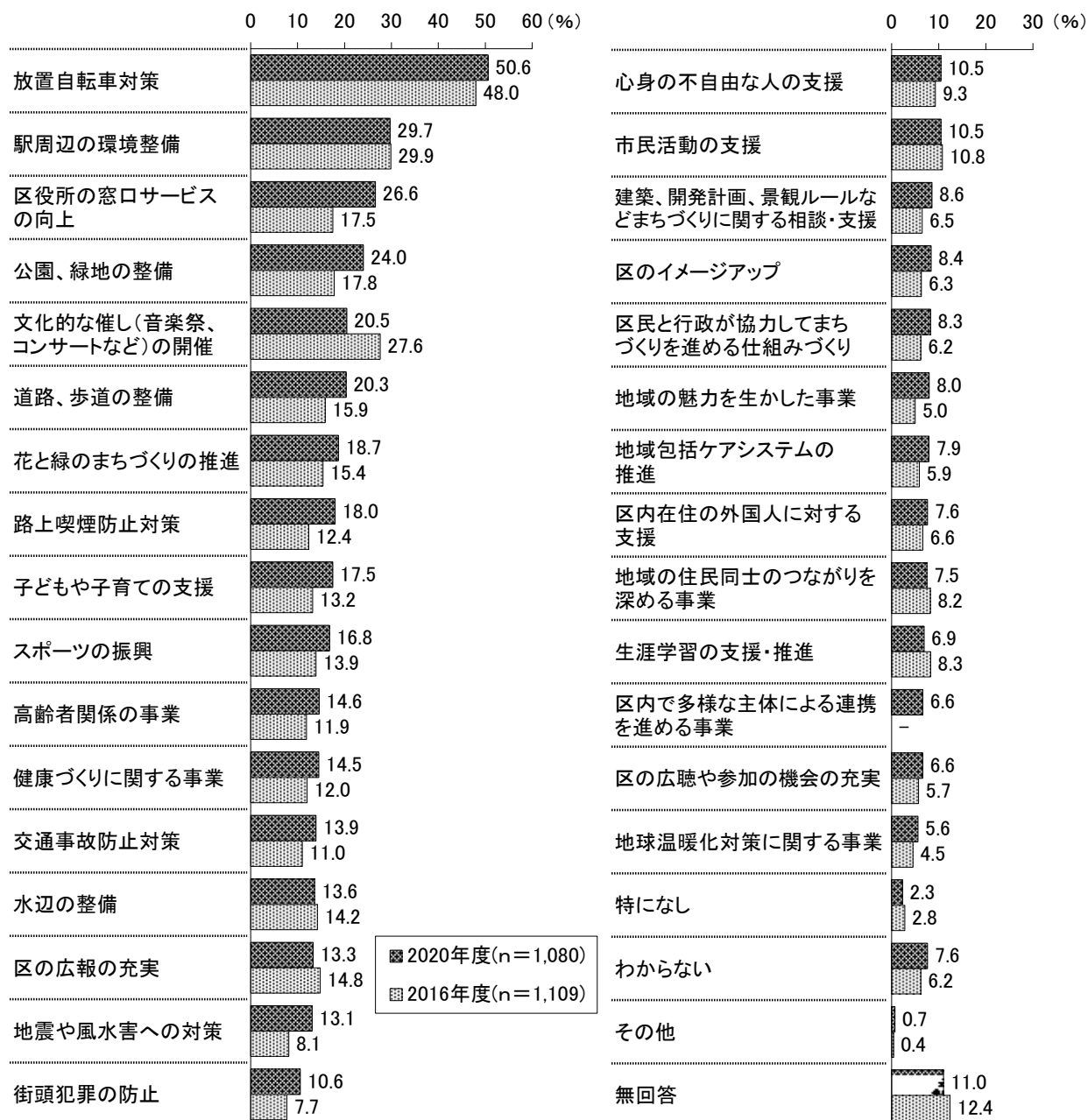
#### 1. 区の施策について

##### (1) 区役所業務の評価

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。

(いくつでも○)

図1-1 区役所業務の評価



※「公園、緑地の整備」は、2016年度では「緑地の整備」としていた

※「区内で多様な主体による連携を進める事業」は2020年度に追加された選択肢

※「区の広聴や参加の機会の充実」は、2016年度では「区の広聴の充実」としていた

※地域包括ケアシステム：住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、自助・互助・共助・公助の適切な役割分担のもと、住まい・医療・介護・予防・福祉・生活支援などが切れ目なく、一体的に提供される体制づくり

※生涯学習：人々が生涯にわたって、様々な場や機会において行う学習

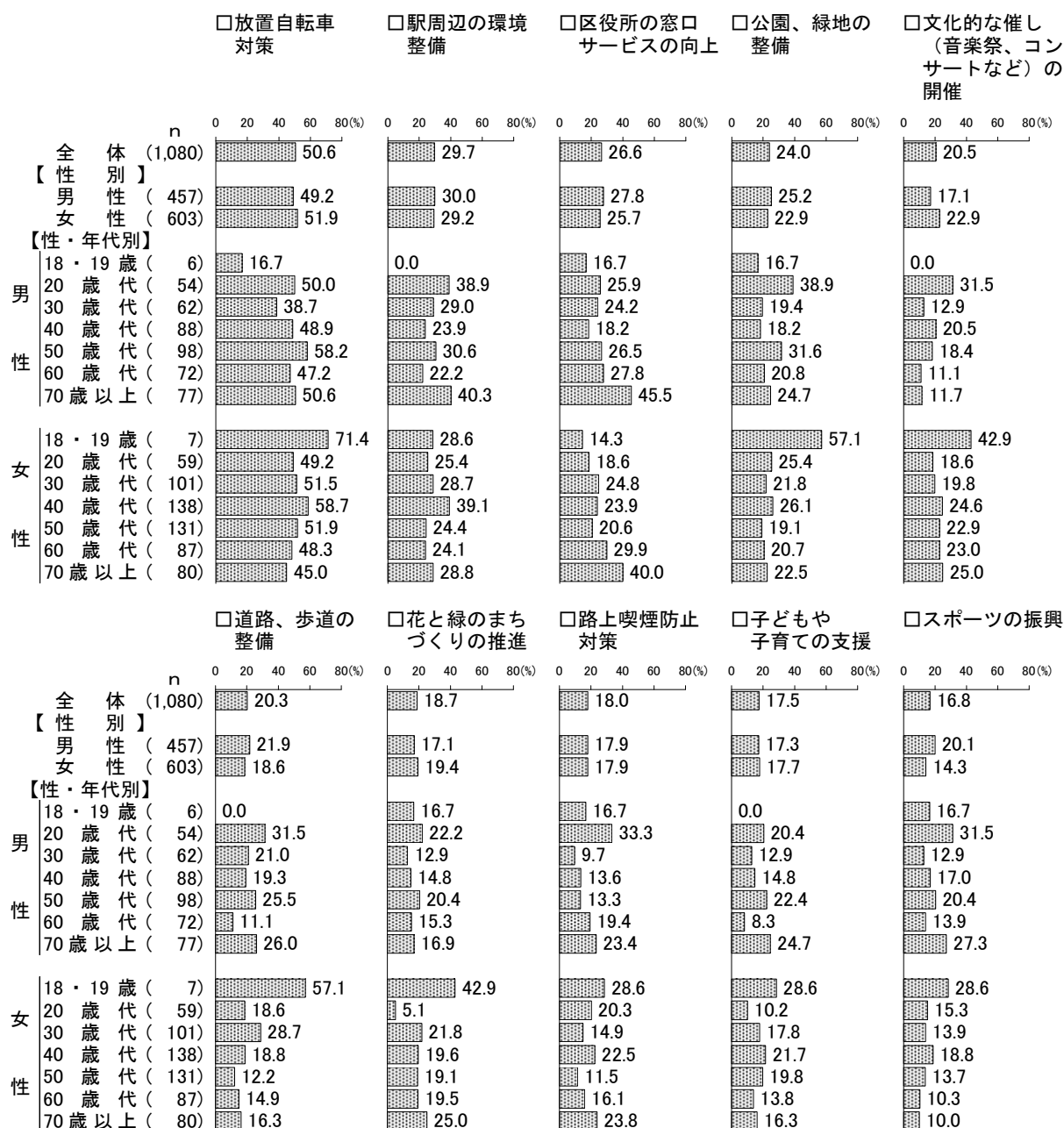
※広聴：行政機関などが広く一般の人の意見や要望などを聞くこと

※参加：市民の参加の下で市政が行われ、市民の意思を自治体運営に反映すること。(この調査では、区民の皆さまの声を区政に反映することを指します。)

区役所業務の評価を聞いたところ、「放置自転車対策」(50.6%) が約5割で最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(29.7%)、「区役所の窓口サービスの向上」(26.6%)、「公園、緑地の整備」(24.0%)となっている。

2016 年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区役所の窓口サービスの向上」は 9.1 ポイント増加している。一方、「文化的な催し（音楽祭、コンサートなど）の開催」は 7.1 ポイント減少している。（図 1-1）

図 1-2 区役所業務の評価（性別、性・年代別）－上位10項目



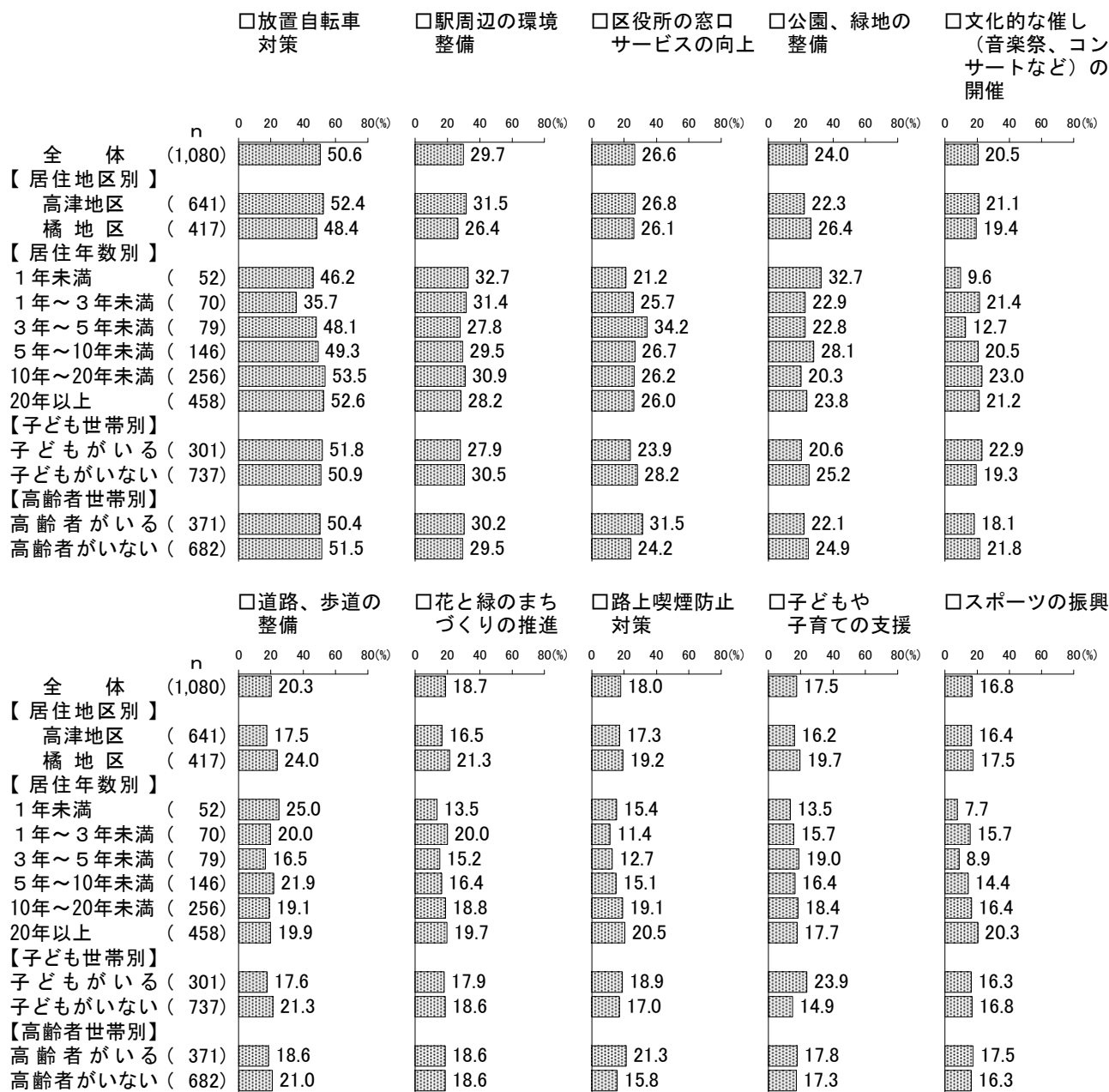
性別にみると、「文化的な催し（音楽祭、コンサートなど）の開催」は女性(22.9%)が男性(17.1%)より 5.8 ポイント高くなっている。一方、「スポーツの振興」は男性 (20.1%) が女性 (14.3%) より 5.8 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「放置自転車対策」は女性 40 歳代 (58.7%) と男性 50 歳代 (58.2%) で 6 割近くと高くなっている。「区役所の窓口サービスの向上」は男性 70 歳以上 (45.5%) で 4 割半ばと高くなっている。（図 1-2）



図 1-3 区役所業務の評価（居住地区別、居住年数別、子ども世帯別、高齢者世帯別）

ー上位10項目



居住地区別にみると、「道路、歩道の整備」は橘地区（24.0%）が高津地区（17.5%）より 6.5 ポイント高くなっている。一方、「駅周辺の環境整備」は高津地区（31.5%）が橘地区（26.4%）より 5.1 ポイント高くなっている。

居住年数別にみると、「放置自転車対策」は 10 年～20 年未満（53.5%）と 20 年以上（52.6%）で 5 割を超えて高くなっている。

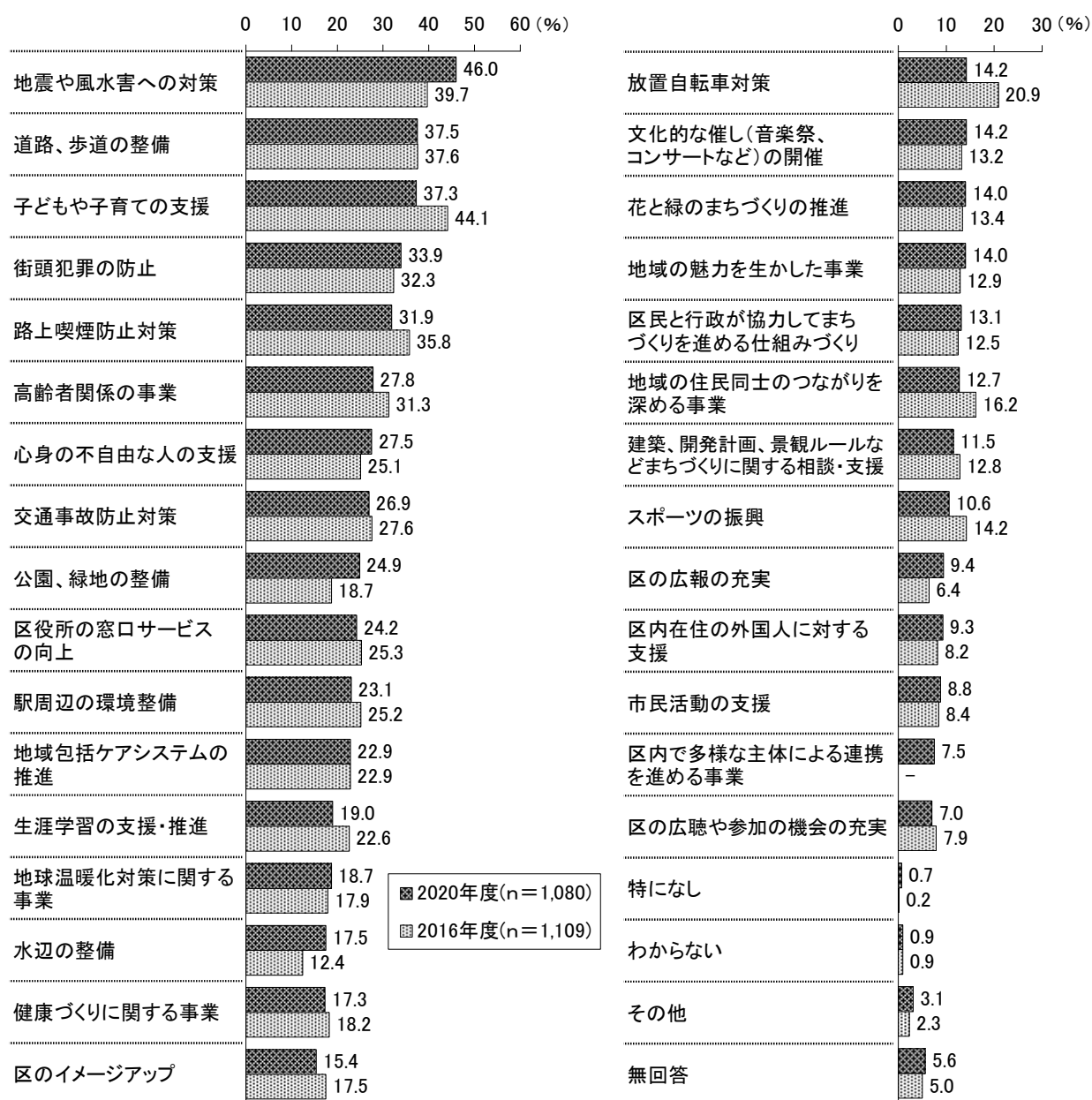
子ども世帯別にみると、「子どもや子育ての支援」は子どもがいる世帯（23.9%）が子どもがいない世帯（14.9%）より 9.0 ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「区役所の窓口サービスの向上」は高齢者がいる世帯（31.5%）が高齢者がいない世帯（24.2%）より 7.3 ポイント高くなっている。（図 1-3）

## (2) 区役所業務への要望

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(いくつでも○)

図1-4 区役所業務への要望



※「公園、緑地の整備」は、2016年度では「緑地の整備」としていた

※「区内で多様な主体による連携を進める事業」は2020年度に追加された選択肢

※「区の広聴や参加の機会の充実」は、2016年度では「区の広聴の充実」としていた

※地域包括ケアシステム：住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、自助・互助・共助・公助の適切な役割分担のもと、住まい・医療・介護・予防・福祉・生活支援などが切れ目なく、一体的に提供される体制づくり

※生涯学習：人々が生涯にわたって、様々な場や機会において行う学習

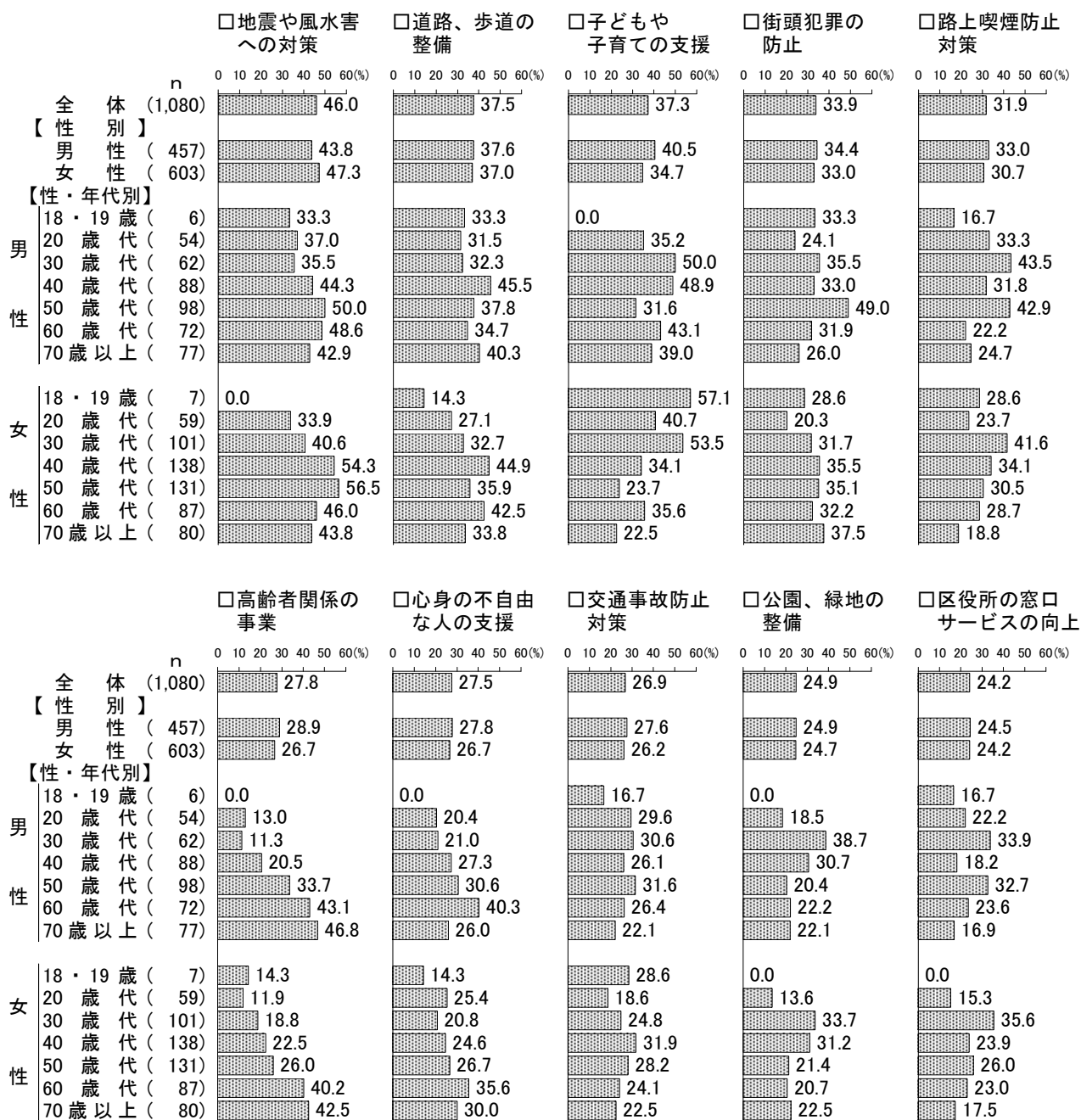
※広聴：行政機関などが広く一般の人の意見や要望などを聞くこと

※参加：市民の参加の下で市政が行われ、市民の意思を自治体運営に反映すること。(この調査では、区民の皆さまの声を区政に反映することを指します。)

区役所業務への要望を聞いたところ、「地震や風水害への対策」(46.0%)が4割半ばで最も高く、次いで「道路、歩道の整備」(37.5%)、「子どもや子育ての支援」(37.3%)、「街頭犯罪の防止」(33.9%)となっている。

2016年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地震や風水害への対策」は6.3ポイント増加している。一方、「子どもや子育ての支援」は6.8ポイント、「放置自転車対策」は6.7ポイント、それぞれ減少している。(図1-4)

図 1-5 区役所業務への要望（性別、性・年代別）ー上位10項目

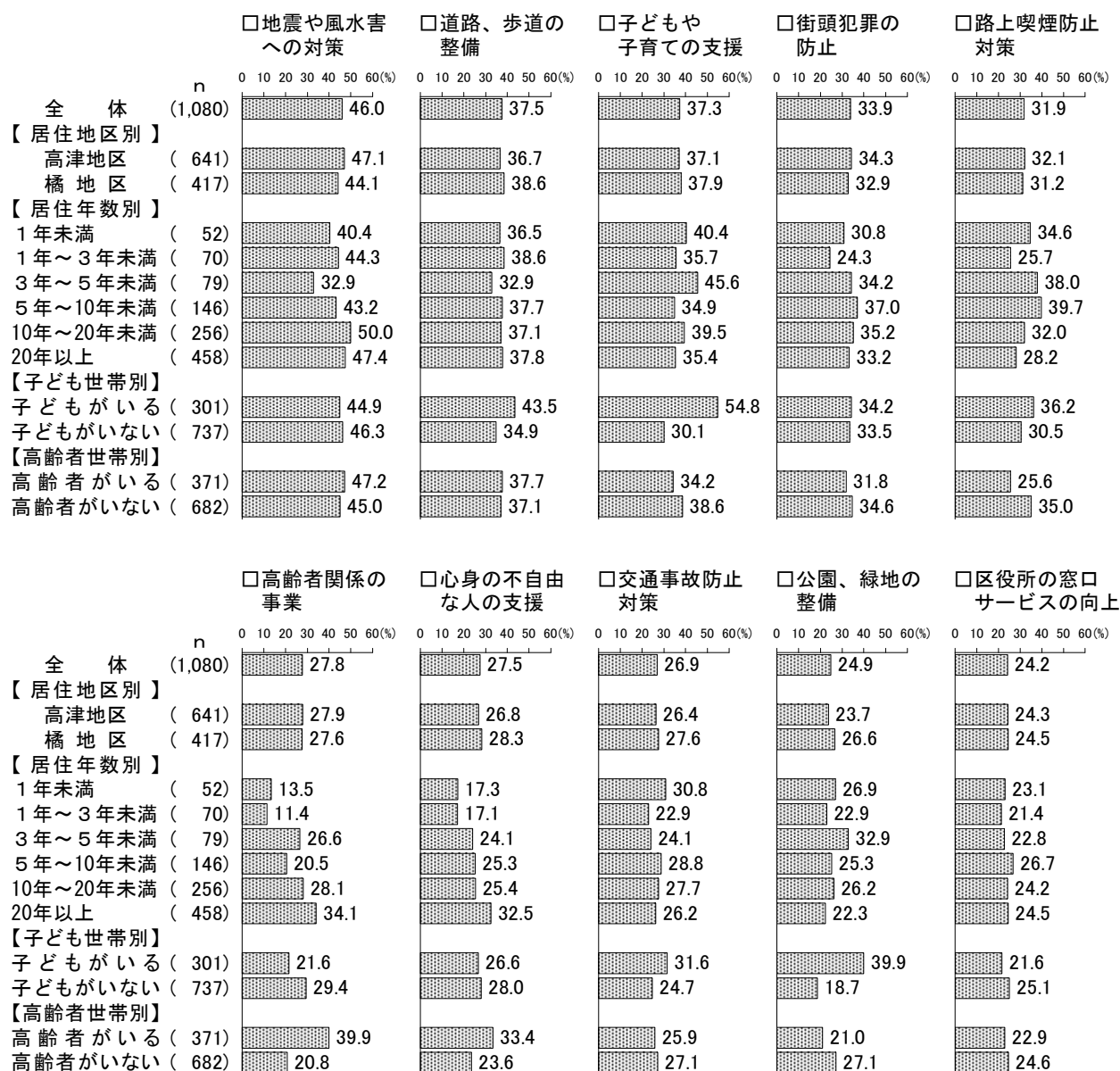


性別にみると、「子どもや子育ての支援」は男性（40.5%）が女性（34.7%）より 5.8 ポイント高くなっている。一方、「地震や風水害への対策」は女性（47.3%）が男性（43.8%）より 3.5 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「地震や風水害への対策」は女性 50 歳代（56.5%）で 6 割近く、女性 40 歳代（54.3%）で 5 割半ばと高くなっている。「子どもや子育ての支援」は女性 30 歳代（53.5%）で 5 割を超えて高くなっている。「街頭犯罪の防止」は男性 50 歳代（49.0%）で約 5 割と高くなっている。（図 1-5）

図 1-6 区役所業務への要望（居住地区別、居住年数別、子ども世帯別、高齢者世帯別）

—上位10項目



居住地区別にみると、「地震や風水害への対策」は高津地区（47.1%）が橘地区（44.1%）より3.0ポイント高くなっている。

居住年数別にみると、「地震や風水害への対策」は10年～20年未満（50.0%）で5割と高くなっている。「子どもや子育ての支援」は3年～5年未満（45.6%）で4割半ばと高くなっている。

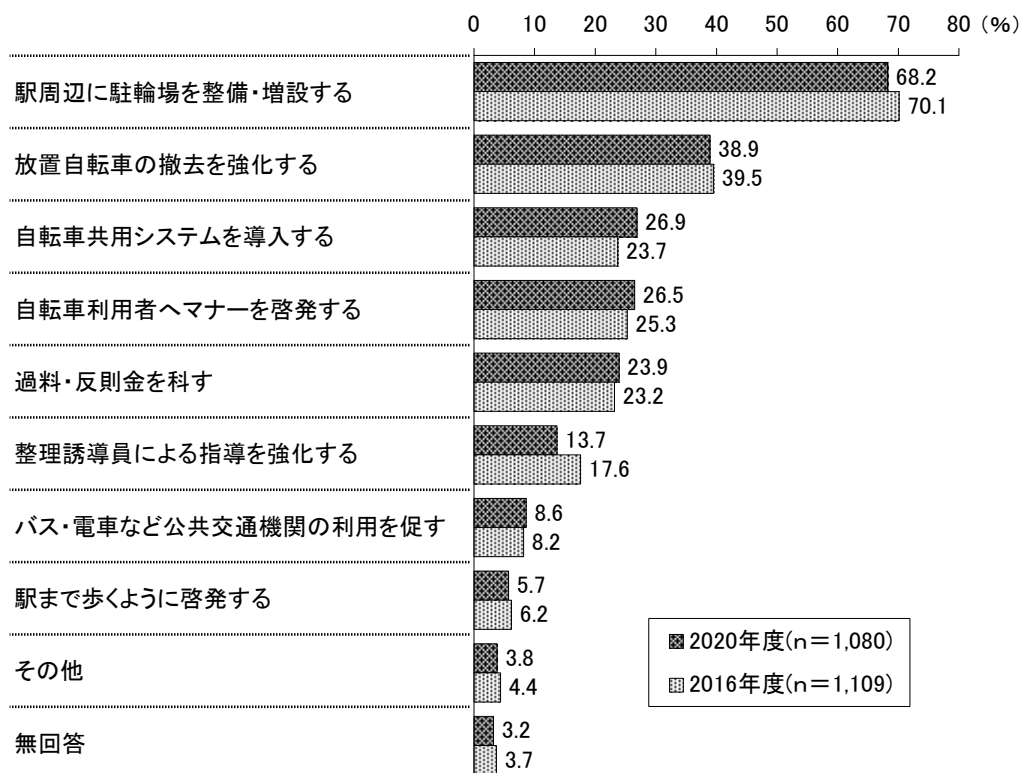
子ども世帯別にみると、「子どもや子育ての支援」は子どもがいる世帯（54.8%）が子どもがいない世帯（30.1%）より24.7ポイント、「公園、緑地の整備」は子どもがいる世帯（39.9%）が子どもがいない世帯（18.7%）より21.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「高齢者関係の事業」は子どもがいない世帯（29.4%）が子どもがいる世帯（21.6%）より7.8ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「高齢者関係の事業」は高齢者がいる世帯（39.9%）が高齢者がいない世帯（20.8%）より19.1ポイント高くなっている。一方、「路上喫煙防止対策」は高齢者がいない世帯（35.0%）が高齢者がある世帯（25.6%）より9.4ポイント高くなっている。（図1-6）

### (3) 放置自転車対策

問3 放置自転車対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-7 放置自転車対策



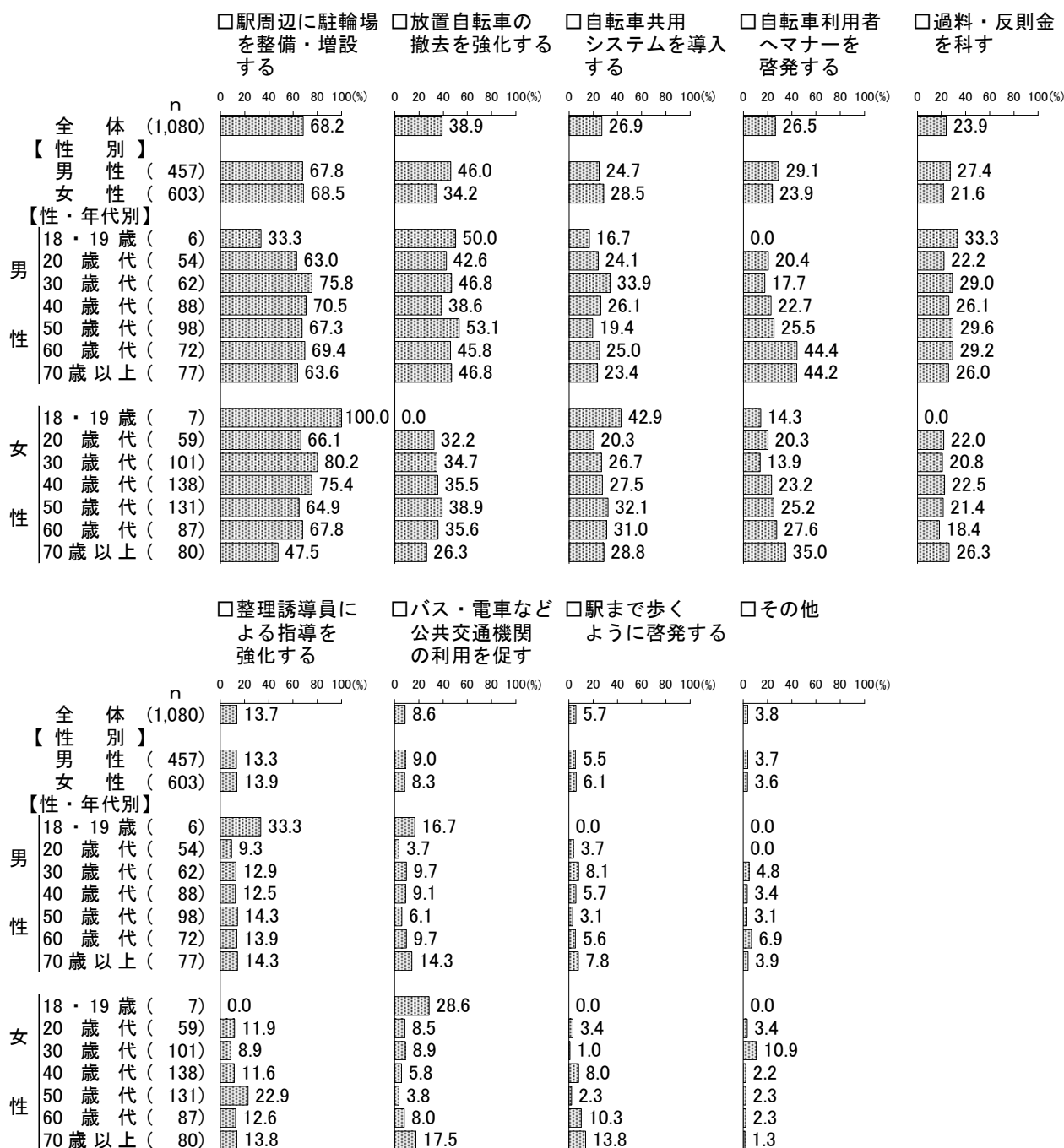
※「過料・反則金を科す」は、2016年度では「過料・罰金を科す」としていた

※自転車共用システム：共用の自転車を用意し、システムに登録した人がその自転車を利用できるようにする。自宅からの利用者は、共用の自転車に乗り、駅前の駐輪場に停める。駅から駅周辺の会社・学校に通う人がその自転車を利用することにより、駐輪場に停めておく自転車を減少させるというもの

放置自転車対策を聞いたところ、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」(68.2%)が7割近くで最も高く、次いで「放置自転車の撤去を強化する」(38.9%)、「自転車共用システムを導入する」(26.9%)、「自転車利用者へマナーを啓発する」(26.5%)となっている。

2016年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「自転車共用システムを導入する」は3.2ポイント増加している。一方、「整理誘導員による指導を強化する」は3.9ポイント減少している。(図1-7)

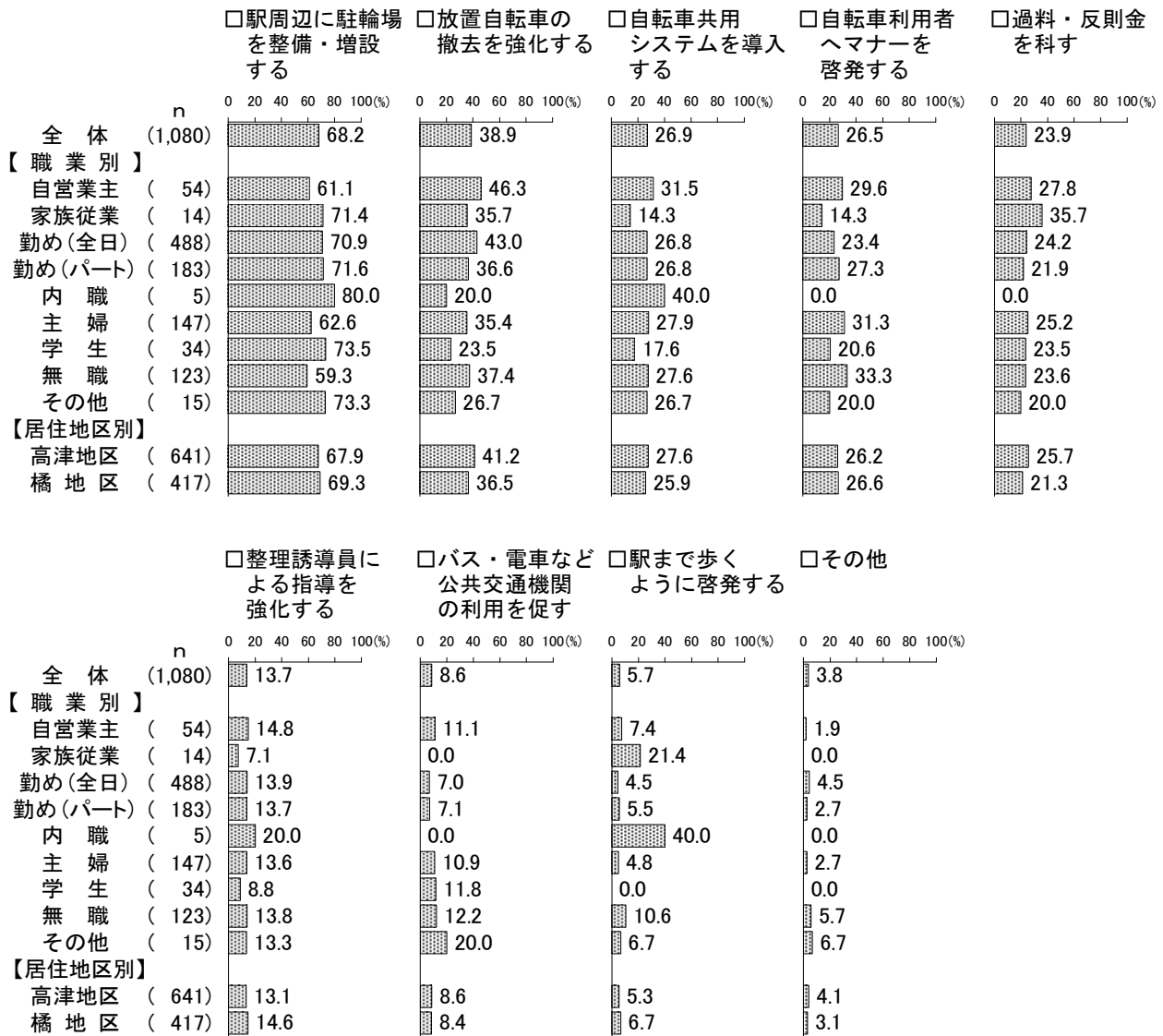
図 1-8 放置自転車対策（性別、性・年代別）



性別にみると、「放置自転車の撤去を強化する」は男性（46.0%）が女性（34.2%）より 11.8 ポイント、「過料・反則金を科す」は男性（27.4%）が女性（21.6%）より 5.8 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「自転車共用システムを導入する」は女性（28.5%）が男性（24.7%）より 3.8 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」は女性 30 歳代（80.2%）で 8 割と高くなっている。「放置自転車の撤去を強化する」は男性 50 歳代（53.1%）で 5 割を超えて高くなっている。「自転車利用者へマナーを啓発する」は男性 60 歳代（44.4%）と男性 70 歳以上（44.2%）で 4 割半ばと高くなっている。（図 1-8）

図 1-9 放置自転車対策（職業別、居住地区別）



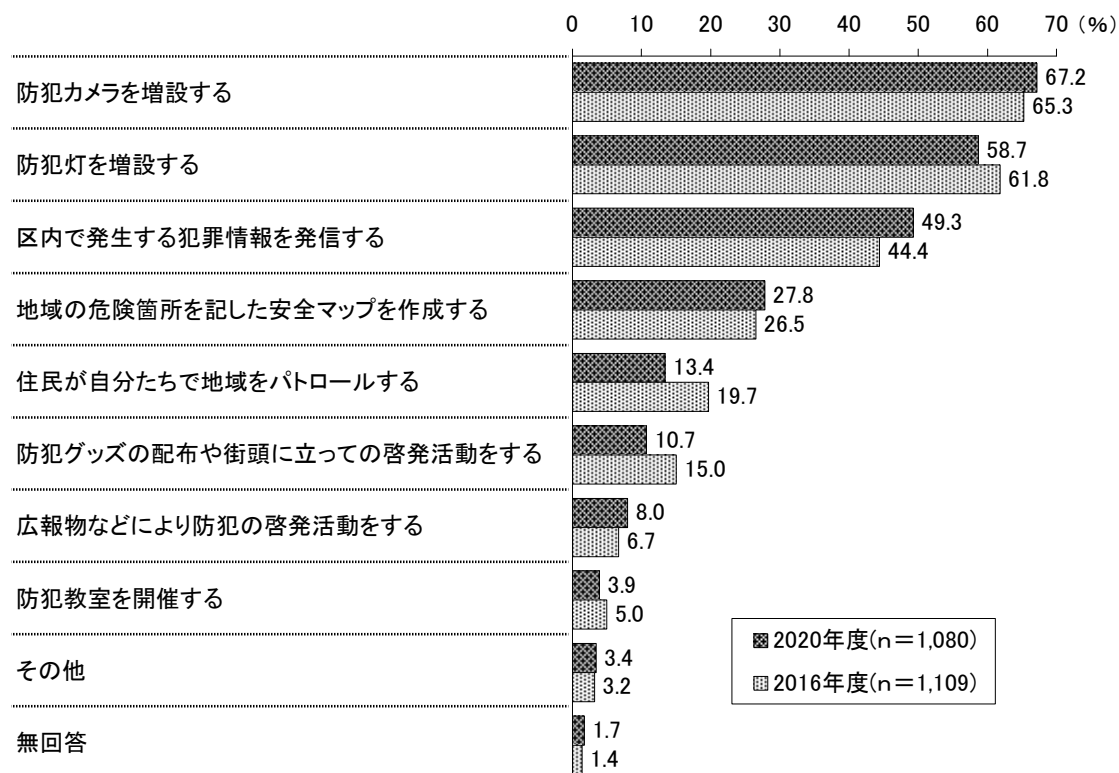
職業別にみると、「放置自転車の撤去を強化する」は自営業主（46.3%）で4割半ばと高くなっている。「自転車利用者へマナーを啓発する」は無職（33.3%）と主婦（仕事はしていない）（31.3%）で3割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「放置自転車の撤去を強化する」は高津地区（41.2%）が橘地区（36.5%）より 4.7 ポイント、「過料・反則金を科す」は高津地区（25.7%）が橘地区（21.3%）より 4.4 ポイント、それぞれ高くなっている。（図 1-9）

#### (4) 街の安全を守るための対策

問4 街の安全を守るためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-10 街の安全を守るための対策

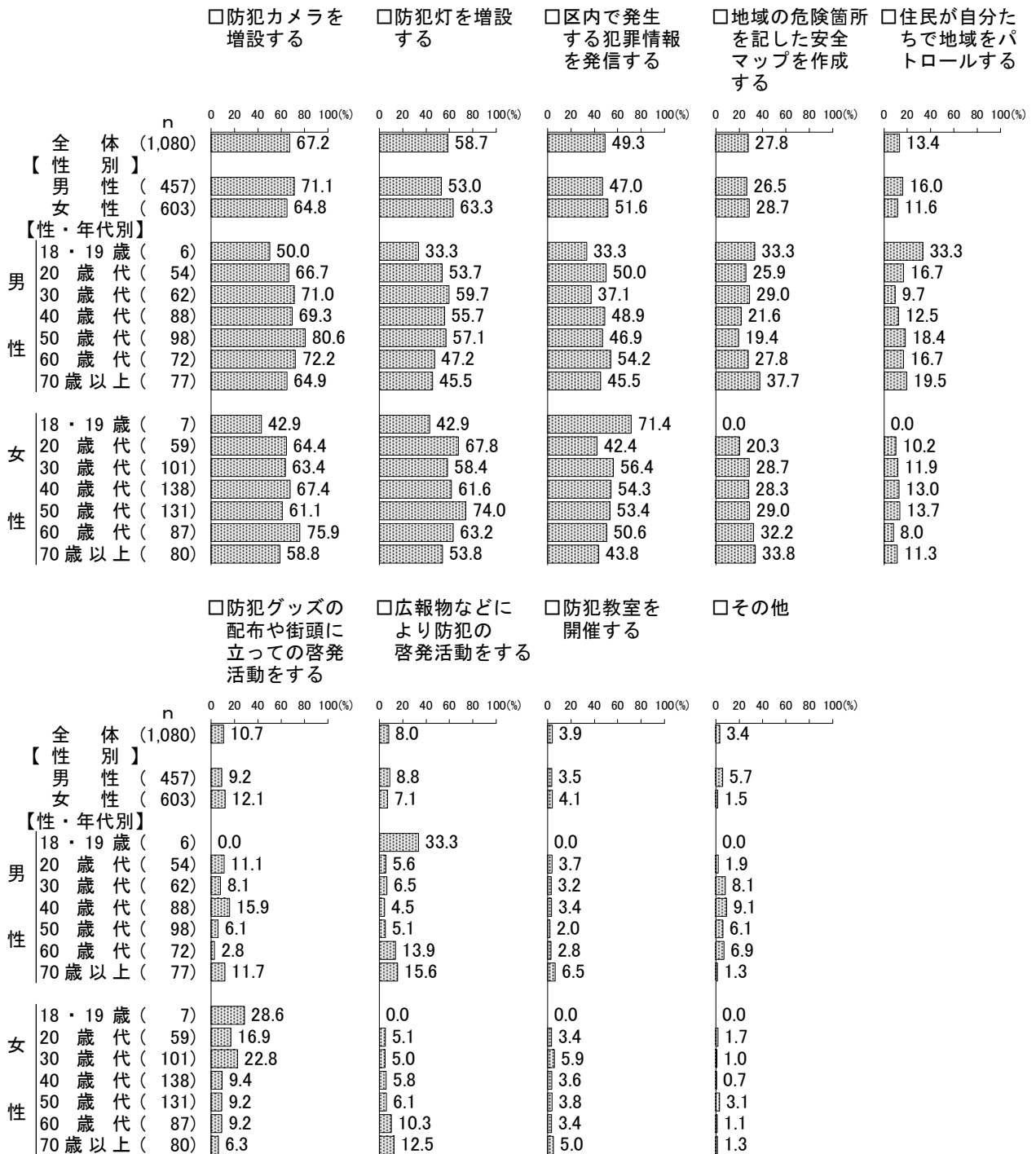


街の安全を守るための対策を聞いたところ、「防犯カメラを増設する」(67.2%)が7割近くで最も高く、次いで「防犯灯を増設する」(58.7%)、「区内で発生する犯罪情報を発信する」(49.3%)、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」(27.8%)となっている。

2016年度と比較すると、「区内で発生する犯罪情報を発信する」は4.9ポイント増加している。一方、「住民が自分たちで地域をパトロールする」は6.3ポイント、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」は4.3ポイント、それぞれ減少している。(図1-10)



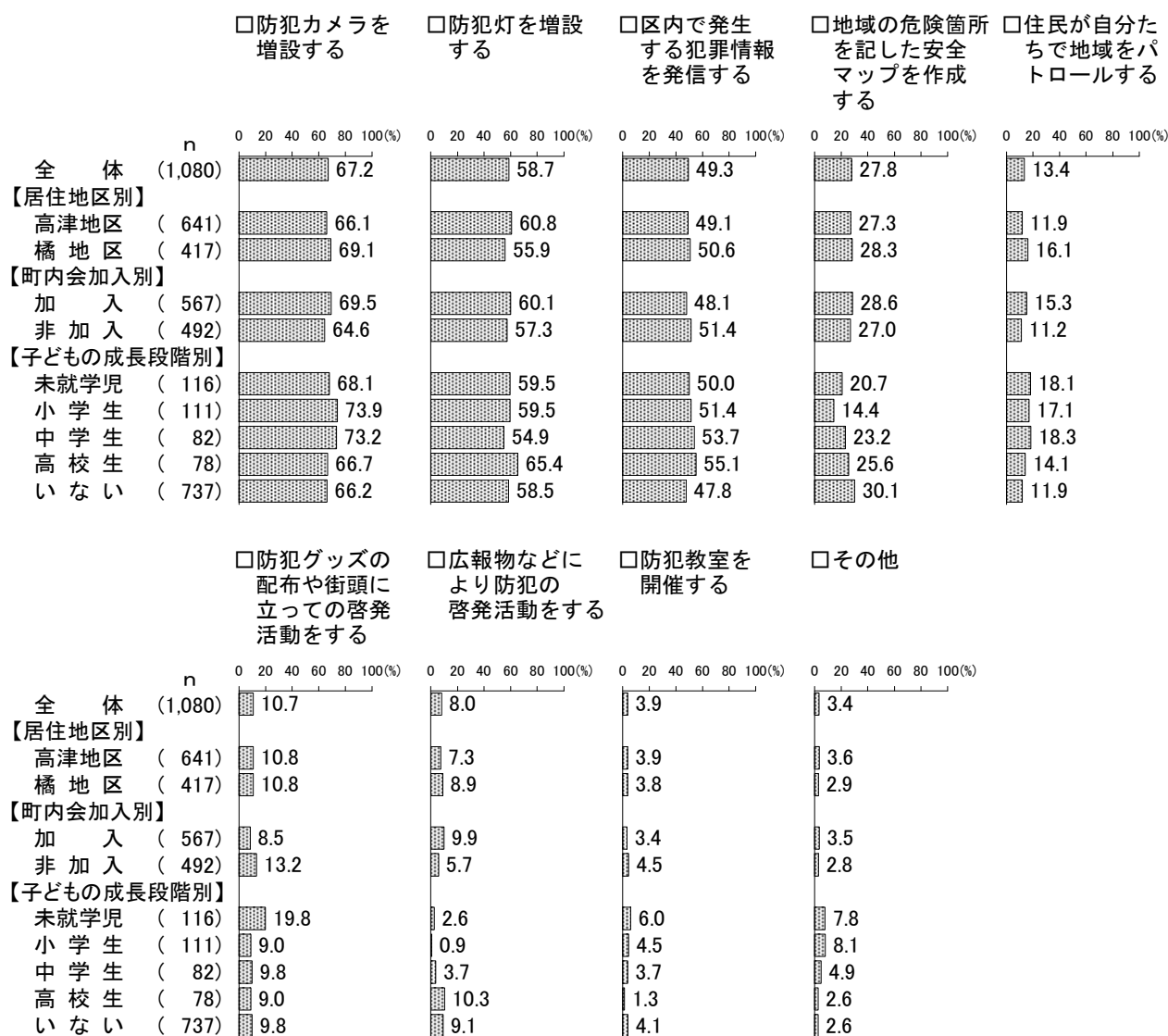
図 1-11 街の安全を守るための対策（性別、性・年代別）



性別にみると、「防犯灯を増設する」は女性（63.3%）が男性（53.0%）より 10.3 ポイント高くなっている。一方、「防犯カメラを増設する」は男性（71.1%）が女性（64.8%）より 6.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「防犯カメラを増設する」は男性 50 歳代（80.6%）で約 8 割と高くなっている。「防犯灯を増設する」は女性 50 歳代（74.0%）で 7 割半ばと高くなっている。（図 1-11）

図 1-12 街の安全を守るための対策（居住地区別、町内会加入別、子どもの成長段階別）



居住地区別にみると、「防犯灯を増設する」は高津地区（60.8%）が橘地区（55.9%）より 4.9 ポイント高くなっている。一方、「住民が自分たちで地域をパトロールする」は橘地区（16.1%）が高津地区（11.9%）より 4.2 ポイント高くなっている。

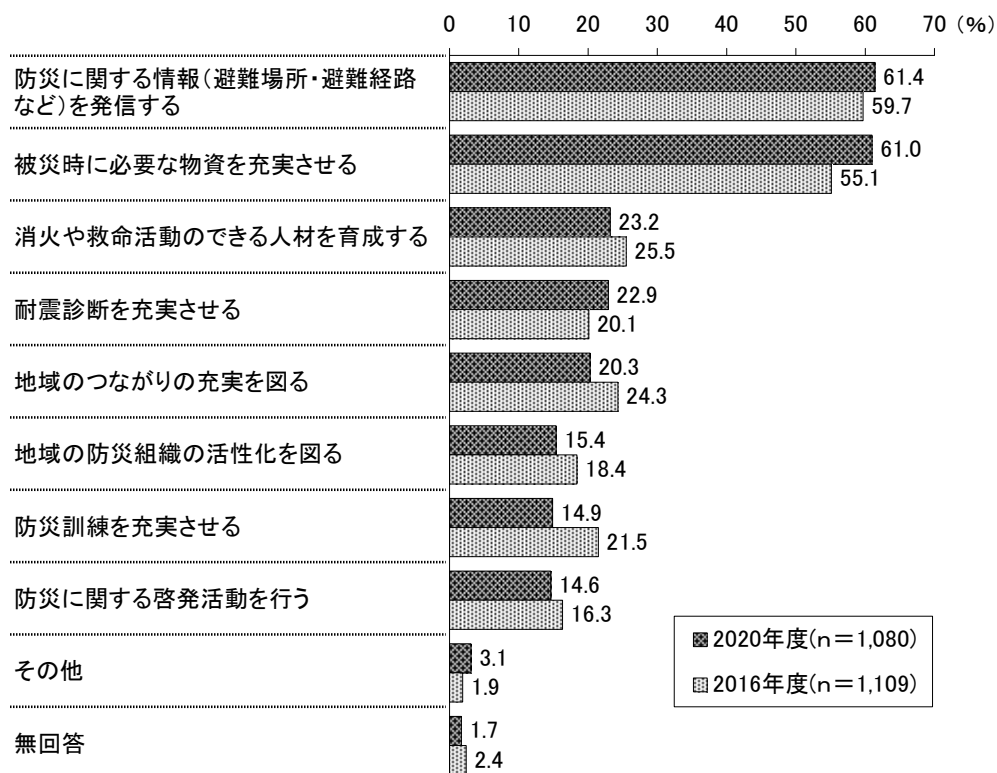
町内会加入別にみると、「防犯カメラを増設する」は加入（69.5%）が非加入（64.6%）より 4.9 ポイント高くなっている。一方、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」は非加入（13.2%）が加入（8.5%）より 4.7 ポイント高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、「防犯カメラを増設する」は小学生がいる世帯（73.9%）と中学生がいる世帯（73.2%）で7割を超えて高くなっている。「防犯灯を増設する」は高校生がいる世帯（65.4%）で6割半ばと高くなっている。「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」は子どもがいない世帯（30.1%）で3割と高くなっている。（図 1-12）

## （５）地震や風水害対策

問５ 地震や風水害への対策としては、どのような手法がよいでしょうか。（３つまで○）

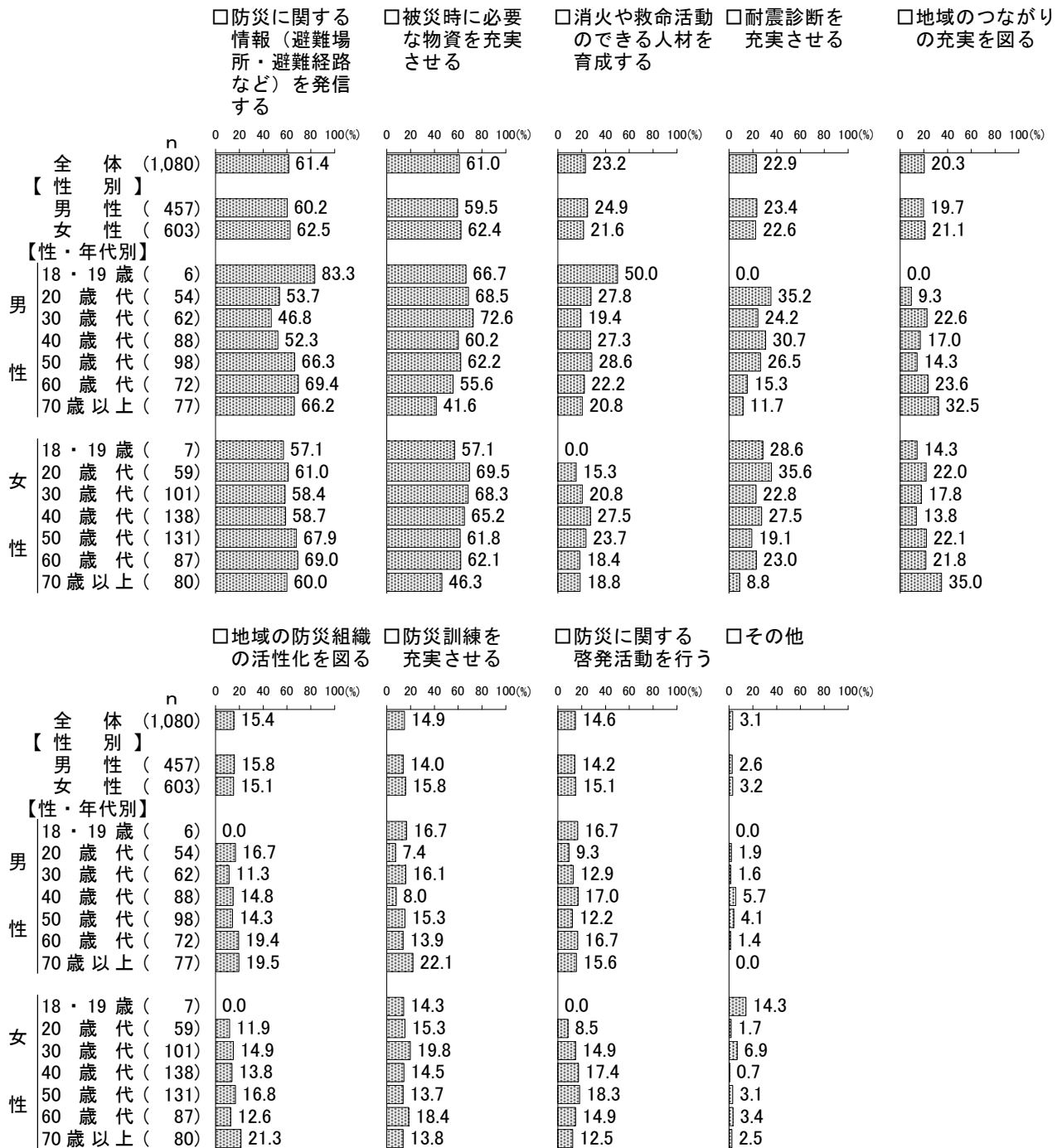
図 1-13 地震や風水害対策



地震や風水害対策を聞いたところ、「防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する」（61.4%）が6割を超えて最も高く、次いで「被災時に必要な物資を充実させる」（61.0%）、「消火や救命活動のできる人材を育成する」（23.2%）、「耐震診断を充実させる」（22.9%）となっている。

2016年度と比較すると、「被災時に必要な物資を充実させる」は5.9ポイント増加している。一方、「防災訓練を充実させる」は6.6ポイント、「地域のつながりの充実を図る」は4.0ポイント、それぞれ減少している。（図1-13）

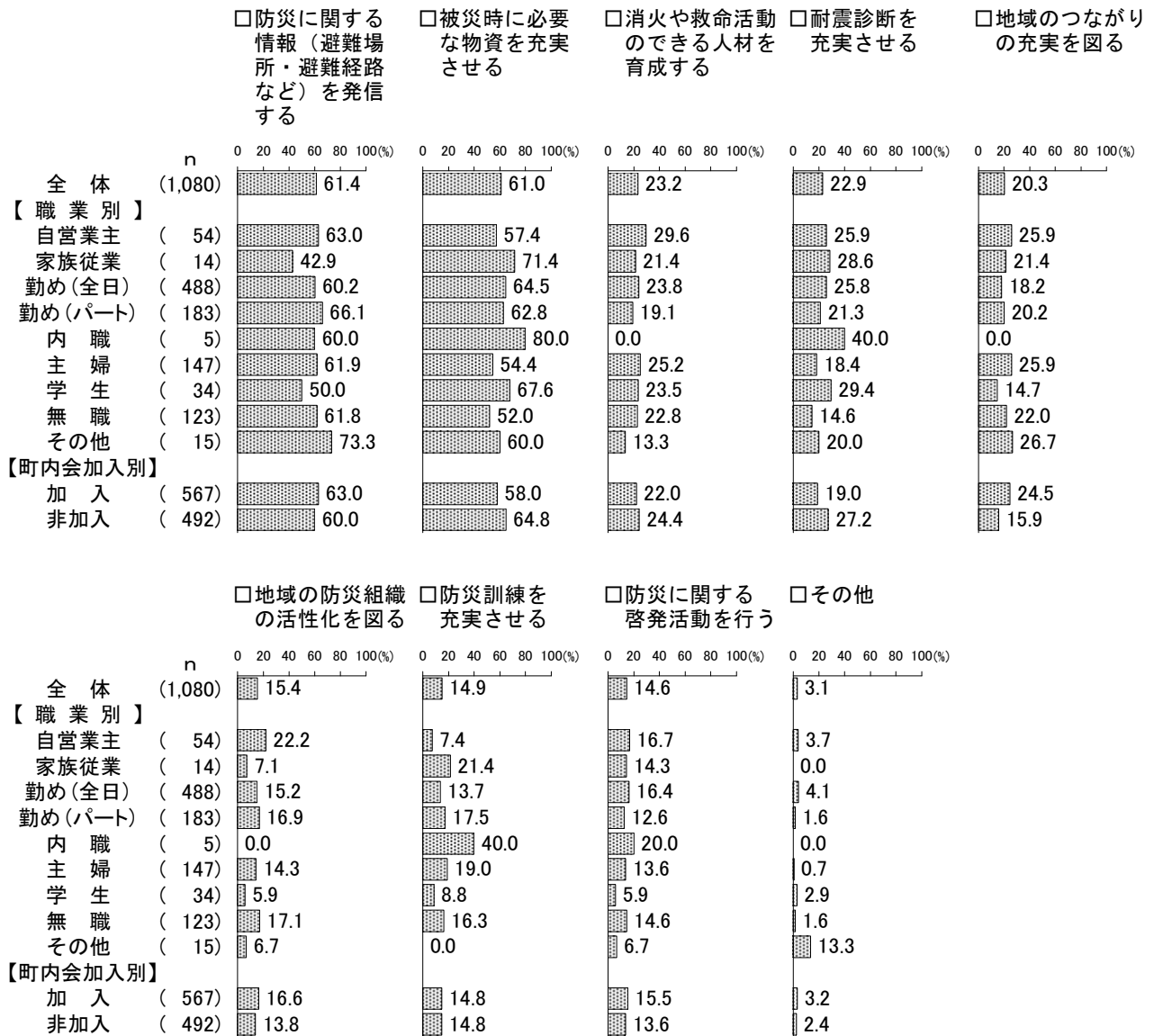
図 1-14 地震や風水害対策（性別、性・年代別）



性別にみると、「消火や救命活動のできる人材を育成する」は男性（24.9%）が女性（21.6%）より 3.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する」は男性 60 歳代（69.4%）と女性 60 歳代（69.0%）で約 7 割と高くなっている。「被災時に必要な物資を充実させる」は男性 30 歳代（72.6%）で 7 割を超えて高くなっている。「耐震診断を充実させる」は女性 20 歳代（35.6%）と男性 20 歳代（35.2%）で 3 割半ばと高くなっている。（図 1-14）

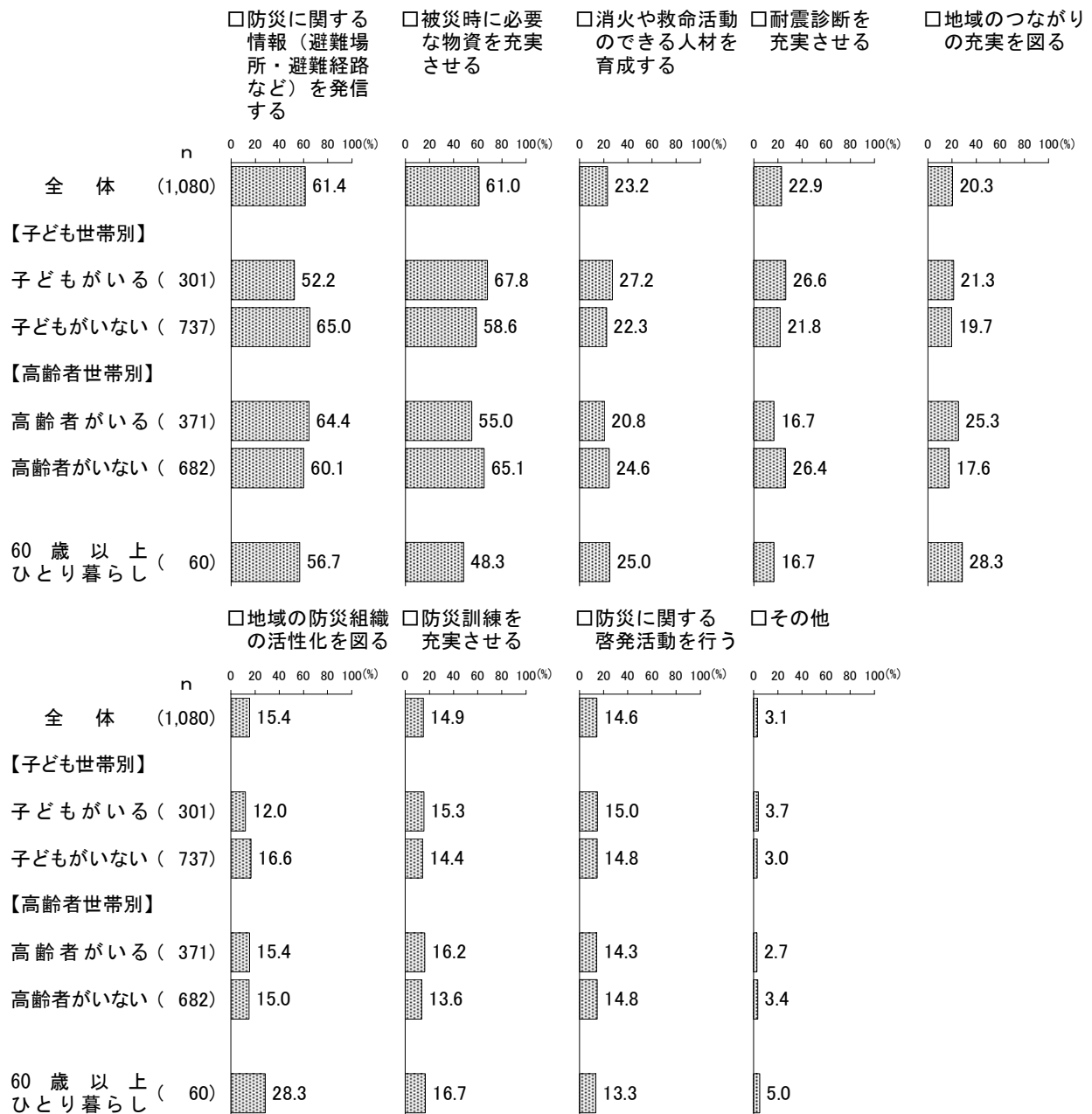
図 1-15 地震や風水害対策（職業別、町内会加入別）



職業別にみると、「防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する」は勤め（パートタイム）（66.1%）で6割半ばと高くなっている。「被災時に必要な物資を充実させる」は学生（67.6%）で7割近くと高くなっている。

町内会加入別にみると、「地域のつながりの充実を図る」は加入（24.5%）が非加入（15.9%）より8.6ポイント高くなっている。一方、「耐震診断を充実させる」は非加入（27.2%）が加入（19.0%）より8.2ポイント、「被災時に必要な物資を充実させる」は非加入（64.8%）が加入（58.0%）より6.8ポイント、それぞれ高くなっている。（図 1-15）

図 1-16 地震や風水害対策（子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）



子ども世帯別にみると、「防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する」は子どもがいない世帯（65.0%）が子どもがいる世帯（52.2%）より 12.8 ポイント高くなっている。一方、「被災時に必要な物資を充実させる」は子どもがいる世帯（67.8%）が子どもがいない世帯（58.6%）より 9.2 ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「被災時に必要な物資を充実させる」は高齢者がいない世帯（65.1%）が高齢者がいる世帯（55.0%）より 10.1 ポイント、「耐震診断を充実させる」は高齢者がいない世帯（26.4%）が高齢者がいる世帯（16.7%）より 9.7 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「地域のつながりの充実を図る」は高齢者がいる世帯（25.3%）が高齢者がいない世帯（17.6%）より 7.7 ポイント高くなっている。

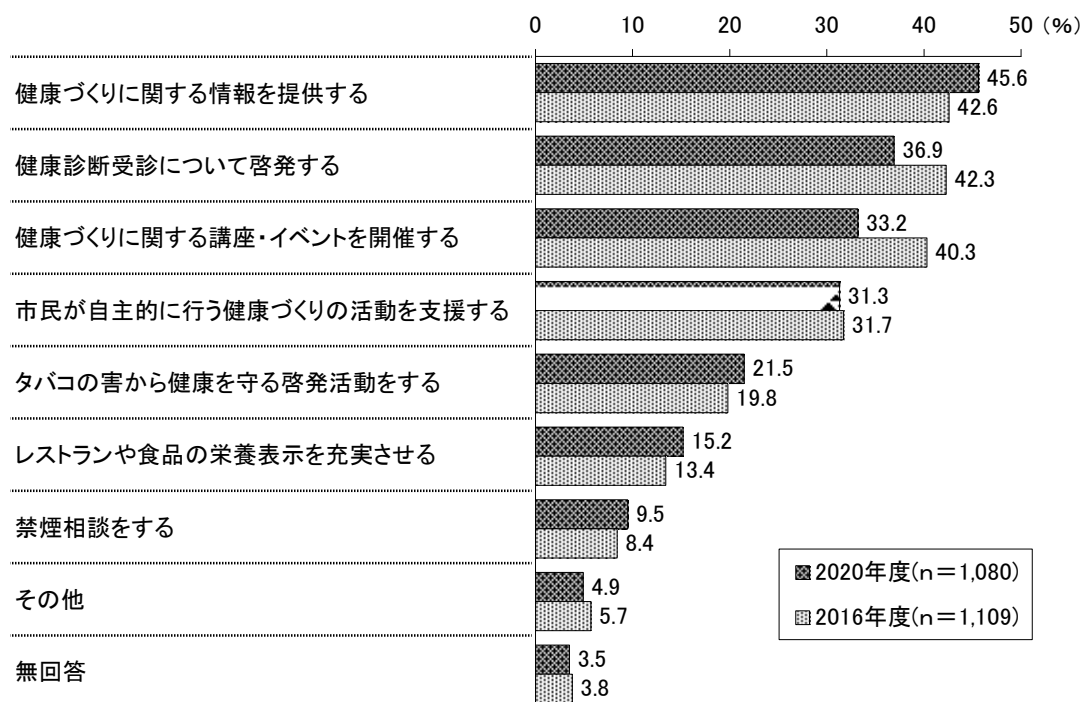
60 歳以上ひとり暮らし世帯では、「防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する」（56.7%）が 6 割近くで最も高く、次いで「被災時に必要な物資を充実させる」（48.3%）となっている。（図 1-16）

## (6) 健康推進

問6 区民の健康づくりを推進していくためには、どのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

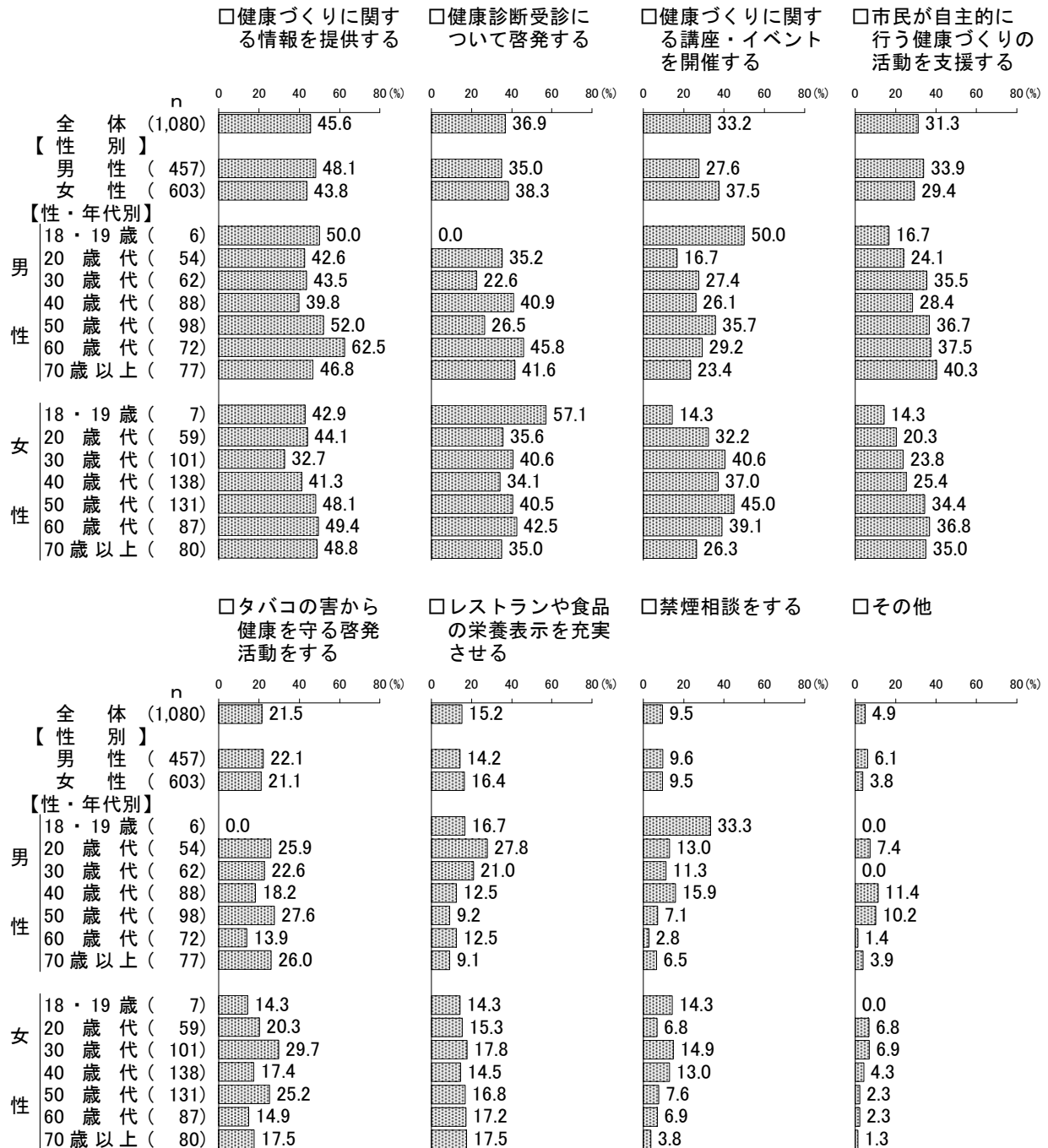
図1-17 健康推進



区民の健康づくりを推進していくための手法を聞いたところ、「健康づくりに関する情報を提供する」(45.6%)が4割半ばで最も高く、次いで「健康診断受診について啓発する」(36.9%)、「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」(33.2%)、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」(31.3%)となっている。

2016年度と比較すると、「健康づくりに関する情報を提供する」は3.0ポイント増加している。一方、「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」は7.1ポイント、「健康診断受診について啓発する」は5.4ポイント、それぞれ減少している。(図1-17)

図 1-18 健康推進（性別、性・年代別）

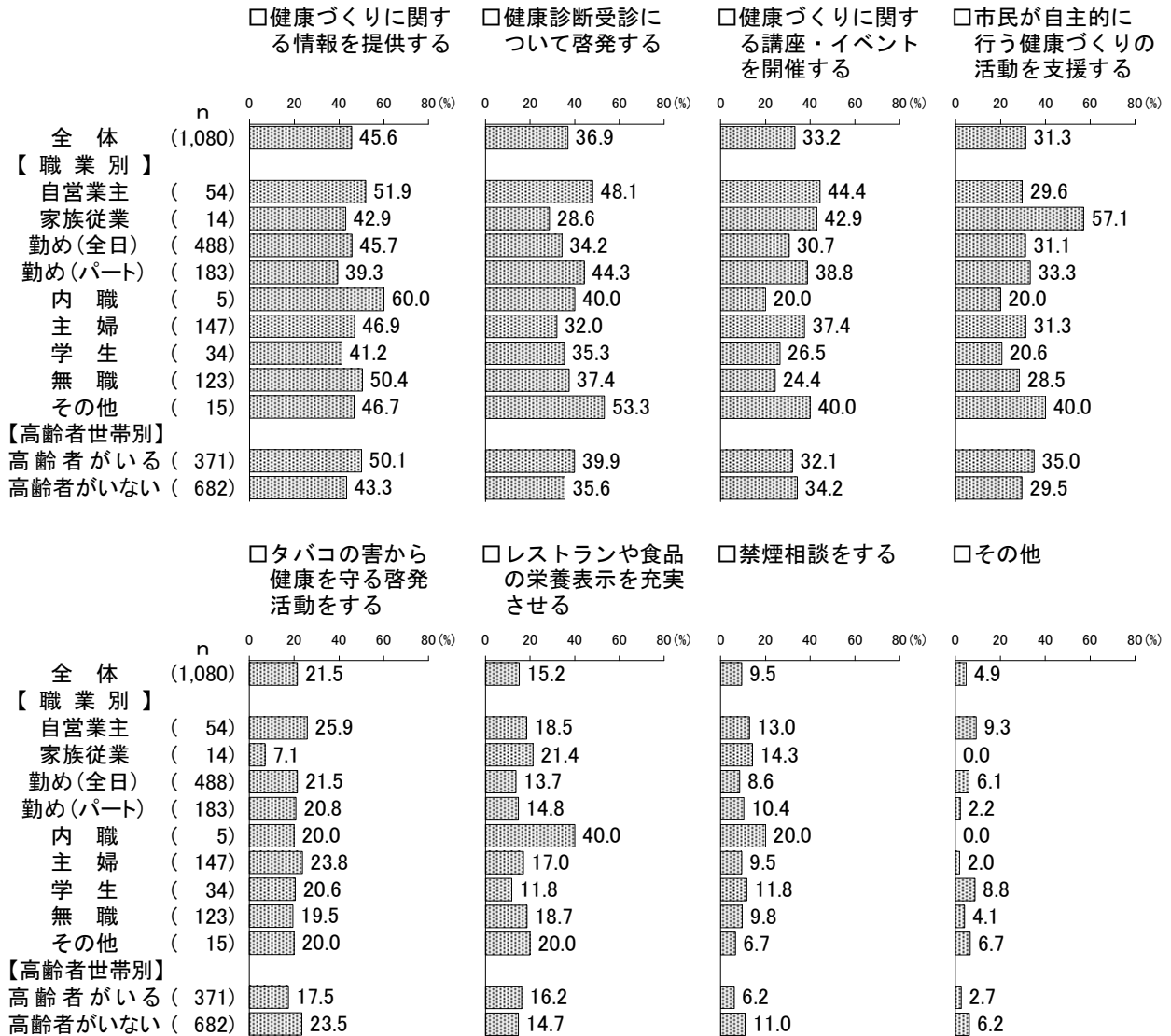


性別にみると、「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」は女性（37.5%）が男性（27.6%）より 9.9 ポイント高くなっている。一方、「市民が自主的に健康づくりの活動を支援する」は男性（33.9%）が女性（29.4%）より 4.5 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「健康づくりに関する情報を提供する」は男性 60 歳代（62.5%）で 6 割を超えて高くなっている。「健康診断受診について啓発する」は男性 60 歳代（45.8%）で 4 割半ばと高くなっている。「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」は女性 50 歳代（45.0%）で 4 割半ばと高くなっている。（図 1-18）



図 1-19 健康推進（職業別、高齢者世帯別）



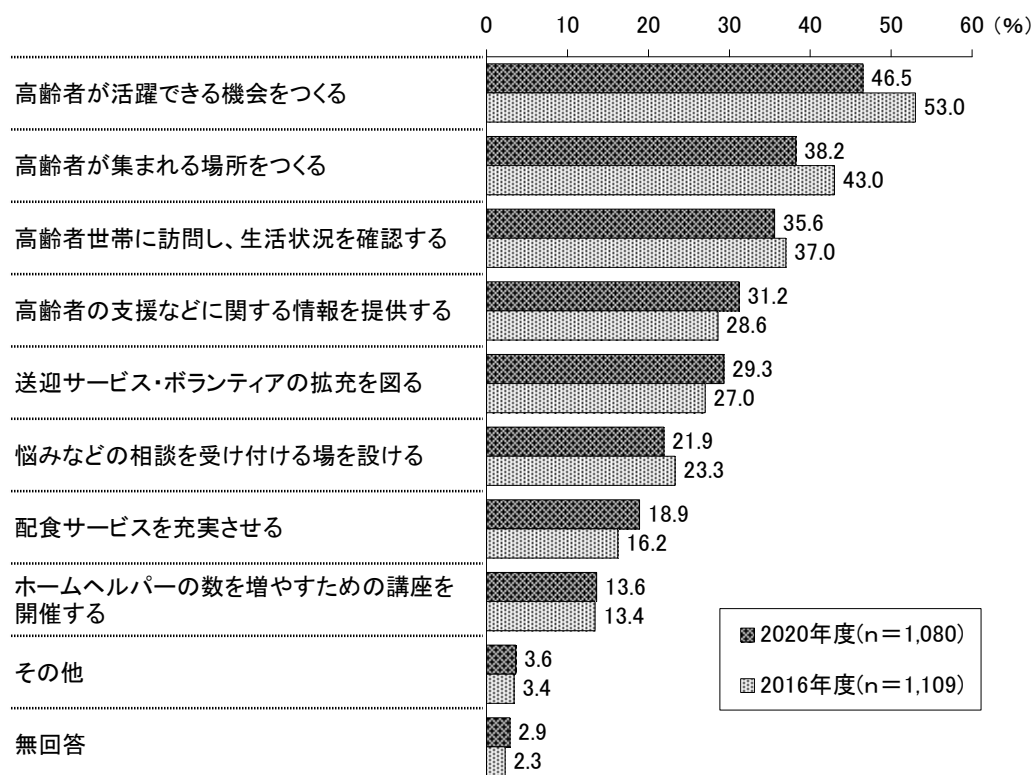
職業別にみると、「健康づくりに関する情報を提供する」は自営業主（51.9%）と無職（50.4%）で5割台と高くなっている。「健康診断受診について啓発する」は自営業主（48.1%）で5割近くと高くなっている。「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」は自営業主（44.4%）で4割半ばと高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「健康づくりに関する情報を提供する」は高齢者がいる世帯（50.1%）が高齢者がいない世帯（43.3%）より 6.8 ポイント高くなっている。一方、「タバコの害から健康を守る啓発活動をする」は高齢者がいない世帯（23.5%）が高齢者がいる世帯（17.5%）より 6.0 ポイント高くなっている。（図 1-19）

## (7) 高齢者支援

問7 高齢者を支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

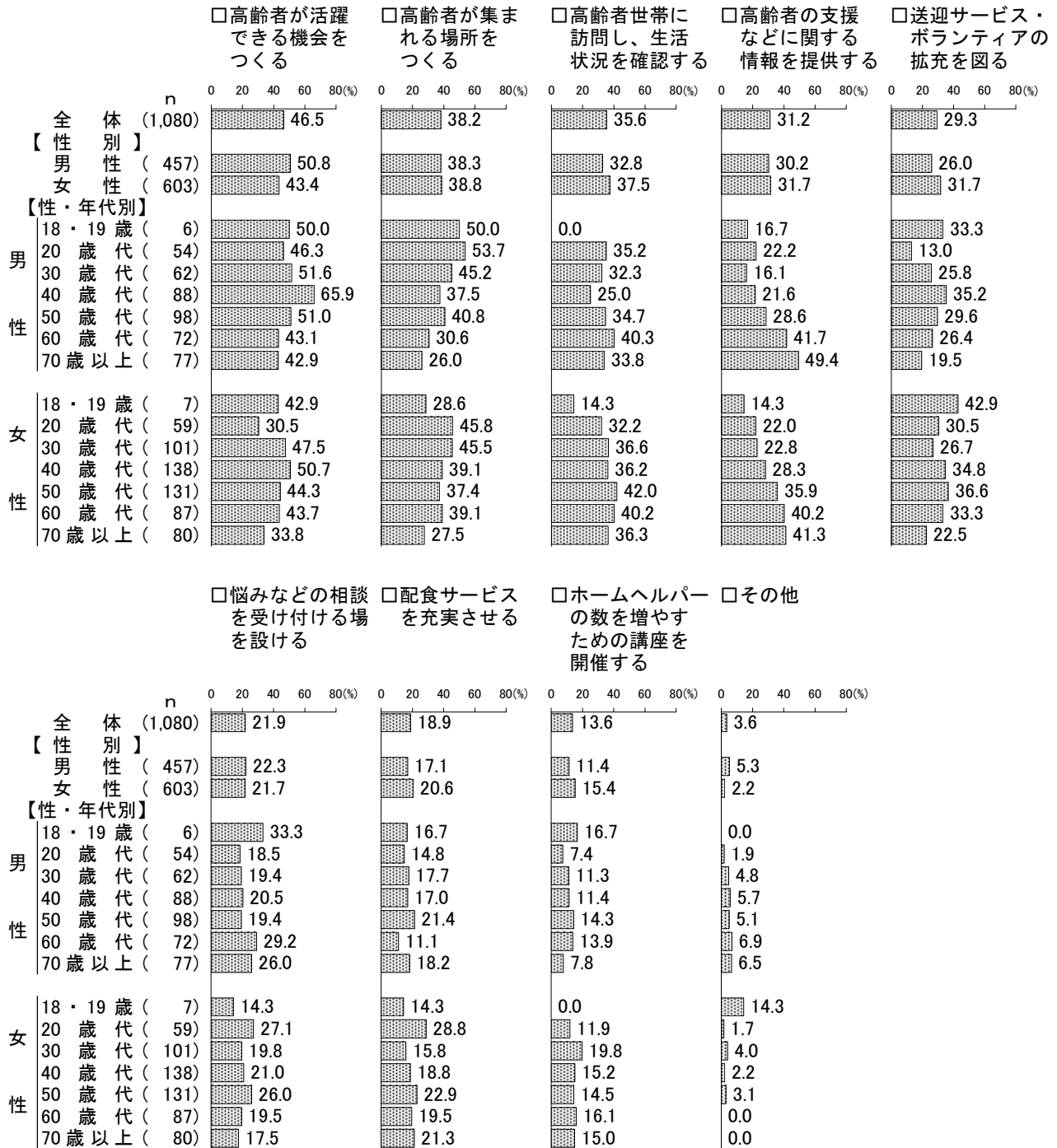
図1-20 高齢者支援



高齢者を支援するための手法を聞いたところ、「高齢者が活躍できる機会をつくる」(46.5%)が5割近くで最も高く、次いで「高齢者が集まれる場所をつくる」(38.2%)、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」(35.6%)、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」(31.2%)となっている。

2016年度と比較すると、「高齢者が活躍できる機会をつくる」は6.5ポイント、「高齢者が集まれる場所をつくる」は4.8ポイント、それぞれ減少している。(図1-20)

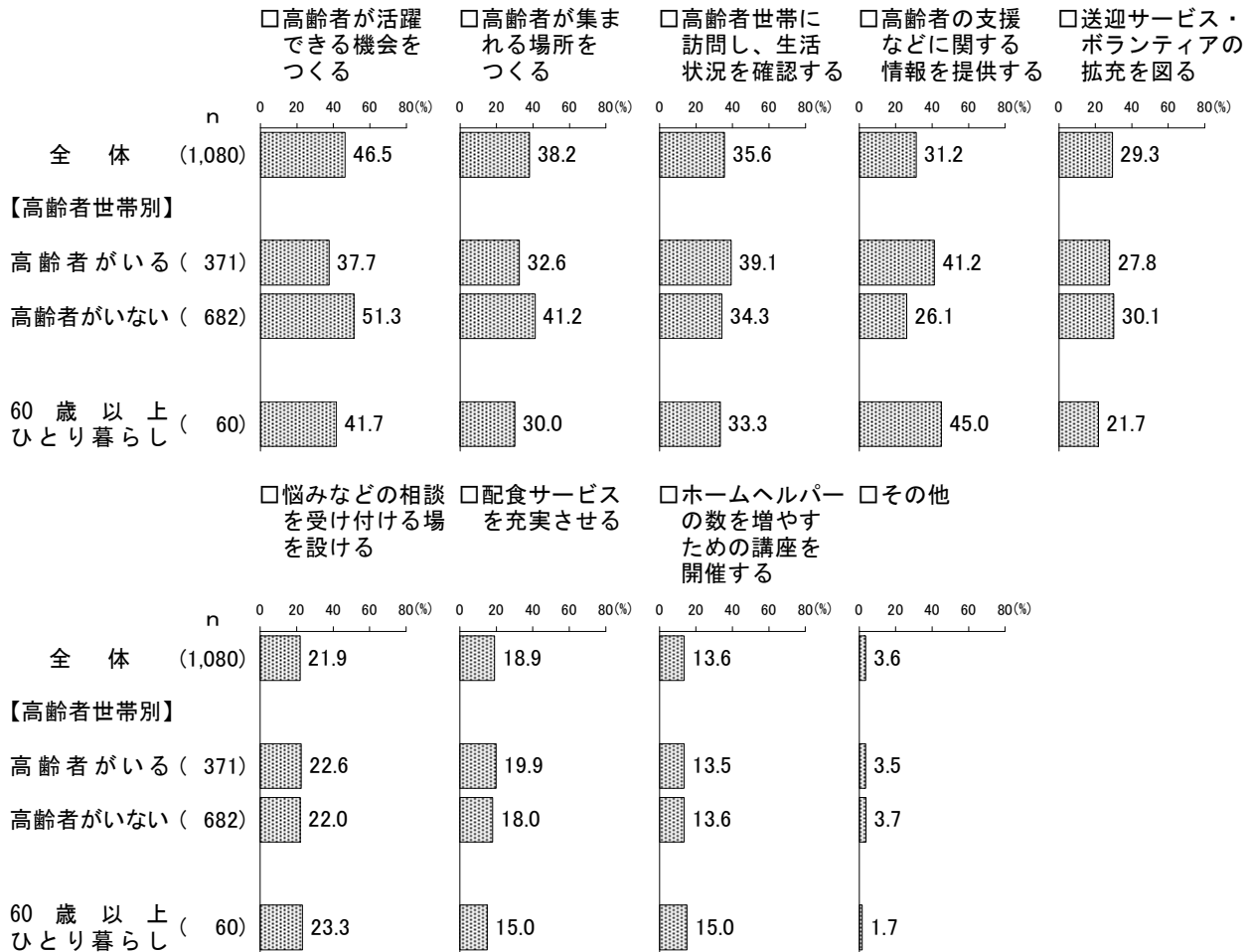
図 1-21 高齢者支援（性別、性・年代別）



性別にみると、「高齢者が活躍できる機会をつくる」は男性（50.8%）が女性（43.4%）より 7.4 ポイント高くなっている。一方、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」は女性（31.7%）が男性（26.0%）より 5.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「高齢者が活躍できる機会をつくる」は男性 40 歳代（65.9%）で 6 割半ばと高くなっている。「高齢者が集まれる場所をつくる」は男性 20 歳代（53.7%）で 5 割を超えて高くなっている。「高齢者の支援などに関する情報を提供する」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、男性 70 歳以上（49.4%）で約 5 割と高くなっている。（図 1-21）

図 1-22 高齢者支援（高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）



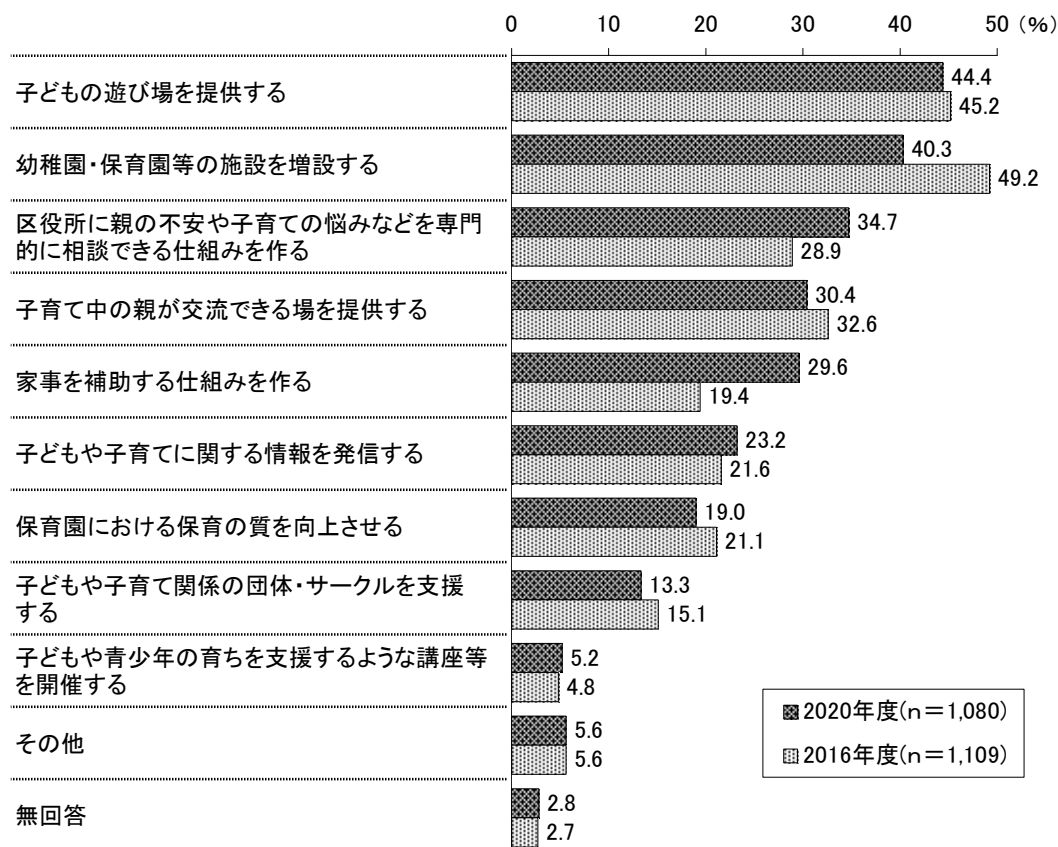
高齢者世帯別にみると、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」は高齢者がいる世帯（41.2％）が高齢者がいない世帯（26.1％）より 15.1 ポイント高くなっている。一方、「高齢者が活躍できる機会をつくる」は高齢者がいない世帯（51.3％）が高齢者がいる世帯（37.7％）より 13.6 ポイント、「高齢者が集まれる場所をつくる」は高齢者がいない世帯（41.2％）が高齢者がいる世帯（32.6％）より 8.6 ポイント、それぞれ高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」（45.0％）が4割半ばで最も高く、次いで「高齢者が活躍できる機会をつくる」（41.7％）となっている。（図 1-22）

## (8) 子育て支援

問8 子どもや子育てを支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

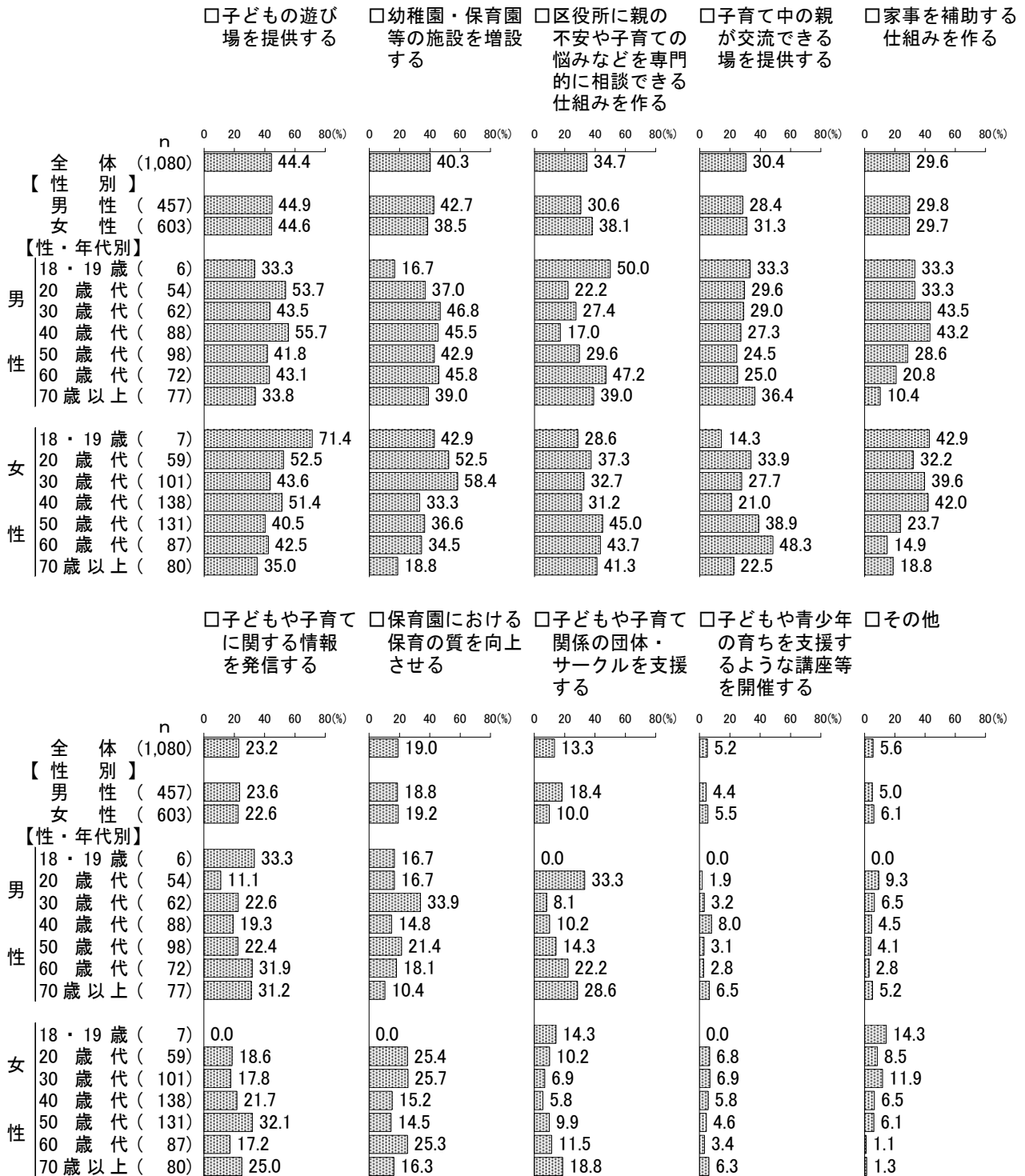
図1-23 子育て支援



子どもや子育てを支援するための手法を聞いたところ、「子どもの遊び場を提供する」(44.4%)が4割半ばで最も高く、次いで「幼稚園・保育園等の施設を増設する」(40.3%)、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」(34.7%)、「子育て中の親が交流できる場を提供する」(30.4%)となっている。

2016年度と比較すると、「家事を補助する仕組みを作る」は10.2ポイント、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」は5.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」は8.9ポイント減少している。(図1-23)

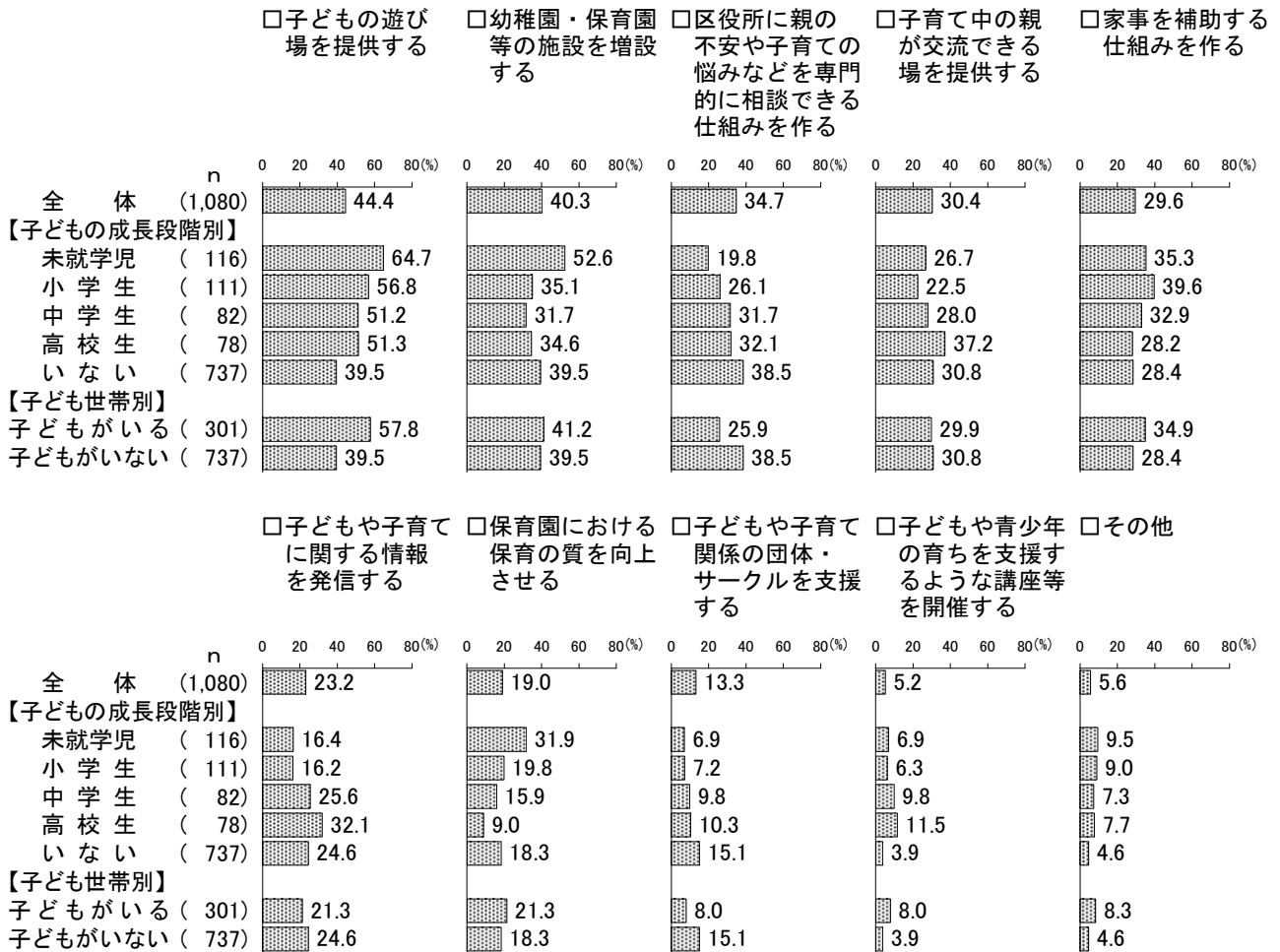
図 1-24 子育て支援（性別、性・年代別）



性別にみると、「子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する」は男性（18.4%）が女性（10.0%）より 8.4 ポイント高くなっている。一方、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」は女性（38.1%）が男性（30.6%）より 7.5 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「子どもの遊び場を提供する」は男性 40 歳代（55.7%）で 5 割半ばと高くなっている。「幼稚園・保育園等の施設を増設する」は女性 30 歳代（58.4%）で 6 割近くと高くなっている。「子育て中の親が交流できる場を提供する」は女性 60 歳代（48.3%）で 5 割近くと高くなっている。（図 1-24）

図 1-25 子育て支援（子どもの成長段階別、子ども世帯別）



子どもの成長段階別にみると、「子どもの遊び場を提供する」は未就学児がいる世帯（64.7%）で6割半ばと高くなっている。「幼稚園・保育園等の施設を増設する」は未就学児がいる世帯（52.6%）で5割を超えて高くなっている。「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」は子どもがいない世帯（38.5%）で4割近くと高くなっている。

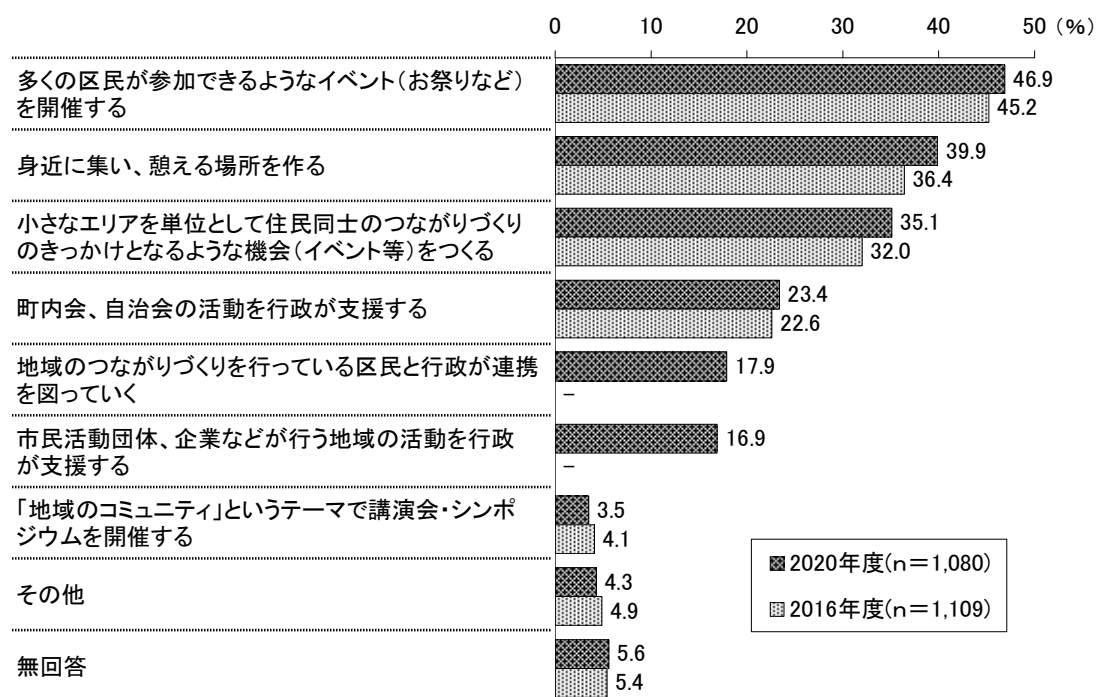
子ども世帯別にみると、「子どもの遊び場を提供する」は子どもがいる世帯（57.8%）が子どもがいない世帯（39.5%）より 18.3 ポイント高くなっている。一方、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」は子どもがいない世帯（38.5%）が子どもがいる世帯（25.9%）より 12.6 ポイント高くなっている。（図 1-25）

## (9) 地域住民のつながりを深める手法

問9 地域の住民同士のつながりを深めるためには、どのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

図1-26 地域住民のつながりを深める手法



※「地域のつながりづくりを行っている区民と行政が連携を図っていく」と「市民活動団体、企業などが行う地域の活動を行政が支援する」は2020年度に追加された選択肢

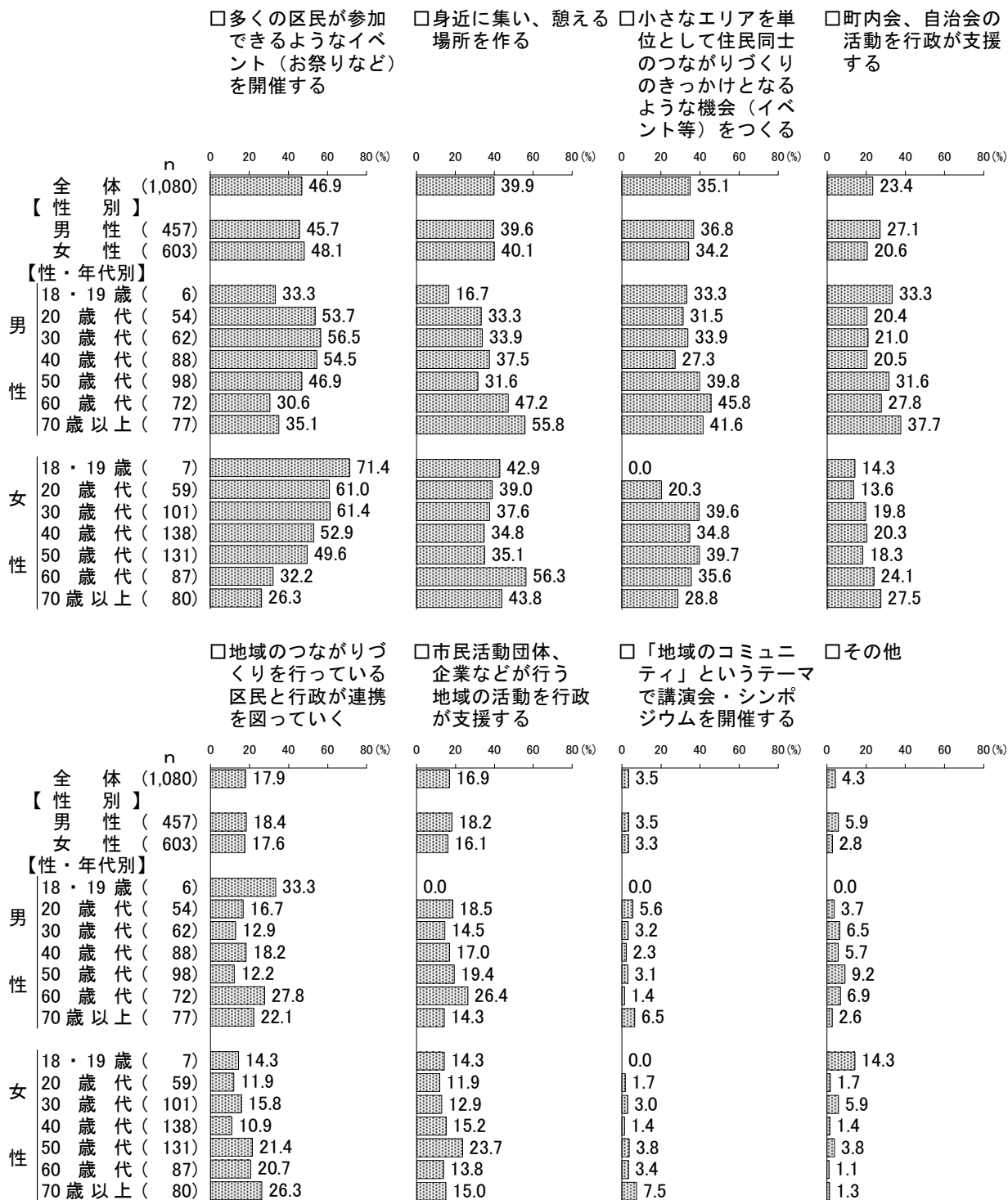
地域の住民同士のつながりを深めるための手法を聞いたところ、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」（46.9%）が5割近くで最も高く、次いで「身近に集い、憩える場所を作る」（39.9%）、「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会（イベント等）をつくる」（35.1%）、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」（23.4%）となっている。

2016年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「身近に集い、憩える場所を作る」は3.5ポイント、「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会（イベント等）をつくる」は3.1ポイント、それぞれ増加している。

(図1-26)



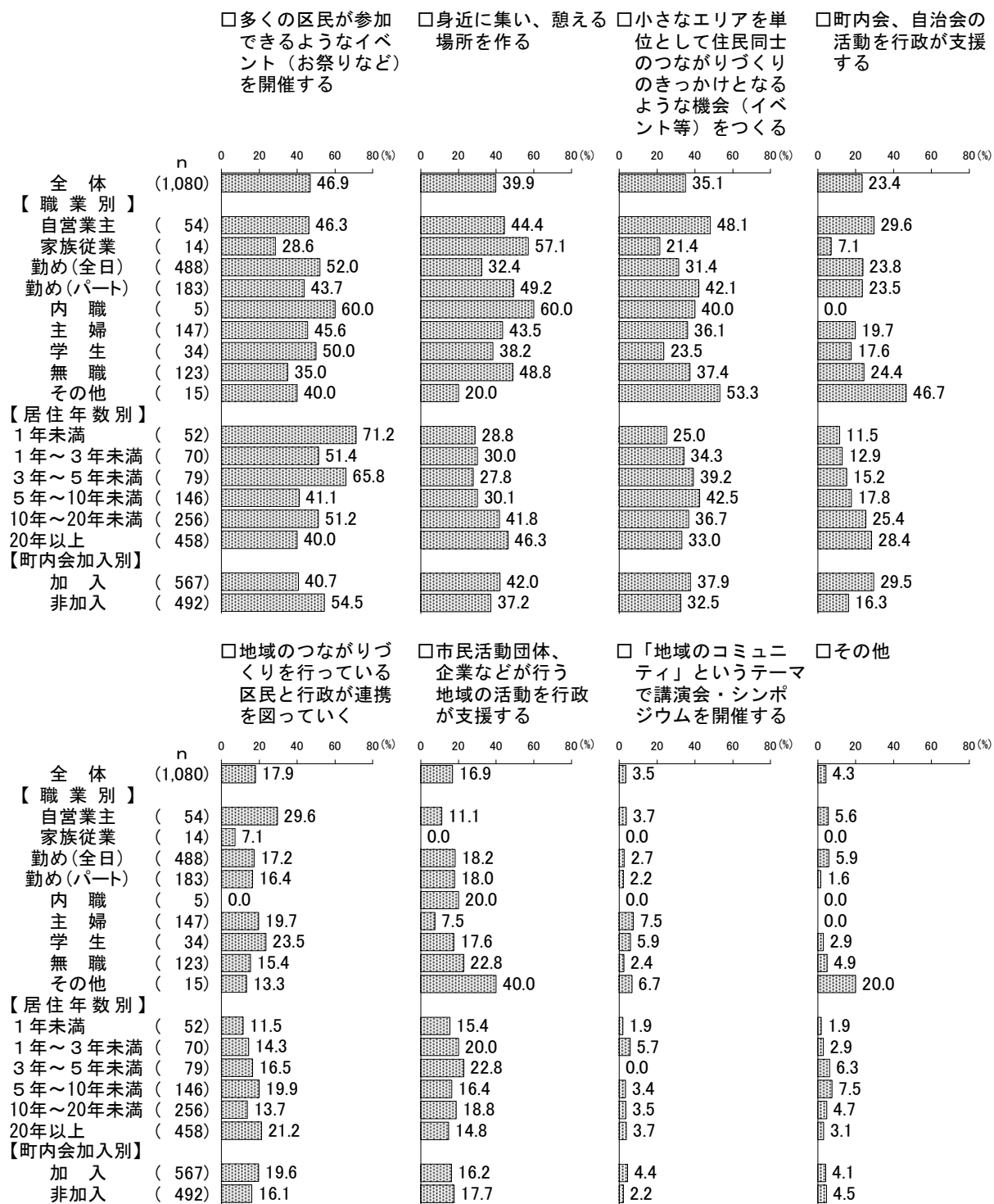
図 1-27 地域住民のつながりを深める手法（性別、性・年代別）



性別にみると、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」は男性（27.1%）が女性（20.6%）より 6.5 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は女性 20 歳代（61.0%）と女性 30 歳代（61.4%）で 6 割を超えて高くなっている。「身近に集い、憩える場所を作る」は女性 60 歳代（56.3%）と男性 70 歳以上（55.8%）で 5 割半ばと高くなっている。「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会（イベント等）をつくる」は男性 60 歳代（45.8%）で 4 割半ばと高くなっている。（図 1-27）

図 1-28 地域住民のつながりを深める手法（職業別、居住年数別、町内会加入別）

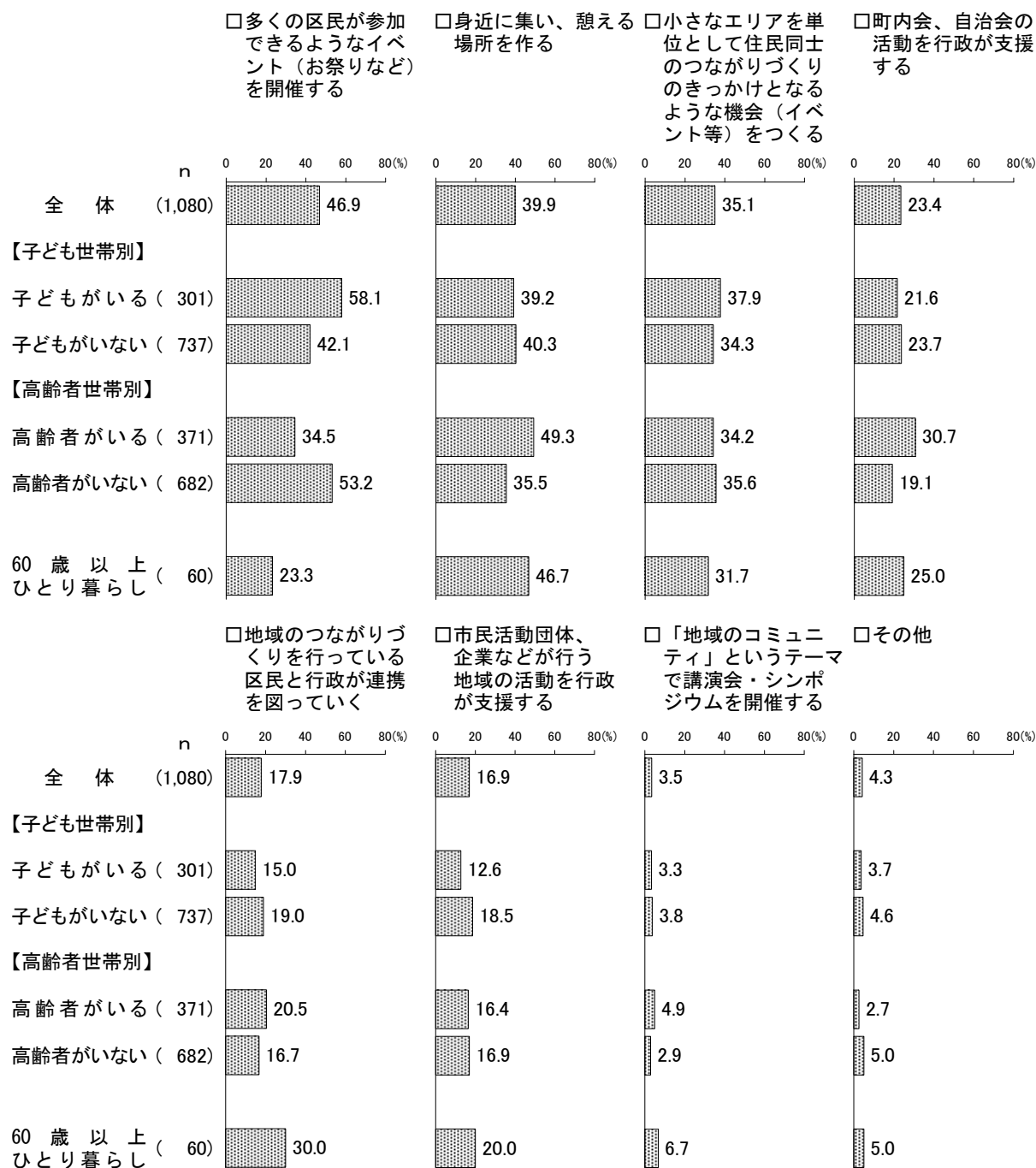


職業別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は勤め（全日）（52.0%）で5割を超えて高くなっている。「身近に集い、憩える場所を作る」は勤め（パートタイム）（49.2%）で約5割と高くなっている。

居住年数別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は1年未満（71.2%）で7割を超えて高くなっている。

町内会加入別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は非加入（54.5%）が加入（40.7%）より13.8ポイント高くなっている。一方、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」は加入（29.5%）が非加入（16.3%）より13.2ポイント高くなっている。（図1-28）

図 1-29 地域住民のつながりを深める手法（子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）



子ども世帯別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は子どもがいる世帯（58.1%）が子どもがいない世帯（42.1%）より 16.0 ポイント高くなっている。一方、「市民活動団体、企業などが行う地域の活動を行政が支援する」は子どもがいない世帯（18.5%）が子どもがいる世帯（12.6%）より 5.9 ポイント高くなっている。

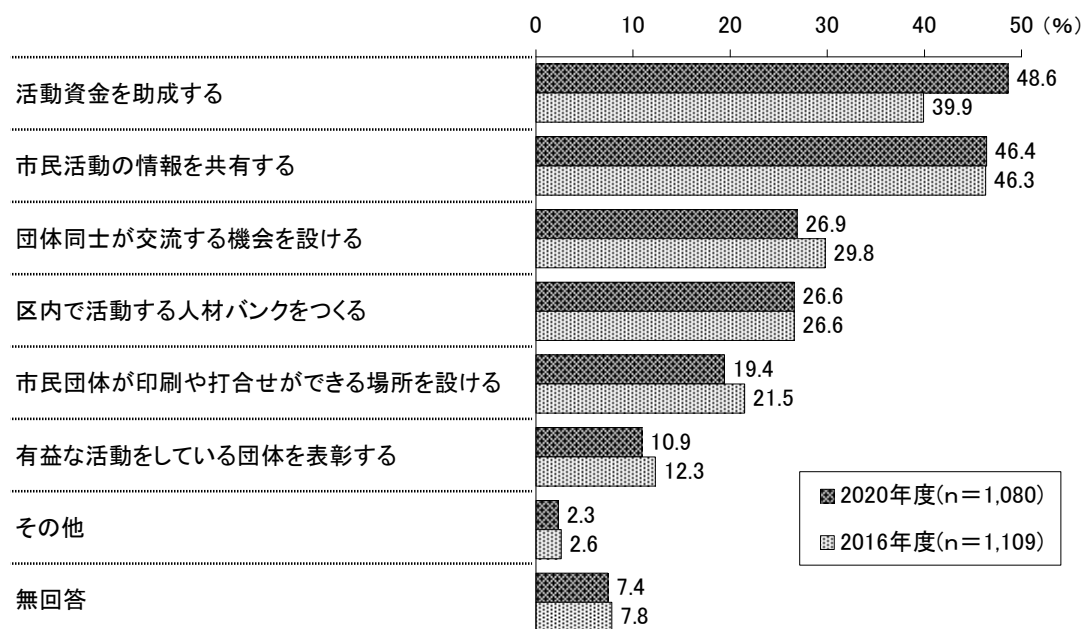
高齢者世帯別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は高齢者がいない世帯（53.2%）が高齢者がいる世帯（34.5%）より 18.7 ポイント高くなっている。一方、「身近に集い、憩える場所を作る」は高齢者がいる世帯（49.3%）が高齢者がいない世帯（35.5%）より 13.8 ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「身近に集い、憩える場所を作る」（46.7%）が5割近くで最も高く、次いで「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会（イベント等）をつくる」（31.7%）となっている。（図 1-29）

## (10) 市民活動支援

問 10 市民活動の支援としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

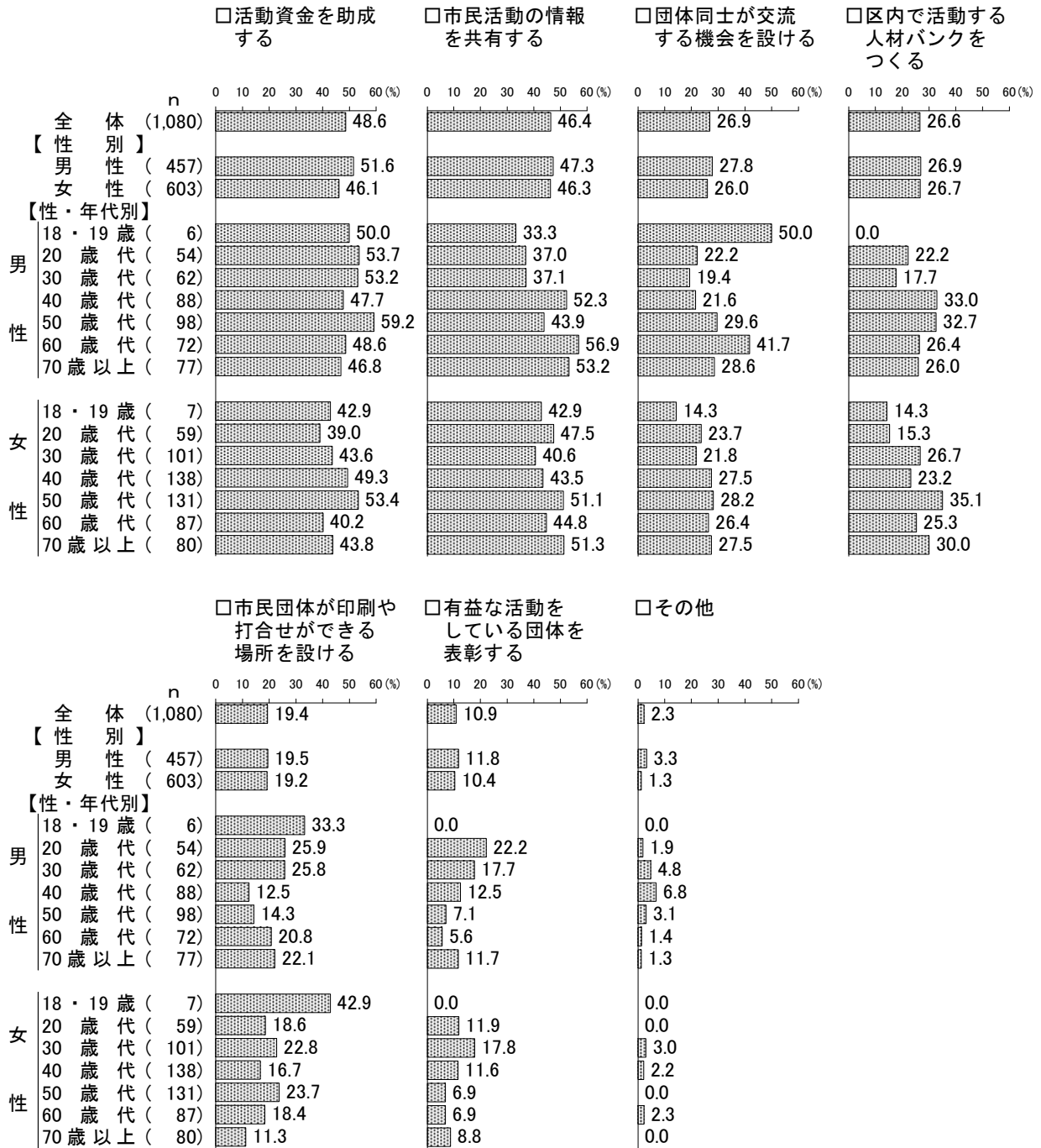
図 1-30 市民活動支援



市民活動の支援の手法を聞いたところ、「活動資金を助成する」(48.6%)が5割近くで最も高く、次いで「市民活動の情報を共有する」(46.4%)、「団体同士が交流する機会を設ける」(26.9%)、「区内で活動する人材バンクをつくる」(26.6%)となっている。

2016年度と比較すると、「活動資金を助成する」は8.7ポイント増加している。(図1-30)

図 1-31 市民活動支援（性別、性・年代別）



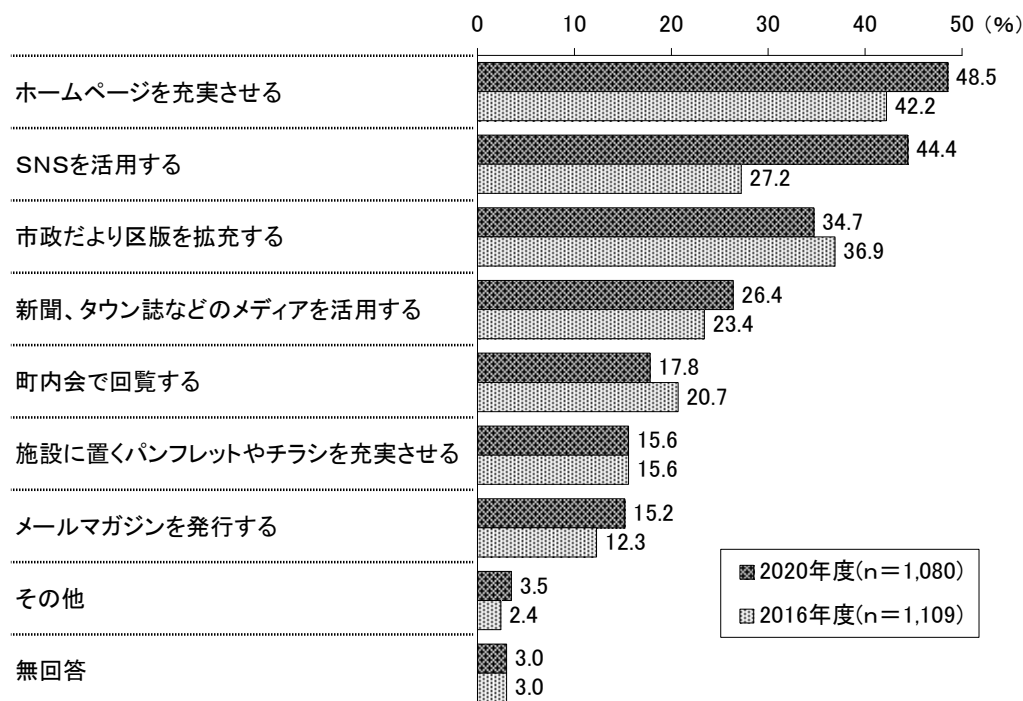
性別にみると、「活動資金を助成する」は男性（51.6％）が女性（46.1％）より 5.5 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「活動資金を助成する」は男性 50 歳代（59.2％）で約 6 割と高くなっている。「市民活動の情報を共有する」は男性 60 歳代（56.9％）で 6 割近くと高くなっている。「団体同士が交流する機会を設ける」は男性 60 歳代（41.7％）で 4 割を超えて高くなっている。（図 1-31）

## (11) 区の情報提供

問 11 区の情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。（3 つまで○）

図 1-32 区の情報提供



※「新聞、タウン誌などのメディアを活用する」は、2016 年度では「タウン誌を活用する」としていた

※「施設に置くパンフレットやチラシを充実させる」は、2016 年度では「チラシを様々な施設におく」としていた

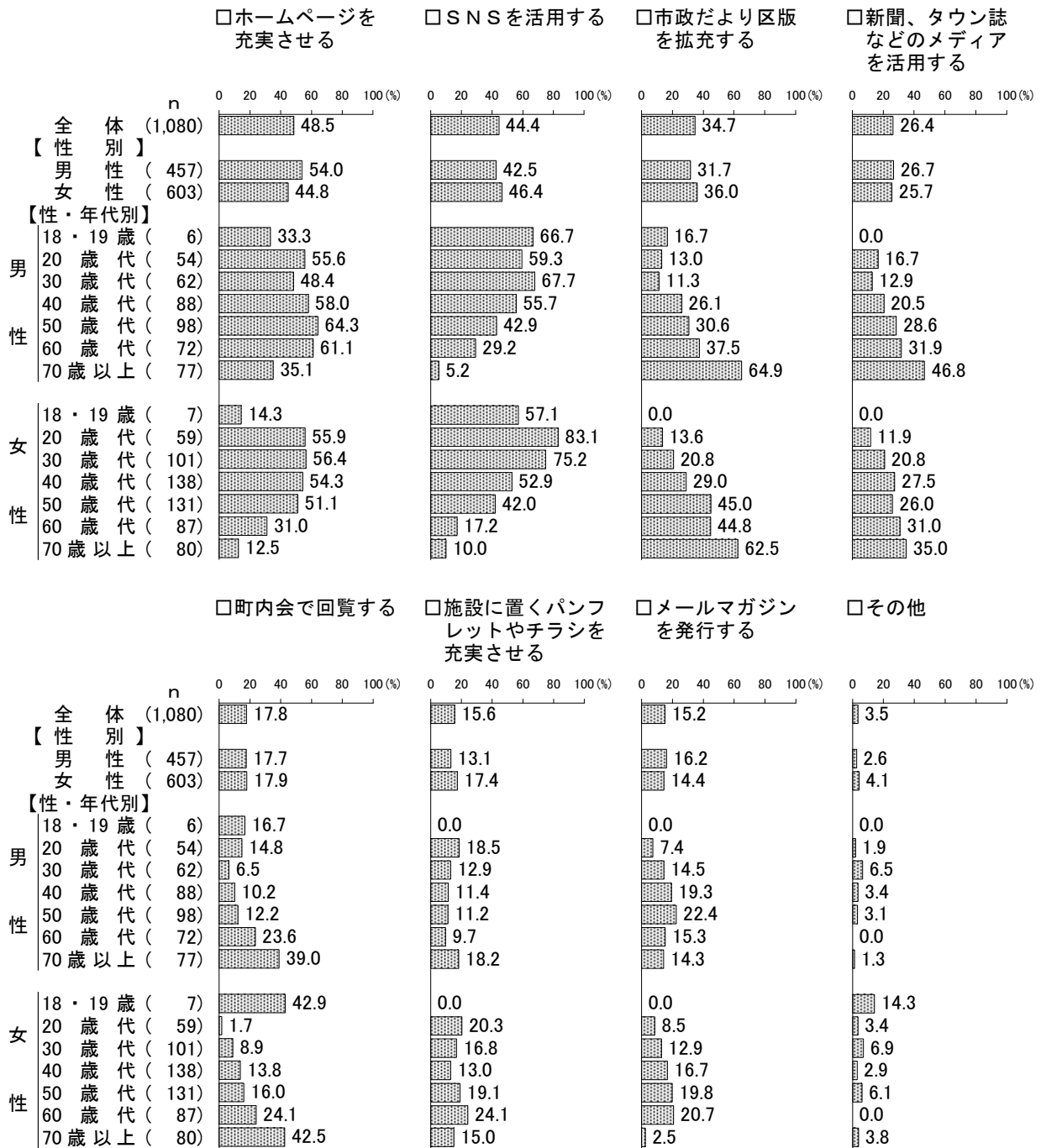
※SNS（Social Networking Service）：個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと

区の情報を提供するための手法を聞いたところ、「ホームページを充実させる」（48.5%）が5割近くで最も高く、次いで「SNSを活用する」（44.4%）、「市政だより区版を拡充する」（34.7%）、「新聞、タウン誌などのメディアを活用する」（26.4%）となっている。

2016 年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「SNSを活用する」は17.2ポイント、「ホームページを充実させる」は6.3ポイント、それぞれ増加している。

（図 1-32）

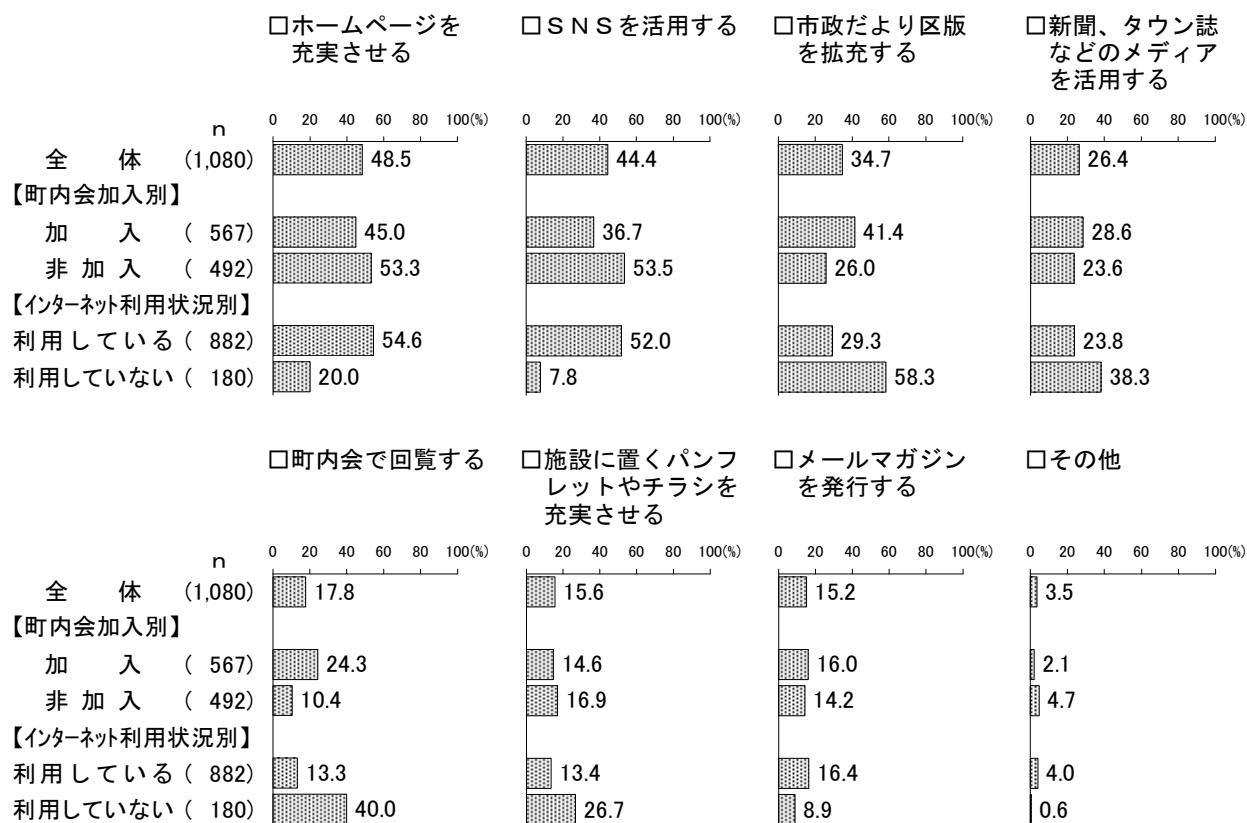
図 1-33 区の情報提供（性別、性・年代別）



性別にみると、「ホームページを充実させる」は男性（54.0%）が女性（44.8%）より 9.2 ポイント高くなっている。一方、「市政だより区版を拡充する」は女性（36.0%）が男性（31.7%）より 4.3 ポイント、「施設に置くパンフレットやチラシを充実させる」は女性（17.4%）が男性（13.1%）より 4.3 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「ホームページを充実させる」は男性 50 歳代（64.3%）で 6 割半ばと高くなっている。「SNS を活用する」は女性 20 歳代（83.1%）で 8 割を超えて高くなっている。「市政だより区版を拡充する」は男性 70 歳以上（64.9%）と女性 70 歳以上（62.5%）で 6 割台と高くなっている。（図 1-33）

図 1-34 区の情報提供（町内会加入別、インターネット利用状況別）



町内会加入別にみると、「SNSを活用する」は非加入（53.5%）が加入（36.7%）より 16.8 ポイント、「ホームページを充実させる」は非加入（53.3%）が加入（45.0%）より 8.3 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「市政だより区版を拡充する」は加入（41.4%）が非加入（26.0%）より 15.4 ポイント、「町内会で回覧する」は加入（24.3%）が非加入（10.4%）より 13.9 ポイント、それぞれ高くなっている。

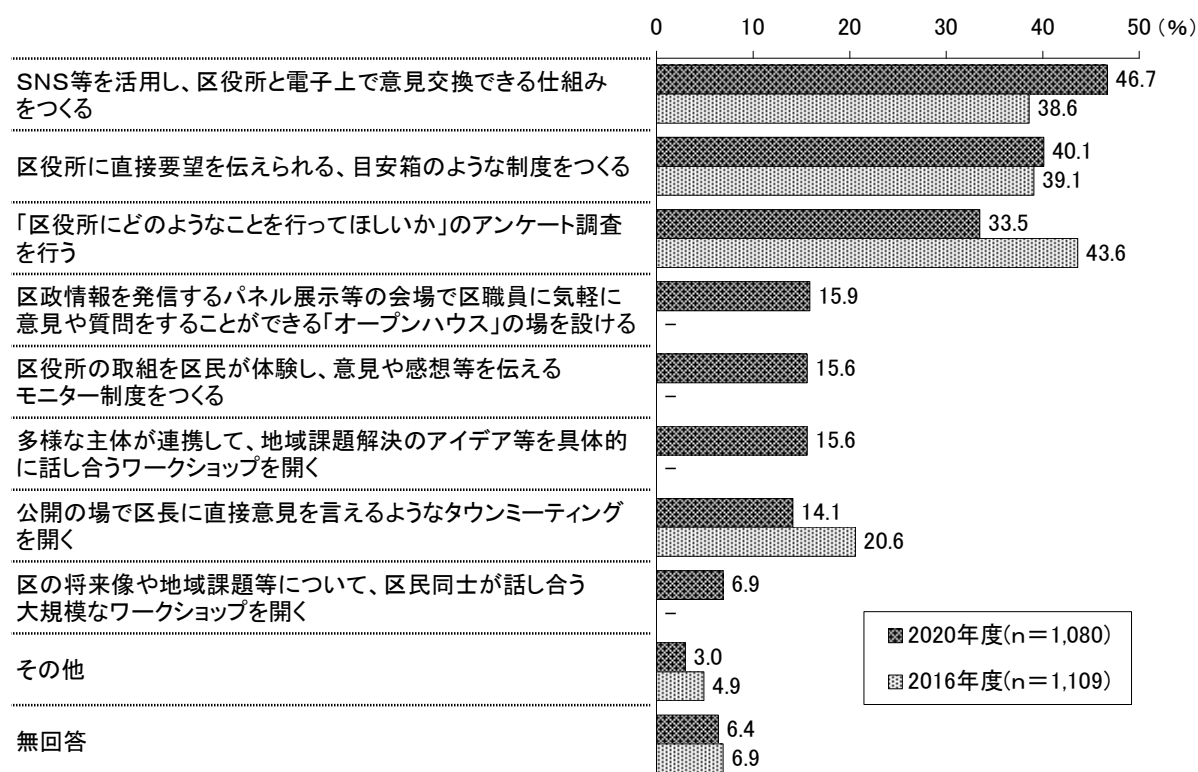
インターネット利用状況別にみると、「SNSを活用する」は利用している人（52.0%）が利用していない人（7.8%）より 44.2 ポイント、「ホームページを充実させる」は利用している人（54.6%）が利用していない人（20.0%）より 34.6 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「市政だより区版を拡充する」は利用していない人（58.3%）が利用している人（29.3%）より 29.0 ポイント、「町内会で回覧する」は利用していない人（40.0%）が利用している人（13.3%）より 26.7 ポイント、それぞれ高くなっている。（図 1-34）



## (12) 区民の意見を区政に反映するための手法

問 12 区民の意見を収集し、または、区民の意見を区政に反映するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 1-35 区民の意見を区政に反映するための手法



※「SNS等を活用し、区役所と電子上で意見交換できる仕組みをつくる」は、2016年度では「ホームページ上に、電子会議室（掲示板）を設置する」としていた

※「区政情報を発信するパネル展示等の会場で区職員に気軽に意見や質問をすることができる『オープンハウス』の場を設ける」、「区役所の取組を区民が体験し、意見や感想等を伝えるモニター制度をつくる」、「多様な主体が連携して、地域課題解決のアイデア等を具体的に話し合うワークショップを開く」、「区の将来像や地域課題等について、区民同士が話し合う大規模なワークショップを開く」は2020年度に追加された選択肢

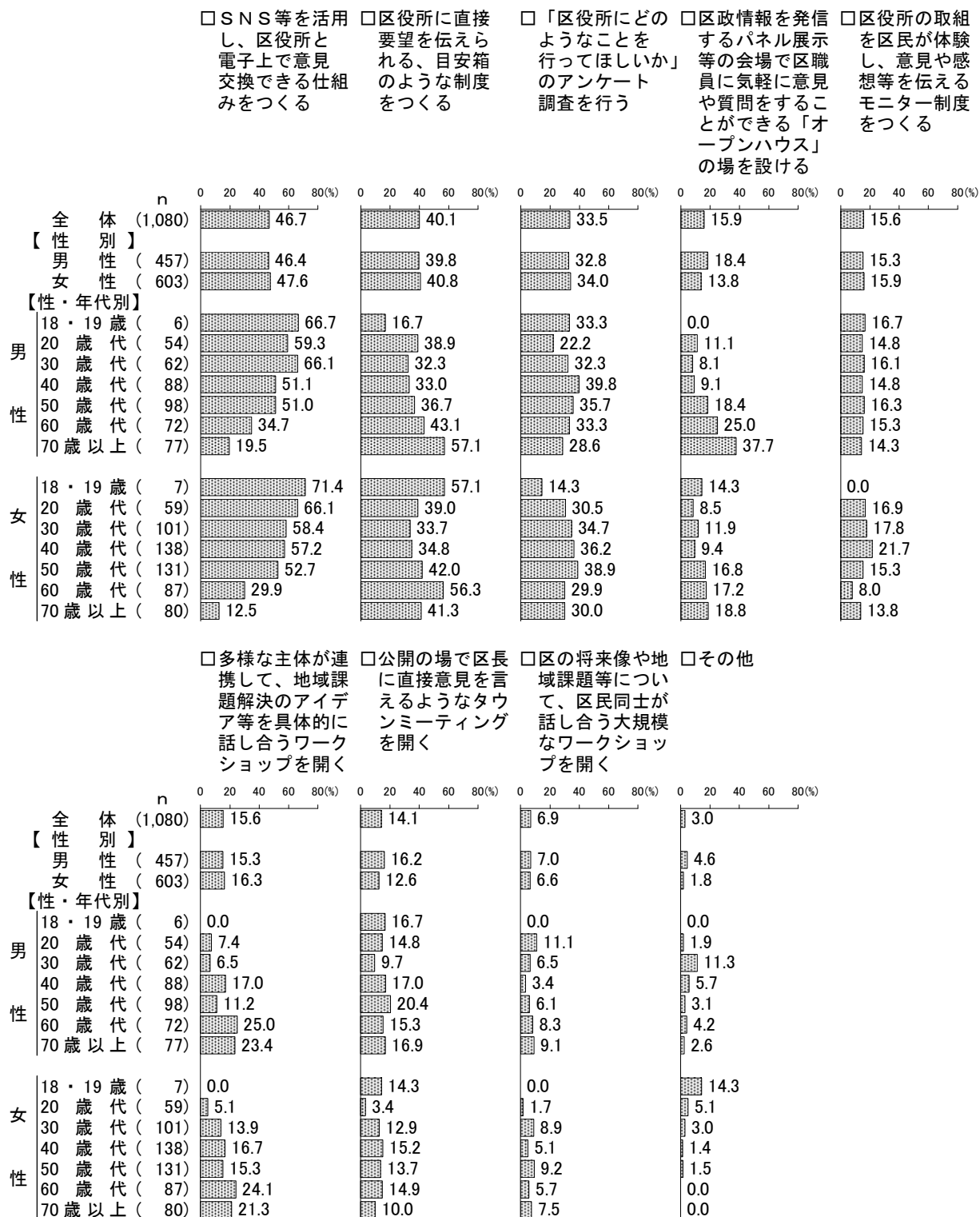
※「オープンハウス」：パネルの展示やリーフレット資料の配布により、事業や、その進め方に関する情報を区から提供するとともに、参加者がその場で担当の区職員に対して質問・意見できる市民参加の機会

※多様な主体：区内の企業や市民活動団体、町内会・自治会など

区民の意見を区政に反映するための手法を聞いたところ、「SNS等を活用し、区役所と電子上で意見交換できる仕組みをつくる」(46.7%)が5割近くで最も高く、次いで「区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる」(40.1%)、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」(33.5%)、「区政情報を発信するパネル展示等の会場で区職員に気軽に意見や質問をすることができる『オープンハウス』の場を設ける」(15.9%)となっている。

2016年度との比較は、選択肢が大幅に異なるため参考に図示する。(図1-35)

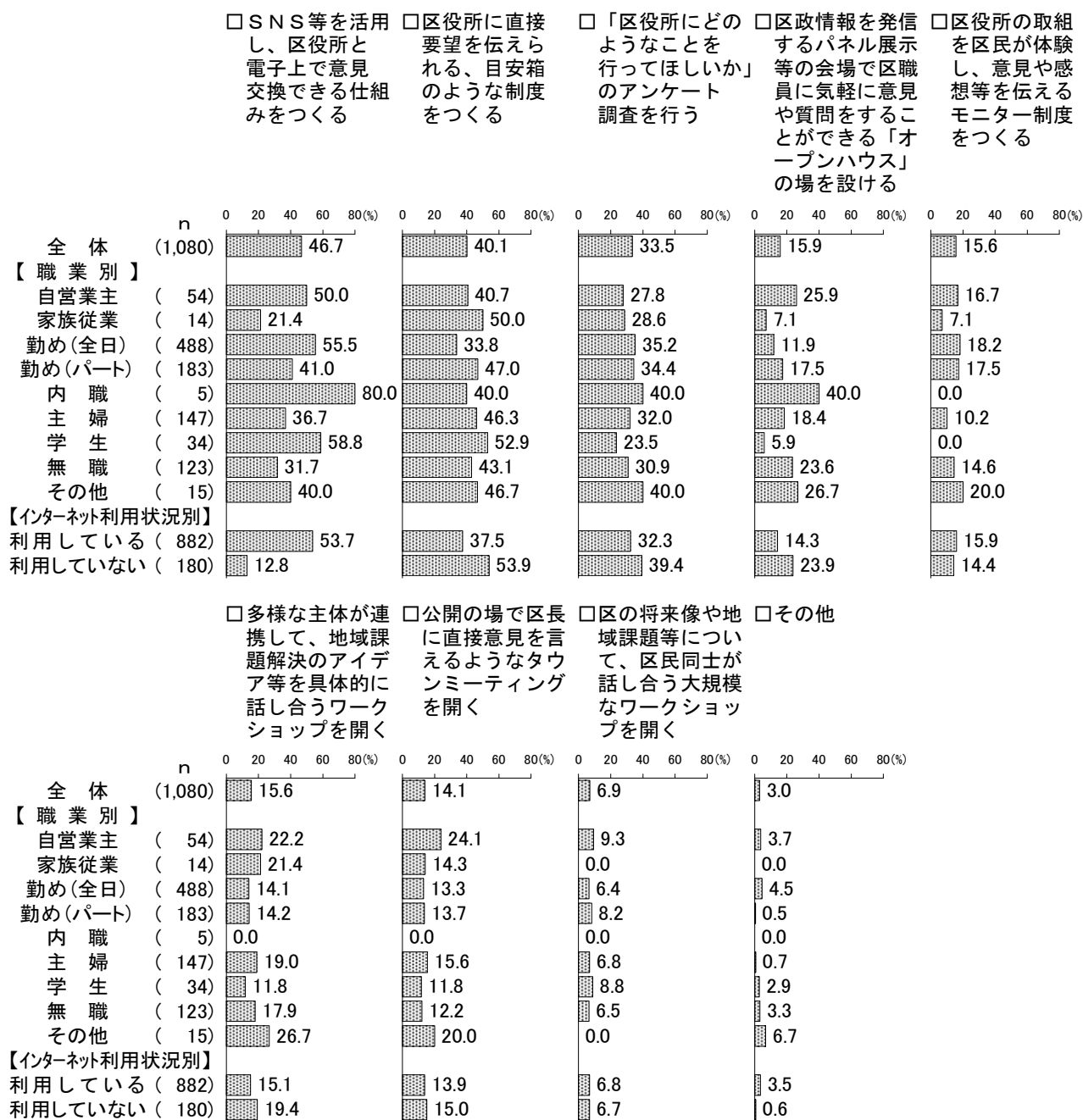
図 1-36 区民の意見を区政に反映するための手法（性別、性・年代別）



性別にみると、「区政情報を発信するパネル展示等の会場で区職員に気軽に意見や質問をすることができる『オープンハウス』の場を設ける」は男性（18.4%）が女性（13.8%）より 4.6 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「SNS等を活用し、区役所と電子上で意見交換できる仕組みをつくる」は男性 30 歳代（66.1%）と女性 20 歳代（66.1%）で 6 割半ばと高くなっている。「区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる」は男性 70 歳以上（57.1%）で 6 割近くと高くなっている。（図 1-36）

図 1-37 区民の意見を区政に反映するための手法（職業別、インターネット利用状況別）



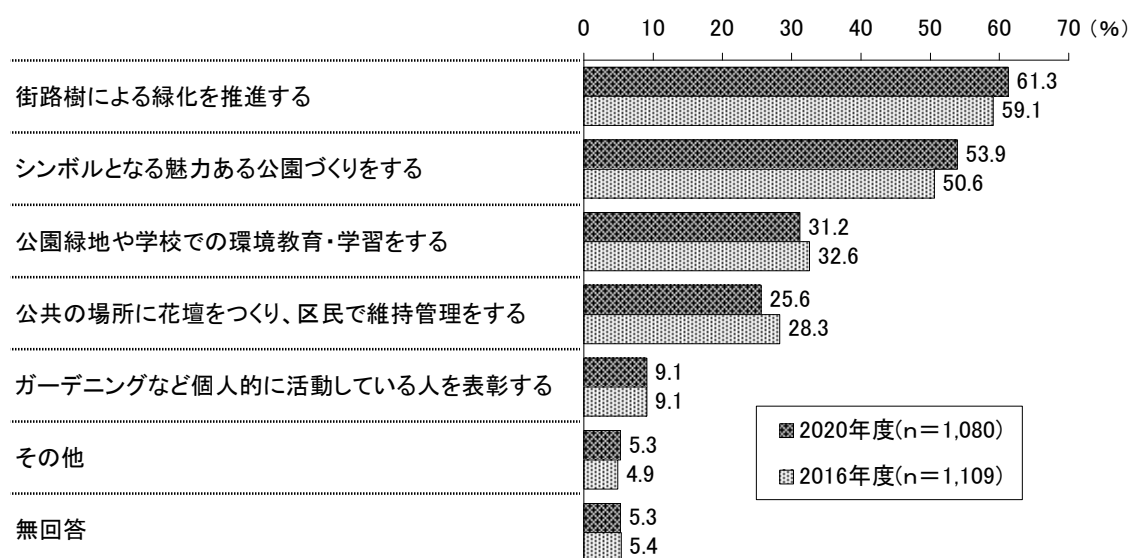
職業別にみると、「SNS等を活用し、区役所と電子上で意見交換できる仕組みをつくる」は学生（58.8%）で6割近くと高くなっている。「区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる」は学生（52.9%）で5割を超えて高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「SNS等を活用し、区役所と電子上で意見交換できる仕組みをつくる」は利用している人（53.7%）が利用していない人（12.8%）より 40.9 ポイント高くなっている。一方、「区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる」は利用していない人（53.9%）が利用している人（37.5%）より 16.4 ポイント高くなっている。（図 1-37）

### (13)「花と緑のまちづくり」推進

問 13 平成5年度より高津区が取り組んでいる「花と緑のまちづくり」を推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。(3つまで○)

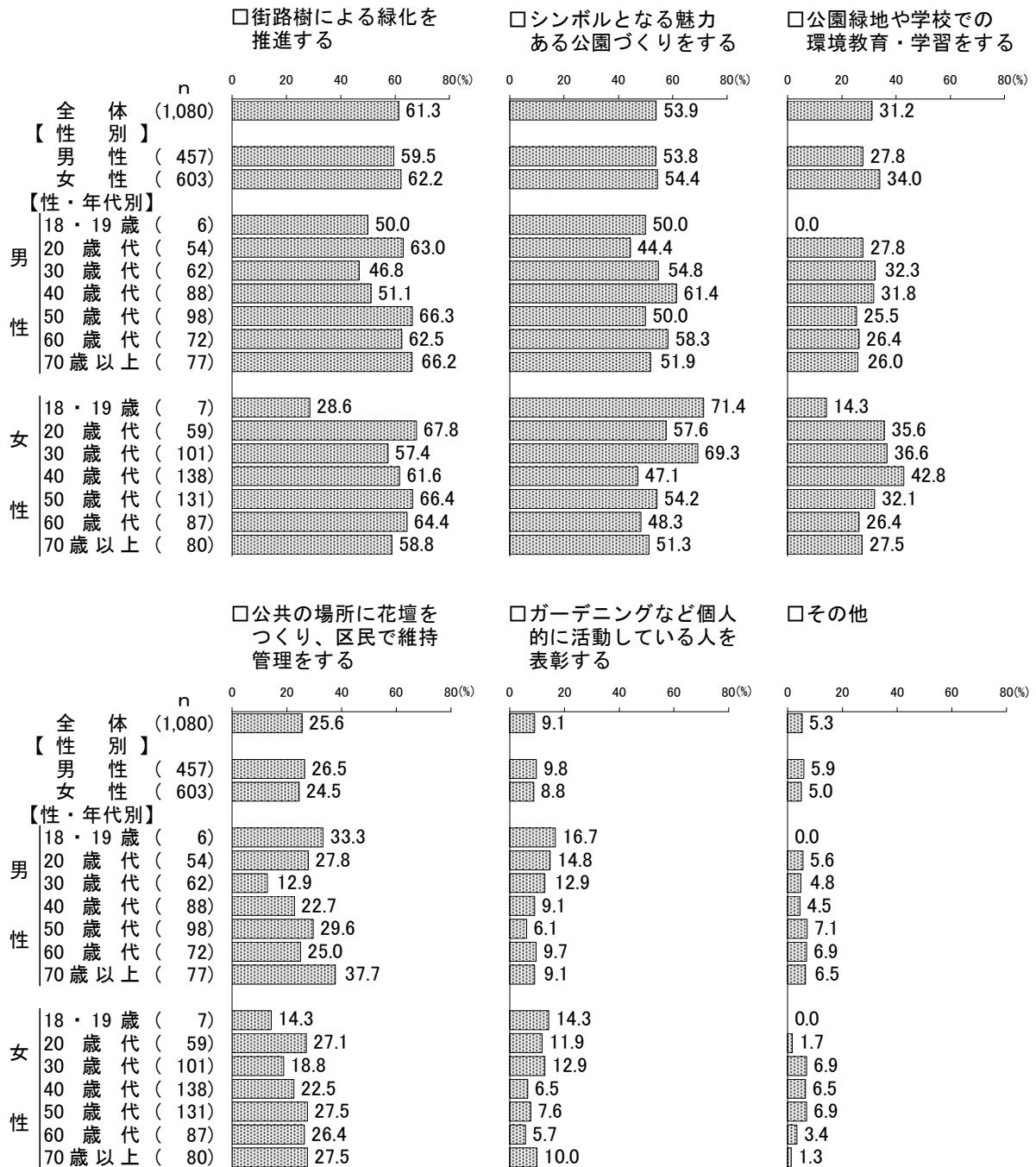
図 1-38 「花と緑のまちづくり」推進



「花と緑のまちづくり」を推進していくためには、どのようにしたらよいか聞いたところ、「街路樹による緑化を推進する」(61.3%)が6割を超えて最も高く、次いで「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」(53.9%)、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」(31.2%)、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」(25.6%)となっている。

2016年度と比較すると、「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」は3.3ポイント増加している。(図1-38)

図 1-39 「花と緑のまちづくり」推進（性別、性・年代別）



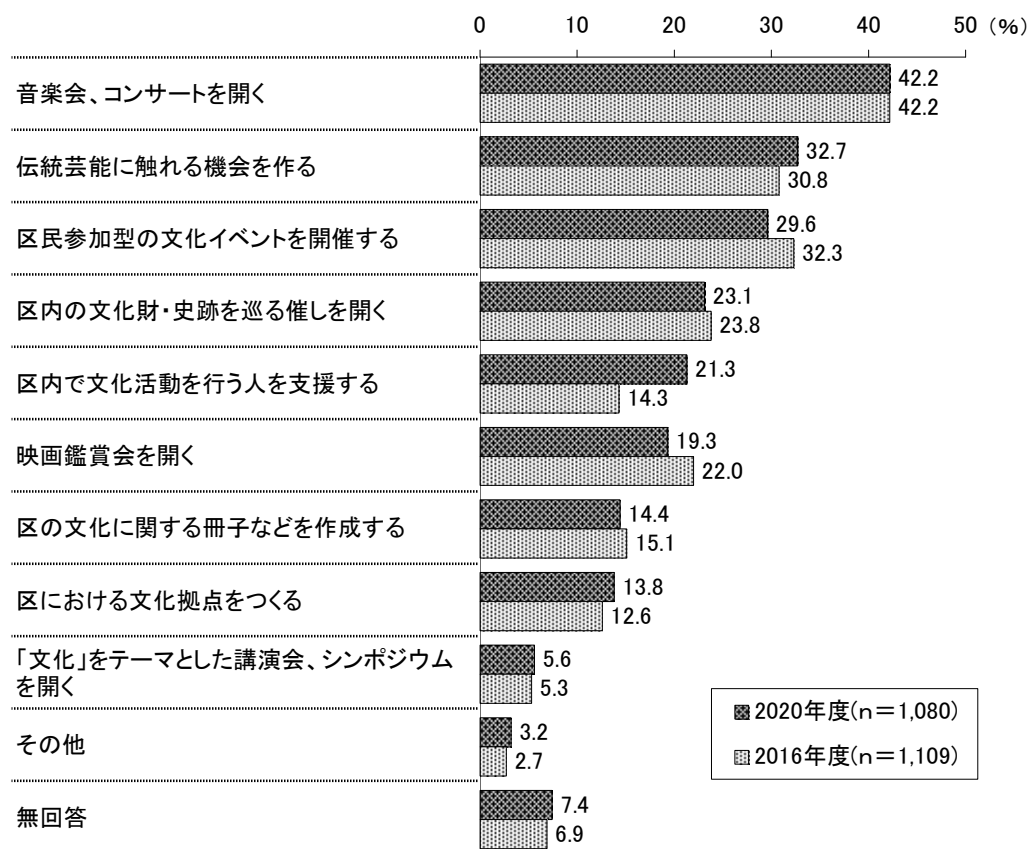
性別にみると、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」は女性（34.0%）が男性（27.8%）より 6.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「街路樹による緑化を推進する」は女性 20 歳代（67.8%）で 7 割近くと高くなっている。「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」は女性 30 歳代（69.3%）で約 7 割と高くなっている。「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」は女性 40 歳代（42.8%）で 4 割を超えて高くなっている。（図 1-39）

## (14) 区の文化の振興

問 14 区の文化を振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 1-40 区の文化の振興

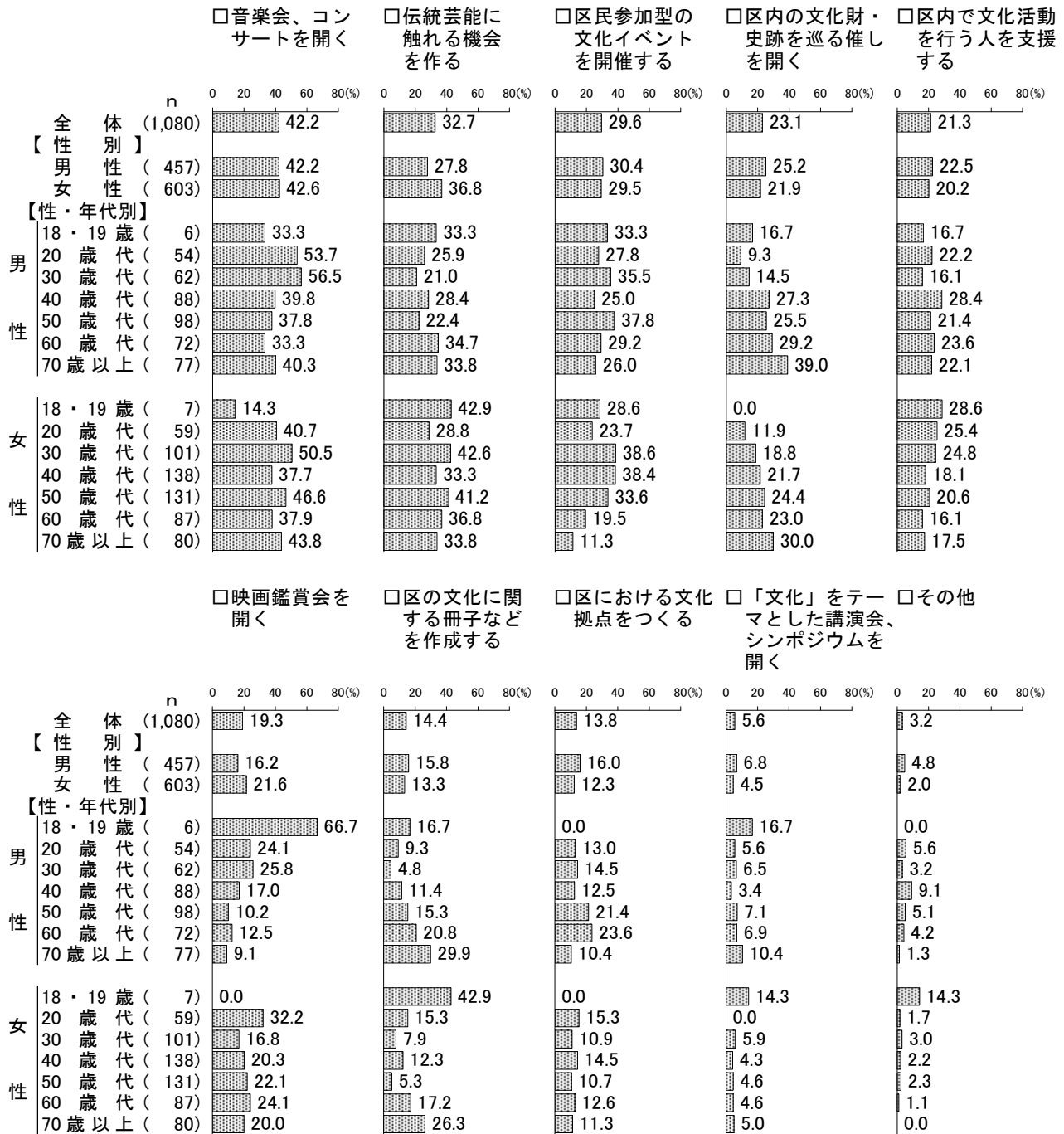


区の文化を振興するための手法を聞いたところ、「音楽会、コンサートを開く」(42.2%)が4割を超えて最も高く、次いで「伝統芸能に触れる機会を作る」(32.7%)、「区民参加型の文化イベントを開催する」(29.6%)、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」(23.1%)となっている。

2016年度と比較すると、「区内で文化活動を行う人を支援する」は7.0ポイント増加している。

(図 1-40)

図 1-41 区の文化の振興（性別、性・年代別）



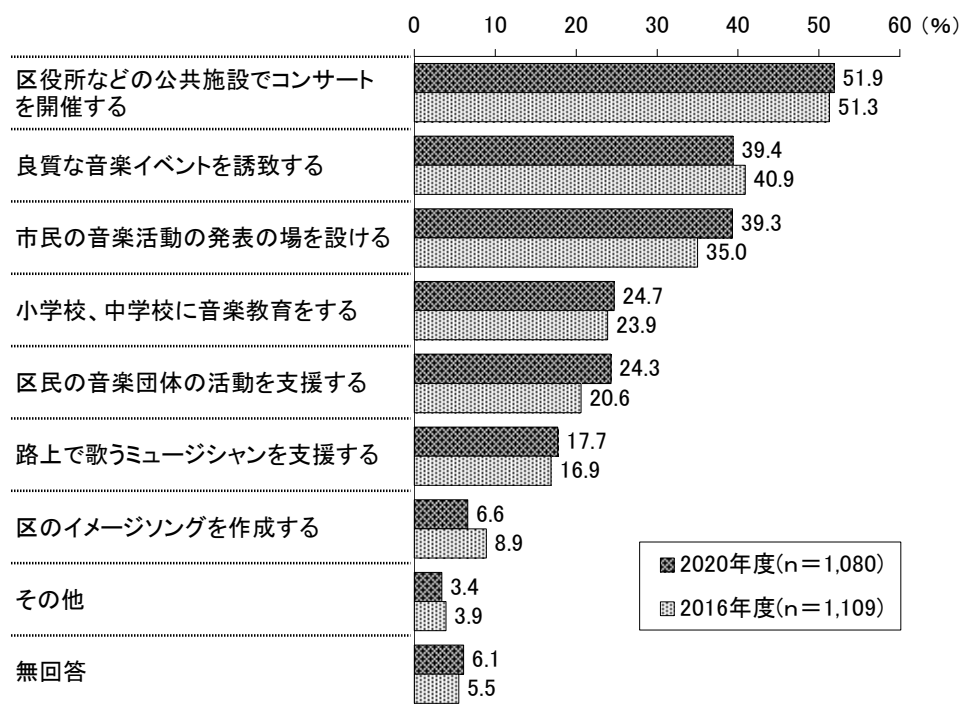
性別にみると、「伝統芸能に触れる機会を作る」は女性（36.8%）が男性（27.8%）より 9.0 ポイント、「映画鑑賞会を開く」は女性（21.6%）が男性（16.2%）より 5.4 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「区における文化拠点をつくる」は男性（16.0%）が女性（12.3%）より 3.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「音楽会、コンサートを開く」は男性 30 歳代（56.5%）で 6 割近くと高くなっている。「伝統芸能に触れる機会を作る」は女性 30 歳代（42.6%）と女性 50 歳代（41.2%）で 4 割を超えて高くなっている。「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」は男性 70 歳以上（39.0%）で約 4 割と高くなっている。（図 1-41）

(15)「音楽のまち」推進

問 15 川崎市が掲げている「音楽のまち」を高津区において推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 1-42 「音楽のまち」推進

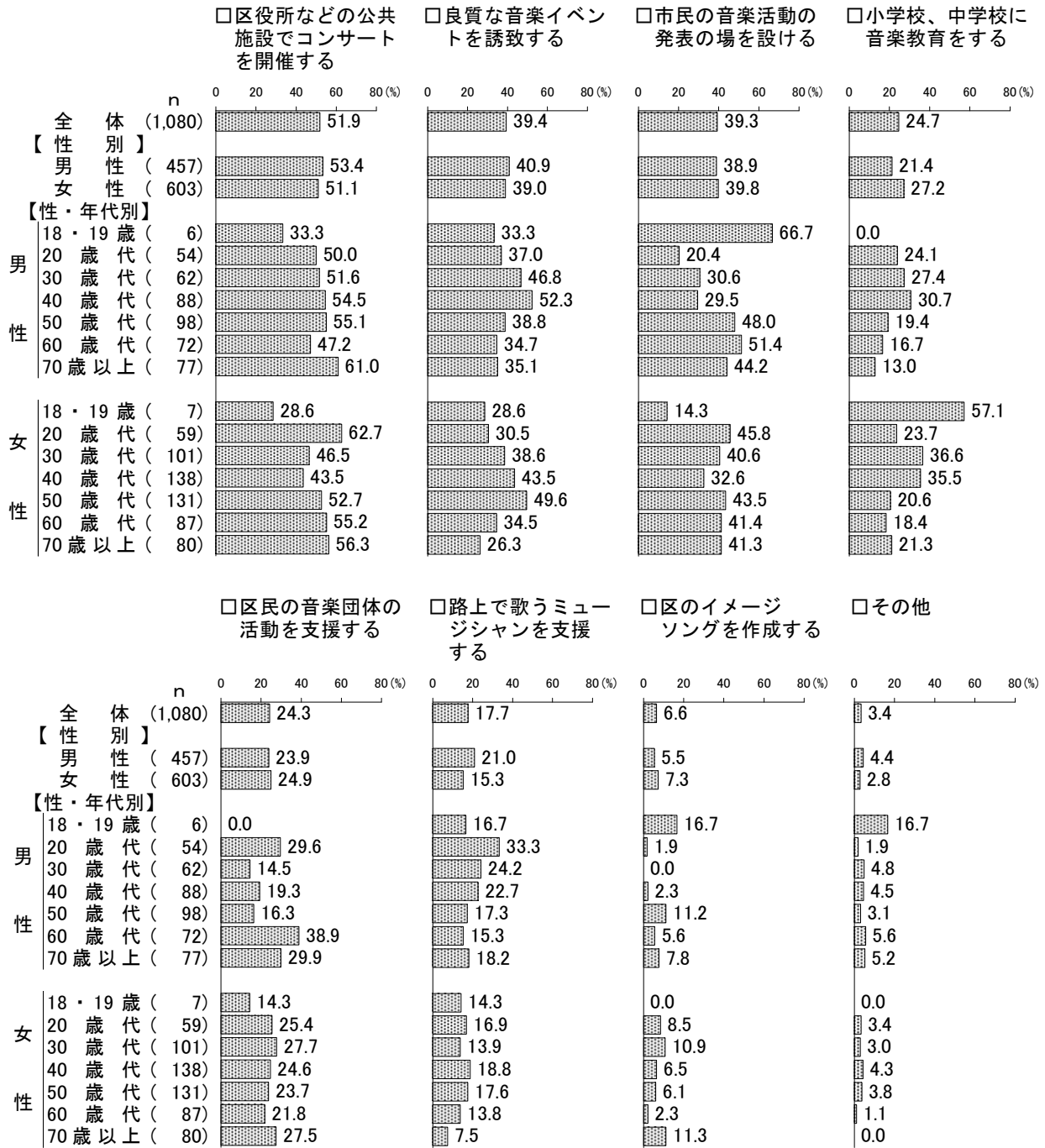


高津区において「音楽のまち」を推進するための手法を聞いたところ、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」(51.9%)が5割を超えて最も高く、次いで「良質な音楽イベントを誘致する」(39.4%)、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」(39.3%)、「小学校、中学校に音楽教育をする」(24.7%)となっている。

2016年度と比較すると、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」は4.3ポイント、「区民の音楽団体の活動を支援する」は3.7ポイント、それぞれ増加している。(図1-42)



図 1-43 「音楽のまち」推進（性別、性・年代別）



性別にみると、「小学校、中学校に音楽教育をする」は女性（27.2%）が男性（21.4%）より 5.8 ポイント高くなっている。一方、「路上で歌うミュージシャンを支援する」は男性（21.0%）が女性（15.3%）より 5.7 ポイント高くなっている。

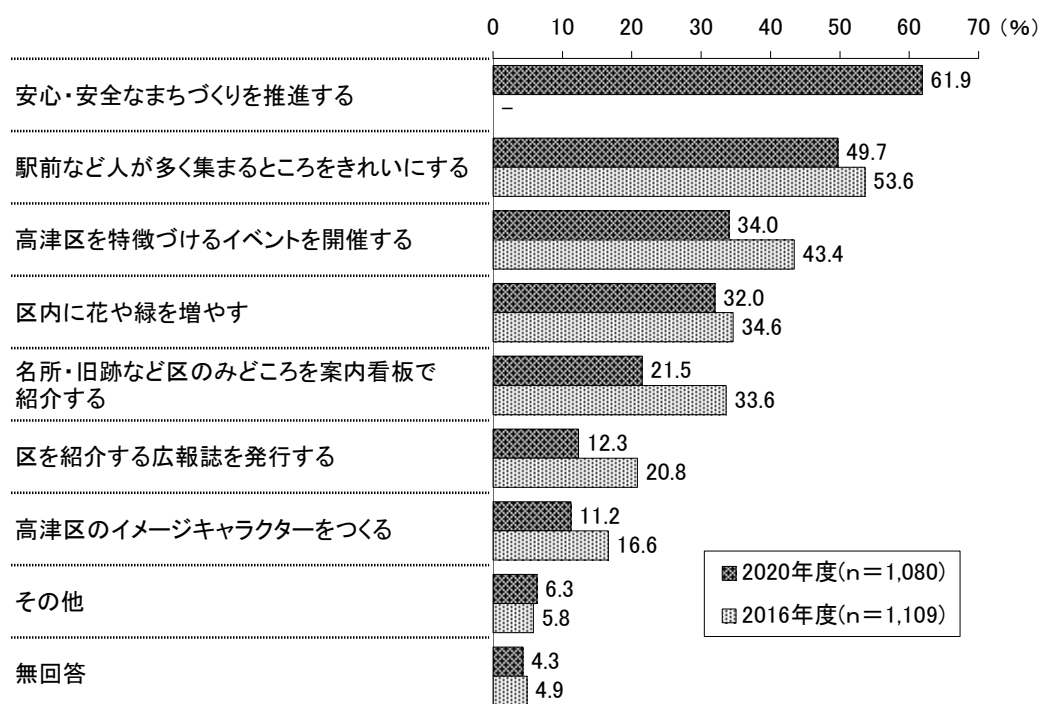
性・年代別にみると、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」は女性 20 歳代（62.7%）と男性 70 歳以上（61.0%）で 6 割を超えて高くなっている。「良質な音楽イベントを誘致する」は男性 40 歳代（52.3%）で 5 割を超えて高くなっている。「市民の音楽活動の発表の場を設ける」は男性 60 歳代（51.4%）で 5 割を超えて高くなっている。（図 1-43）

## (16) 区のイメージアップ

問 16 区のイメージアップを図るためには、どのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

図 1-44 区のイメージアップ

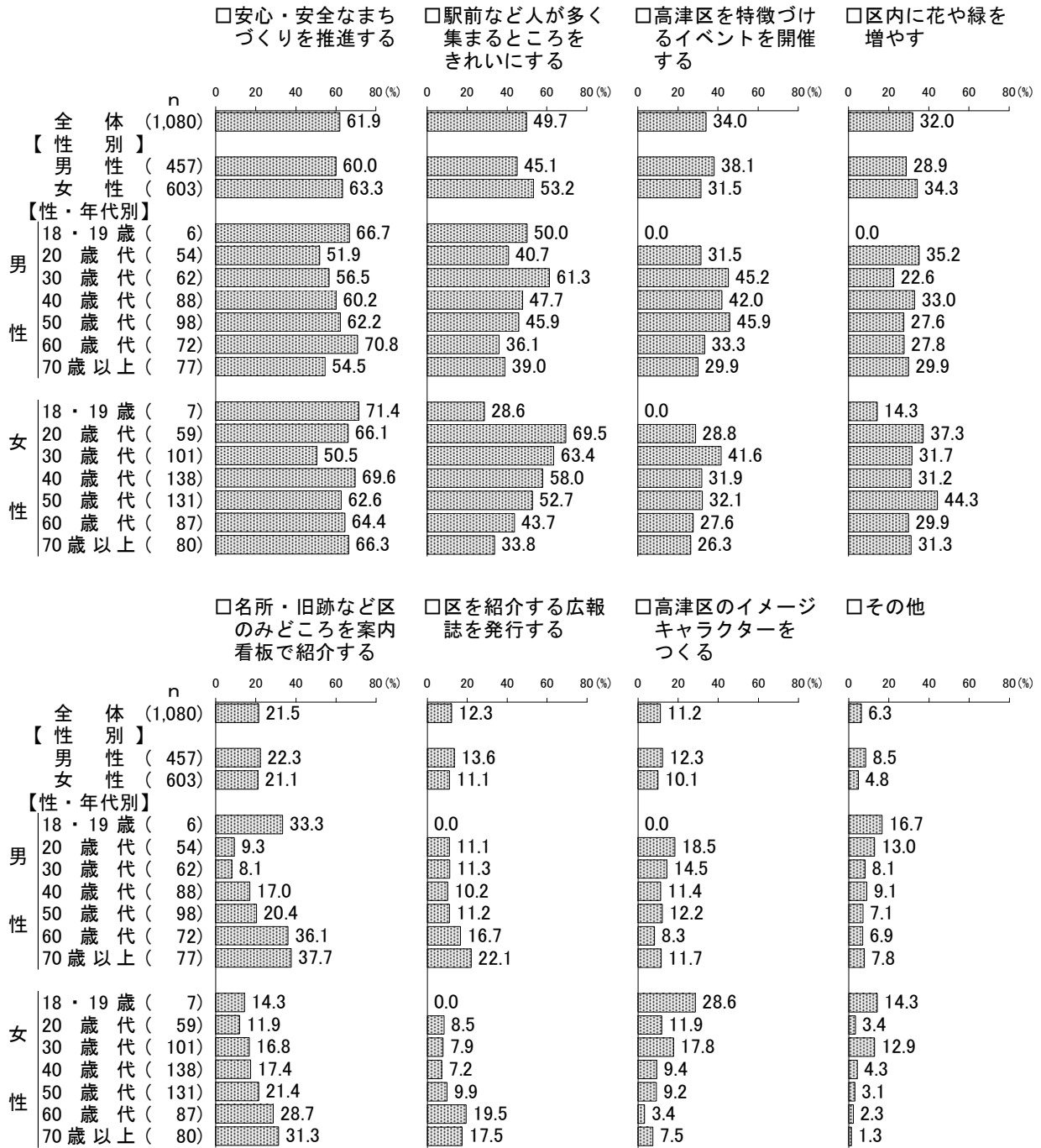


※「安心・安全なまちづくりを推進する」は 2020 年度に追加された選択肢

区のイメージアップを図るための手法を聞いたところ、「安心・安全なまちづくりを推進する」(61.9%) が 6 割を超えて最も高く、次いで「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」(49.7%)、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」(34.0%)、「区内に花や緑を増やす」(32.0%) となっている。

2016 年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「その他」を除く全ての項目で減少している。(図 1-44)

図 1-45 区のイメージアップ（性別、性・年代別）



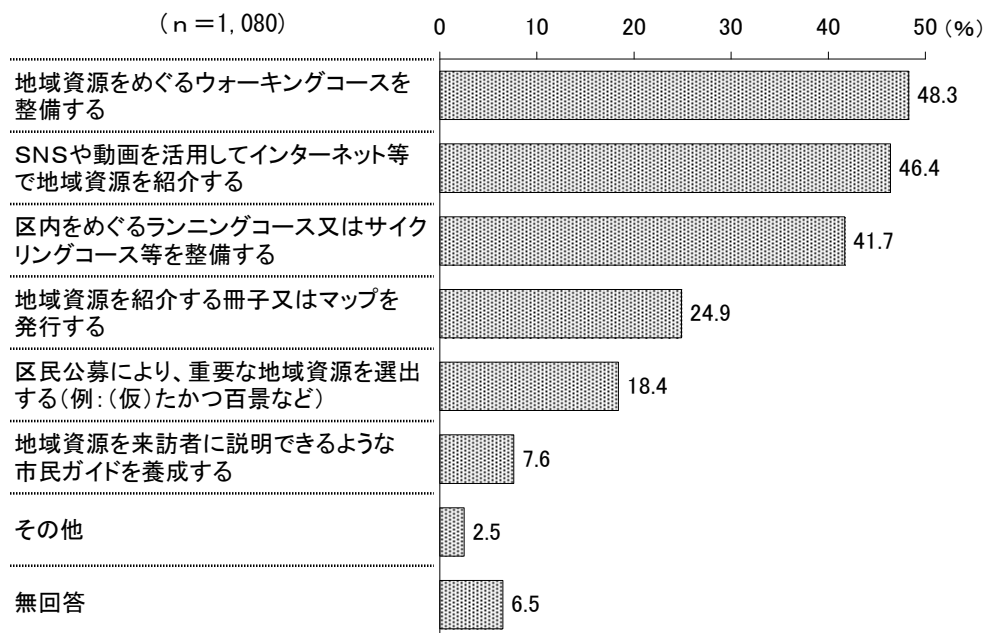
性別にみると、「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」は女性(53.2%)が男性(45.1%)より 8.1 ポイント、「区内に花や緑を増やす」は女性(34.3%)が男性(28.9%)より 5.4 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」は男性(38.1%)が女性(31.5%)より 6.6 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「安心・安全なまちづくりを推進する」は男性 60 歳代(70.8%)と女性 40 歳代(69.6%)で 7 割前後と高くなっている。「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」は女性では年代が下がるほど割合が高くなっており、女性 20 歳代(69.5%)で 7 割と高くなっている。(図 1-45)

(17) 区の地域資源の魅力の効果的な発信（2020年度新設）

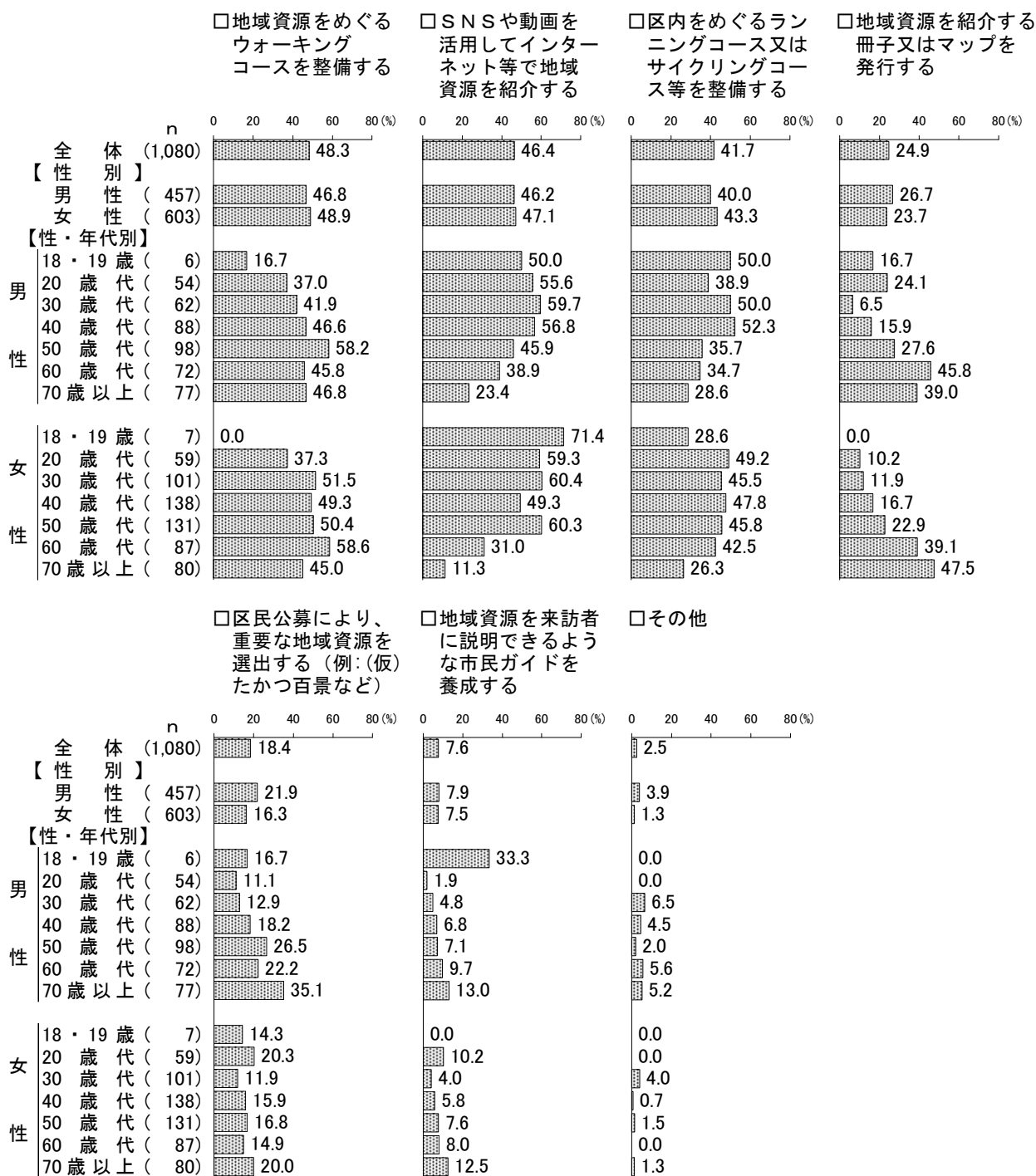
問 17 区の地域資源の魅力をより効果的に発信するためには、どのような手法がよいでしょうか。（3 つまで○）

図 1-46 区の地域資源の魅力の効果的な発信



区の地域資源の魅力をより効果的に発信するための手法を聞いたところ、「地域資源をめぐるウォーキングコースを整備する」(48.3%)が5割近くで最も高く、次いで「SNSや動画を活用してインターネット等で地域資源を紹介する」(46.4%)、「区内をめぐるランニングコース又はサイクリングコース等を整備する」(41.7%)、「地域資源を紹介する冊子又はマップを発行する」(24.9%)となっている。(図 1-46)

図 1-47 区の地域資源の魅力の効果的な発信（性別、性・年代別）



性別にみると、「区民公募により、重要な地域資源を選出する（例：（仮）たかつ百景など）」は男性（21.9%）が女性（16.3%）より5.6ポイント高くなっている。一方、「区内をめぐるランニングコース又はサイクリングコース等を整備する」は女性（43.3%）が男性（40.0%）より3.3ポイント高くなっている。

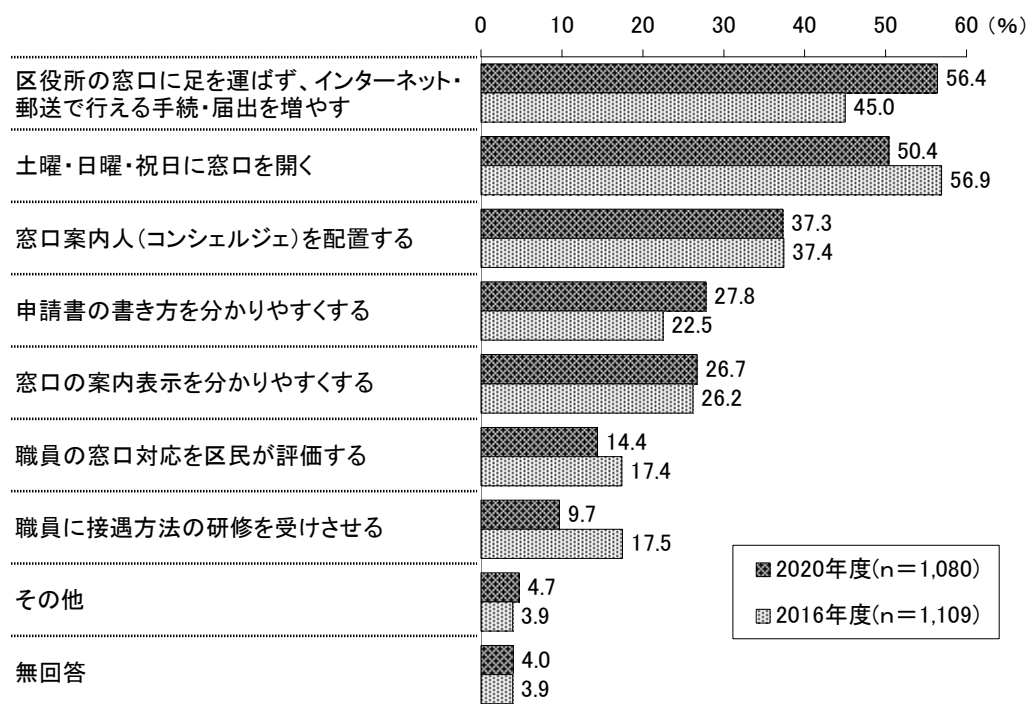
性・年代別にみると、「地域資源をめぐるウォーキングコースを整備する」は女性60歳代（58.6%）と男性50歳代（58.2%）で6割近くと高くなっている。「地域資源を紹介する冊子又はマップを発行する」は女性では年代が上がるほど割合が高くなっており、女性70歳以上（47.5%）で5割近くと高くなっている。（図1-47）

## (18) 区役所の窓口サービス向上

問 18 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

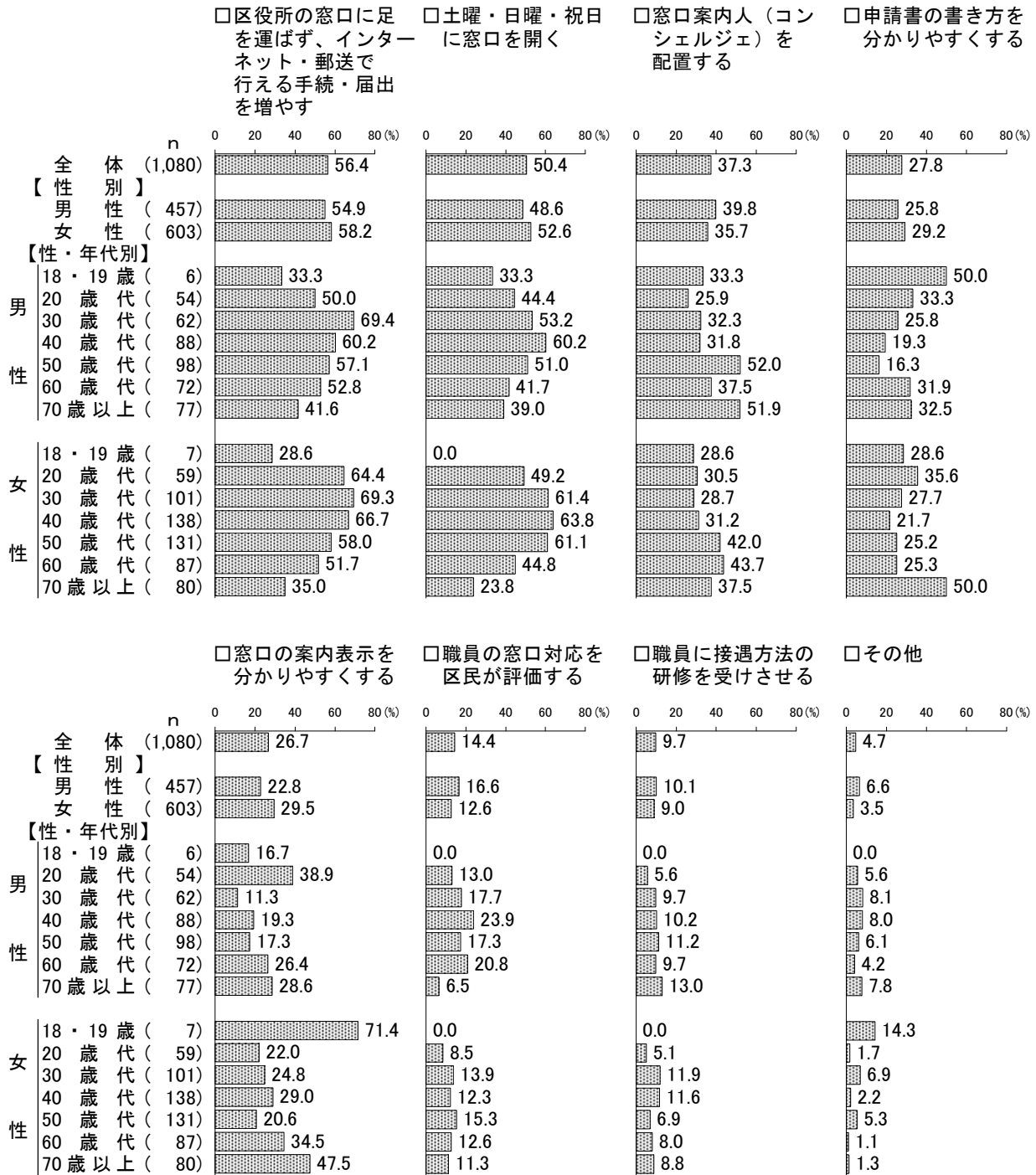
図 1-48 区役所の窓口サービス向上



区役所の窓口サービスを向上させるための手法を聞いたところ、「区役所の窓口に通わず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」(56.4%)が5割半ばで最も高く、次いで「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」(50.4%)、「窓口案内人(コンシェルジェ)を配置する」(37.3%)、「申請書の書き方を分かりやすくする」(27.8%)となっている。

2016年度と比較すると、「区役所の窓口に通わず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」は11.4ポイント、「申請書の書き方を分かりやすくする」は5.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「職員に接客方法の研修を受けさせる」は7.8ポイント、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」は6.5ポイント、それぞれ減少している。(図1-48)

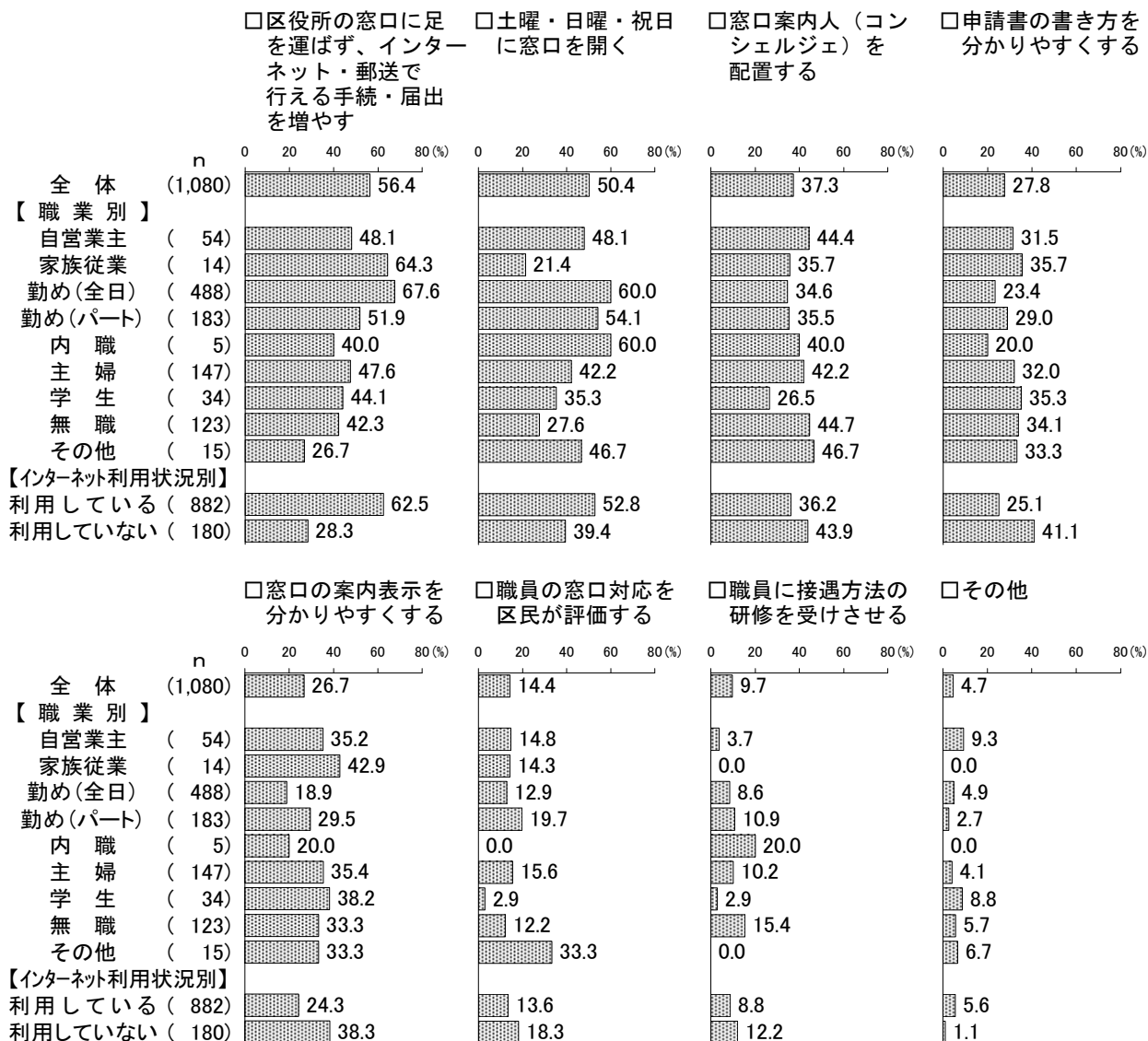
図 1-49 区役所の窓口サービス向上（性別、性・年代別）



性別にみると、「窓口の案内表示を分かりやすくする」は女性（29.5%）が男性（22.8%）より6.7ポイント高くなっている。一方、「窓口案内人（コンシェルジェ）を配置する」は男性（39.8%）が女性（35.7%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「区役所の窓口で足を運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」は男性30歳代（69.4%）と女性30歳代（69.3%）で約7割と高くなっている。「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」は男性40歳代（60.2%）と女性30歳代（61.4%）、女性40歳代（63.8%）、女性50歳代（61.1%）で6割台と高くなっている。（図1-49）

図 1-50 区役所の窓口サービス向上（職業別、インターネット利用状況別）



職業別にみると、「区役所の窓口足運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」は勤め（全日）（67.6%）で7割近くと高くなっている。「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」は勤め（全日）（60.0%）で6割と高くなっている。

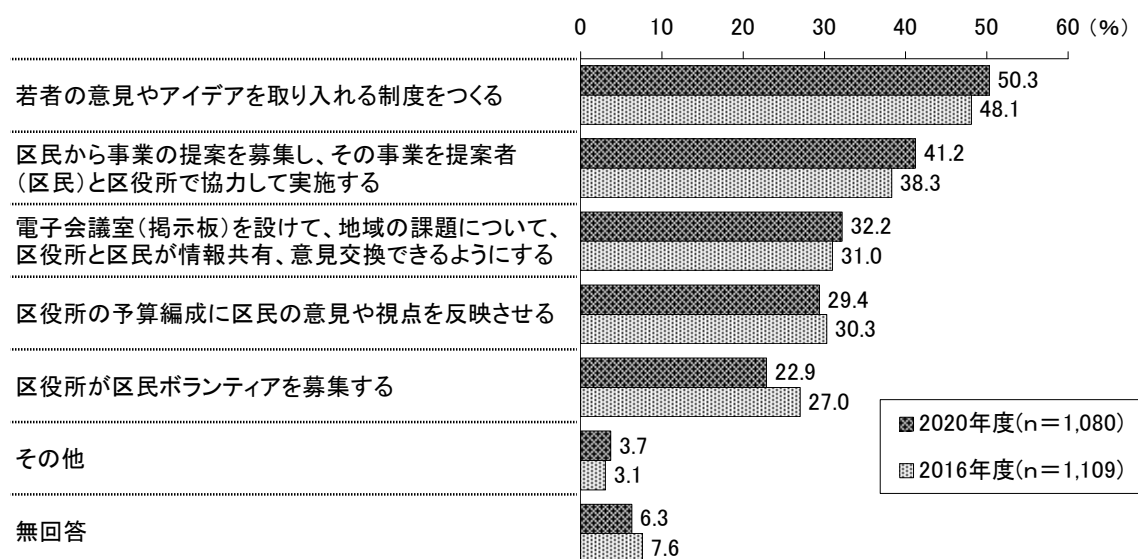
インターネット利用状況別にみると、「区役所の窓口足運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」は利用している人（62.5%）が利用していない人（28.3%）より 34.2 ポイント、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」は利用している人（52.8%）が利用していない人（39.4%）より 13.4 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「申請書の書き方を分かりやすくする」は利用していない人（41.1%）が利用している人（25.1%）より 16.0 ポイント、「窓口の案内表示を分かりやすくする」は利用していない人（38.3%）が利用している人（24.3%）より 14.0 ポイント、それぞれ高くなっている。（図 1-50）



## (19) 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み

問 19 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みとしては、どのようなものがよいでしょうか。（3つまで○）

図 1-51 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み

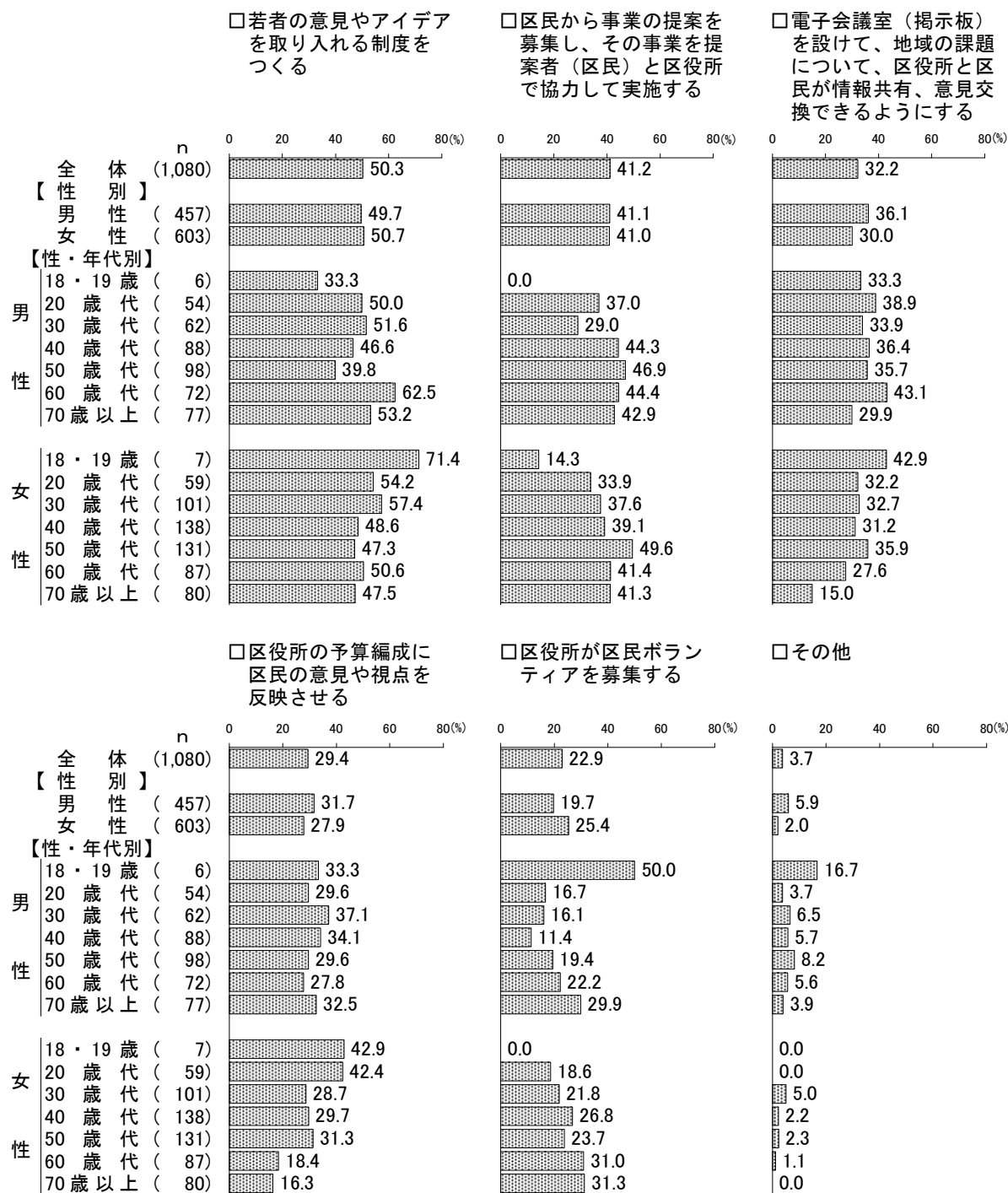


区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みとしては、どのようなものがよいか聞いたところ、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」（50.3%）が5割で最も高く、次いで「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者（区民）と区役所で協力して実施する」（41.2%）、「電子会議室（掲示板）を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」（32.2%）、「区役所の予算編成に区民の意見や視点を反映させる」（29.4%）となっている。

2016年度と比較すると、「区役所が区民ボランティアを募集する」は4.1ポイント減少している。

（図 1-51）

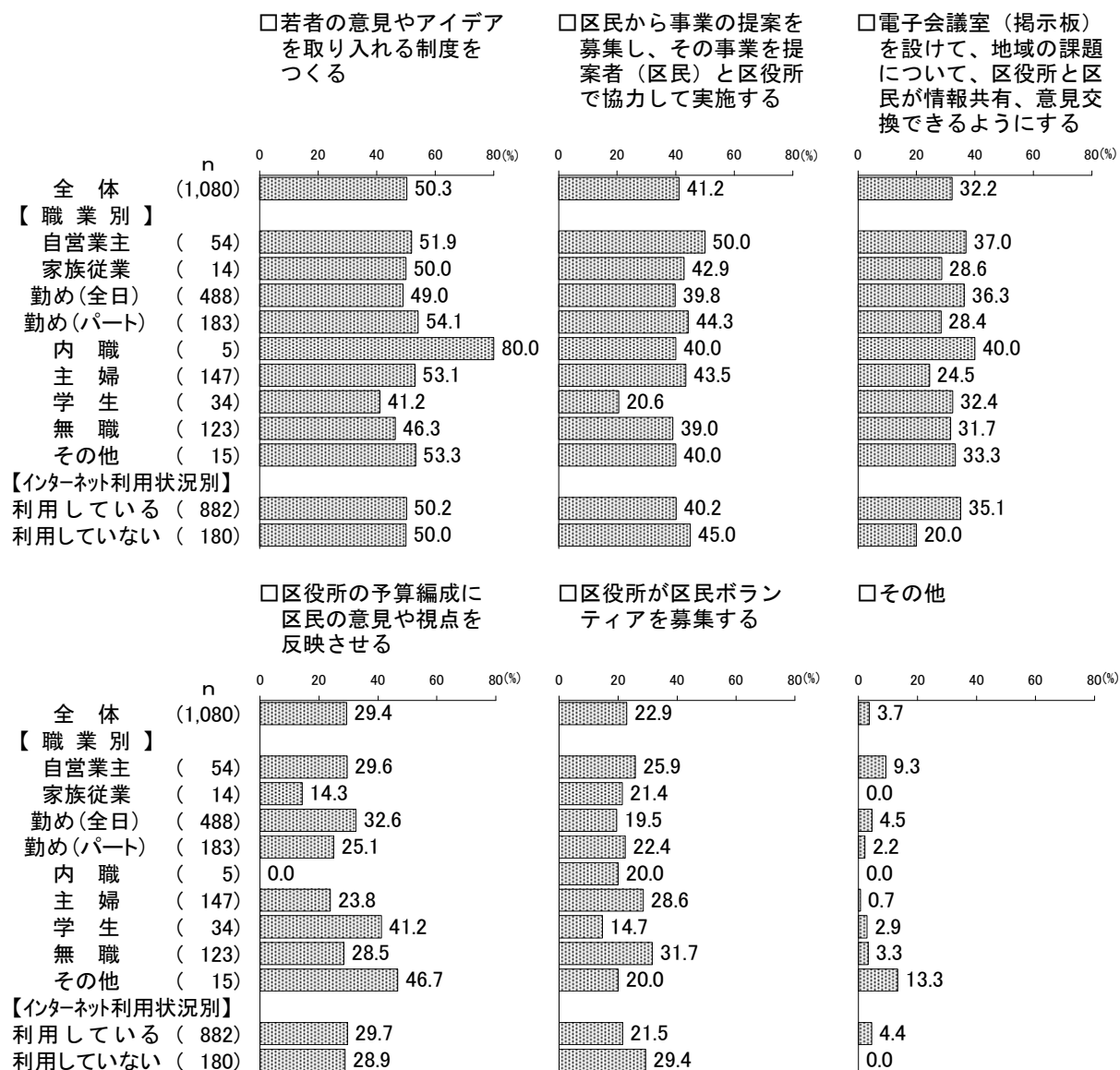
図 1-52 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み（性別、性・年代別）



性別にみると、「電子会議室（掲示板）を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」は男性（36.1%）が女性（30.0%）より 6.1 ポイント高くなっている。一方、「区役所が区民ボランティアを募集する」は女性（25.4%）が男性（19.7%）より 5.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」は男性 60 歳代（62.5%）で 6 割を超えて高くなっている。「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者（区民）と区役所で協力して実施する」は女性 50 歳代（49.6%）で 5 割と高くなっている。（図 1-52）

図 1-53 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み（職業別、インターネット利用状況別）



職業別にみると、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」は勤め（パートタイム）（54.1%）で5割半ばと高くなっている。「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者（区民）と区役所で協力して実施する」は自営業主（50.0%）で5割と高くなっている。

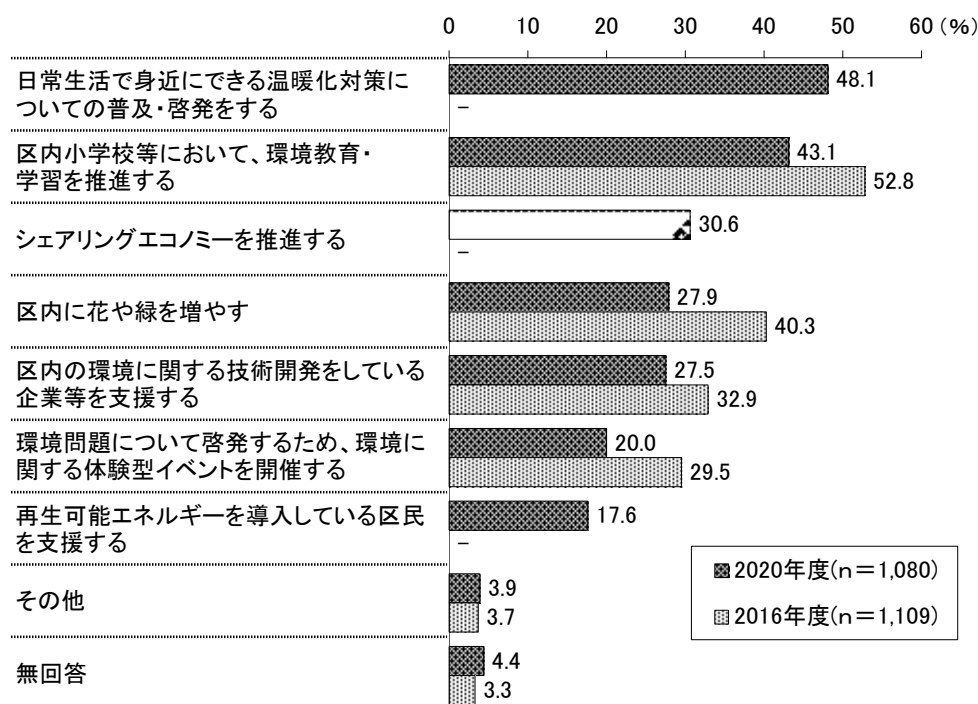
インターネット利用状況別にみると、「電子会議室（掲示板）を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」は利用している人（35.1%）が利用していない人（20.0%）より 15.1 ポイント高くなっている。一方、「区役所が区民ボランティアを募集する」は利用していない人（29.4%）が利用している人（21.5%）より 7.9 ポイント高くなっている。

（図 1-53）

## (20) 地域の地球温暖化緩和策

問 20 地域における地球温暖化の緩和策としては、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

図 1-54 地域の地球温暖化緩和策



※「日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする」、「シェアリングエコノミーを推進する」、「再生可能エネルギーを導入している区民を支援する」は2020年度に追加された選択肢

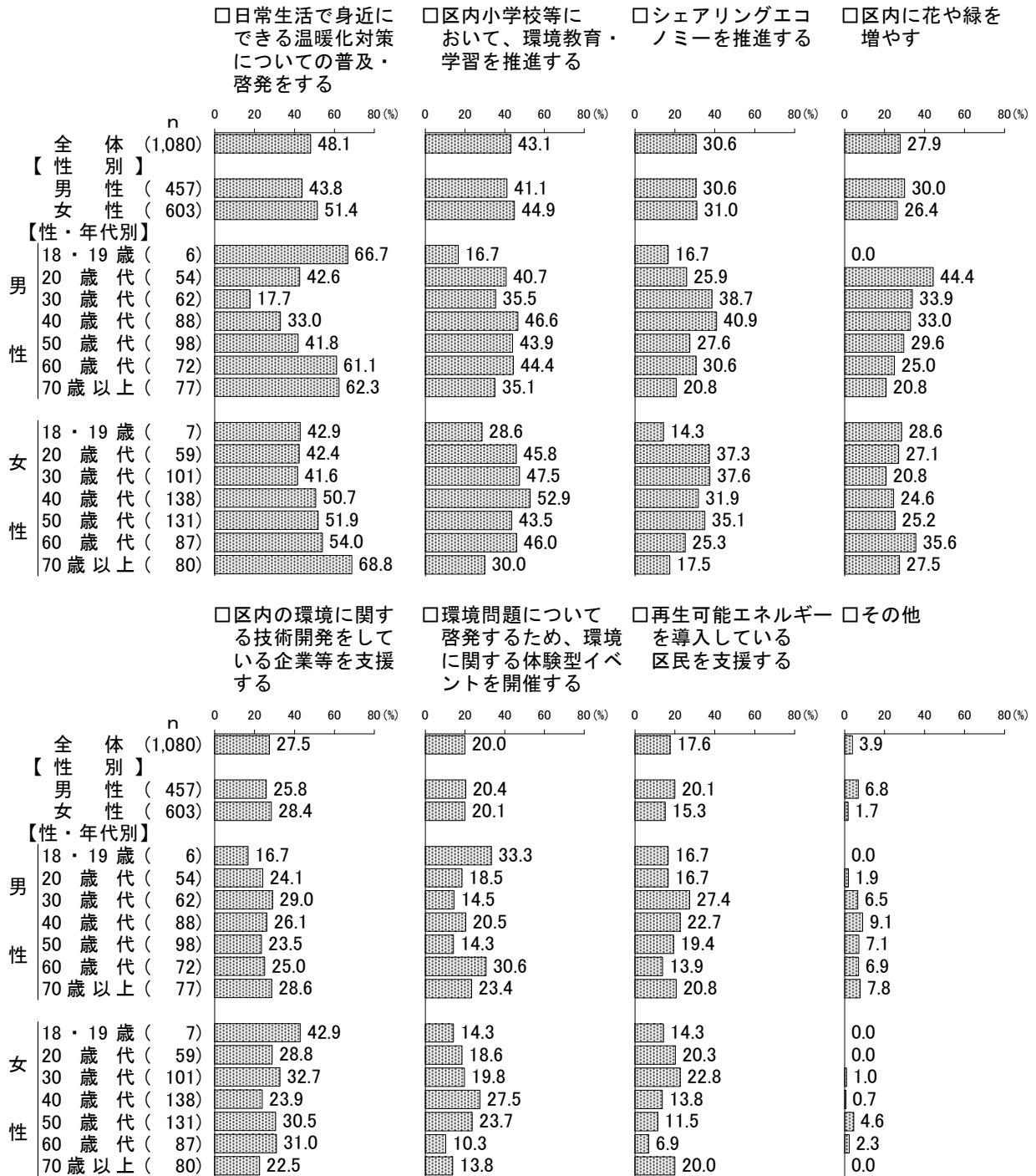
※緩和策：温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制するための取り組み

※シェアリングエコノミー：物・サービス・場所などを、多くの人と共有・交換して利用する社会的な仕組み（自転車、自動車、傘など）

地域における地球温暖化の緩和策としての手法を聞いたところ、「日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」(43.1%)、「シェアリングエコノミーを推進する」(30.6%)、「区内に花や緑を増やす」(27.9%)となっている。

2016年度との比較は、選択肢が大幅に異なるため参考に図示する。(図1-54)

図 1-55 地域の地球温暖化緩和策（性別、性・年代別）



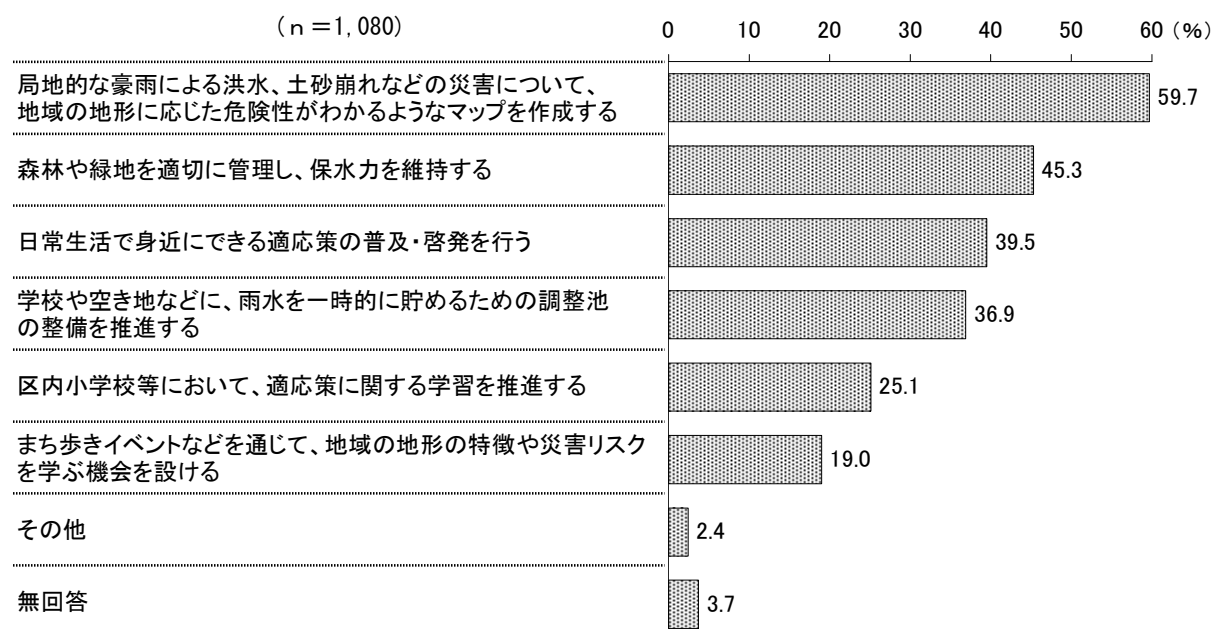
性別にみると、「日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする」は女性（51.4%）が男性（43.8%）より 7.6 ポイント高くなっている。一方、「再生可能エネルギーを導入している区民を支援する」は男性（20.1%）が女性（15.3%）より 4.8 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする」は女性 70 歳以上（68.8%）で 7 割近くと高くなっている。「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」は女性 40 歳代（52.9%）で 5 割を超えて高くなっている。「シェアリングエコノミーを推進する」は男性 40 歳代（40.9%）で約 4 割と高くなっている。（図 1-55）

(21) 地球温暖化に伴う自然災害への適応策（2020年度新設）

問 21 地域における地球温暖化に伴う自然災害への適応策として、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

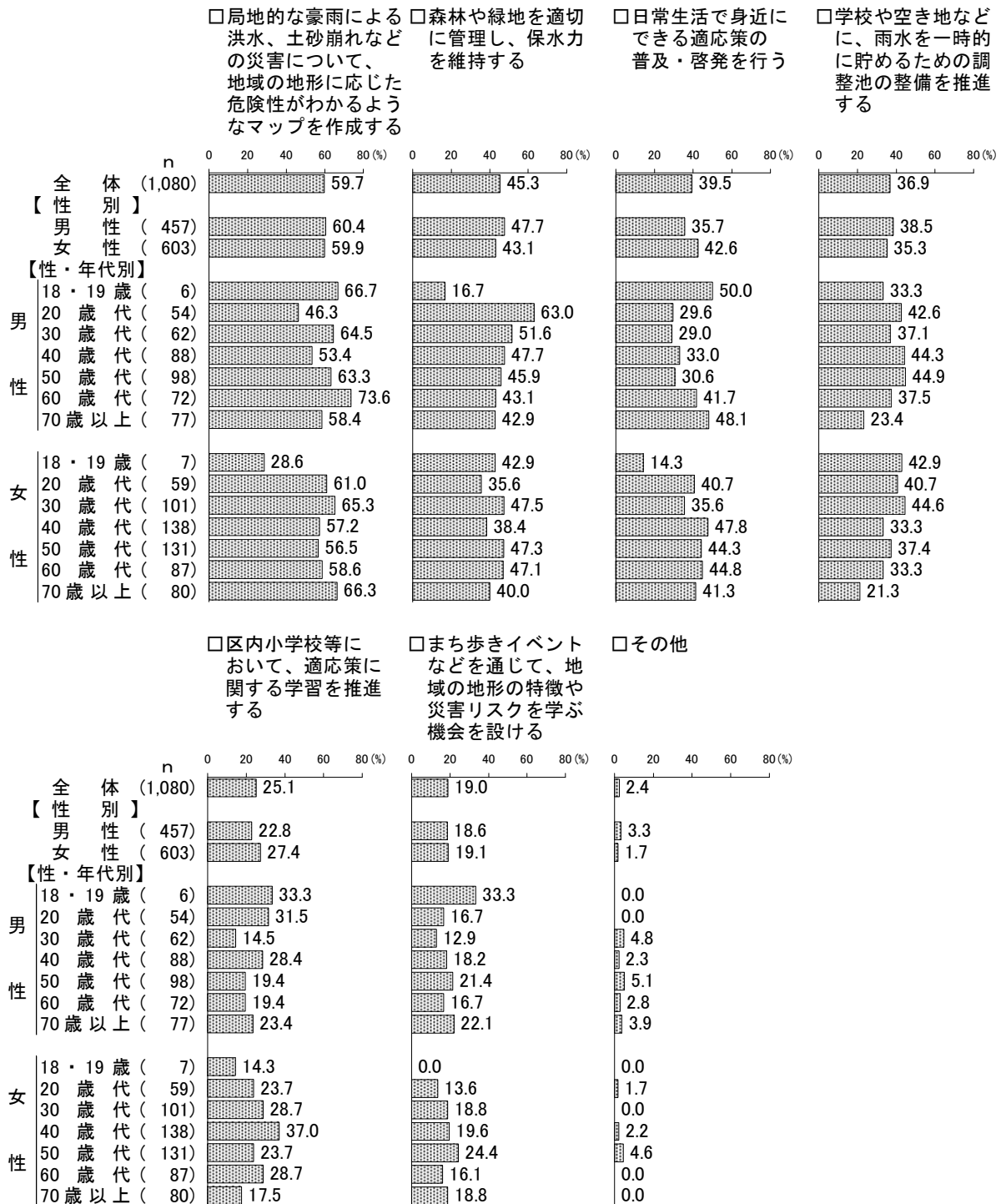
図 1-56 地球温暖化に伴う自然災害への適応策



※適応策：ゲリラ豪雨による洪水や土砂崩れなどの地球温暖化の影響に「適応」するための取り組み（雨水の貯留や地面の保水力向上など）

地域における地球温暖化に伴う自然災害への適応策としての手法を聞いたところ、「局地的な豪雨による洪水、土砂崩れのなどの災害について、地域の地形に応じた危険性がわかるようなマップを作成する」（59.7%）が6割で最も高く、次いで「森林や緑地を適切に管理し、保水力を維持する」（45.3%）、「日常生活で身近にできる適応策の普及・啓発を行う」（39.5%）、「学校や空き地などに、雨水を一時的に貯めるための調整池の整備を推進する」（36.9%）となっている。（図1-56）

図 1-57 地球温暖化に伴う自然災害への適応策（性別、性・年代別）



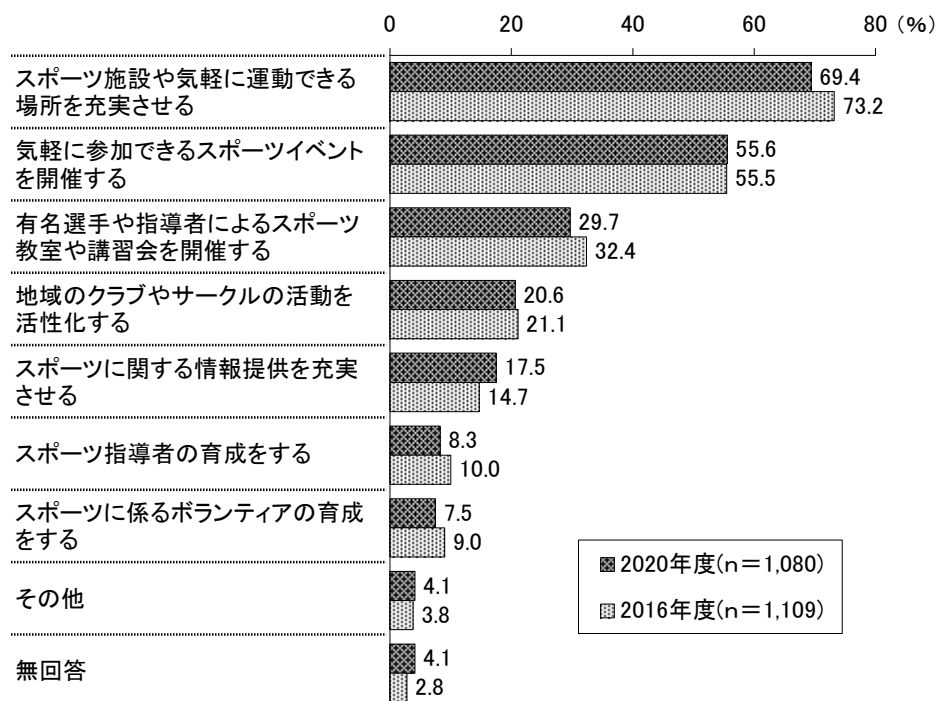
性別にみると、「日常生活で身近にできる適応策の普及・啓発を行う」は女性（42.6％）が男性（35.7％）より 6.9 ポイント高くなっている。一方、「森林や緑地を適切に管理し、保水力を維持する」は男性（47.7％）が女性（43.1％）より 4.6 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「局地的な豪雨による洪水、土砂崩れのなどの災害について、地域の地形に応じた危険性がわかるようなマップを作成する」は男性 60 歳代（73.6％）で 7 割を超えて高くなっている。「森林や緑地を適切に管理し、保水力を維持する」は男性 20 歳代（63.0％）で 6 割を超えて高くなっている。（図 1-57）

## (22) スポーツ振興

問 22 スポーツを振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

図 1-58 スポーツ振興

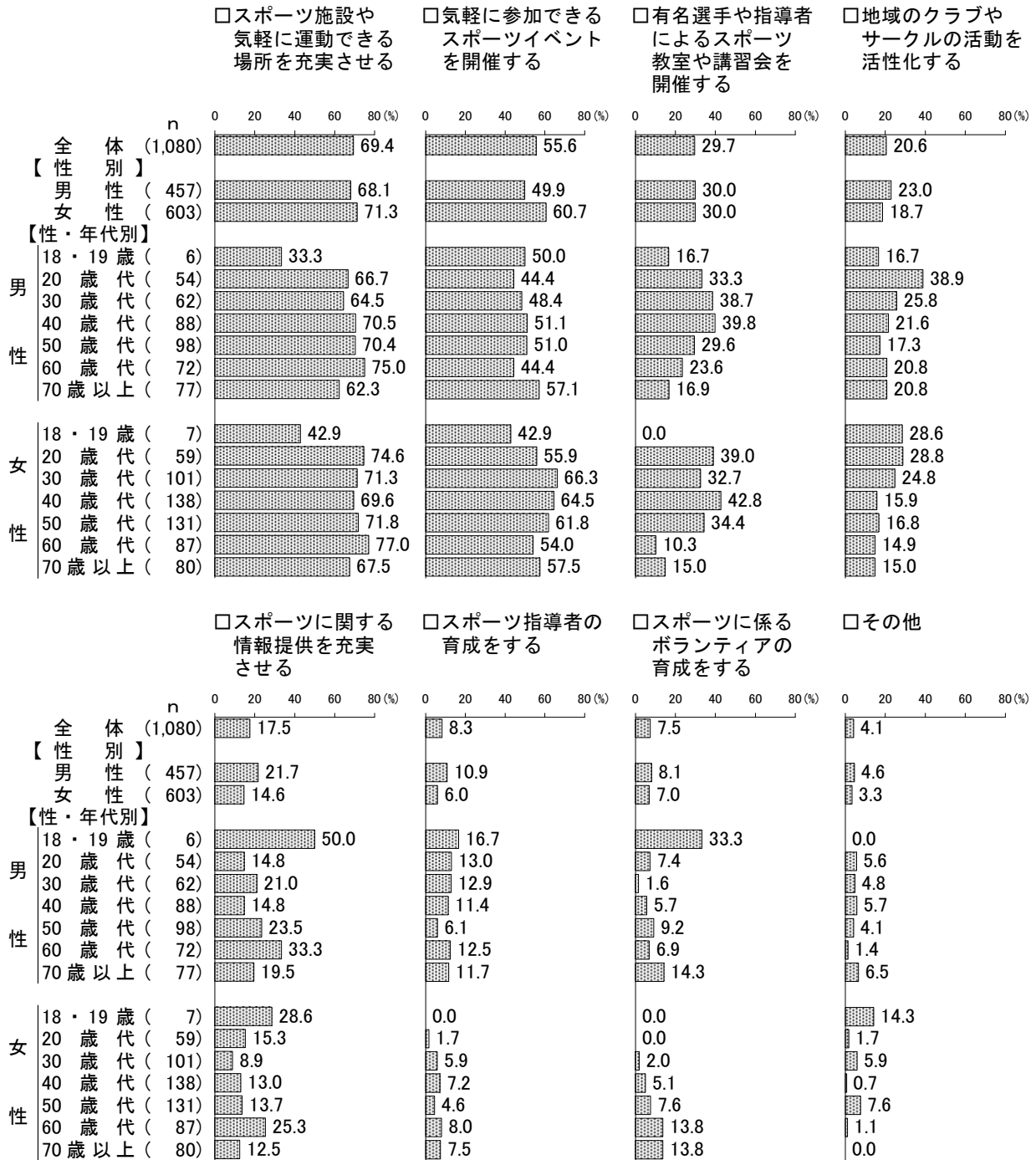


スポーツを振興するための手法を聞いたところ、「スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる」（69.4％）が約7割で最も高く、次いで「気軽に参加できるスポーツイベントを開催する」（55.6％）、「有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する」（29.7％）、「地域のクラブやサークルの活動を活性化する」（20.6％）となっている。

2016年度と比較すると、「スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる」は3.8ポイント減少している。（図1-58）



図 1-59 スポーツ振興（性別、性・年代別）



性別にみると、「気軽に参加できるスポーツイベントを開催する」は女性(60.7%)が男性(49.9%)より10.8ポイント高くなっている。一方、「スポーツに関する情報提供を充実させる」は男性(21.7%)が女性(14.6%)より7.1ポイント高くなっている。

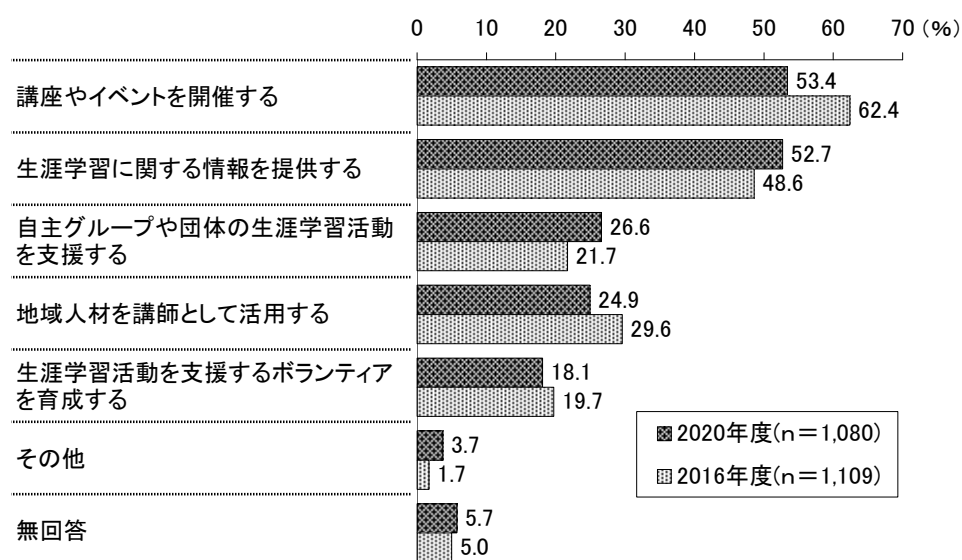
性・年代別にみると、「スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる」は女性60歳代(77.0%)で8割近くと高くなっている。「気軽に参加できるスポーツイベントを開催する」は女性30歳代(66.3%)と女性40歳代(64.5%)で6割半ばと高くなっている。「有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する」は女性40歳代(42.8%)で4割を超えて高くなっている。(図1-59)

## (23) 生涯学習の支援や推進

問 23 生涯学習の支援や推進をするためには、どのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

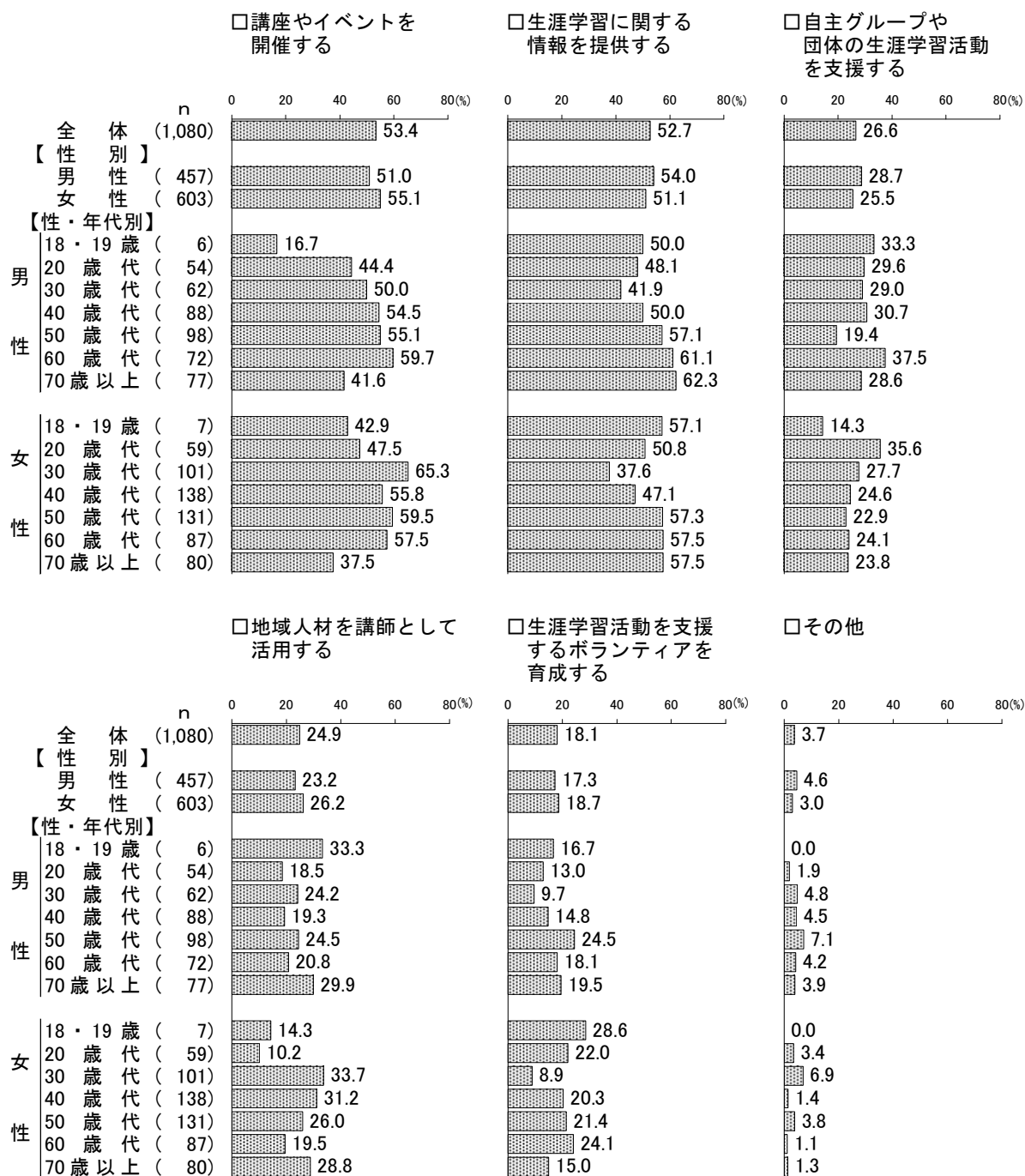
図 1-60 生涯学習の支援や推進



生涯学習の支援や推進をするための手法を聞いたところ、「講座やイベントを開催する」(53.4%)が5割を超えて最も高く、次いで「生涯学習に関する情報を提供する」(52.7%)、「自主グループや団体の生涯学習活動を支援する」(26.6%)、「地域人材を講師として活用する」(24.9%)となっている。

2016年度と比較すると、「自主グループや団体の生涯学習活動を支援する」は4.9ポイント、「生涯学習に関する情報を提供する」は4.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「講座やイベントを開催する」は9.0ポイント、「地域人材を講師として活用する」は4.7ポイント、それぞれ減少している。(図1-60)

図 1-61 生涯学習の支援や推進（性別、性・年代別）



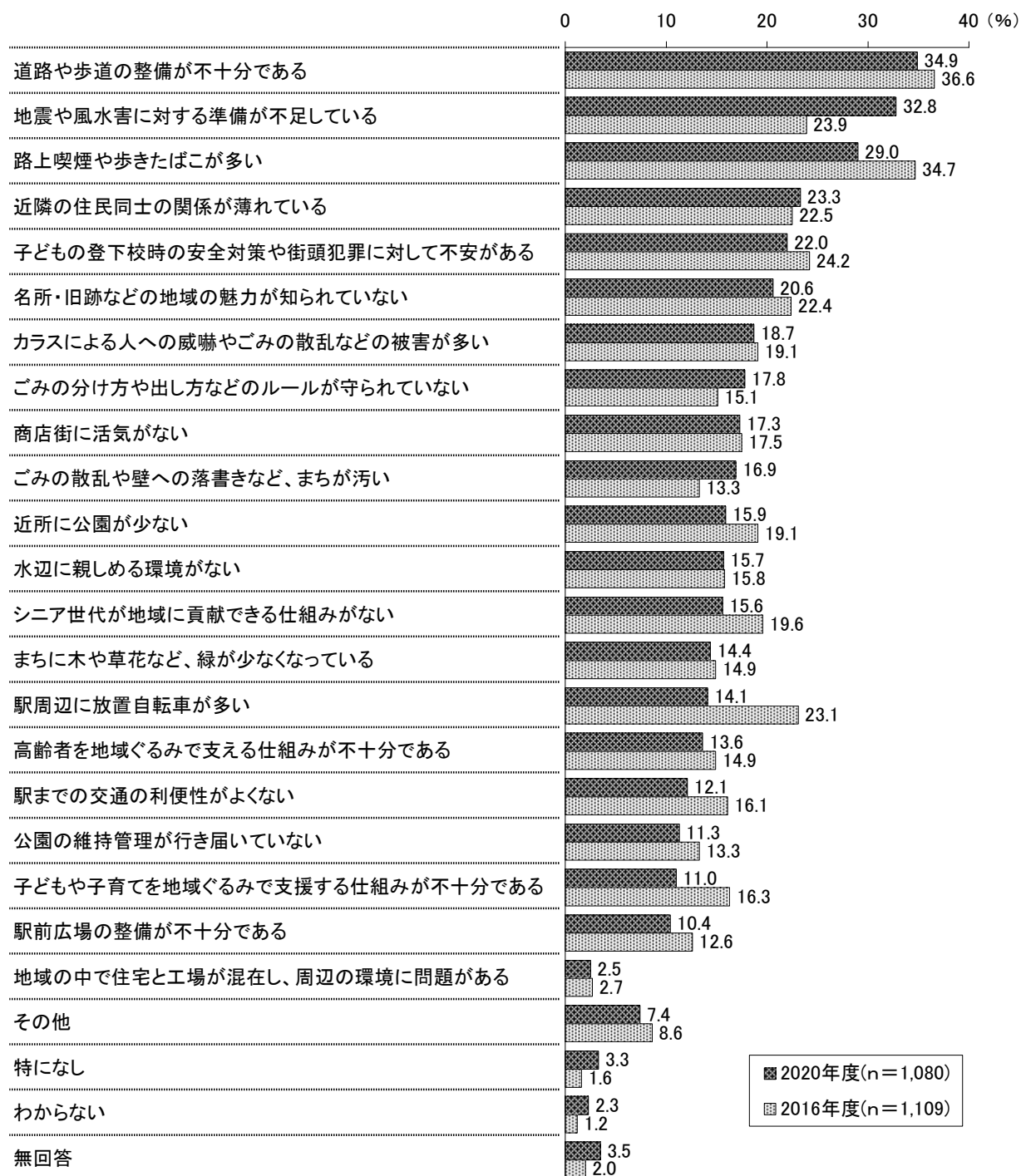
性別にみると、「講座やイベントを開催する」は女性（55.1%）が男性（51.0%）より 4.1 ポイント高くなっている。一方、「自主グループや団体の生涯学習活動を支援する」は男性（28.7%）が女性（25.5%）より 3.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「講座やイベントを開催する」は女性 30 歳代（65.3%）で 6 割半ばと高くなっている。「生涯学習に関する情報を提供する」は男性 60 歳代（61.1%）と男性 70 歳以上（62.3%）で 6 割を超えて高くなっている。「自主グループや団体の生涯学習活動を支援する」は男性 60 歳代（37.5%）で 4 割近くと高くなっている。（図 1-61）

(24) まちの課題・問題点

問 24 あなたのまち（お住まいの地域や区内の生活圏）の課題・問題点と思うものは何ですか。（いくつでも○）

図 1-62 まちの課題・問題点

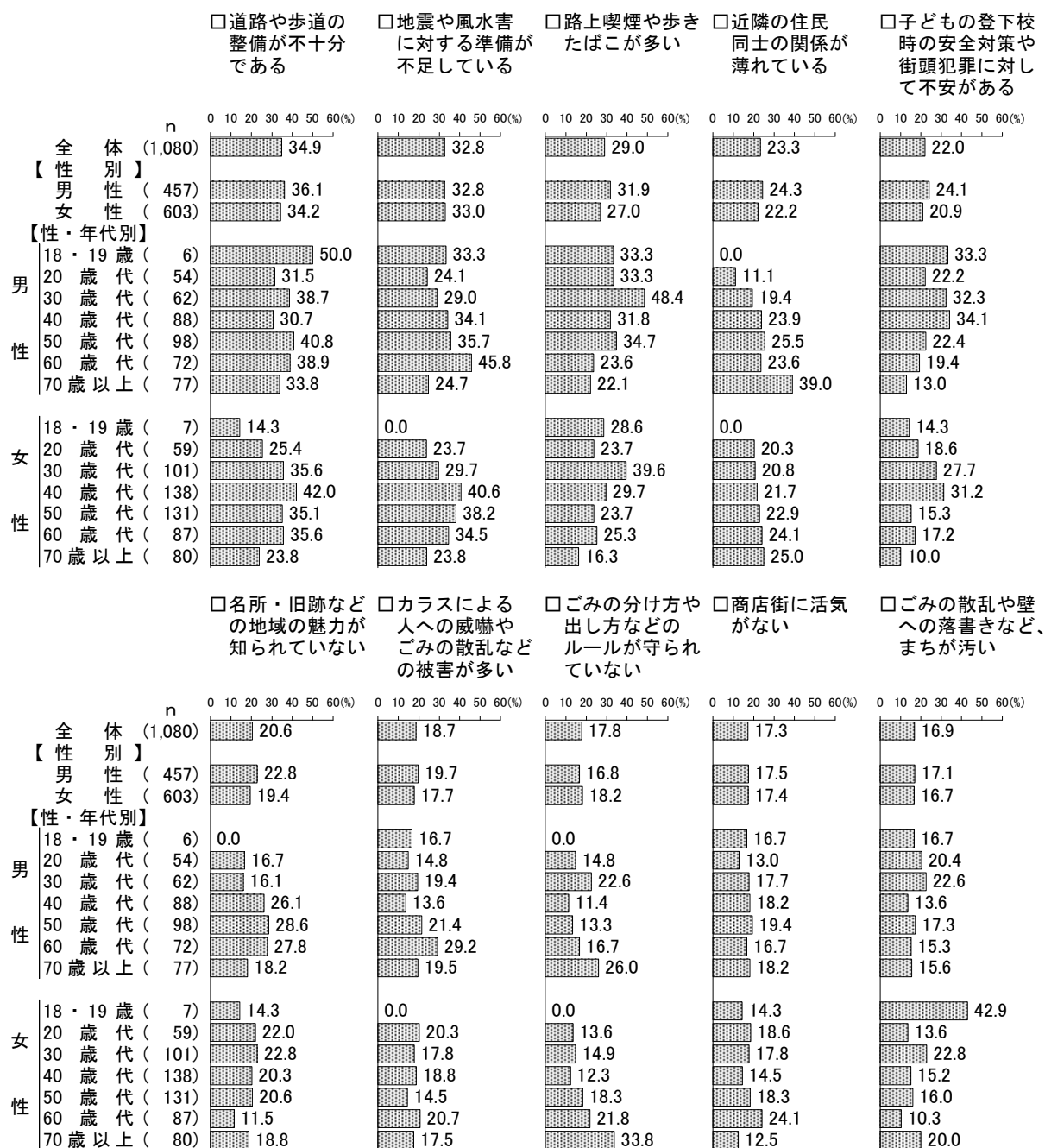


※「子どもの登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」は、2016年度では「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」としていた

まちの課題・問題点を聞いたところ、「道路や歩道の整備が不十分である」(34.9%)が3割半ばで最も高く、次いで「地震や風水害に対する準備が不足している」(32.8%)、「路上喫煙や歩きたばこが多い」(29.0%)、「近隣の住民同士の関係が薄れている」(23.3%)となっている。

2016年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地震や風水害に対する準備が不足している」は8.9ポイント増加している。一方、「駅周辺に放置自転車が多い」は9.0ポイント減少している。(図1-62)

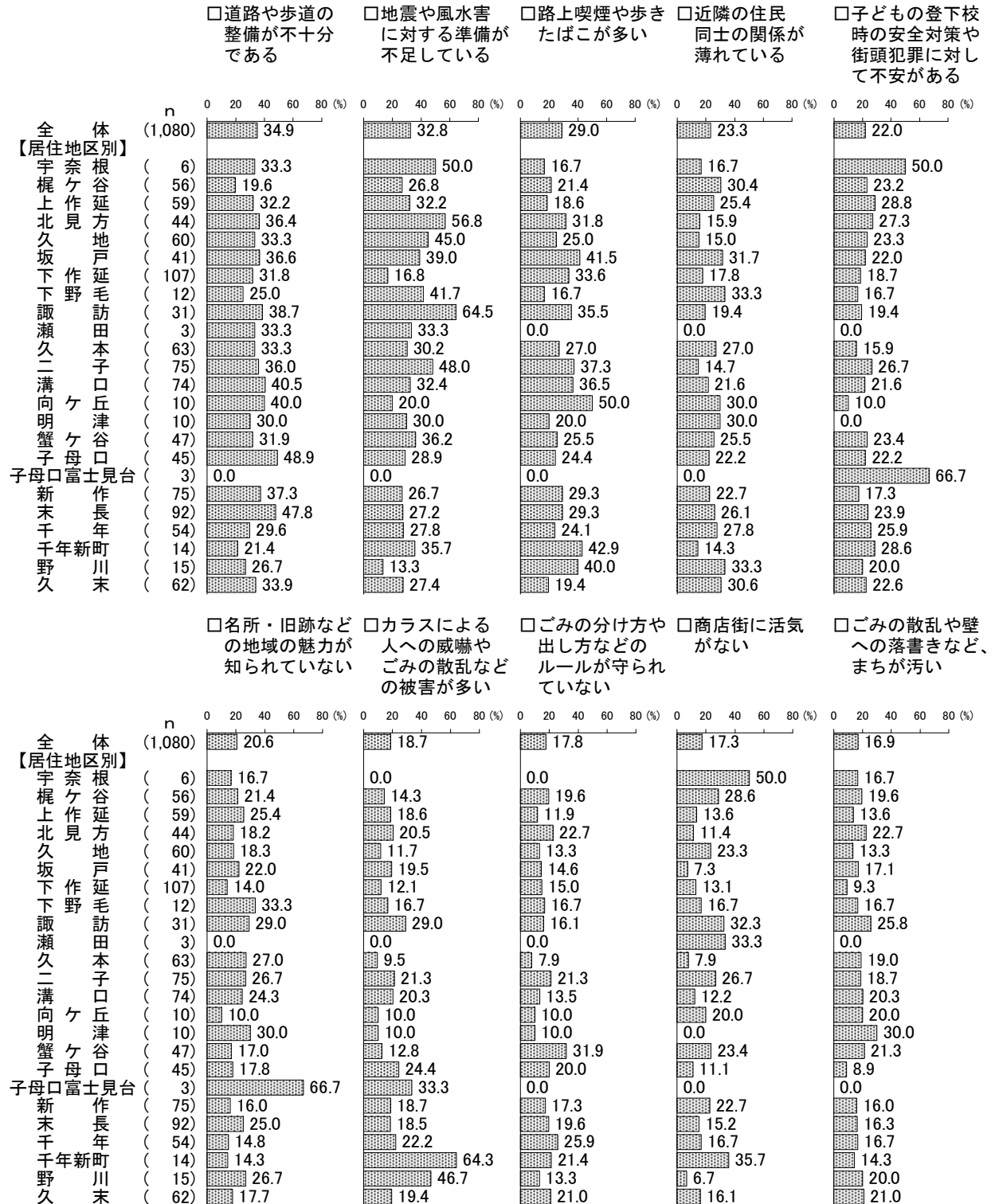
図1-63 まちの課題・問題点（性別、性・年代別）一上位10項目



性別にみると、「路上喫煙や歩きたばこが多い」は男性(31.9%)が女性(27.0%)より4.9ポイント高くなっている。

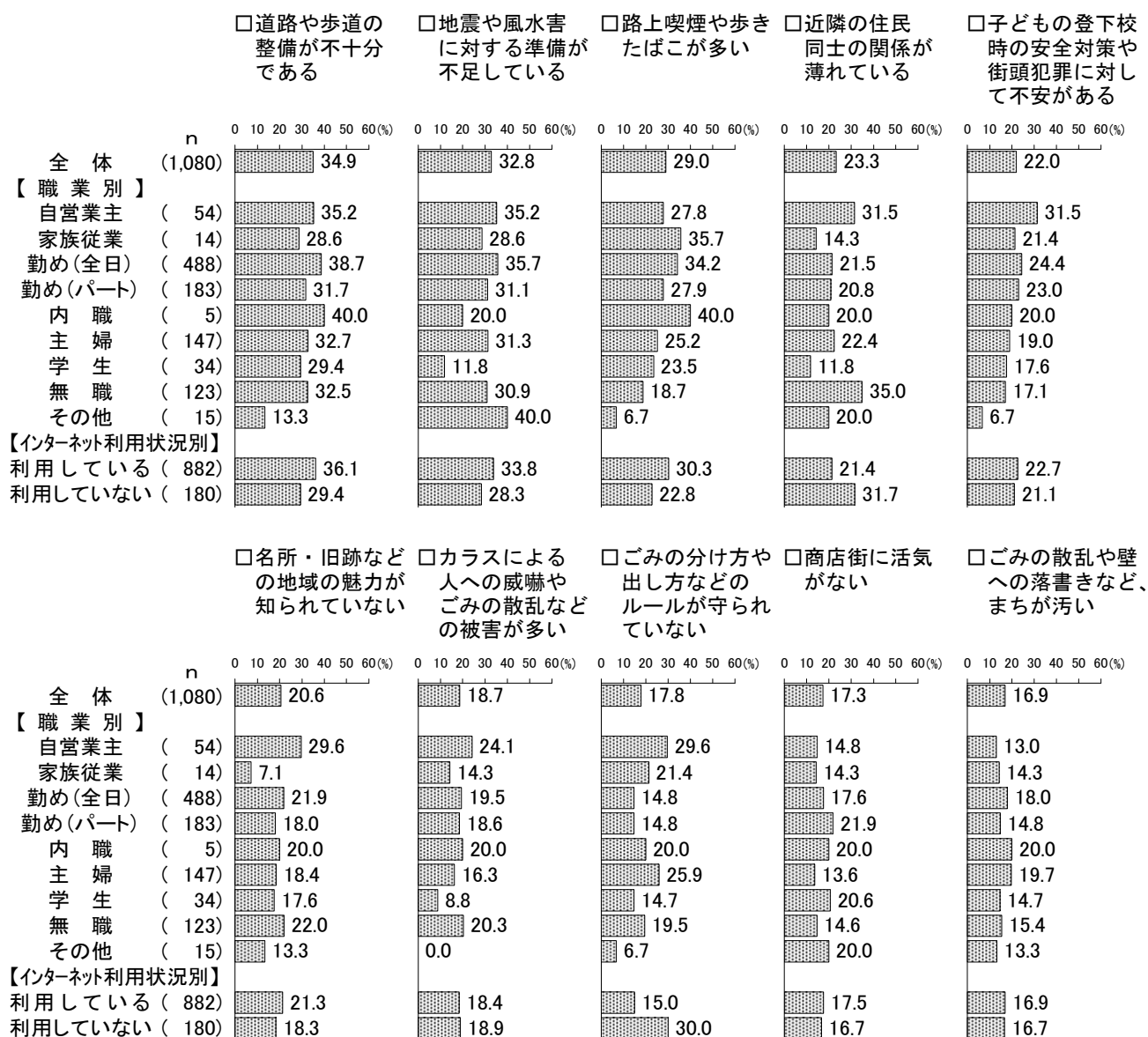
性・年代別にみると、「地震や風水害に対する準備が不足している」は男性60歳代(45.8%)で4割半ばと高くなっている。「路上喫煙や歩きたばこが多い」は男性30歳代(48.4%)で5割近くと高くなっている。(図1-63)

図 1-64 まちの課題・問題点（居住地区別）－上位10項目



居住地区別にみると、「道路や歩道の整備が不十分である」は子母口（48.9%）と末長（47.8%）で5割近くと高くなっている。「地震や風水害に対する準備が不足している」は諏訪（64.5%）で6割半ばと高くなっている。「路上喫煙や歩きタバコが多い」は坂戸（41.5%）で4割を超えて高くなっている。（図 1-64）

図 1-65 まちの課題・問題点（職業別、インターネット利用状況別）－上位10項目

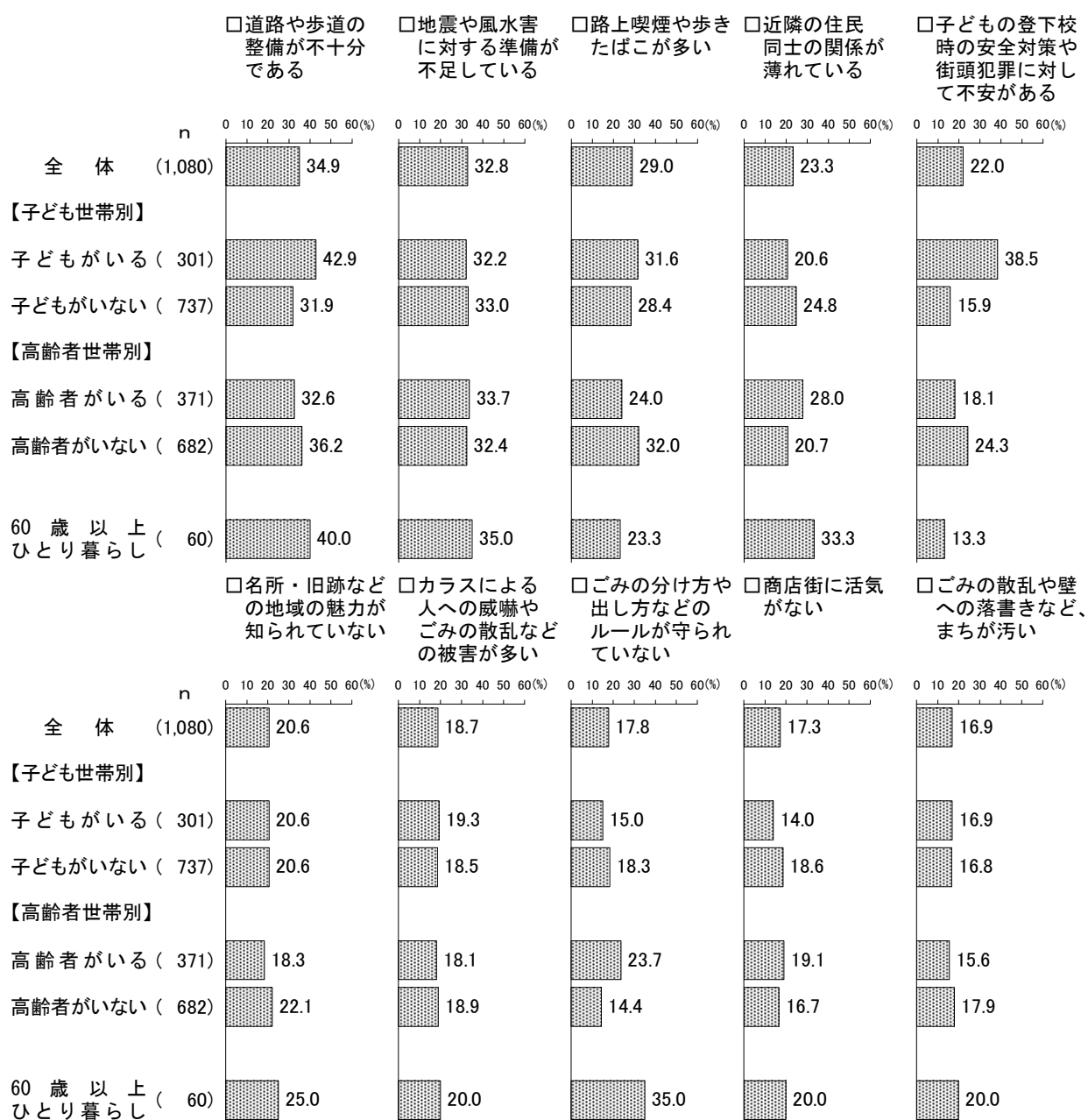


職業別にみると、「道路や歩道の整備が不十分である」は勤め（全日）（38.7%）で4割近くと高くなっている。「地震や風水害に対する準備が不足している」は勤め（全日）（35.7%）と自営業主（35.2%）で3割半ばと高くなっている。「近隣の住民同士の関係が薄れている」は無職（35.0%）で3割半ばと高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「ごみの分け方や出し方などのルールが守られていない」は利用していない人（30.0%）が利用している人（15.0%）より15.0ポイント、「近隣の住民同士の関係が薄れている」は利用していない人（31.7%）が利用している人（21.4%）より10.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「路上喫煙や歩きタバコが多い」は利用している人（30.3%）が利用していない人（22.8%）より7.5ポイント高くなっている。（図1-65）

図 1-66 まちの課題・問題点（子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）

—上位10項目



子ども世帯別にみると、「子どもの登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」は子どもがいる世帯（38.5%）が子どもがいない世帯（15.9%）より 22.6 ポイント、「道路や歩道の整備が不十分である」は子どもがいる世帯（42.9%）が子どもがいない世帯（31.9%）より 11.0 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「商店街に活気がない」は子どもがいない世帯（18.6%）が子どもがいる世帯（14.0%）より 4.6 ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「ごみの分け方や出し方などのルールが守られていない」は高齢者がいる世帯（23.7%）が高齢者がいない世帯（14.4%）より 9.3 ポイント高くなっている。一方、「路上喫煙や歩きタバコが多い」は高齢者がいない世帯（32.0%）が高齢者がいる世帯（24.0%）より 8.0 ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「道路や歩道の整備が不十分である」（40.0%）が4割で最も高く、次いで「地震や風水害に対する準備が不足している」と「ごみの分け方や出し方などのルールが守られていない」（ともに 35.0%）となっている。（図 1-66）



## 2. 区の事業について

### (1) 各事業の認知度・評価 ①

問 あなたは高津区に行っている事業についてご存知でしょうか。

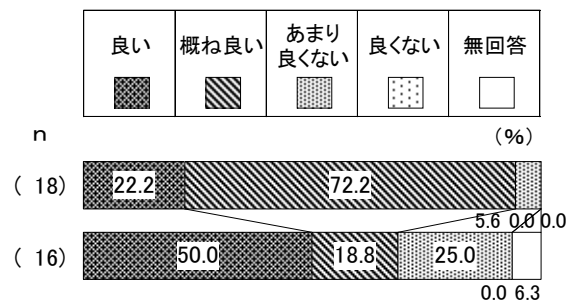
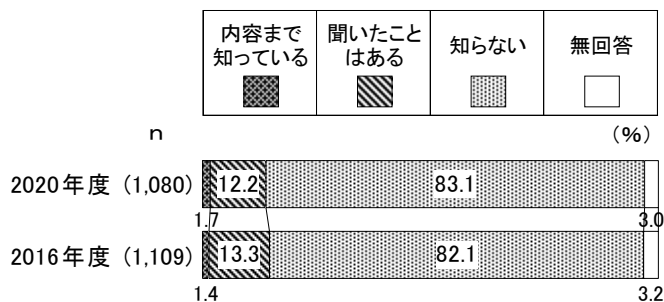
(1) については事業の認知度およびその事業の評価について該当するものに○をつけてください。(認知度について、「内容まで知っている」を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

図2-1 各事業の認知度・評価 ①

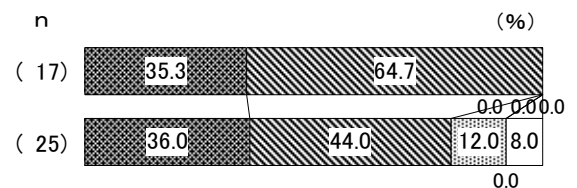
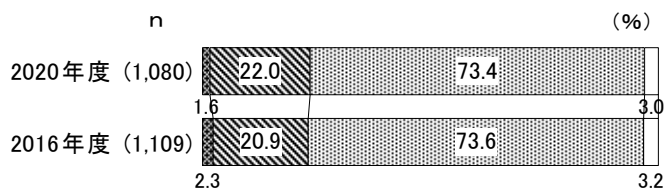
<認知度>

<評価>

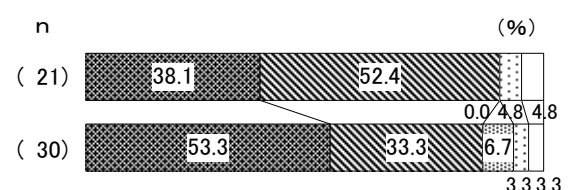
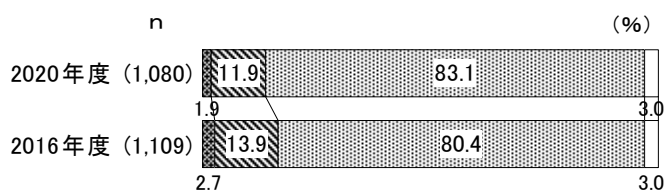
#### 【問26 「エコシティたかつ」推進事業】



#### 【問27 大山街道周辺整備活性化事業】



#### 【問28 「たちばな農のあるまちづくり」推進事業】



各事業の認知度・評価の<認知度>をみると、「内容まで知っている」は【「エコシティたかつ」推進事業】が1.7%、【大山街道周辺整備活性化事業】が1.6%、【「たちばな農のあるまちづくり」推進事業】が1.9%となっている。

2016年度と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

<評価>をみると、「良い」は【「エコシティたかつ」推進事業】が22.2%、【大山街道周辺整備活性化事業】が35.3%、【「たちばな農のあるまちづくり」推進事業】が38.1%となっている。

2016年度と比較すると、「良い」は【「たちばな農のあるまちづくり」推進事業】で15.2ポイント減少している。(図2-1)

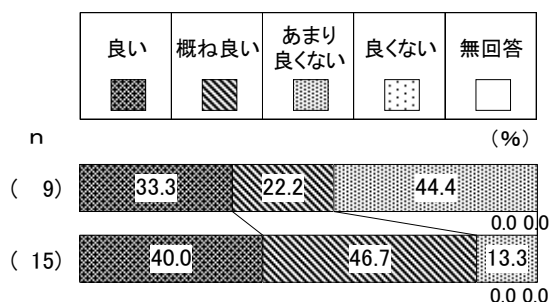
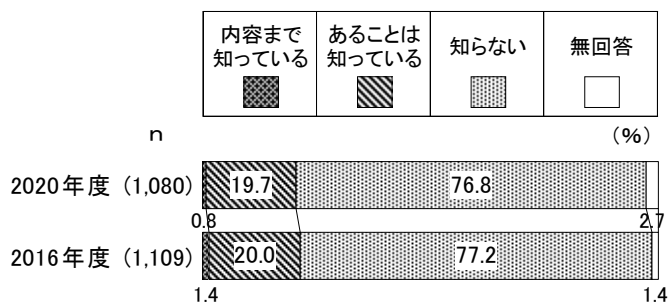
(1) 各事業の認知度・評価 ②

図 2-2 各事業の認知度・評価 ②

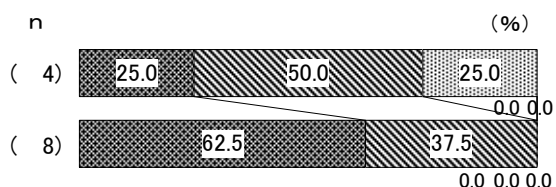
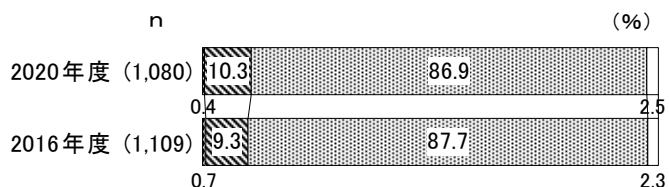
<認知度>

<評価>

【問 37 高津区まちづくり推進事業】



【問 43 高津区ふるさとアーカイブ事業】



各事業の認知度・評価の<認知度>をみると、「内容まで知っている」は【高津区まちづくり推進事業】が 0.8%、【高津区ふるさとアーカイブ事業】が 0.4%となっている。「あることは知っている」は【高津区まちづくり推進事業】が 19.7%、【高津区ふるさとアーカイブ事業】が 10.3%となっている。

2016 年度と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

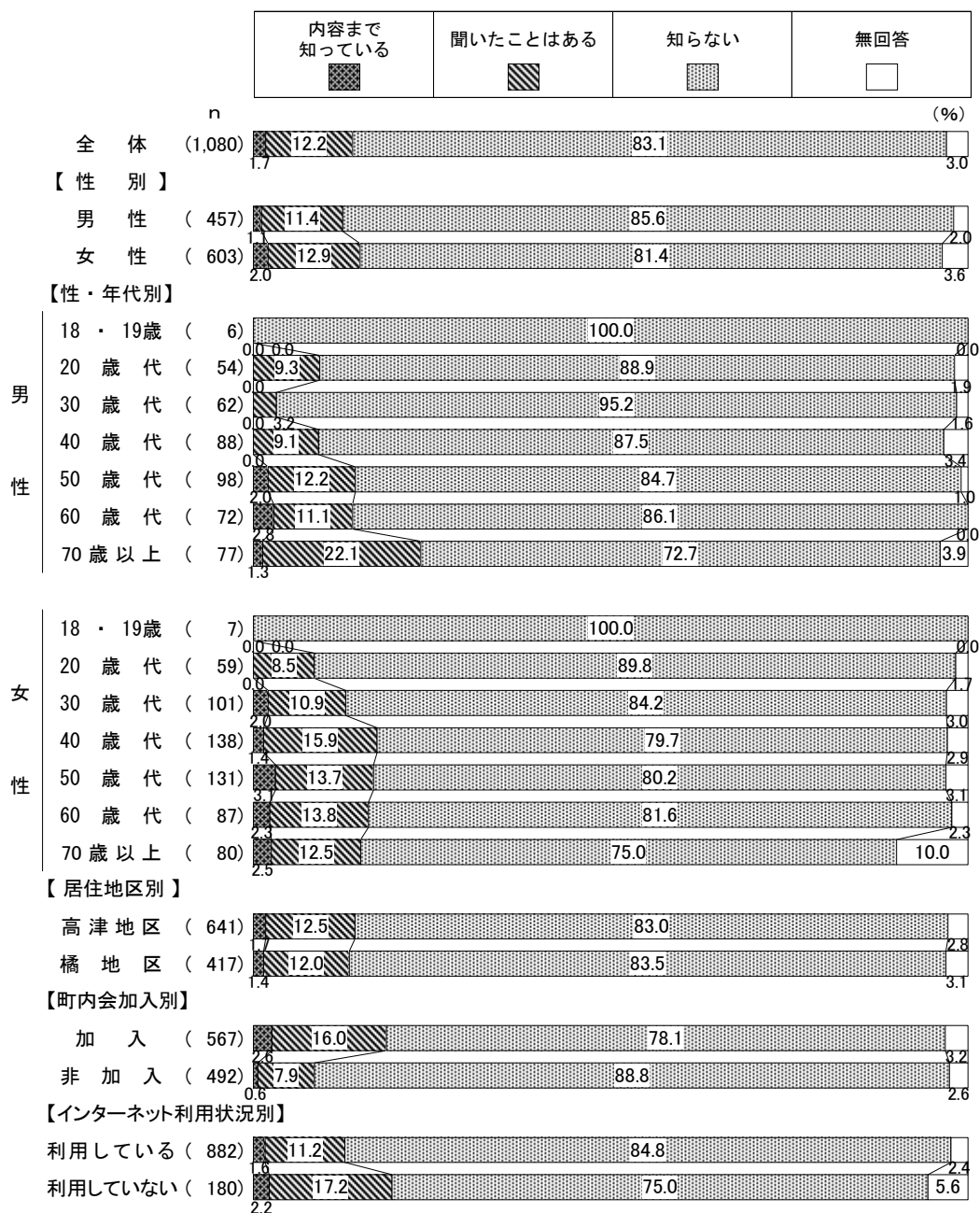
<評価>をみると、「良い」は【高津区まちづくり推進事業】が 33.3%、【高津区ふるさとアーカイブ事業】が 25.0%となっている。

2016 年度との比較は、基数が少ないため参考図示する。(図 2-2)

図 2-3 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問26 「エコシティたかつ」推進事業】

内容：地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化などの環境問題に取り組む「エコシティたかつ」推進方針に沿って、緑ヶ丘霊園内の森の整備を進めるなどする「たかつ水と緑の探検隊」や区内小学校においてビオトープを整備し、それを活用した環境学習支援を行う「学校流域プロジェクト」など様々なプロジェクトを実施している。



性別にみると、「知らない」は男性（85.6%）が女性（81.4%）より 4.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「聞いたことはある」は男性70歳以上（22.1%）で2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

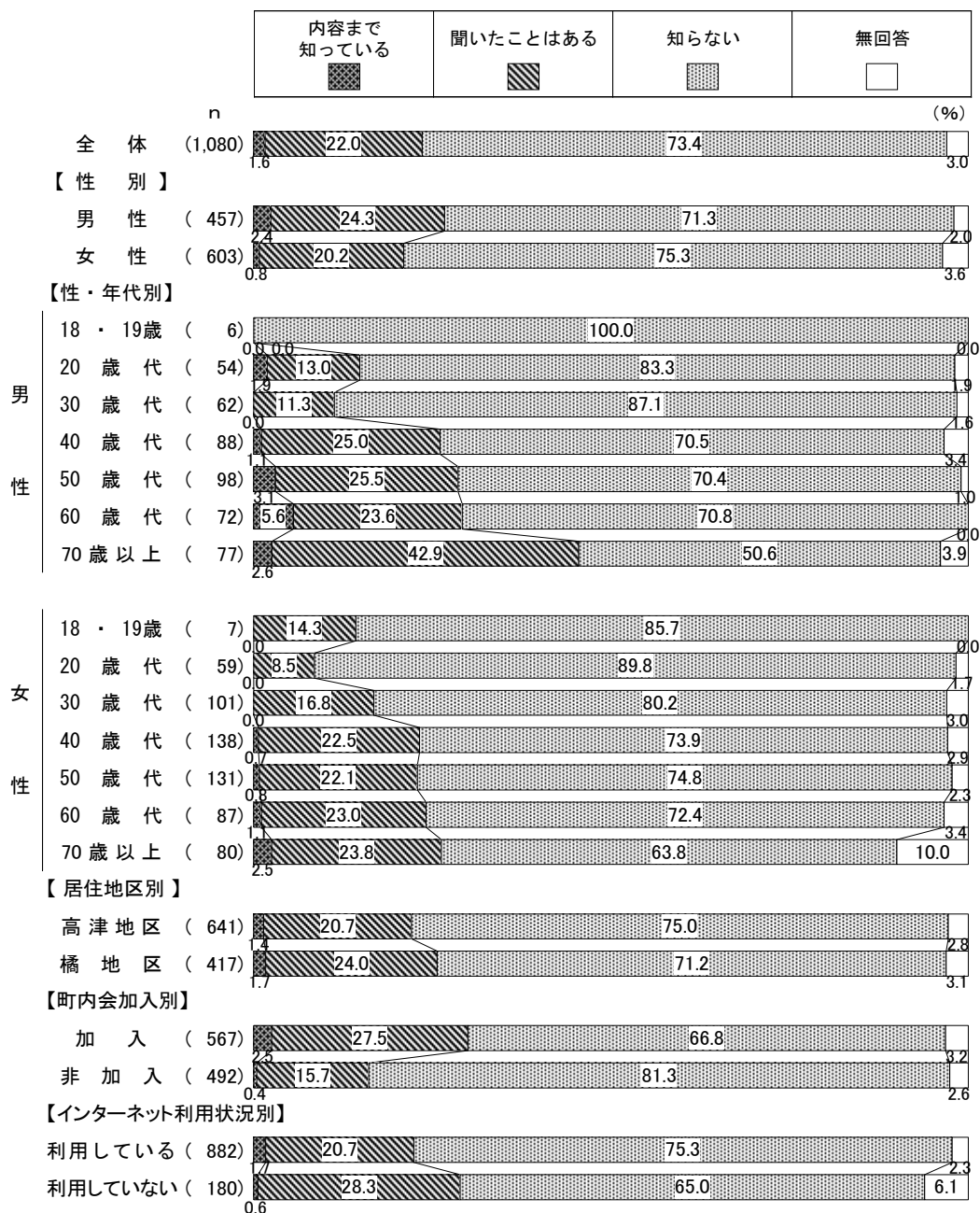
町内会加入別にみると、「聞いたことはある」は加入（16.0%）が非加入（7.9%）より8.1ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「聞いたことはある」は利用していない人（17.2%）が利用している人（11.2%）より6.0ポイント高くなっている。（図 2-3）

図 2-4 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問27 大山街道周辺整備活性化事業】

内容：地域と連携して取り組む大山街道周辺のまちづくりの目標や方向性をまとめた「高津大山街道マスタープラン」を平成21年3月に策定した。現在は、地域の皆さんと一緒にプランの実現に向けた具体的な取組みを進めるとともに、プロジェクトの情報を「大山街道アクションフォーラム」、ホームページ、チラシなどで広く受発信している。



性別にみると、「聞いたことはある」は男性（24.3%）が女性（20.2%）より 4.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「聞いたことはある」は男性70歳以上（42.9%）で4割を超えて高くなっている。

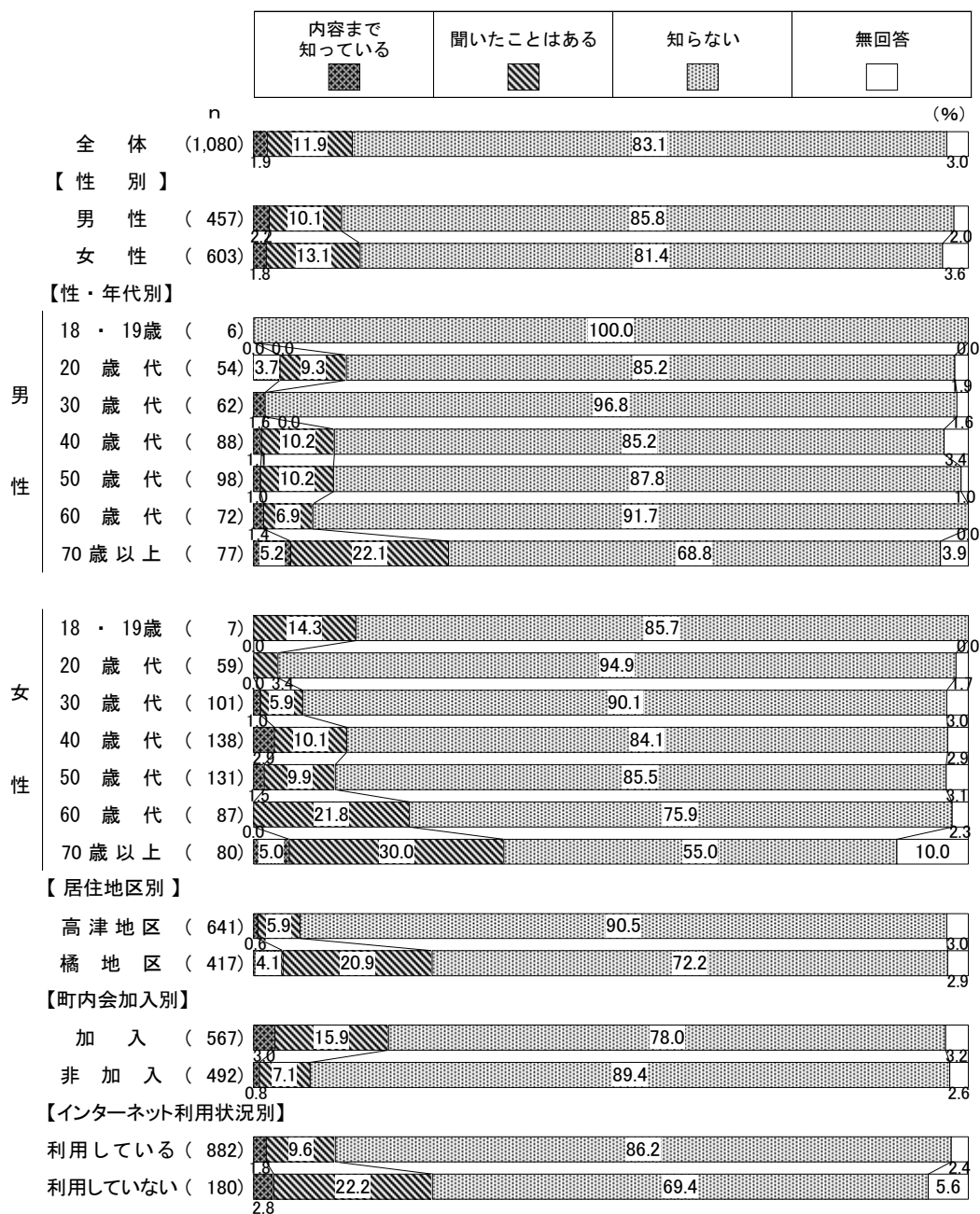
居住地区別にみると、「聞いたことはある」は橘地区（24.0%）が高津地区（20.7%）より3.3ポイント高くなっている。

町内会加入別にみると、「聞いたことはある」は加入（27.5%）が非加入（15.7%）より11.8ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「聞いたことはある」は利用していない人（28.3%）が利用している人（20.7%）より7.6ポイント高くなっている。（図 2-4）

図 2-5 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)  
【問28 「たちばな農のあるまちづくり」推進事業】

内容：橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取組みを推進する。平成21年3月に「たちばな農のあるまちづくり」推進方針を策定し、区内産野菜の地産地消推進などの取組を行っている。



性別にみると、「聞いたことはある」は女性（13.1%）が男性（10.1%）より 3.0 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「聞いたことはある」は女性70歳以上（30.0%）で3割、男性70歳以上（22.1%）で2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「聞いたことはある」は橘地区（20.9%）が高津地区（5.9%）より15.0ポイント高くなっている。

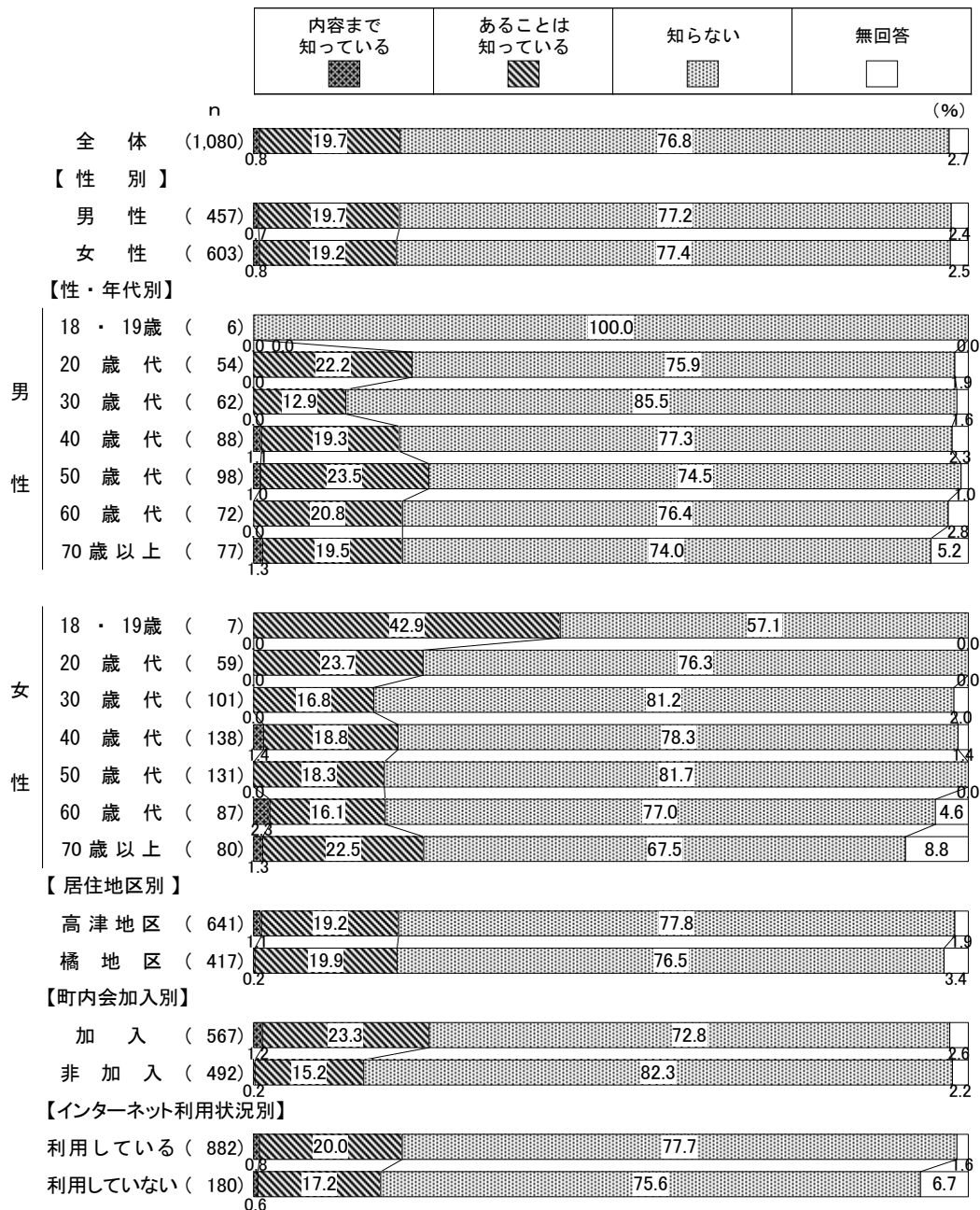
町内会加入別にみると、「聞いたことはある」は加入（15.9%）が非加入（7.1%）より8.8ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「聞いたことはある」は利用していない人（22.2%）が利用している人（9.6%）より12.6ポイント高くなっている。（図2-5）

図 2-6 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問37 高津区まちづくり推進事業】

内容：区民の参加と協働によるまちづくりの様々な取組みや活動団体のPRなどを目的に、キラリたかつニュースの発行、区内市民活動のポータルサイト「たかつまちねっと」の運営を行うとともに、「市民活動見本市（通称：どんなもんじゃまつり）」を開催している。また、「高津学」と題して、まちづくり講座の開催を行うなどしている。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「知らない」は男性30歳代（85.5%）で8割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

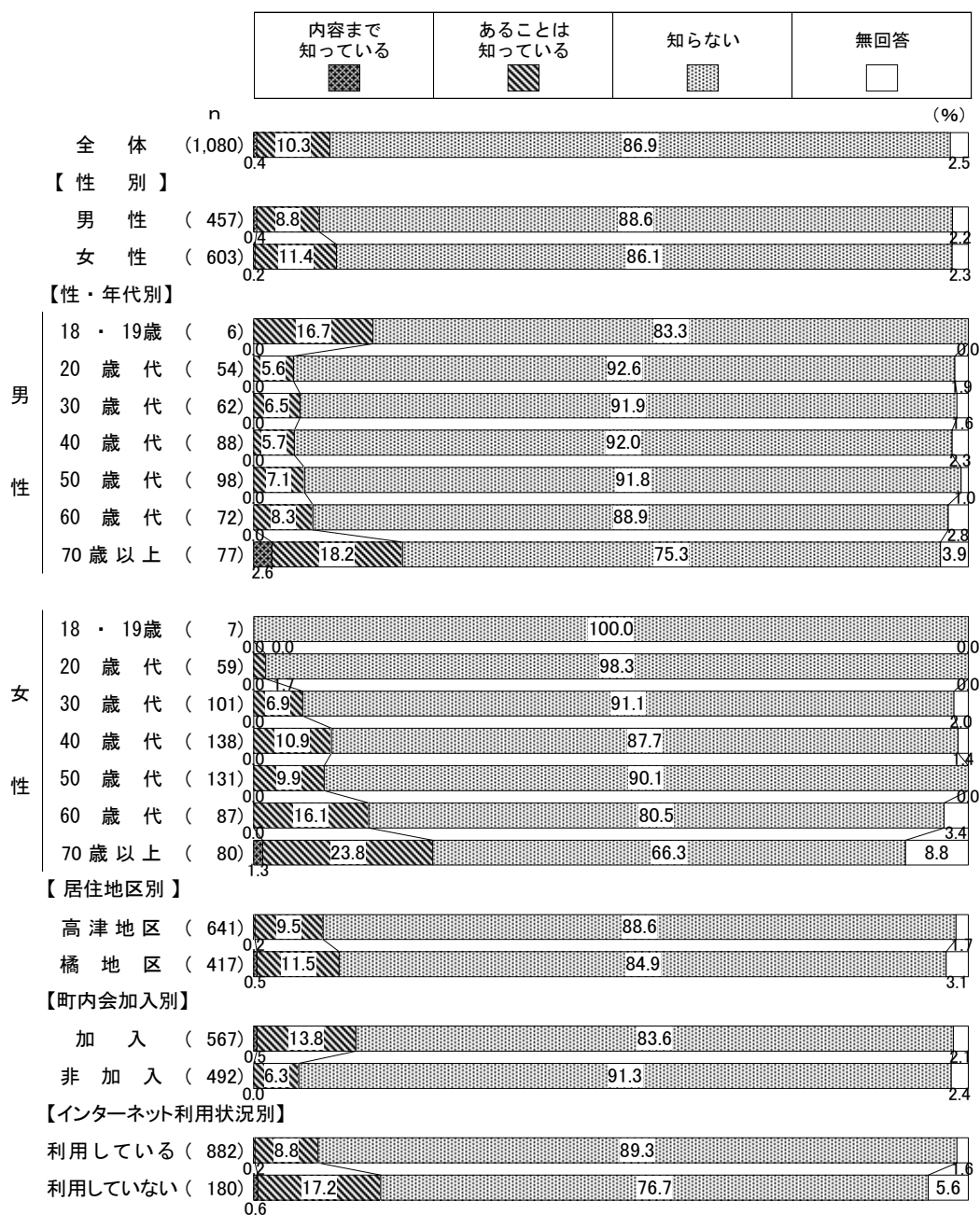
町内会加入別にみると、「あることは知っている」は加入（23.3%）が非加入（15.2%）より8.1ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、大きな違いはみられない。（図 2-6）

図 2-7 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問43 高津区ふるさとアーカイブ事業】

内容：区民に高津区の魅力を伝え、地域に愛着と親しみを持ってもらうため、高津区のまちなみを伝える資料を収集し、それを活用したワークショップやまち歩きを開催している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「あることは知っている」は女性70歳以上（23.8%）で2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「知らない」は高津地区（88.6%）が橘地区（84.9%）より3.7ポイント高くなっている。

町内会加入別にみると、「あることは知っている」は加入（13.8%）が非加入（6.3%）より7.5ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「あることは知っている」は利用していない人（17.2%）が利用している人（8.8%）より8.4ポイント高くなっている。（図 2-7）

## (2) 各事業への参加状況・評価 ①

問 あなたは高津区に行っている事業についてご存知でしょうか。

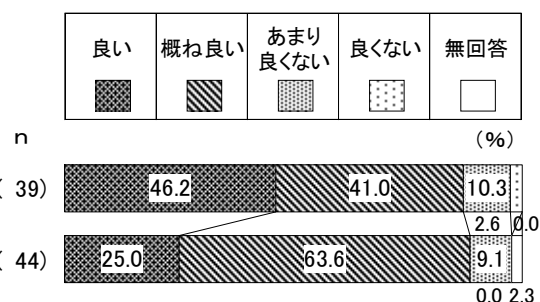
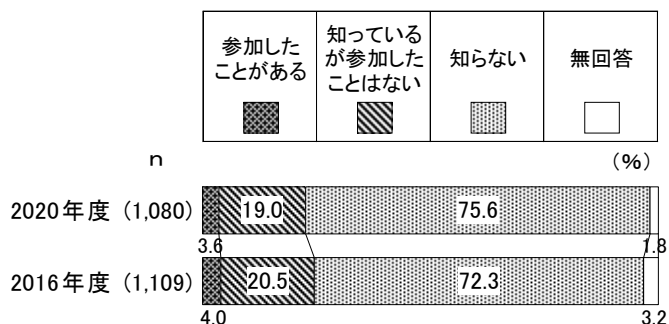
(1) については事業の認知度およびその事業の評価について該当するものに○をつけてください。(認知度について、「参加したことがある」を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

図 2-8 各事業への参加状況・評価 ①

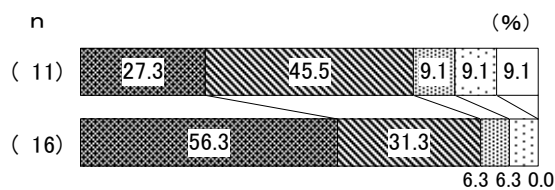
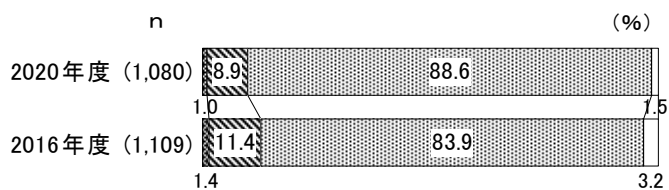
### <参加状況>

### <評価>

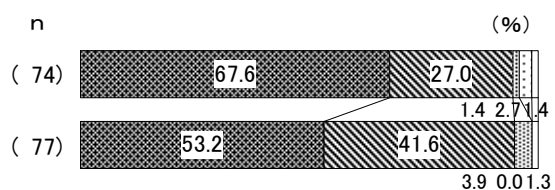
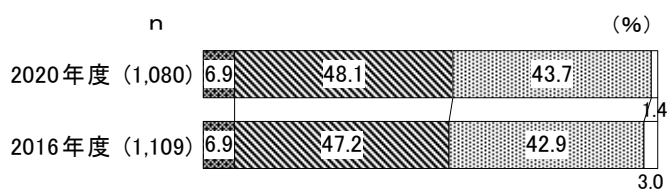
#### 【問 29 たかつ区健康福祉まつり】



#### 【問 30 健やか地域推進事業】



#### 【問 31 高津区「音楽のまち」推進事業】



各事業への参加状況・評価の<参加状況>をみると、「参加したことがある」は【たかつ区健康福祉まつり】が3.6%、【健やか地域推進事業】が1.0%、【高津区「音楽のまち」推進事業】が6.9%となっている。

2016年度と比較すると、「知らない」は【健やか地域推進事業】で4.7ポイント、【たかつ区健康福祉まつり】で3.3ポイント、それぞれ増加している。

<評価>をみると、「良い」は【たかつ区健康福祉まつり】が46.2%、【健やか地域推進事業】が27.3%、【高津区「音楽のまち」推進事業】が67.6%となっている。

2016年度と比較すると、「良い」は【たかつ区健康福祉まつり】で21.2ポイント、【高津区「音楽のまち」推進事業】で14.4ポイント、それぞれ増加している。(図 2-8)



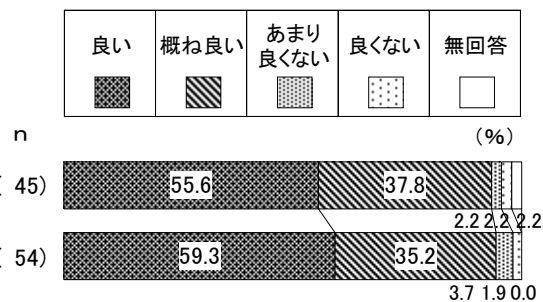
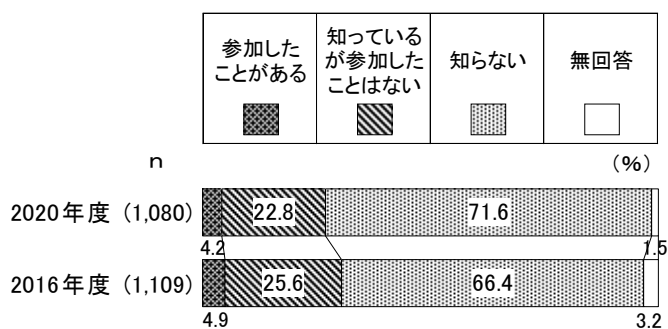
## (2) 各事業への参加状況・評価 ②

図 2-9 各事業への参加状況・評価 ②

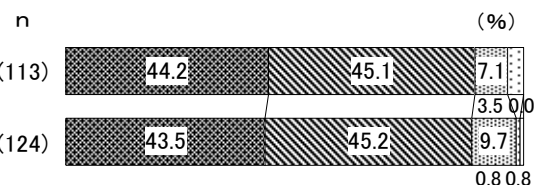
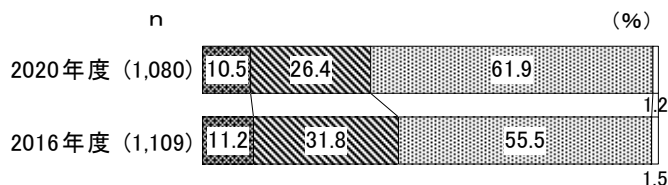
### <参加状況>

### <評価>

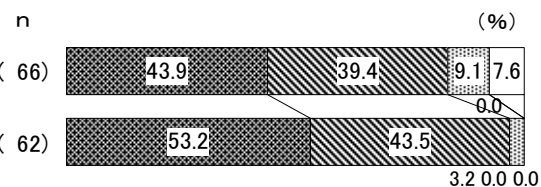
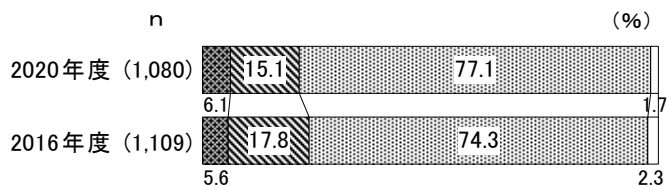
#### 【問 32 高津区子どもフェア】



#### 【問 33 高津地区親子運動会事業】



#### 【問 34 橘地区親子運動会事業】



各事業への参加状況・評価の<参加状況>をみると、「参加したことがある」は【高津区子どもフェア】が4.2%、【高津地区親子運動会事業】が10.5%、【橘地区親子運動会事業】が6.1%となっている。

2016年度と比較すると、「知らない」は【高津地区親子運動会事業】で6.4ポイント、【高津区子どもフェア】で5.2ポイント、それぞれ増加している。

<評価>をみると、「良い」は【高津区子どもフェア】が55.6%、【高津地区親子運動会事業】が44.2%、【橘地区親子運動会事業】が43.9%となっている。

2016年度と比較すると、「良い」は【橘地区親子運動会事業】で9.3ポイント、【高津区子どもフェア】で3.7ポイント、それぞれ減少している。(図 2-9)

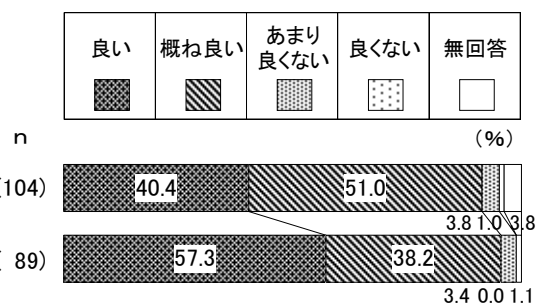
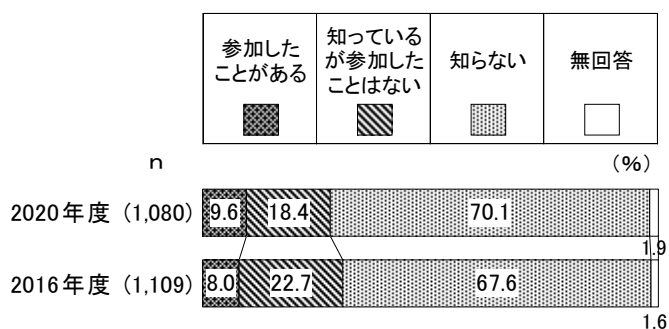
## (2) 各事業への参加状況・評価 ③

図 2-10 各事業への参加状況・評価 ③

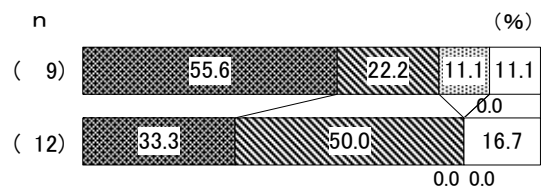
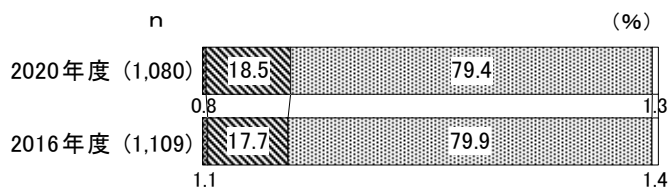
### <参加状況>

### <評価>

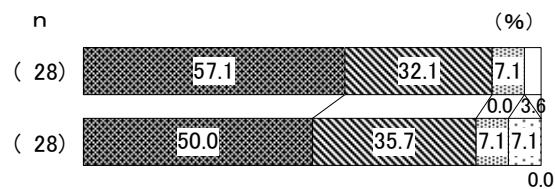
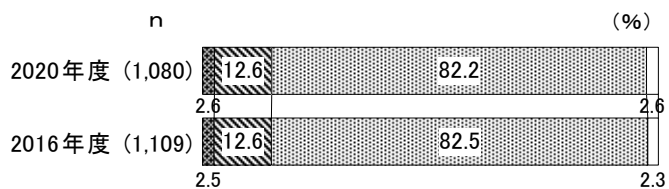
#### 【問 35 橋ふるさと祭り こどもイベント】



#### 【問 36 高津区文化振興事業】



#### 【問 41 子ども・子育てフェスタ事業】



各事業への参加状況・評価の<参加状況>をみると、「参加したことがある」は【橋ふるさと祭り こどもイベント】が9.6%、【高津区文化振興事業】が0.8%、【子ども・子育てフェスタ事業】が2.6%となっている。

2016年度と比較すると、「知っているが参加したことはない」は【橋ふるさと祭り こどもイベント】で4.3ポイント減少している。

<評価>をみると、「良い」は【橋ふるさと祭り こどもイベント】が40.4%、【高津区文化振興事業】が55.6%、【子ども・子育てフェスタ事業】が57.1%となっている。

2016年度と比較すると、「良い」は【子ども・子育てフェスタ事業】で7.1ポイント増加している。一方、【橋ふるさと祭り こどもイベント】で16.9ポイント減少している。(図 2-10)

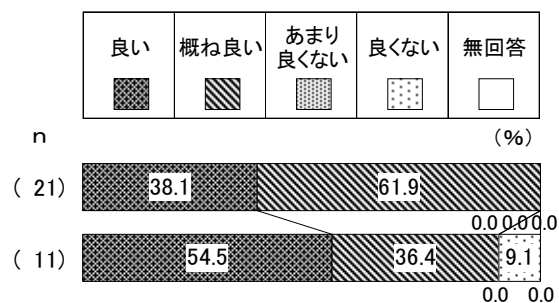
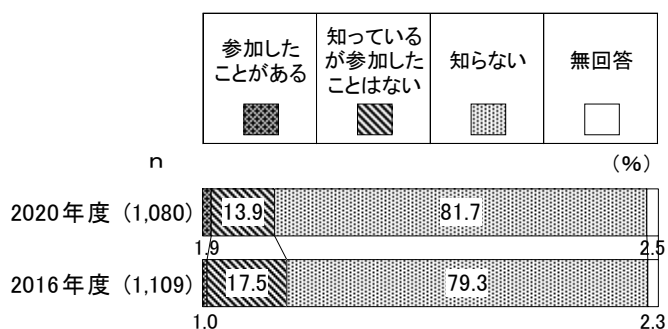
## (2) 各事業への参加状況・評価 ④

図 2-11 各事業への参加状況・評価 ④

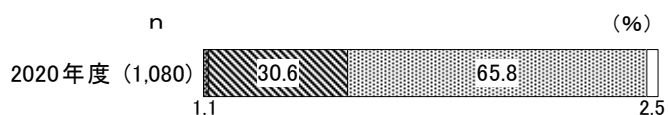
### <参加状況>

### <評価>

#### 【問 42 高津区地域連携スポーツ事業】



#### 【問 44 花と緑のたかつ推進事業】



※「花と緑のたかつ推進事業」は、2020 年度に追加された事業

各事業への参加状況・評価の<参加状況>をみると、「参加したことがある」は【高津区地域連携スポーツ事業】が1.9%、【花と緑のたかつ推進事業】が1.1%となっている。

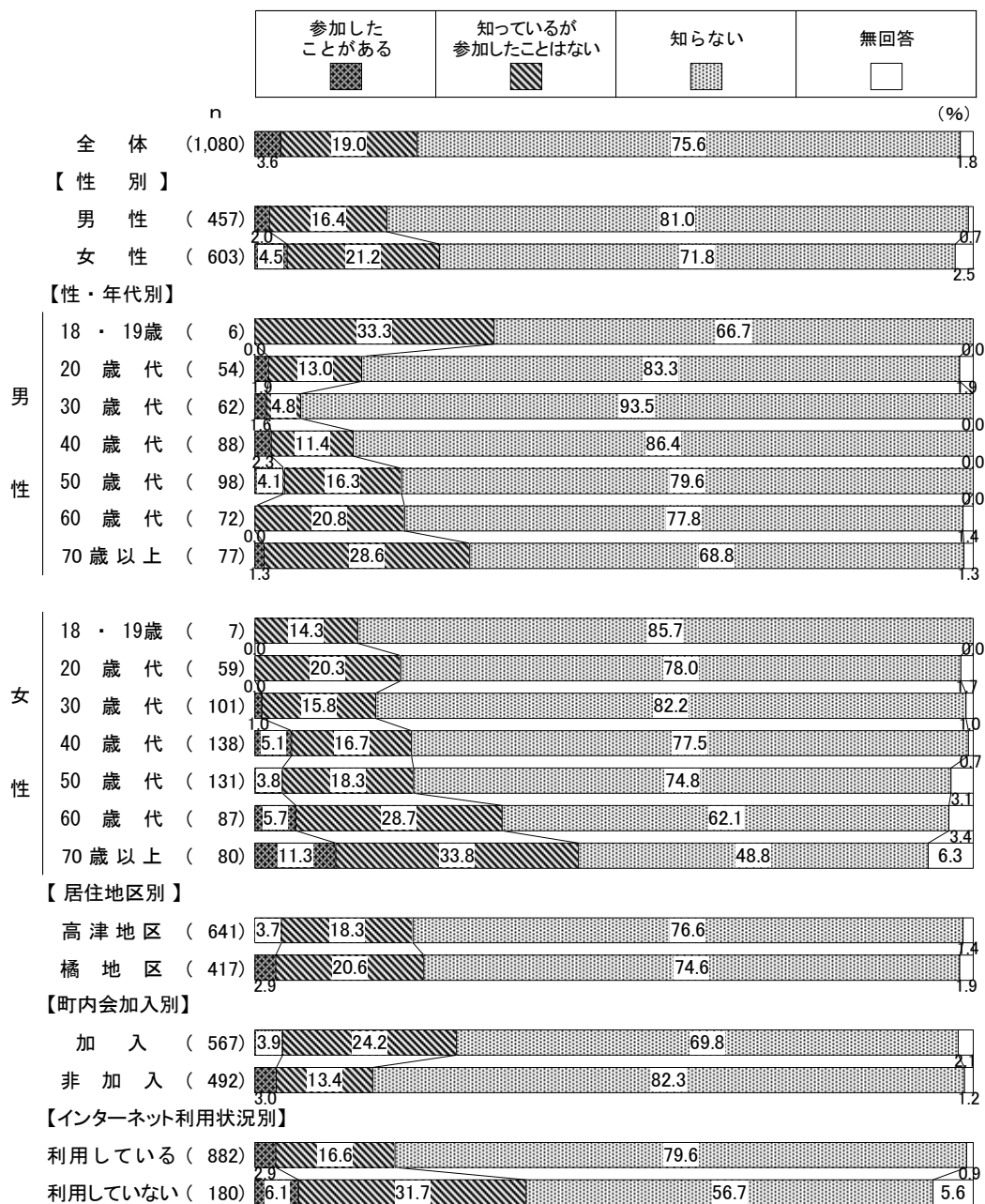
2016 年度と比較すると、「知っているが参加したことはない」は【高津区地域連携スポーツ事業】で 3.6 ポイント減少している。

<評価>をみると、「良い」は【高津区地域連携スポーツ事業】が38.1%、【花と緑のたかつ推進事業】が58.3%となっている。

2016 年度との比較は、基数が少ないため参考に図示する。(図 2-11)

図2-12 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)  
【問29 たかつ区健康福祉まつり】

内容：区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年7月に「てくのかわさき」で開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（21.2%）が男性（16.4%）より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性70歳以上（33.8%）で3割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

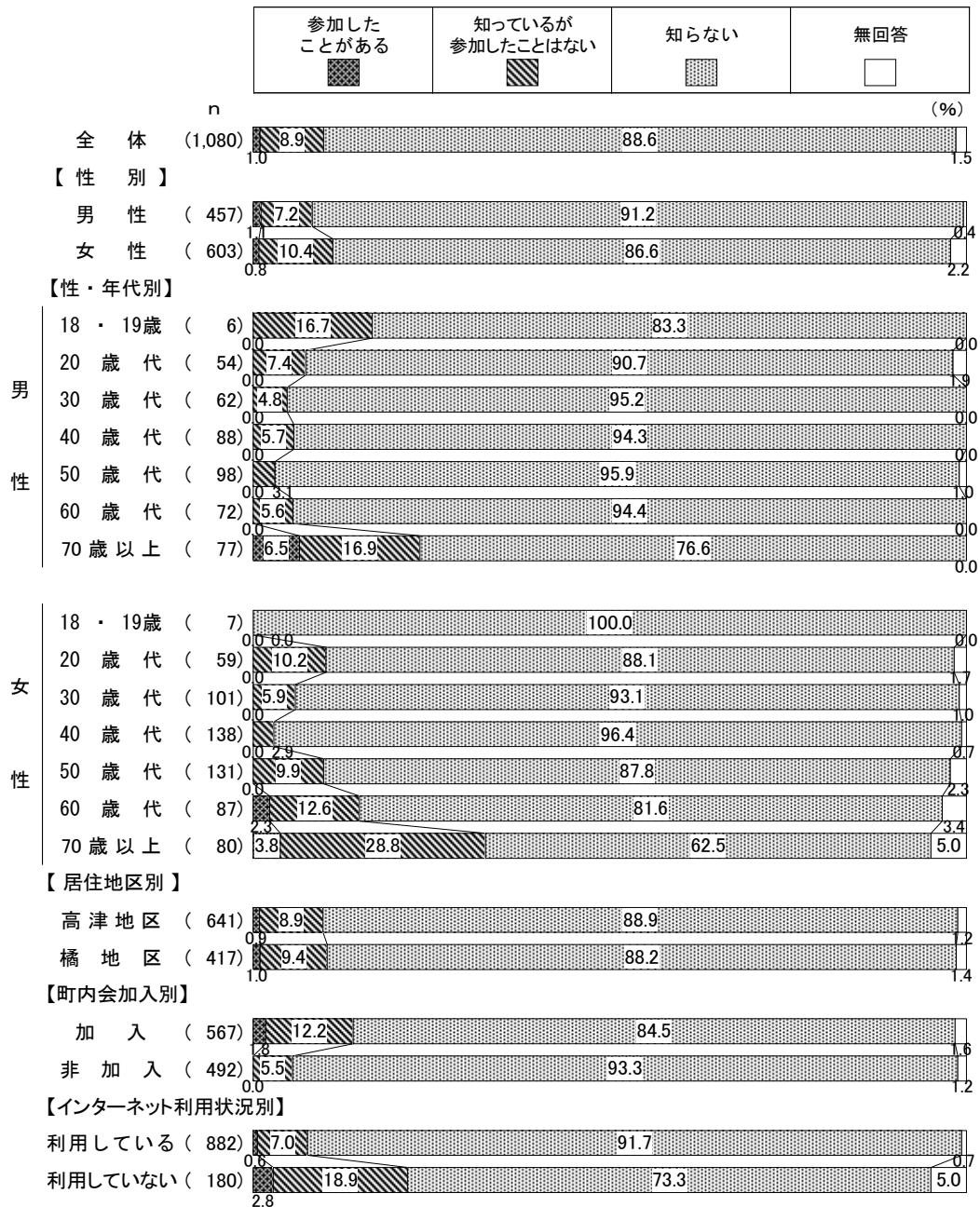
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（24.2%）が非加入（13.4%）より10.8ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「参加したことがある」は利用していない人（6.1%）が利用している人（2.9%）より3.2ポイント高くなっている。（図2-12）

図2-13 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問30 健やか地域推進事業】

内容：区内の関係機関や「ヘルスパートナー高津」、町内会などの住民組織と連携し、住民が身近な公園などで「高津公園体操」を実施できるよう、地域ごとの研修会を実施している。また、普及啓発のため、地域住民や関係機関を対象に講演会などを実施するとともに、リーフレットの作成、DVD等の販売を行っている。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（10.4%）が男性（7.2%）より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性70歳以上（28.8%）で3割近くと高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

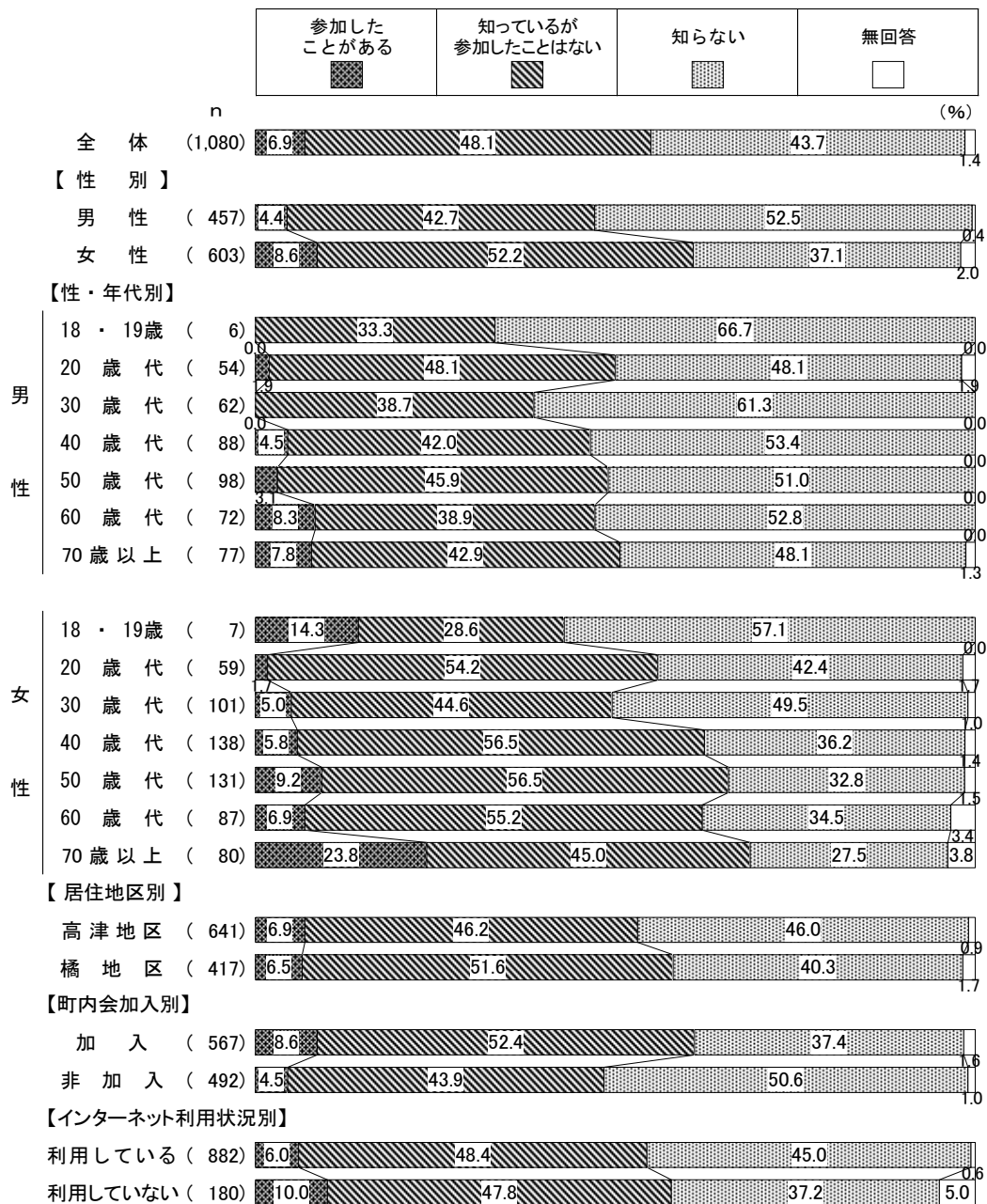
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（12.2%）が非加入（5.5%）より6.7ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人（18.9%）が利用している人（7.0%）より11.9ポイント高くなっている。（図2-13）

図2-14 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問31 高津区「音楽のまち」推進事業】

内容：音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花コンサート」、区民参加型の音楽祭である「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。



性別にみると、「参加したことがある」は女性(8.6%)が男性(4.4%)より4.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「参加したことがある」は女性70歳以上(23.8%)で2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「知っているが参加したことはない」は橘地区(51.6%)が高津地区(46.2%)より5.4ポイント高くなっている。

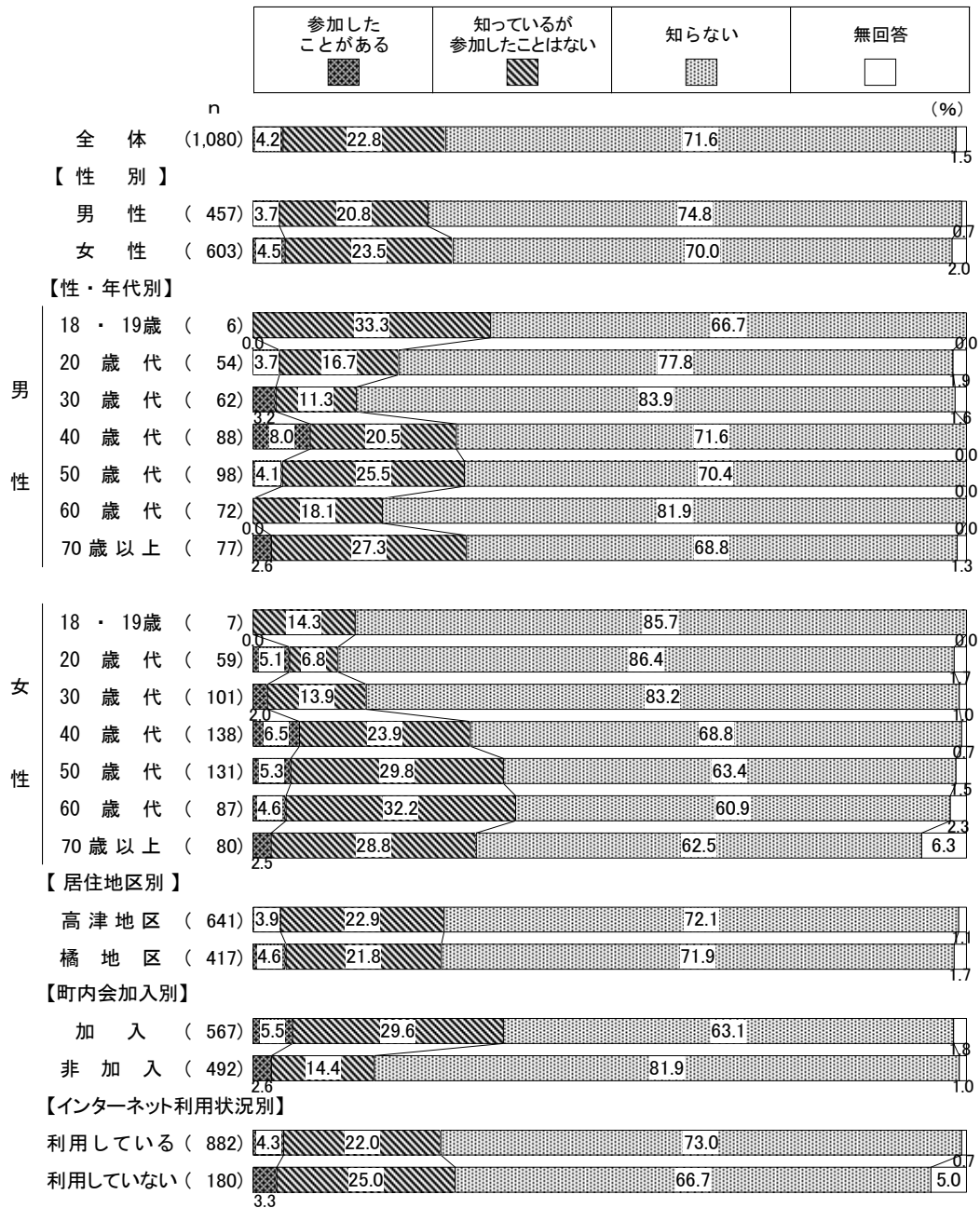
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は加入(8.6%)が非加入(4.5%)より4.1ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「参加したことがある」は利用していない人(10.0%)が利用している人(6.0%)より4.0ポイント高くなっている。(図2-14)

図2-15 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問32 高津区子どもフェア】

内容：子どもの健全育成を図るため、8月最後の日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、ダンボール舟のレース、うなぎ・どじょう・あゆの掴み捕り、移動動物園、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。



性別にみると、「知らない」は男性 (74.8%) が女性 (70.0%) より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性60歳代 (32.2%) で3割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

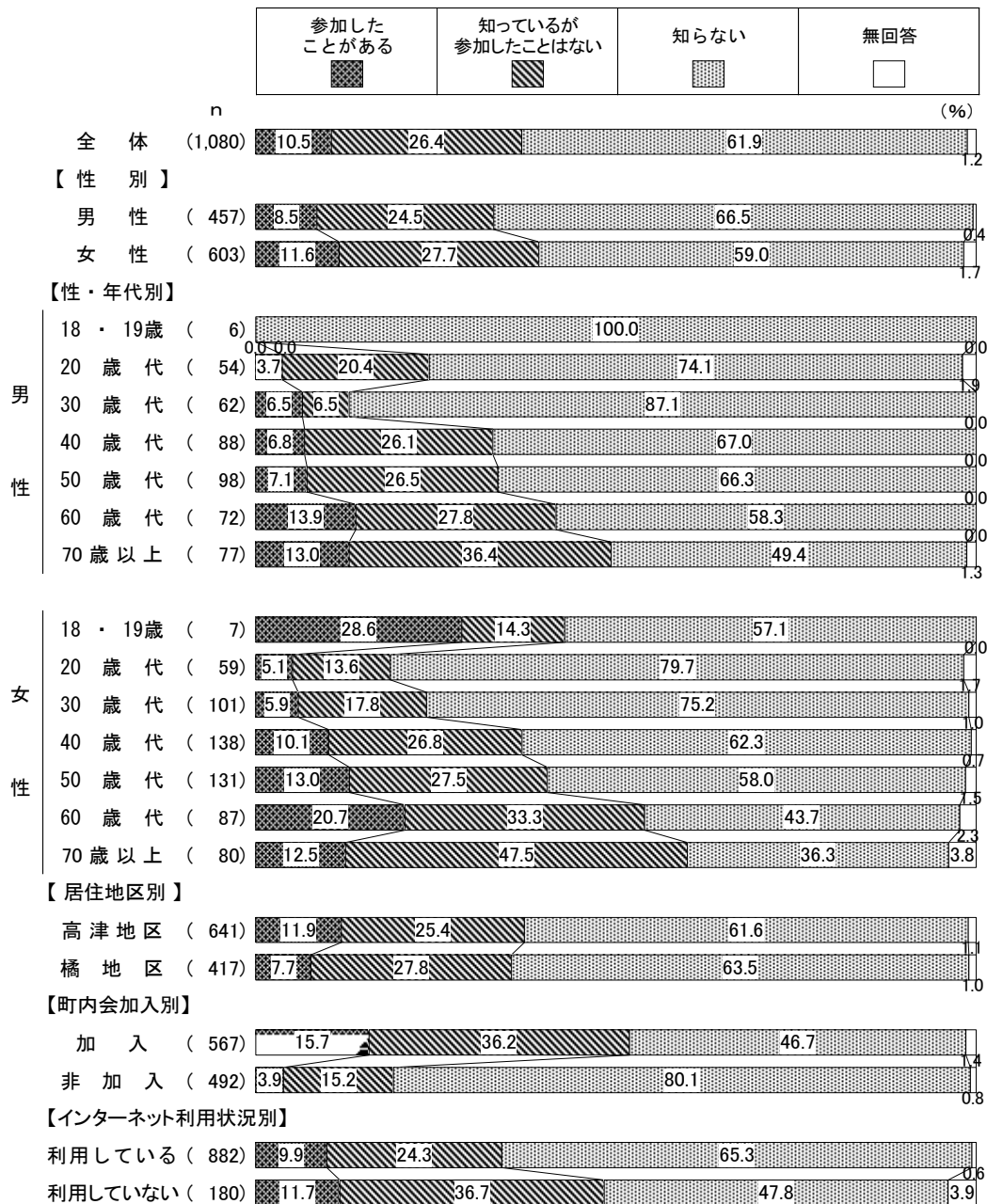
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入 (29.6%) が非加入 (14.4%) より15.2ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人 (25.0%) が利用している人 (22.0%) より3.0ポイント高くなっている。(図2-15)

図2-16 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問33 高津地区親子運動会事業】

内容：毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子等を対象に運動会を行っている。町会対抗リレーやむかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。



性別にみると、「参加したことがある」は女性（11.6％）が男性（8.5％）より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「参加したことがある」は女性60歳代（20.7％）で約2割と高くなっている。

町内会加入別にみると、「参加したことがある」は加入（15.7％）が非加入（3.9％）より11.8ポイント高くなっている。

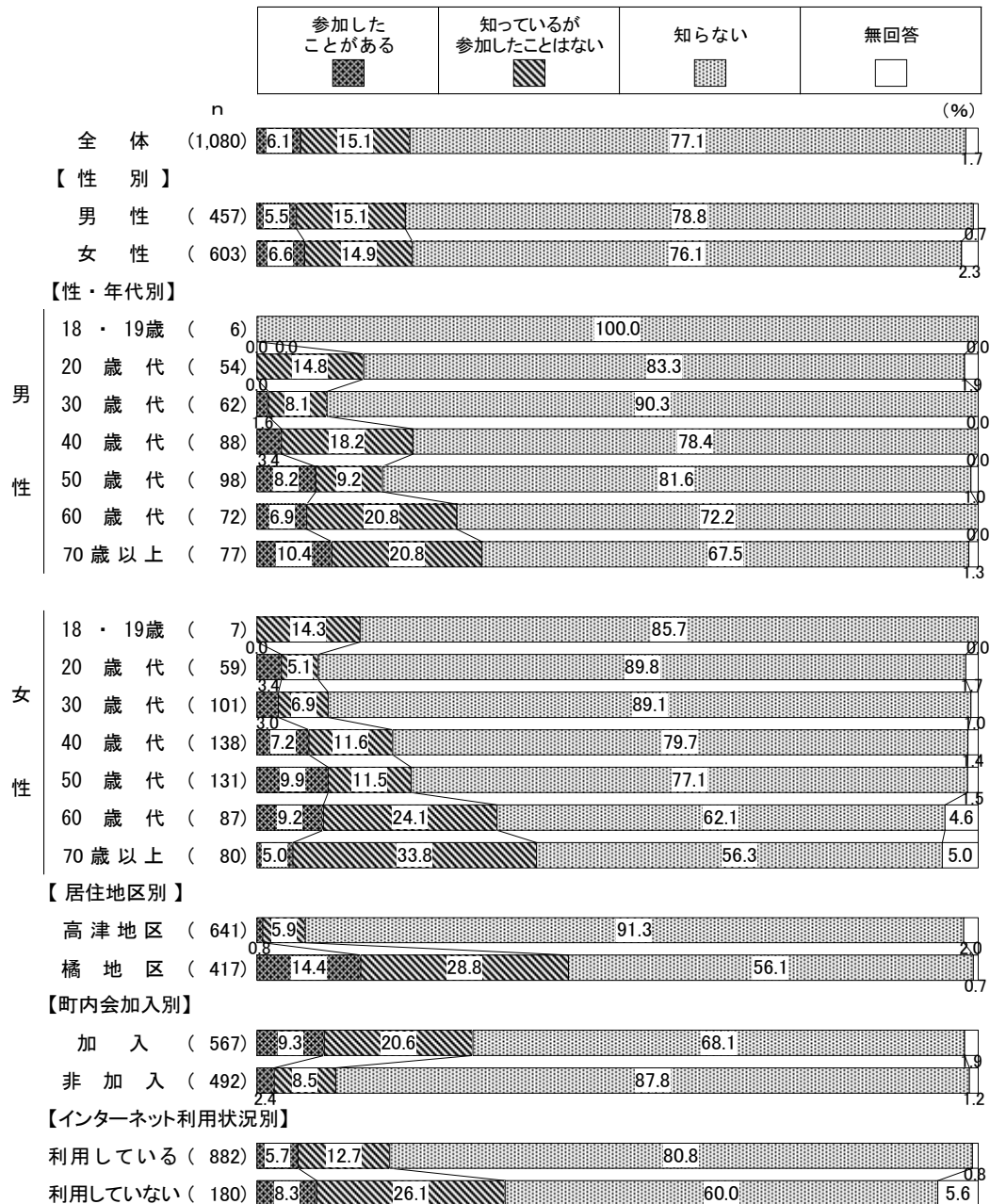
インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人（36.7％）が利用している人（24.3％）より12.4ポイント高くなっている。（図2-16）



図2-17 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問34 橘地区親子運動会事業】

内容：毎年10月の第3日曜日に、橘中学校で橘地区の親子等を対象に運動会を行っている。100m競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性70歳以上（33.8%）で3割を超えて高くなっている。

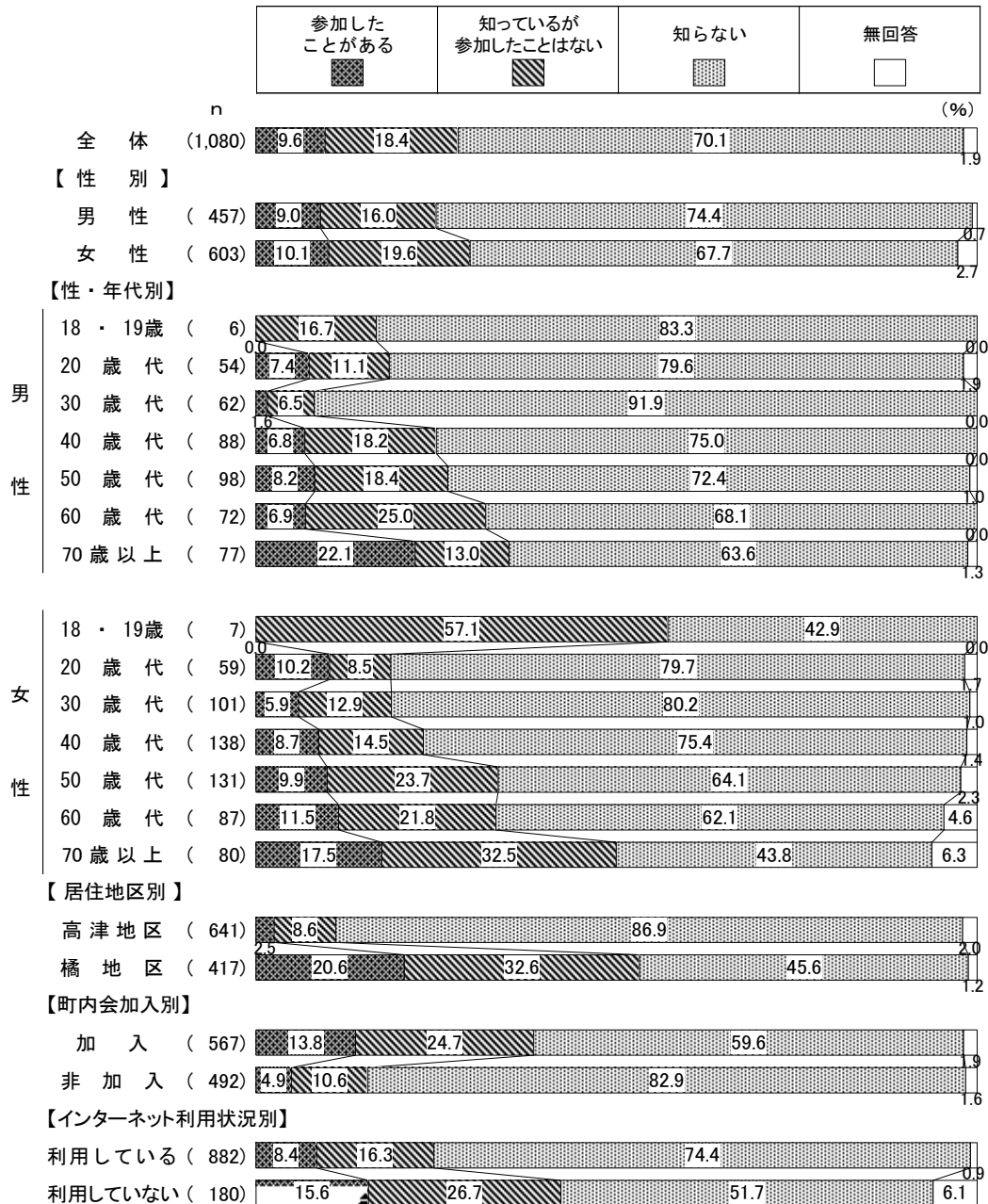
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は加入（9.3%）が非加入（2.4%）より6.9ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人（26.1%）が利用している人（12.7%）より13.4ポイント高くなっている。（図2-17）

図2-18 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問35 橘ふるさと祭り こどもイベント】

内容：「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される「橘ふるさと祭り」（8月上旬の日曜日）において、広く子どもも大人も楽しめるイベントを実施している。また、ふるさと祭りの広報等のため、地区内小学生によるポスターコンクールを実施し、優秀作品からポスターを作製するとともに、市バス車内や公共施設等へ掲出する。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（19.6%）が男性（16.0%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「参加したことがある」は男性70歳以上（22.1%）で2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「参加したことがある」は橘地区（20.6%）が高津地区（2.5%）より18.1ポイント高くなっている。

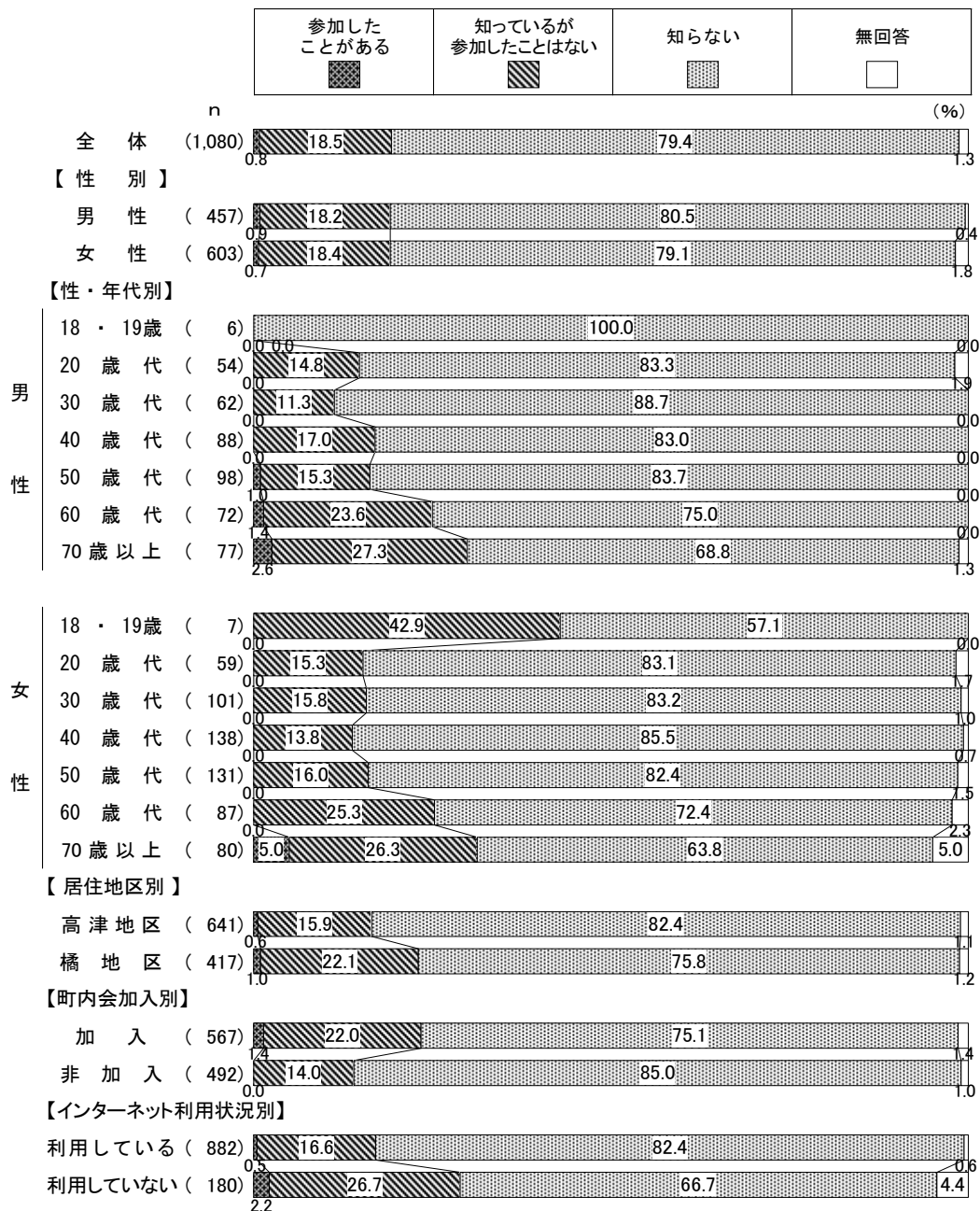
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は加入（13.8%）が非加入（4.9%）より8.9ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「参加したことがある」は利用していない人（15.6%）が利用している人（8.4%）より7.2ポイント高くなっている。（図2-18）

図2-19 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問36 高津区文化振興事業】

内容：区内の歴史的・文化的資源の活用により、地域の魅力を再認識する機会を提供し、ふるさと意識の醸成を図るため、区の歴史・地理・文化等についての学習とガイド養成を目的とした「高津のさんぽみちガイド養成講座」を実施している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は男性70歳以上（27.3%）で3割近くと高くなっている。

居住地区別にみると、「知っているが参加したことはない」は橘地区（22.1%）が高津地区（15.9%）より6.2ポイント高くなっている。

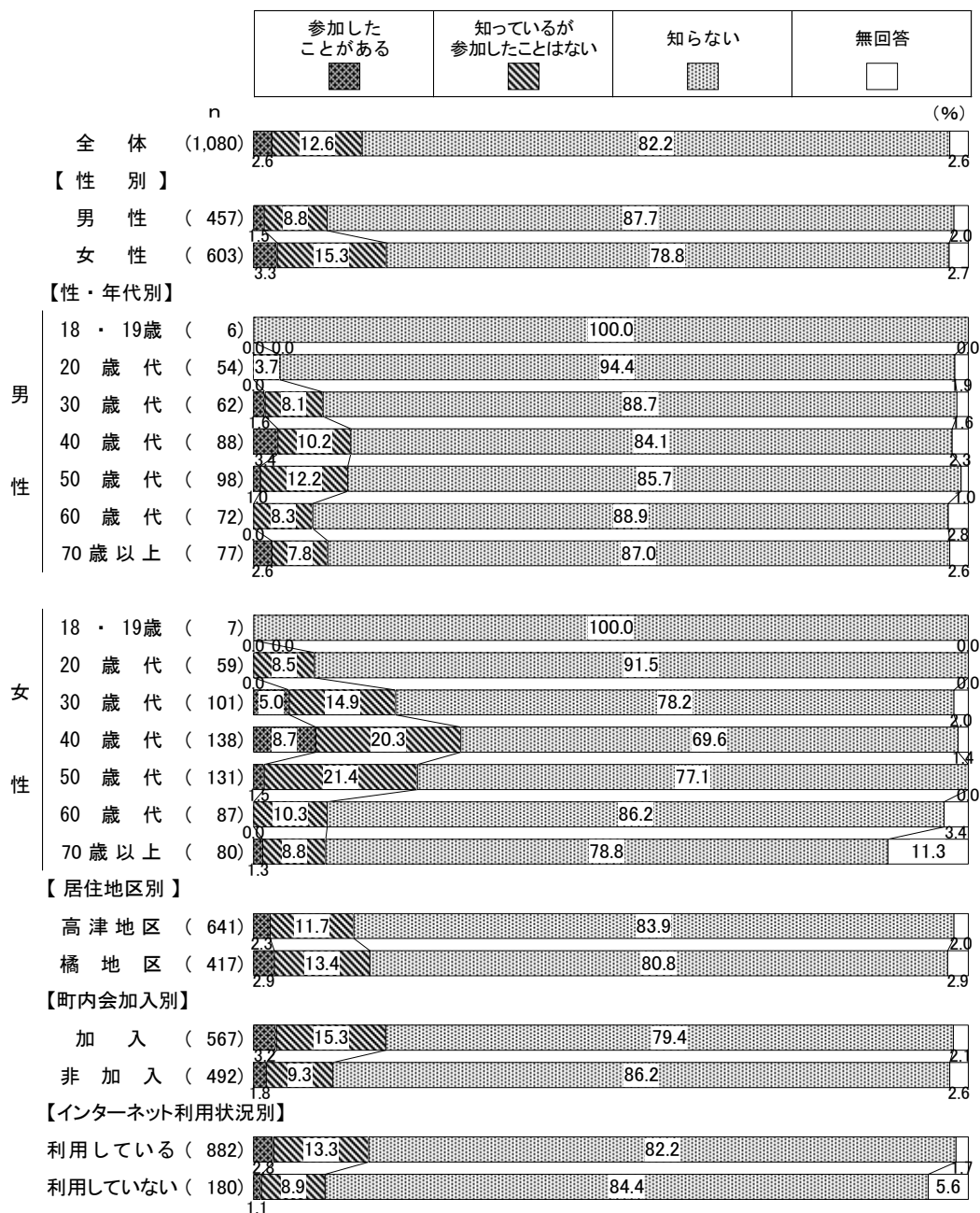
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（22.0%）が非加入（14.0%）より8.0ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人（26.7%）が利用している人（16.6%）より10.1ポイント高くなっている。（図2-19）

図2-20 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問41 子ども・子育てフェスタ事業】

内容：毎年11月の土曜日に高津市民館において開催し、親子で参加できる楽しいイベント、学習・講演会、地域子育てグループ等の紹介などを実施している。その中で、市民と行政との協働により子どもの育ちを支えあうネットワークづくりを行っている。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（15.3%）が男性（8.8%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性40歳代（20.3%）と女性50歳代（21.4%）で2割台と高くなっている。

居住地区別にみると、「知らない」は高津地区（83.9%）が橘地区（80.8%）より3.1ポイント高くなっている。

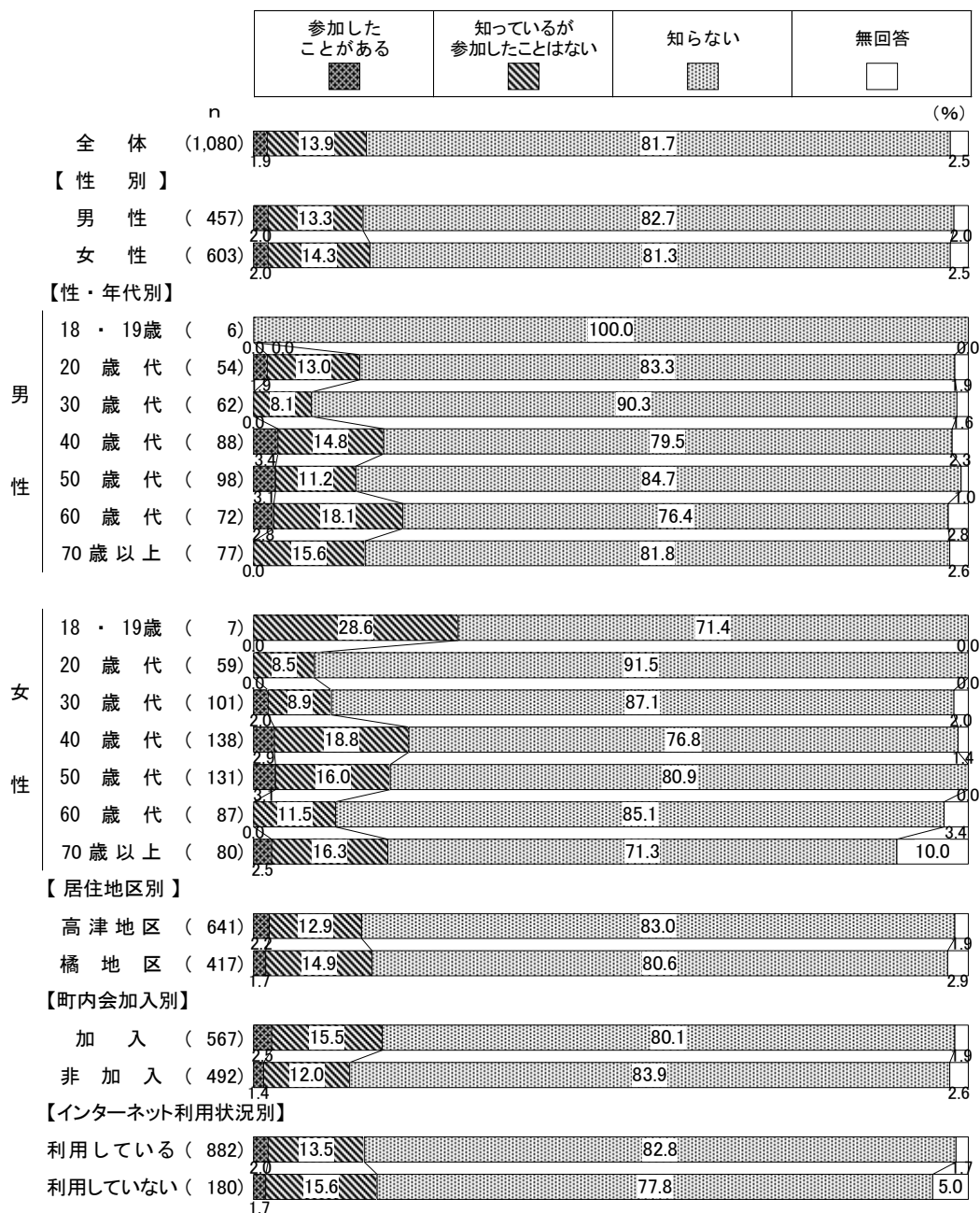
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（15.3%）が非加入（9.3%）より6.0ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用している人（13.3%）が利用していない人（8.9%）より4.4ポイント高くなっている。（図2-20）

図2-21 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問42 高津区地域連携スポーツ事業】

内容：スポーツを通じた地域コミュニティの活性化や世代間交流、地域におけるスポーツ参加機会の拡充を図るため、「ファミリースポーツ縁日」、「スポーツインクルージョン縁日」といったスポーツイベントを開催している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「知らない」は女性20歳代（91.5%）と男性30歳代（90.3%）で9割台と高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

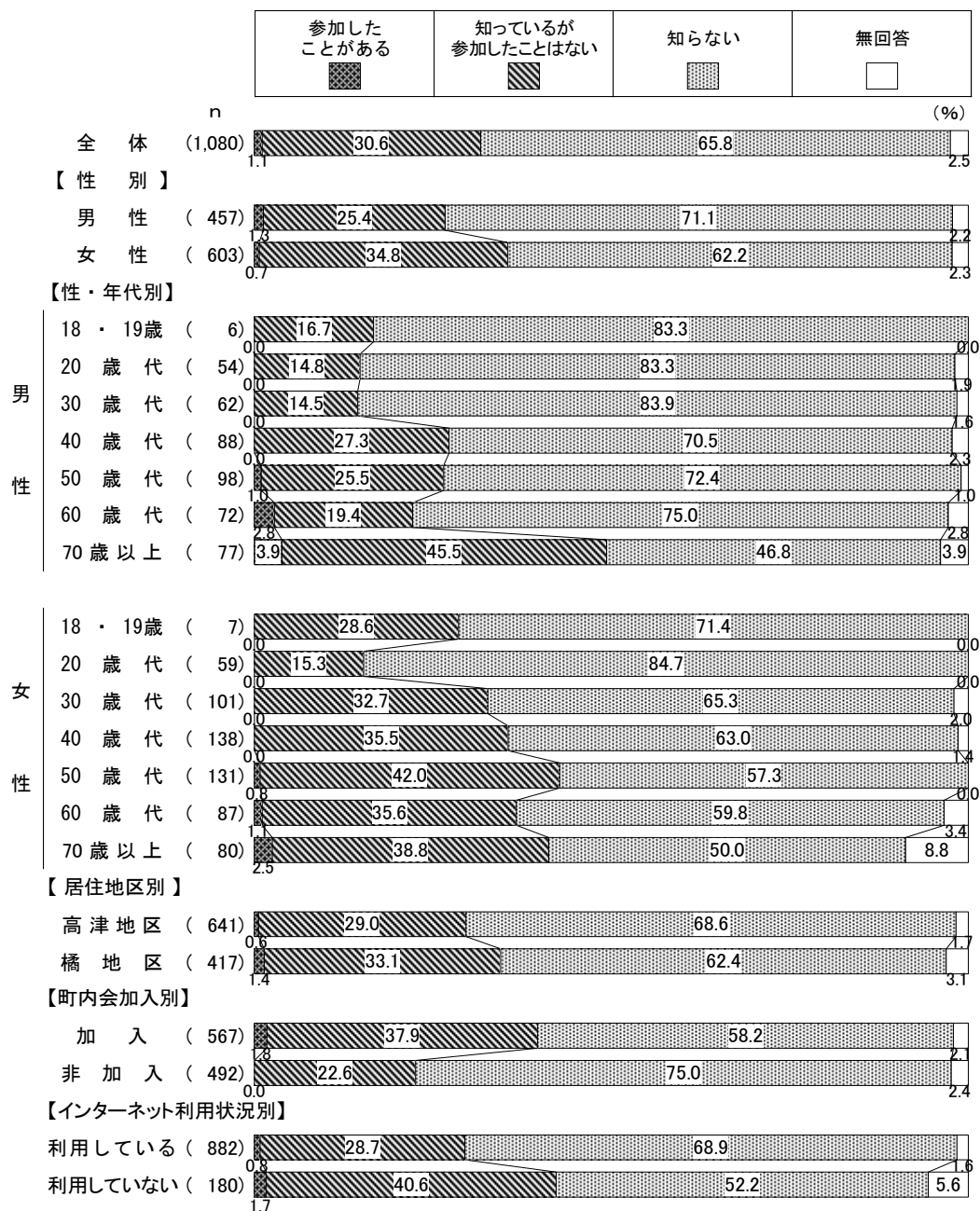
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（15.5%）が非加入（12.0%）より3.5ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知らない」は利用している人（82.8%）が利用していない人（77.8%）より5.0ポイント高くなっている。（図2-21）

図2-22 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問44 花と緑のたかつ推進事業】

内容：区内に潤いのある空間を創出するため、市民との協働による花と緑のまちづくりの推進を図ることを目的として、区民ボランティアを中心に区内各所に設置した花苗のコンテナ及び花壇の植栽・管理を行っている。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（34.8%）が男性（25.4%）より9.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は男性70歳以上（45.5%）で4割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「知っているが参加したことはない」は橘地区（33.1%）が高津地区（29.0%）より4.1ポイント高くなっている。

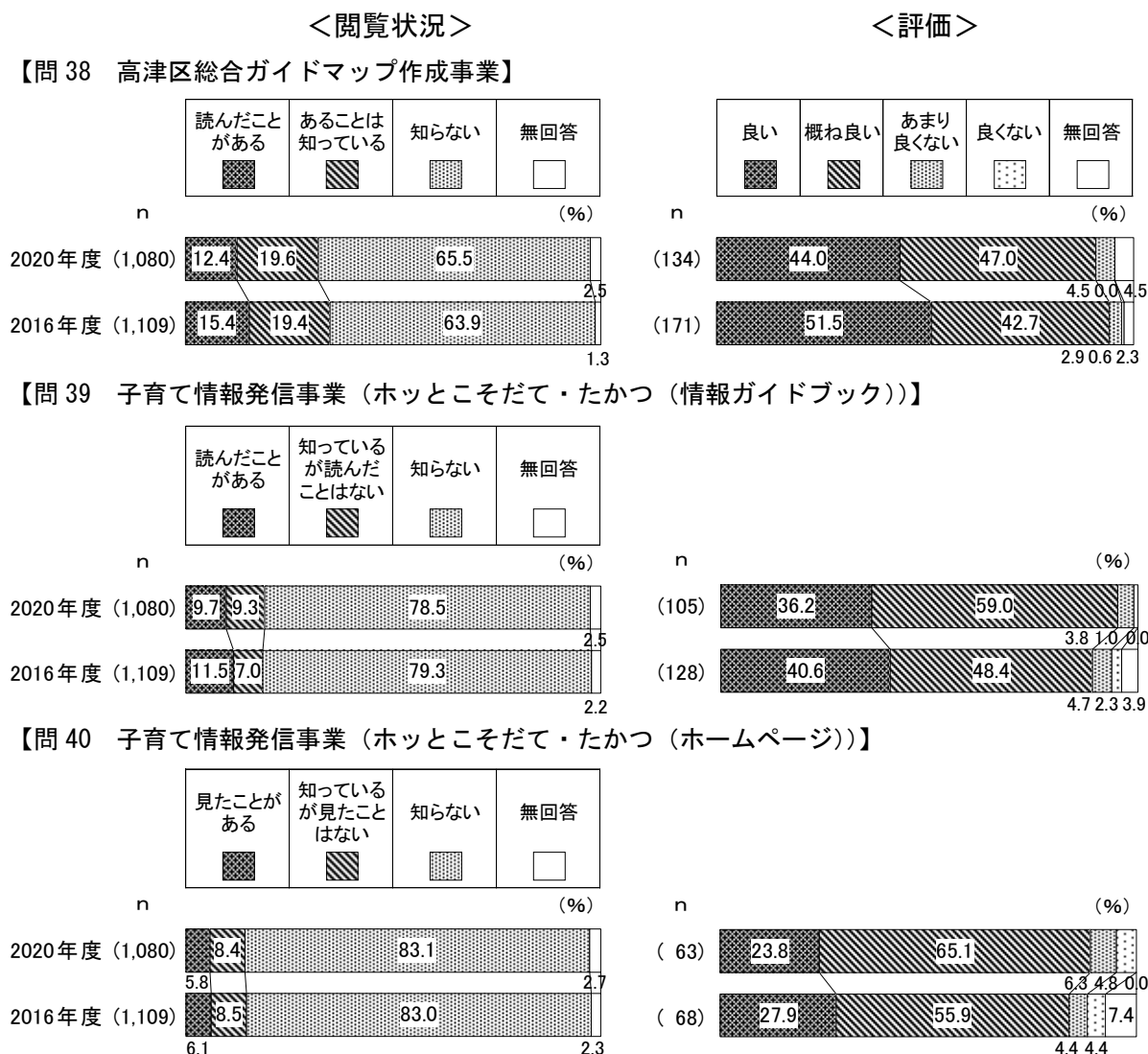
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（37.9%）が非加入（22.6%）より15.3ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人（40.6%）が利用している人（28.7%）より11.9ポイント高くなっている。（図2-22）

### (3) 各広報媒体等の閲覧状況・評価

問 あなたは高津区に行っている事業についてご存知でしょうか。事業の認知度およびその事業の評価について該当するものに○をつけてください。(○は各1つだけ。認知度について、選択肢「読んだことがある・見たことがある」を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

図2-23 各広報媒体等の閲覧状況・評価



各広報媒体等の閲覧状況・評価の<閲覧状況>をみると、「読んだことがある（見たことがある）」は【高津区総合ガイドマップ作成事業】が12.4%、【子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】が9.7%、【子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（ホームページ））】が5.8%となっている。

2016年度と比較すると、「読んだことがある」は【高津区総合ガイドマップ作成事業】で3.0ポイント減少している。

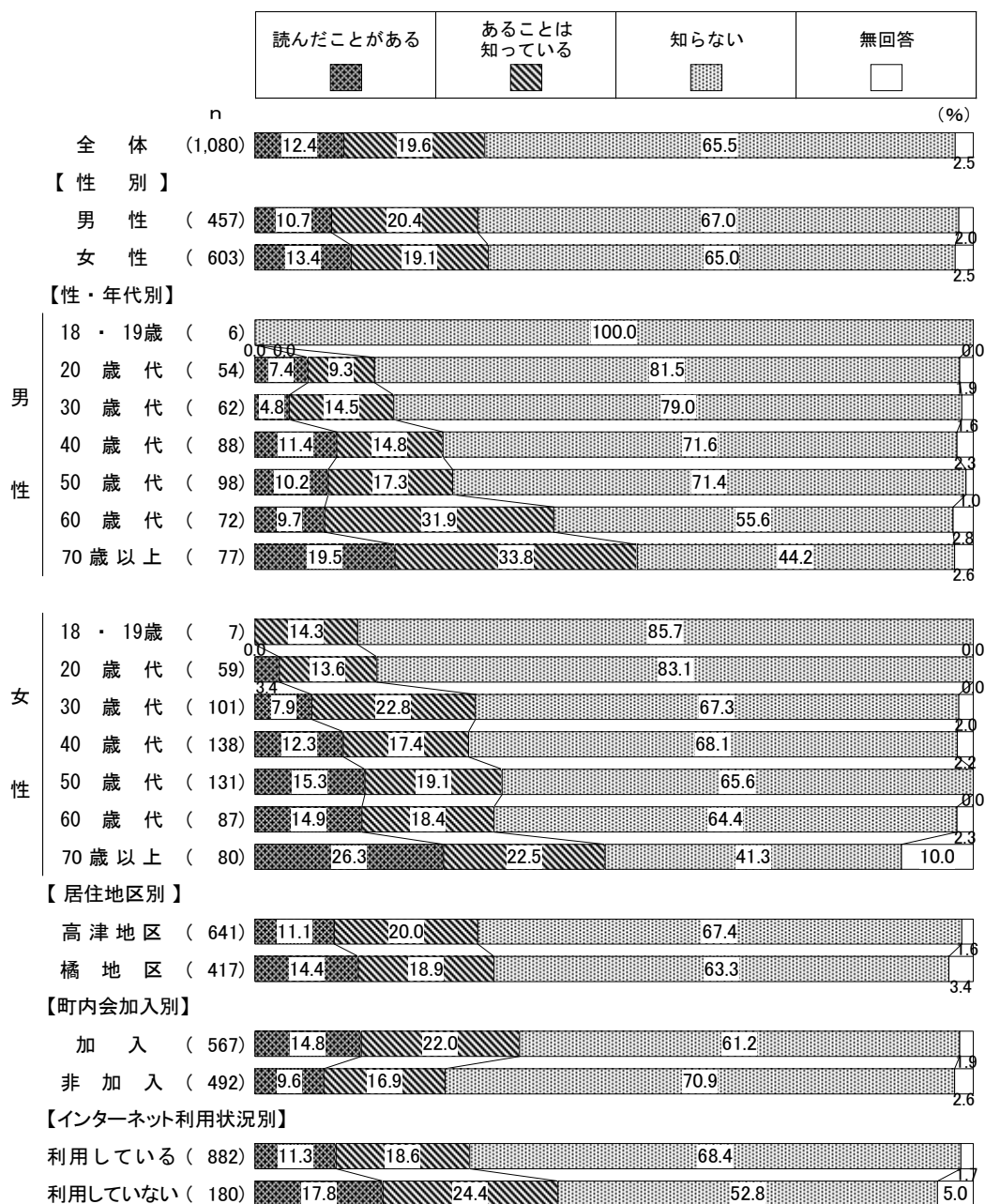
<評価>をみると、「良い」は【高津区総合ガイドマップ作成事業】が44.0%、【子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】が36.2%、【子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（ホームページ））】が23.8%となっている。

2016年度と比較すると、「良い」は【高津区総合ガイドマップ作成事業】で7.5ポイント減少している。（図2-23）

図2-24 各広報媒体等の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問38 高津区総合ガイドマップ作成事業】

内容：区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、防災情報、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「読んだことがある」は女性70歳以上（26.3%）で2割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「読んだことがある」は橘地区（14.4%）が高津地区（11.1%）より3.3ポイント高くなっている。

町内会加入別にみると、「読んだことがある」は加入（14.8%）が非加入（9.6%）より5.2ポイント高くなっている。

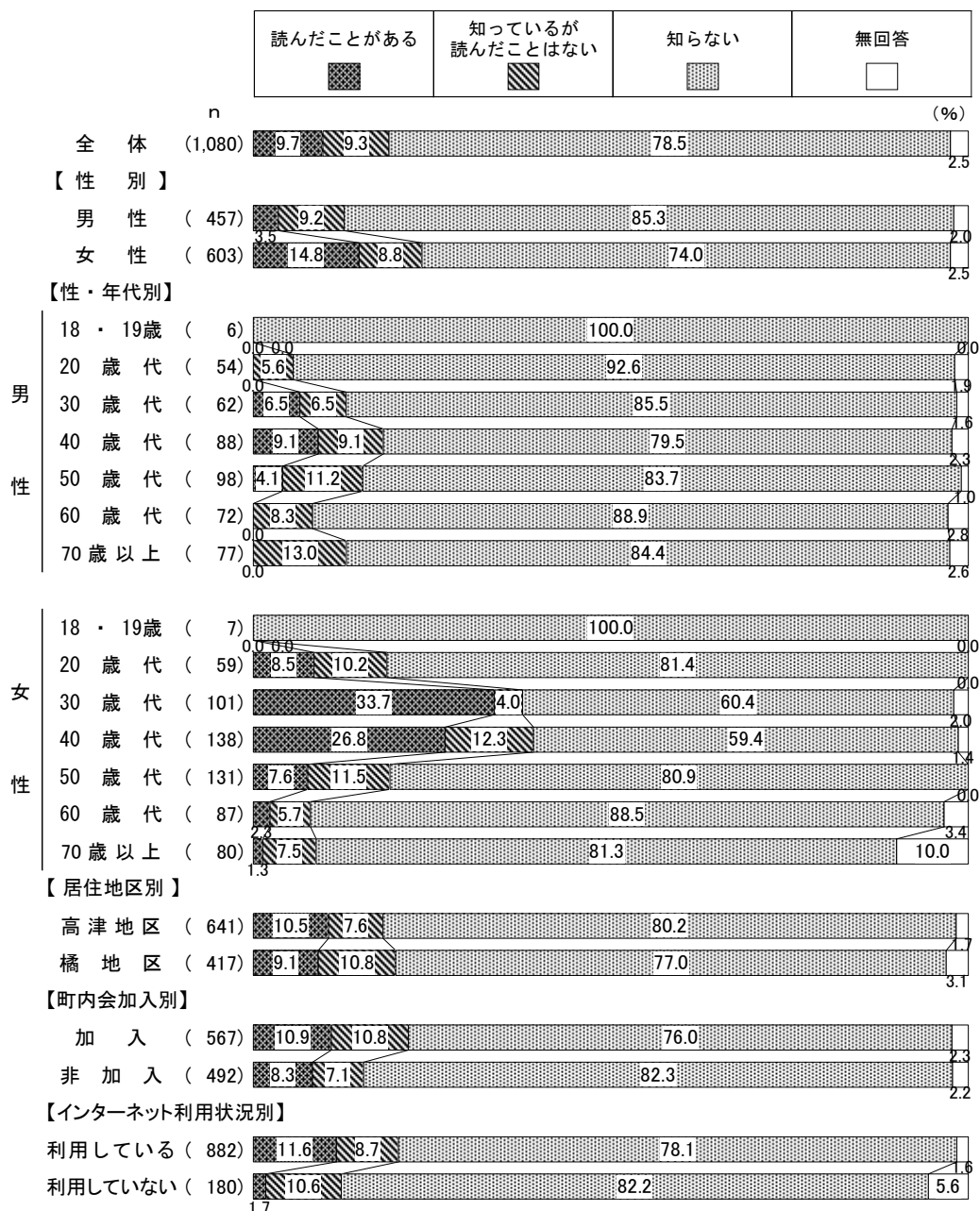
インターネット利用状況別にみると、「読んだことがある」は利用していない人（17.8%）が利用している人（11.3%）より6.5ポイント高くなっている。（図2-24）



図2-25 各広報媒体等の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問39 子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に区民協働で立ち上げた「ホッとこそだて・たかつ」という情報ガイドブックを区民と協働で作成し、情報発信を行っている。



性別にみると、「読んだことがある」は女性（14.8％）が男性（3.5％）より 11.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「読んだことがある」は女性30歳代（33.7％）で3割を超え、女性40歳代（26.8％）で3割近くと高くなっている。

居住地区別にみると、「知っているが読んだことはない」は橘地区（10.8％）が高津地区（7.6％）より3.2ポイント高くなっている。

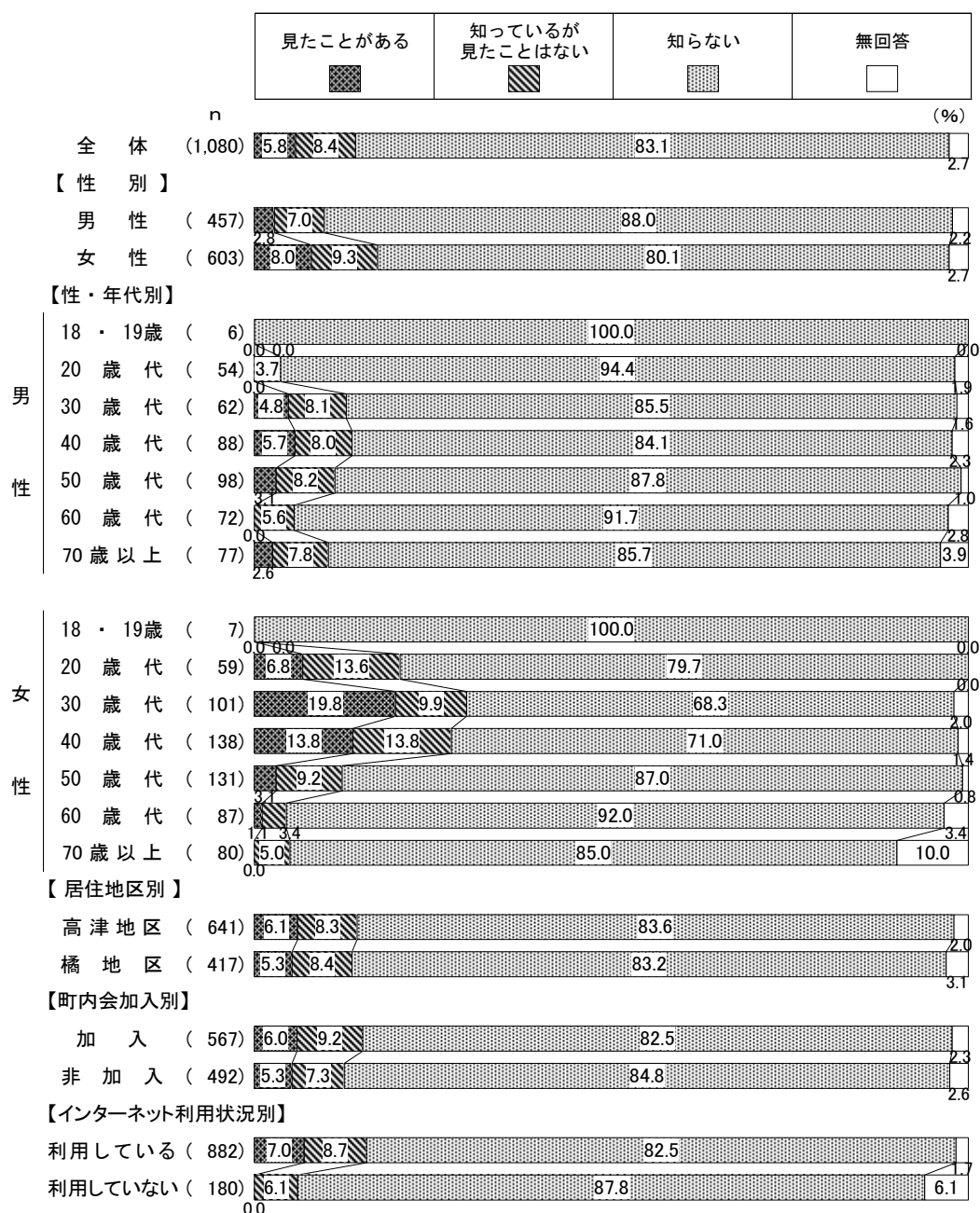
町内会加入別にみると、「知っているが読んだことはない」は加入（10.8％）が非加入（7.1％）より3.7ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「読んだことがある」は利用している人（11.6％）が利用していない人（1.7％）より9.9ポイント高くなっている。（図2-25）

図2-26 各広報媒体等の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問40 子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（ホームページ））】

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に、高津区ホームページの中のメニュー「ホッとこそだて・たかつ」にタイムリーな情報を掲載し、情報提供を行っている。



性別にみると、「見たことがある」は女性（8.0%）が男性（2.8%）より 5.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「見たことがある」は女性30歳代（19.8%）で2割となっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

町内会加入別にみると、大きな違いはみられない。

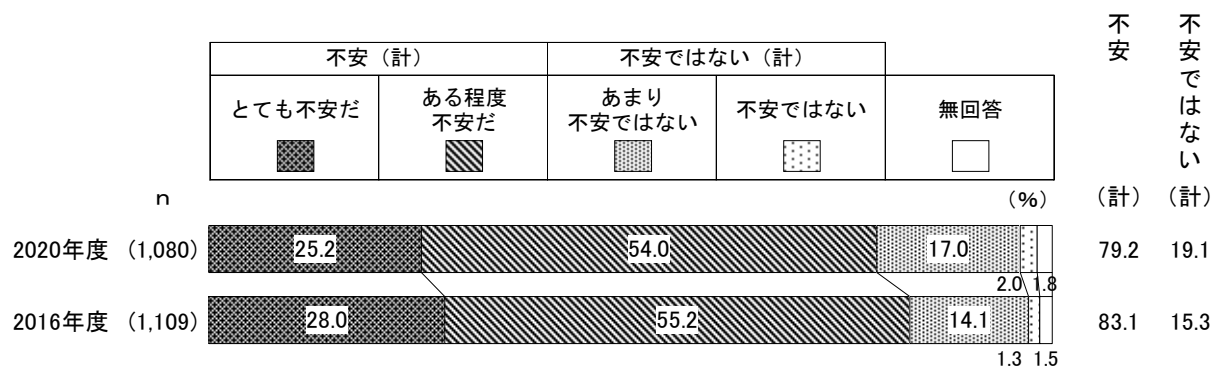
インターネット利用状況別にみると、「見たことがある」は利用している人（7.0%）が利用していない人（0.0%）より 7.0 ポイント高くなっている。（図2-26）

### 3. 地域防災について

#### (1) 大規模地震発生時の「不安度」

問 45 現在お住まいの地域での大規模地震の発生について、あなたはどの程度不安ですか。  
(1つだけ○)

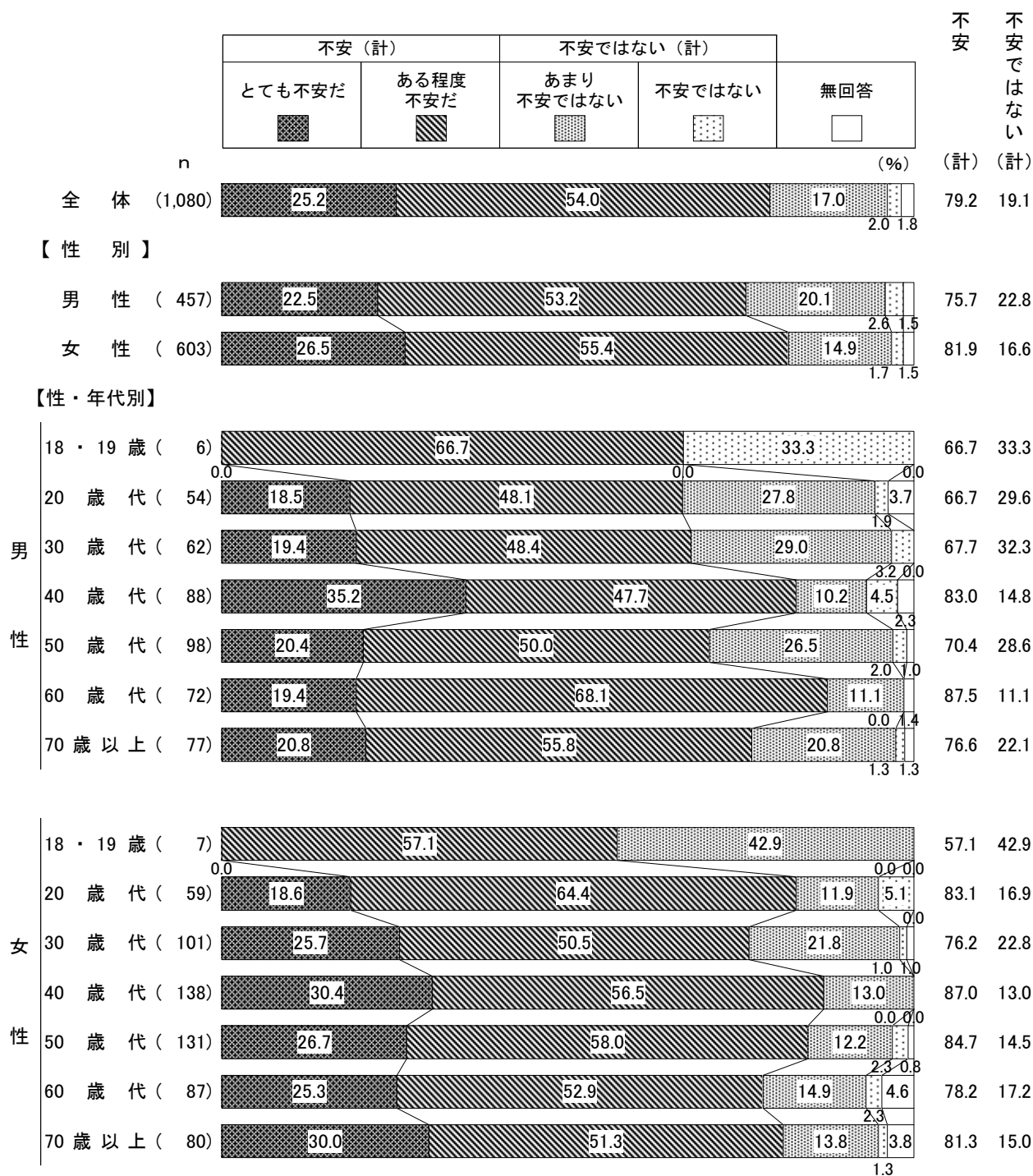
図 3-1 大規模地震発生時の「不安度」



大規模地震発生時の「不安度」を聞いたところ、「とても不安だ」(25.2%)と「ある程度不安だ」(54.0%)を合わせた『不安(計)』(79.2%)は約8割となっている。一方、「あまり不安ではない」(17.0%)と「不安ではない」(2.0%)を合わせた『不安ではない(計)』(19.1%)は約2割となっている。

2016年度と比較すると、『不安(計)』は3.9ポイント減少している。(図3-1)

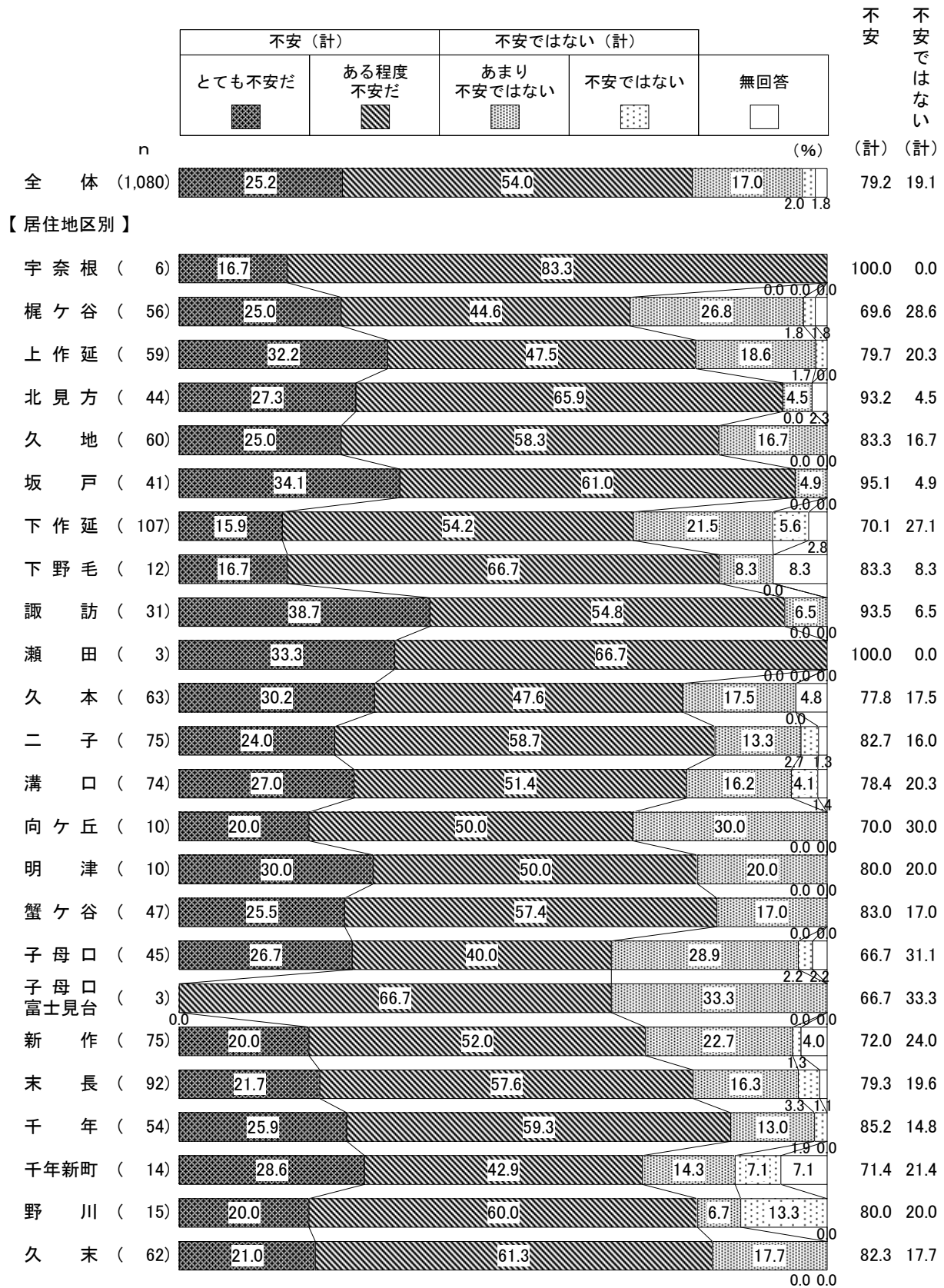
図3-2 大規模地震発生時の「不安度」(性別、性・年代別)



性別にみると、『不安(計)』は女性(81.9%)が男性(75.7%)より6.2ポイント高くなっている。

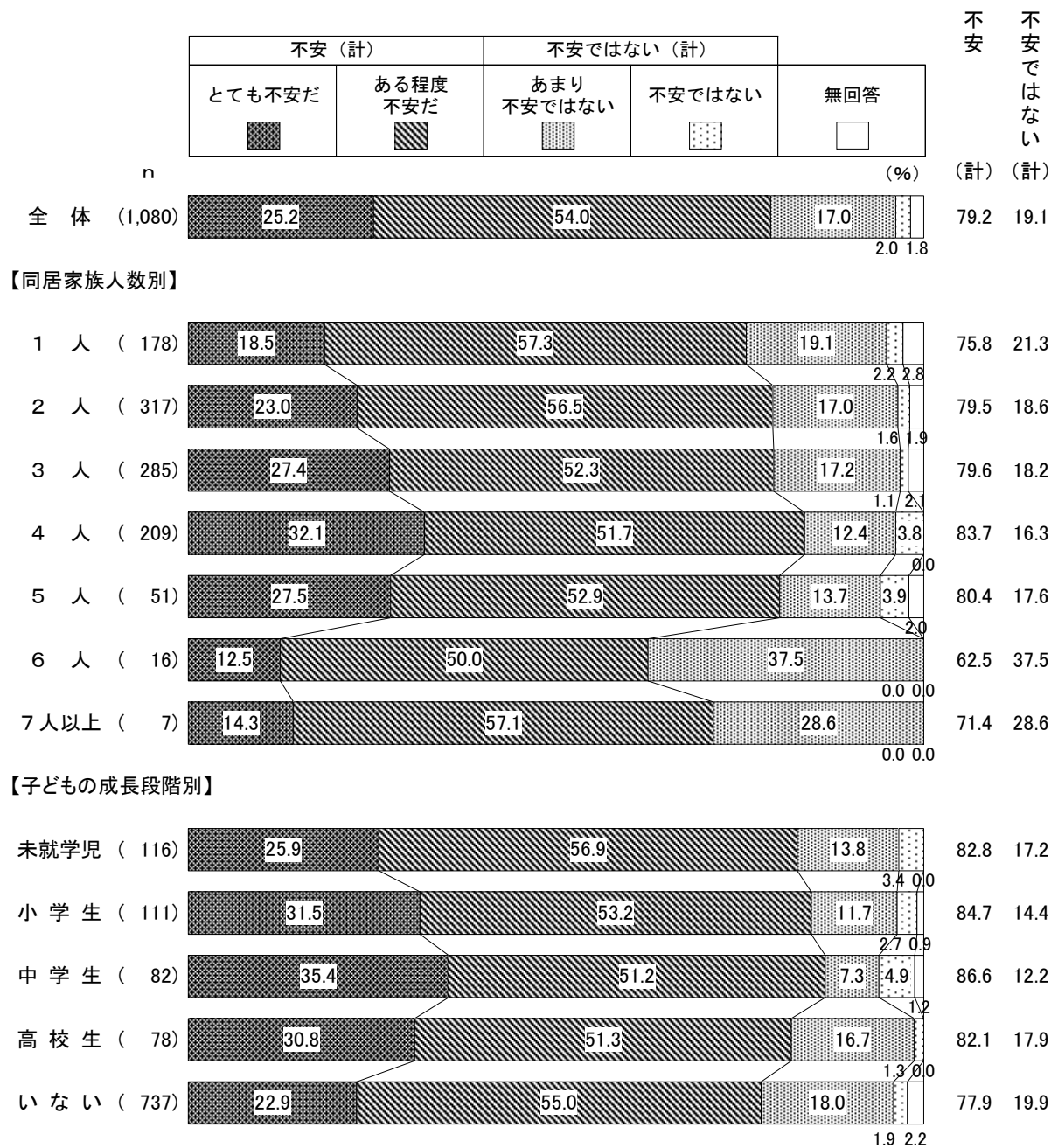
性・年代別にみると、『不安(計)』は男性60歳代(87.5%)と女性40歳代(87.0%)で9割近くと高くなっている。一方、『不安ではない(計)』は男性30歳代(32.3%)で3割を超えて高くなっている。(図3-2)

図3-3 大規模地震発生時の「不安度」(居住地区別)



居住地区別にみると、『不安 (計)』は坂戸 (95.1%)、諏訪 (93.5%)、北見方 (93.2%) で9割台と高くなっている。一方、『不安ではない (計)』は子母口 (31.1%) で3割を超えて高くなっている。(図3-3)

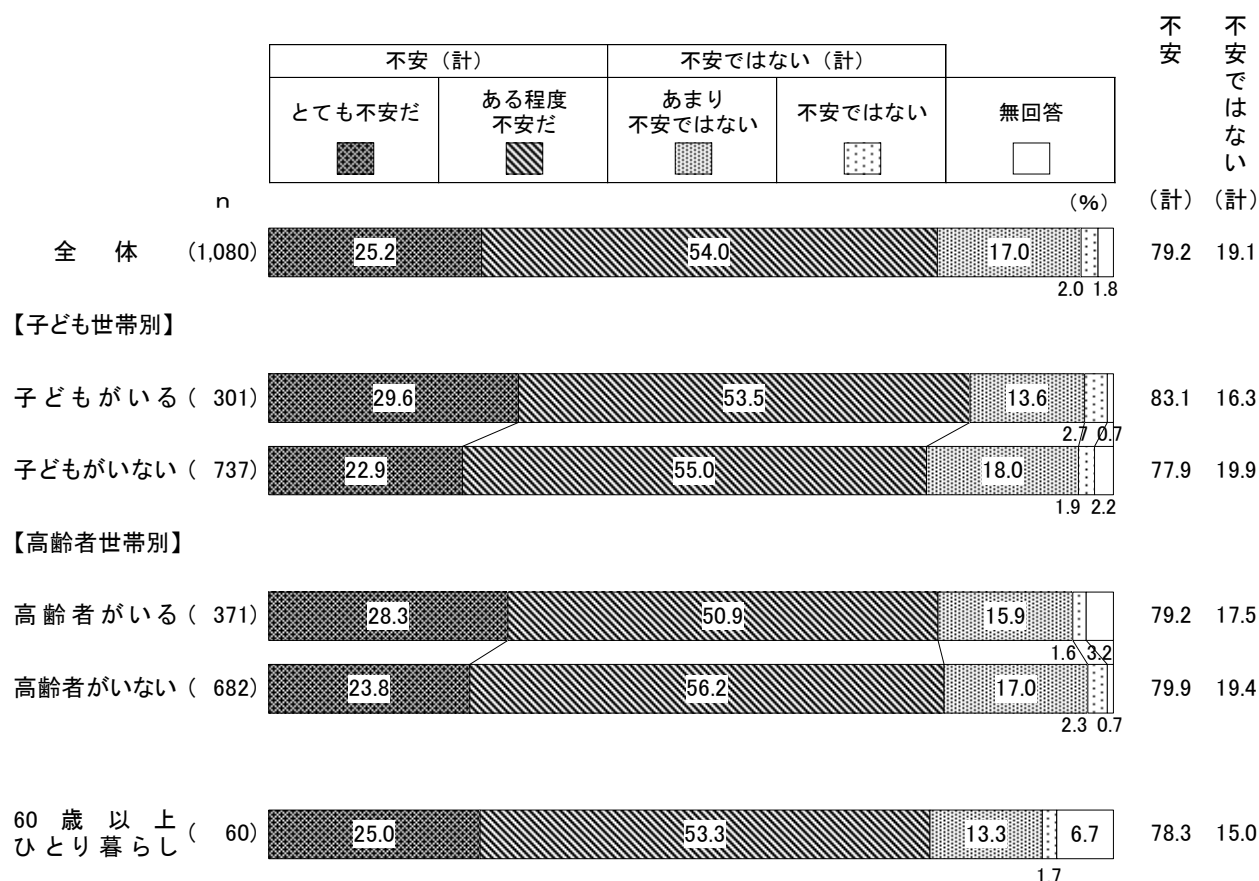
図3-4 大規模地震発生時の「不安度」(同居家族人数別、子どもの成長段階別)



同居家族人数別にみると、『不安(計)』は4人家族(83.7%)と5人家族(80.4%)で8割台と高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、『不安(計)』は中学生がいる世帯(86.6%)で9割近くと高くなっている。(図3-4)

図3-5 大規模地震発生時の「不安度」(子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし)



子ども世帯別にみると、『不安(計)』は子どもがいる世帯(83.1%)が子どもがいない世帯(77.9%)より5.2ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「とても不安だ」は高齢者がいる世帯(28.3%)が高齢者がいない世帯(23.8%)より4.5ポイント高くなっている。

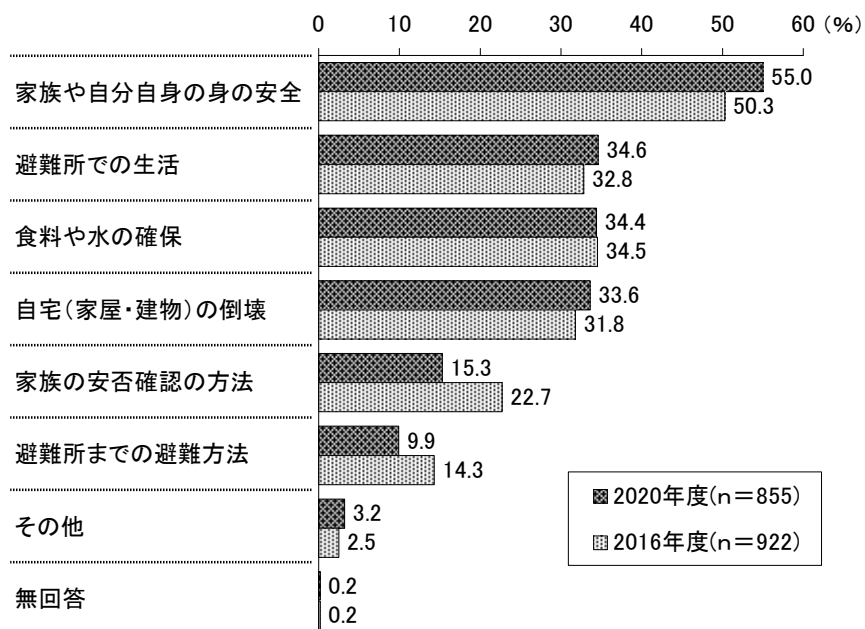
60歳以上ひとり暮らし世帯では、『不安(計)』(78.3%)が8割近くとなっている。(図3-5)

## （２）大規模地震発生時の「不安内容」

（問 45 で、「とても不安だ」「ある程度不安だ」と回答した方に伺います）

問 45－１ 特に不安なことは何ですか。（２つまで○）

図 3-6 大規模地震発生時の「不安内容」

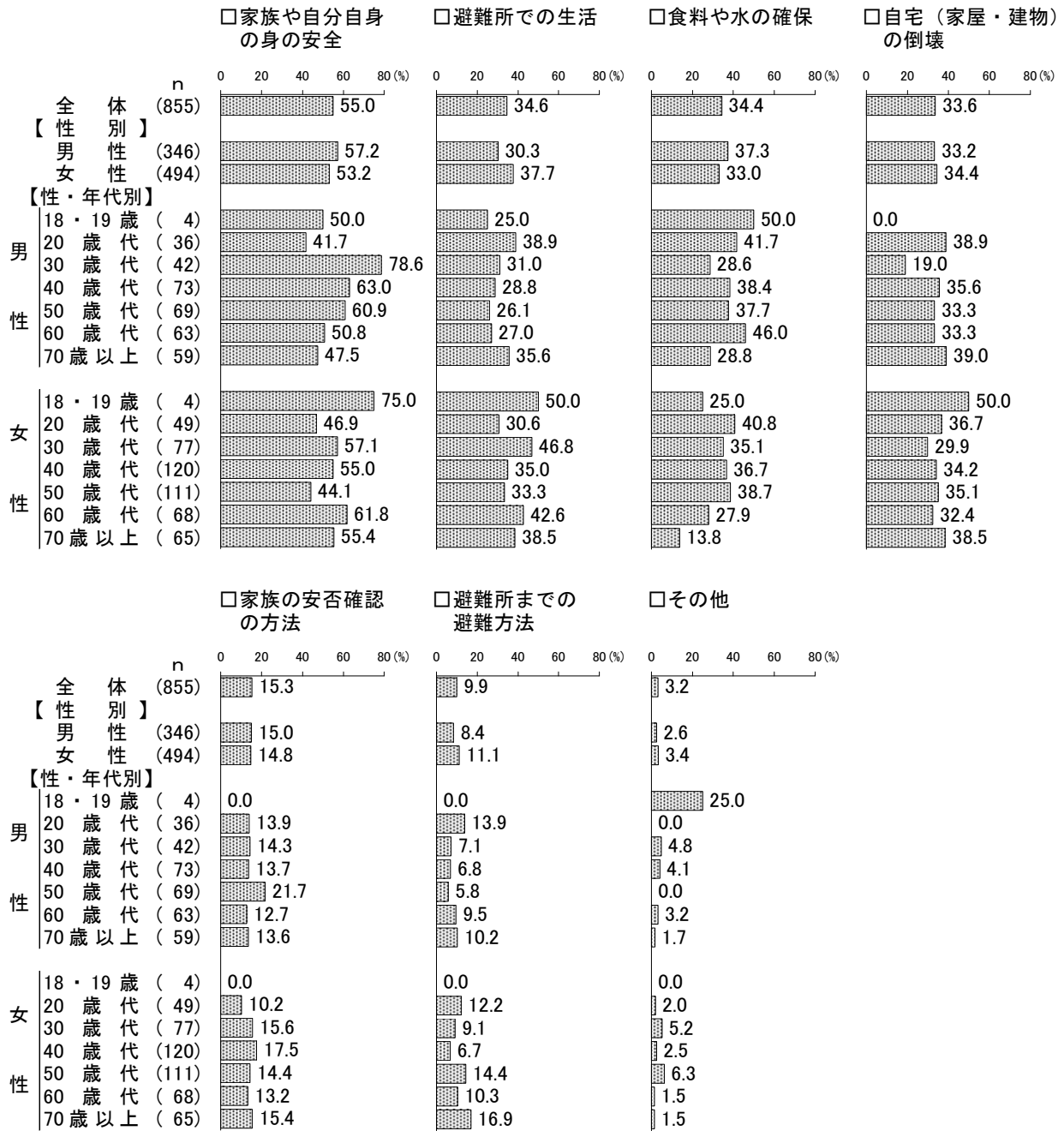


大規模地震発生時の「不安内容」を聞いたところ、「家族や自分自身の身の安全」(55.0%)が5割半ばで最も高く、次いで「避難所での生活」(34.6%)、「食料や水の確保」(34.4%)、「自宅(家屋・建物)の倒壊」(33.6%)となっている。

2016年度と比較すると、「家族や自分自身の身の安全」は4.7ポイント増加している。一方、「家族の安否確認の方法」は7.4ポイント、「避難所までの避難方法」は4.4ポイント、それぞれ減少している。(図3-6)



図3-7 大規模地震発生時の「不安内容」(性別、性・年代別)

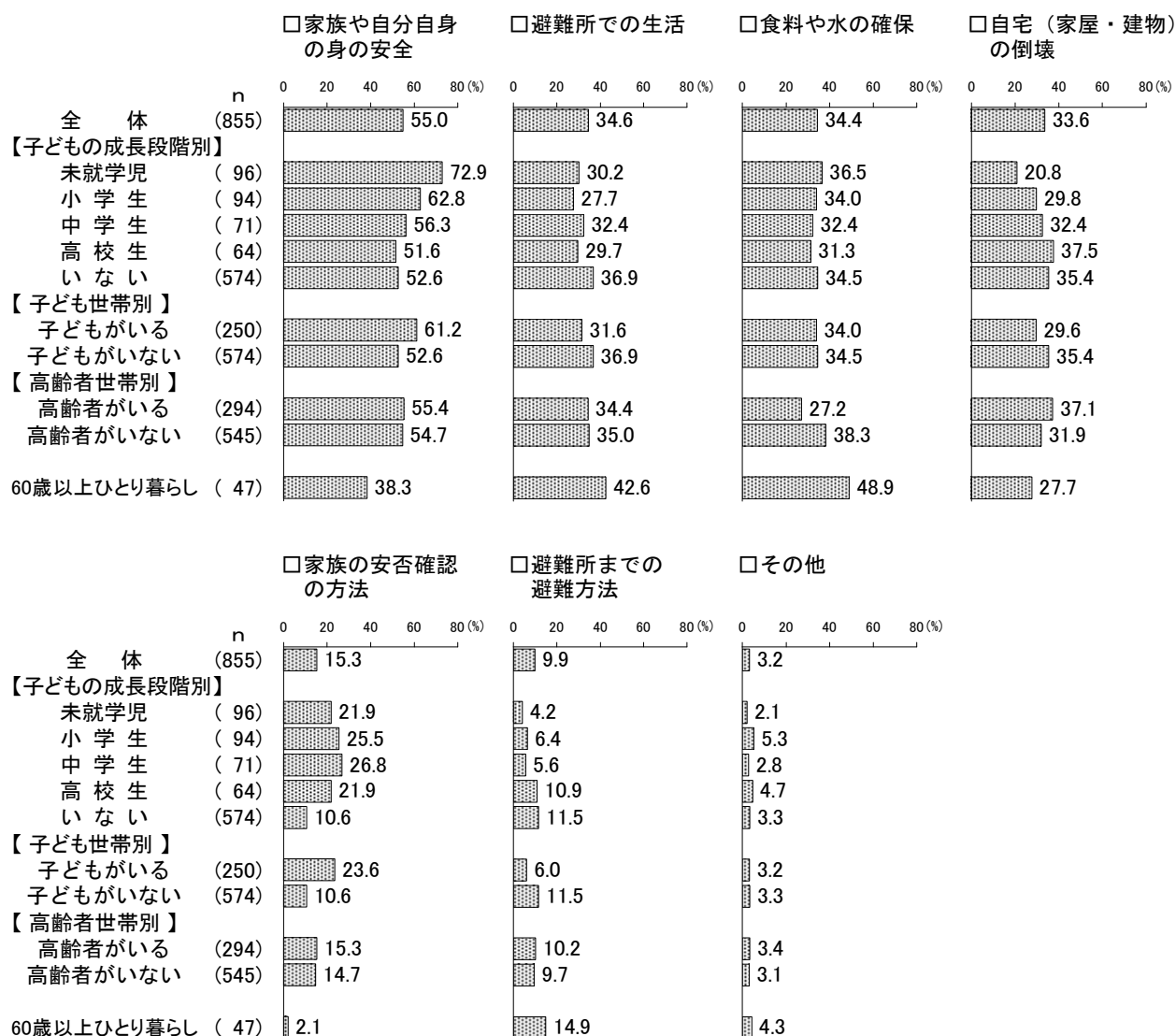


性別にみると、「避難所での生活」は女性(37.7%)が男性(30.3%)より7.4ポイント高くなっている。一方、「食料や水の確保」は男性(37.3%)が女性(33.0%)より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「家族や自分自身の身の安全」は男性30歳代(78.6%)で8割近くと高くなっている。「避難所での生活」は女性30歳代(46.8%)で5割近くと高くなっている。「食料や水の確保」は男性60歳代(46.0%)で4割半ばと高くなっている。(図3-7)

図 3-8 大規模地震発生時の「不安内容」

(子どもの成長段階別、子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし)



子どもの成長段階別にみると、「家族や自分自身の身の安全」は未就学児がいる世帯 (72.9%) で7割を超え、小学生がいる世帯 (62.8%) で6割を超えて高くなっている。「避難所での生活」は子どもがいない世帯 (36.9%) で4割近くと高くなっている。「自宅 (家屋・建物) の倒壊」は高校生がいる世帯 (37.5%) で4割近くと高くなっている。

子ども世帯別にみると、「家族の安否確認の方法」は子どもがいる世帯 (23.6%) が子どもがいない世帯 (10.6%) より 13.0 ポイント、「家族や自分自身の身の安全」は子どもがいる世帯 (61.2%) が子どもがいない世帯 (52.6%) より 8.6 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「自宅 (家屋・建物) の倒壊」は子どもがいない世帯 (35.4%) が子どもがいる世帯 (29.6%) より 5.8 ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「食料や水の確保」は高齢者がいない世帯 (38.3%) が高齢者がいる世帯 (27.2%) より 11.1 ポイント高くなっている。一方、「自宅 (家屋・建物) の倒壊」は高齢者がいる世帯 (37.1%) が高齢者がいない世帯 (31.9%) より 5.2 ポイント高くなっている。

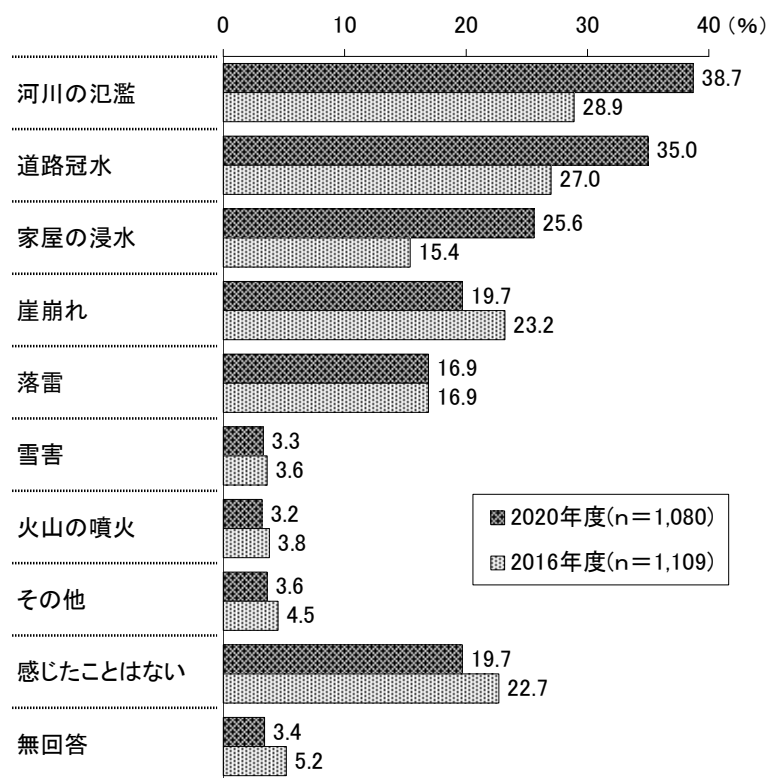
60歳以上ひとり暮らし世帯では、「食料や水の確保」 (48.9%) が5割近くで最も高く、次いで「避難所での生活」 (42.6%) となっている。(図 3-8)

### (3) 災害に対する不安

問 46 現在お住まいの地域で、次の災害に対する不安はありますか。

(あてはまるもの全てに○)

図 3-9 災害に対する不安

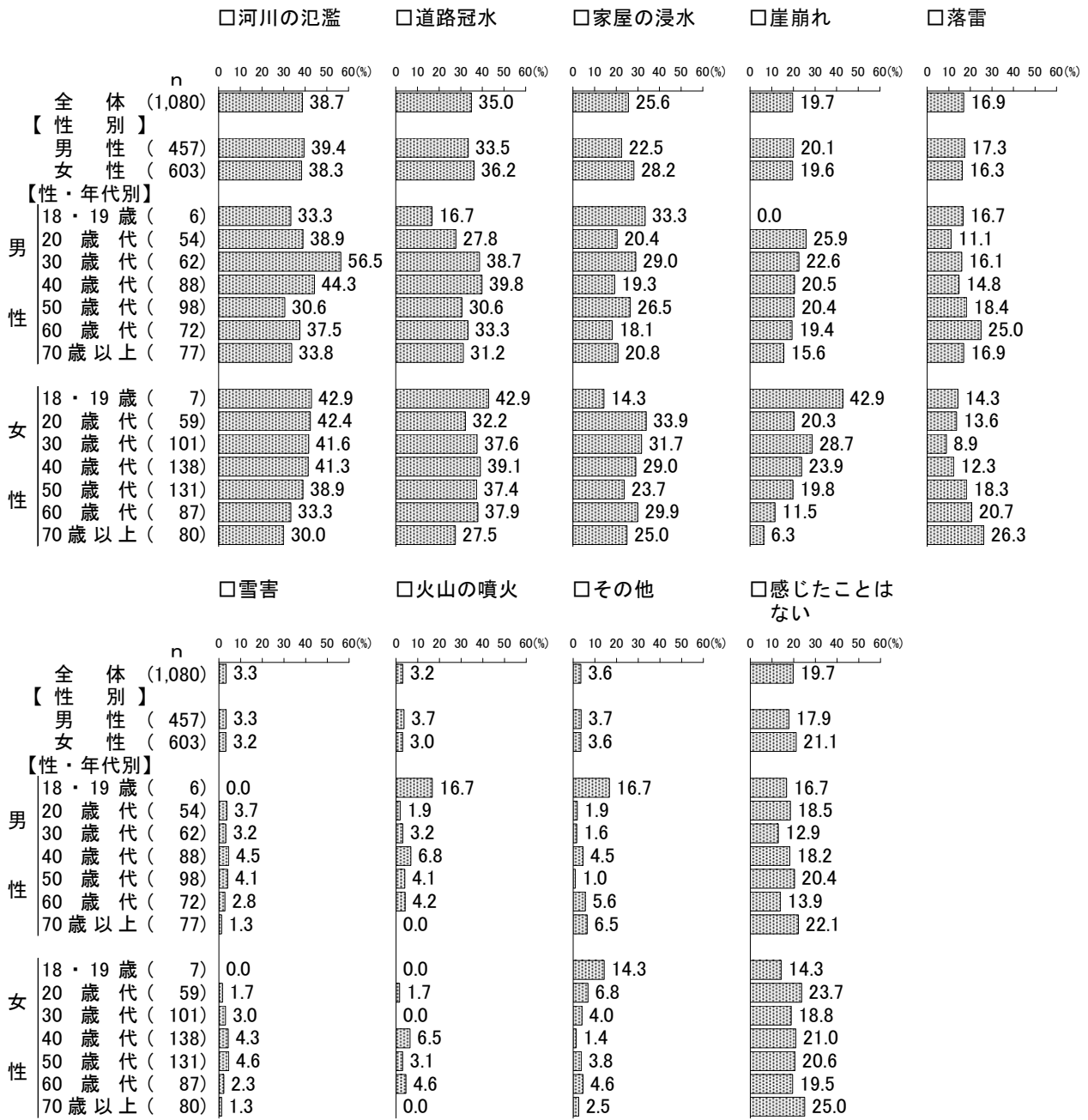


災害に対する不安を聞いたところ、「河川の氾濫」(38.7%)が4割近くで最も高く、次いで「道路冠水」(35.0%)、「家屋の浸水」(25.6%)、「崖崩れ」(19.7%)となっている。一方、「感じたことはない」(19.7%)は2割となっている。

2016年度と比較すると、「家屋の浸水」は10.2ポイント、「河川の氾濫」は9.8ポイント、「道路冠水」は8.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「崖崩れ」は3.5ポイント減少している。

(図 3-9)

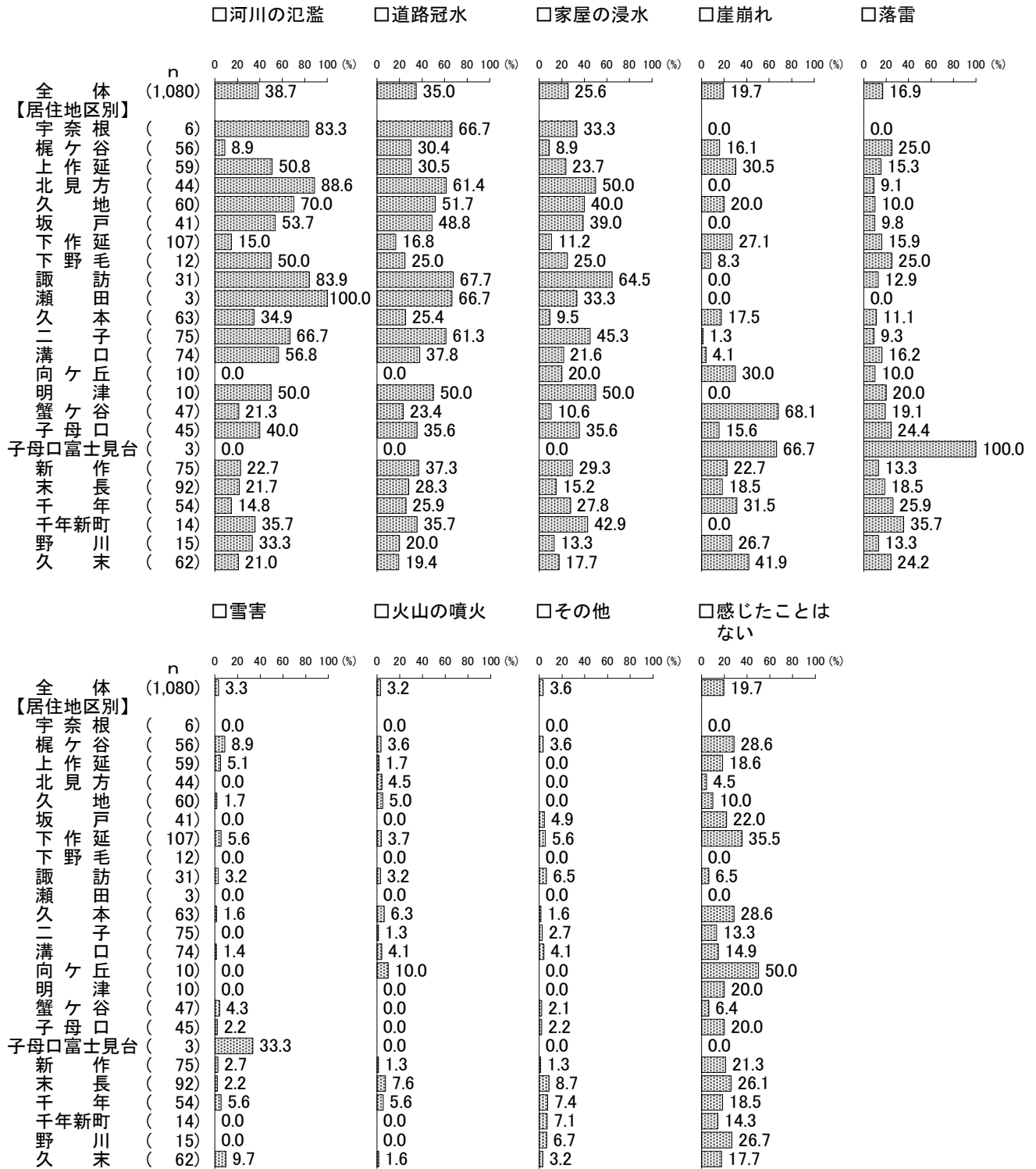
図3-10 災害に対する不安（性別、性・年代別）



性別にみると、「家屋の浸水」は女性（28.2%）が男性（22.5%）より 5.7 ポイント高くなっている。

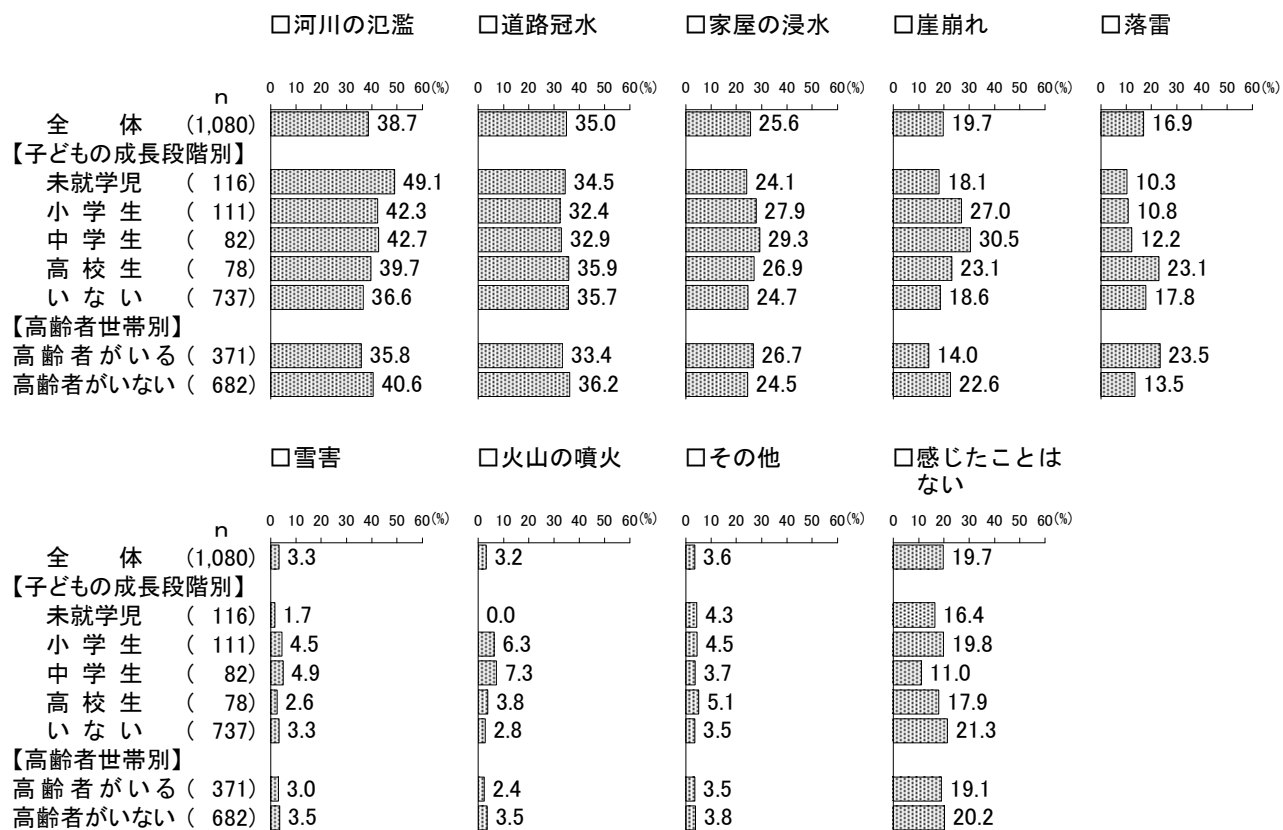
性・年代別にみると、「河川の氾濫」は男性 30 歳代（56.5%）で 6 割近くと高くなっている。「道路冠水」は男性 40 歳代（39.8%）と女性 40 歳代（39.1%）で約 4 割と高くなっている。（図 3-10）

図3-11 災害に対する不安（居住地区別）



居住地区別にみると、「河川の氾濫」は北見方（88.6%）で9割近く、諏訪（83.9%）で8割を超えて高くなっている。「道路冠水」は諏訪（67.7%）で7割近くと高くなっている。「崖崩れ」は蟹ヶ谷（68.1%）で7割近くと高くなっている。（図3-11）

図3-12 災害に対する不安（子どもの成長段階別、高齢者世帯別）



子どもの成長段階別にみると、「河川の氾濫」は未就学児がいる世帯（49.1%）で約5割と高くなっている。「崖崩れ」は中学生がいる世帯（30.5%）で約3割と高くなっている。「落雷」は高校生がいる世帯（23.1%）で2割を超えて高くなっている。

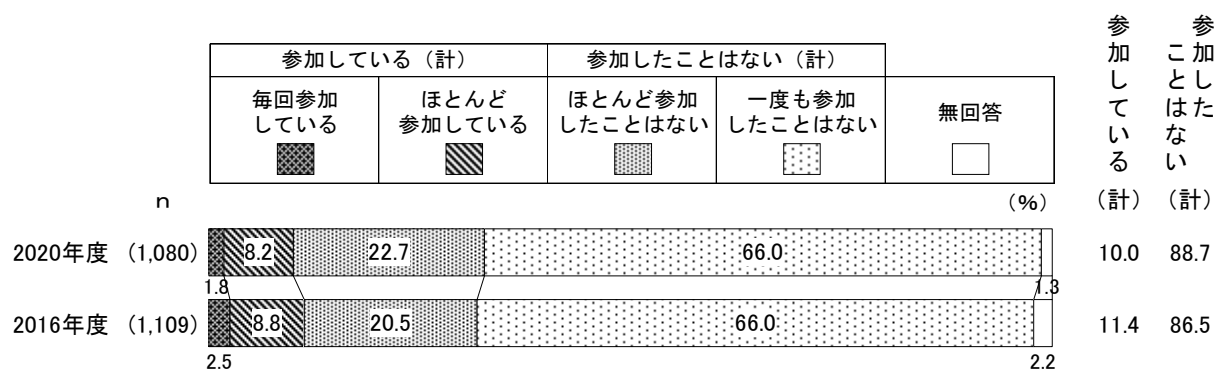
高齢者世帯別にみると、「落雷」は高齢者がいる世帯（23.5%）が高齢者がいない世帯（13.5%）より10.0ポイント高くなっている。一方、「崖崩れ」は高齢者がいない世帯（22.6%）が高齢者がいる世帯（14.0%）より8.6ポイント高くなっている。（図3-12）

#### (4) 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無

問 47 あなたは町内会・自治会等が主催する地域の防災訓練に参加していますか。

(1つだけ○)

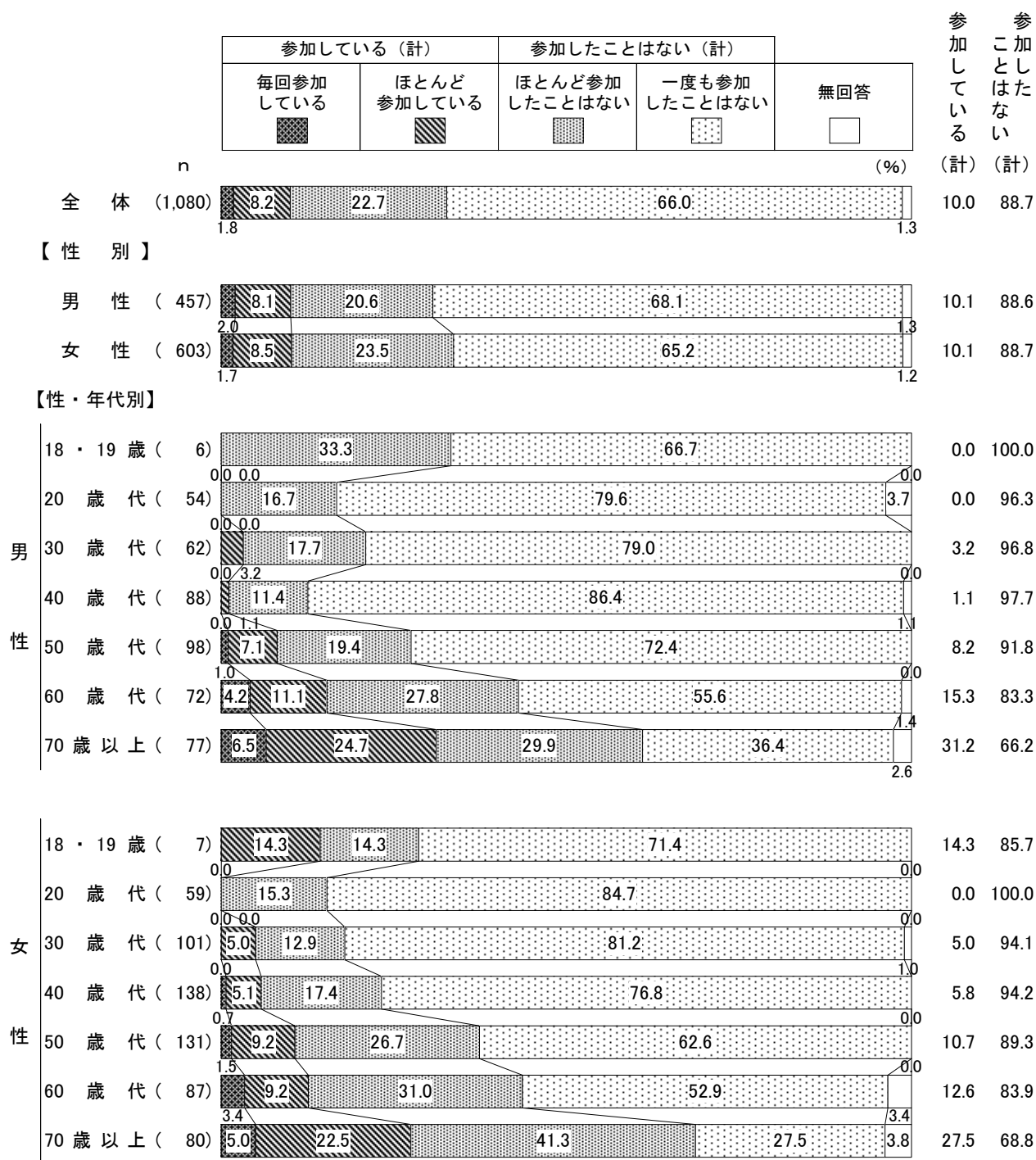
図 3-13 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無



町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しているか聞いたところ、「毎回参加している」(1.8%)と「ほとんど参加している」(8.2%)を合わせた『参加している (計)』(10.0%)は1割となっている。一方、「ほとんど参加したことはない」(22.7%)と「一度も参加したことはない」(66.0%)を合わせた『参加したことはない (計)』(88.7%)は9割近くとなっている。

2016年度と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-13)

図3-14 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（性別、性・年代別）

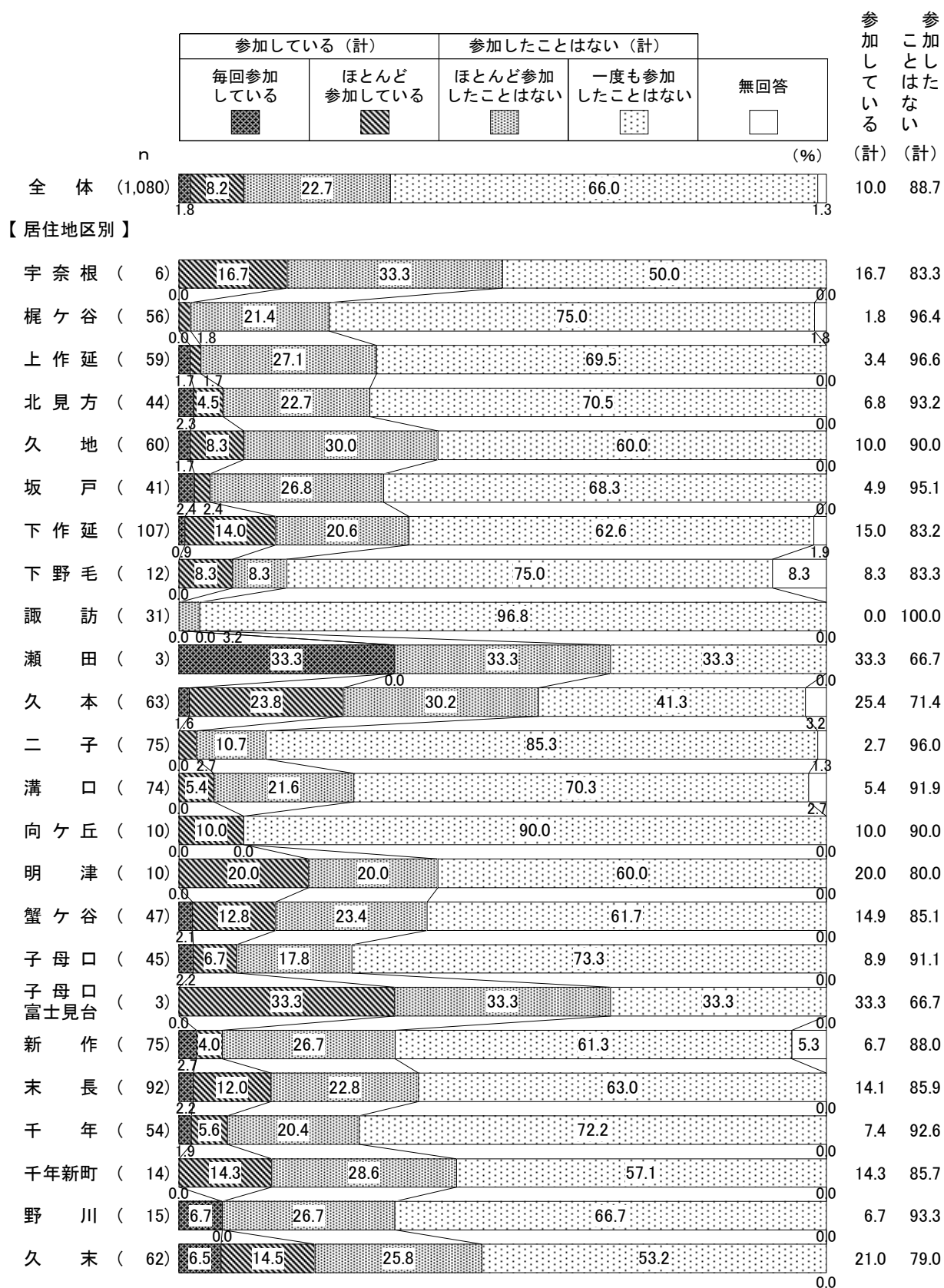


性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、『参加している（計）』は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、男性70歳以上（31.2%）で3割を超え、女性70歳以上（27.5%）で3割近くと高くなっている。一方、『参加したことはない（計）』は女性20歳代（100.0%）で10割と高くなっている。（図3-14）



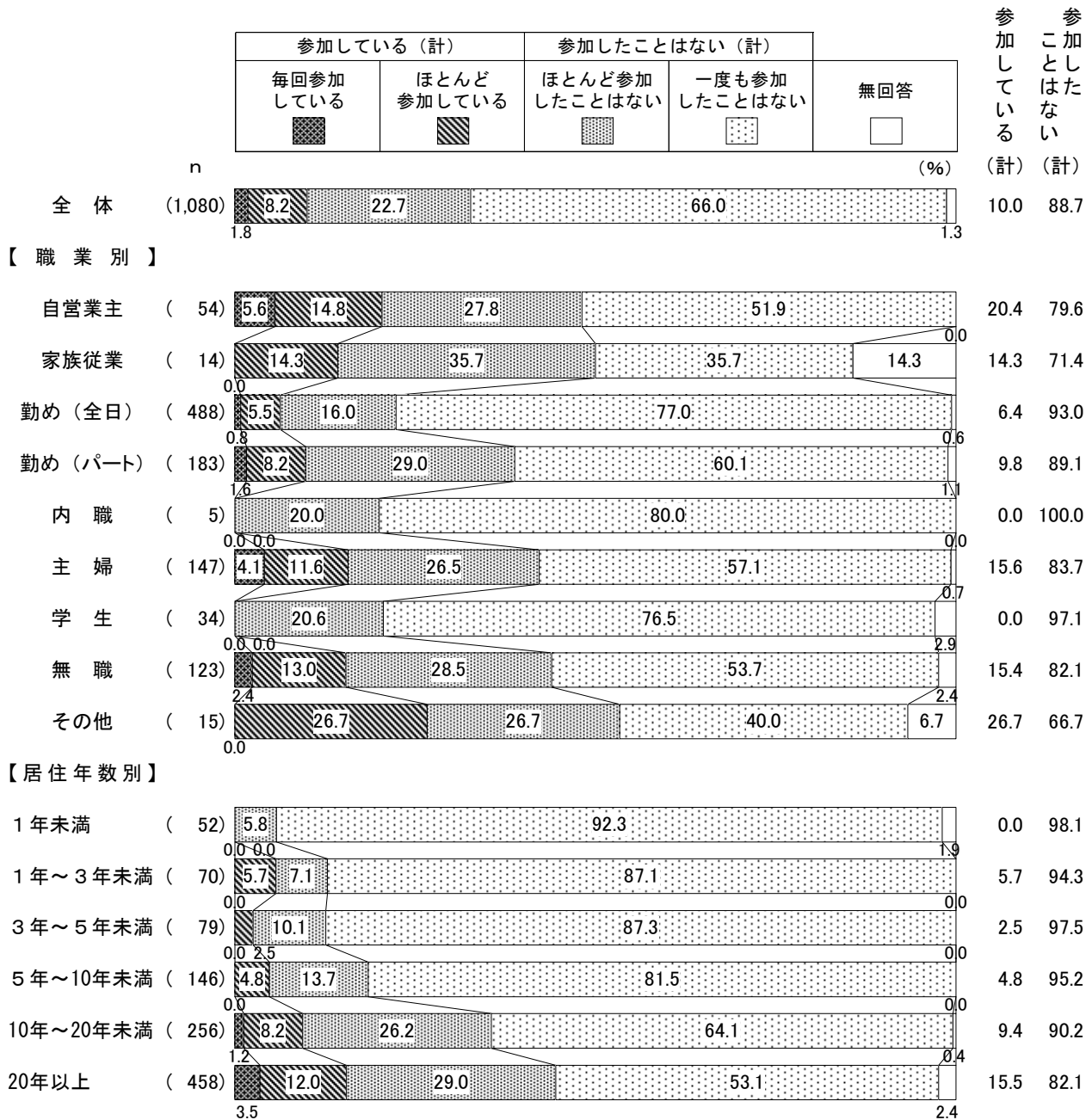
図3-15 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（居住地区別）



居住地区別にみると、『参加している（計）』は久本（25.4%）と久末（21.0%）で2割台と高くなっている。一方、『参加したことはない（計）』は諏訪（100.0%）で10割と高くなっている。

（図3-15）

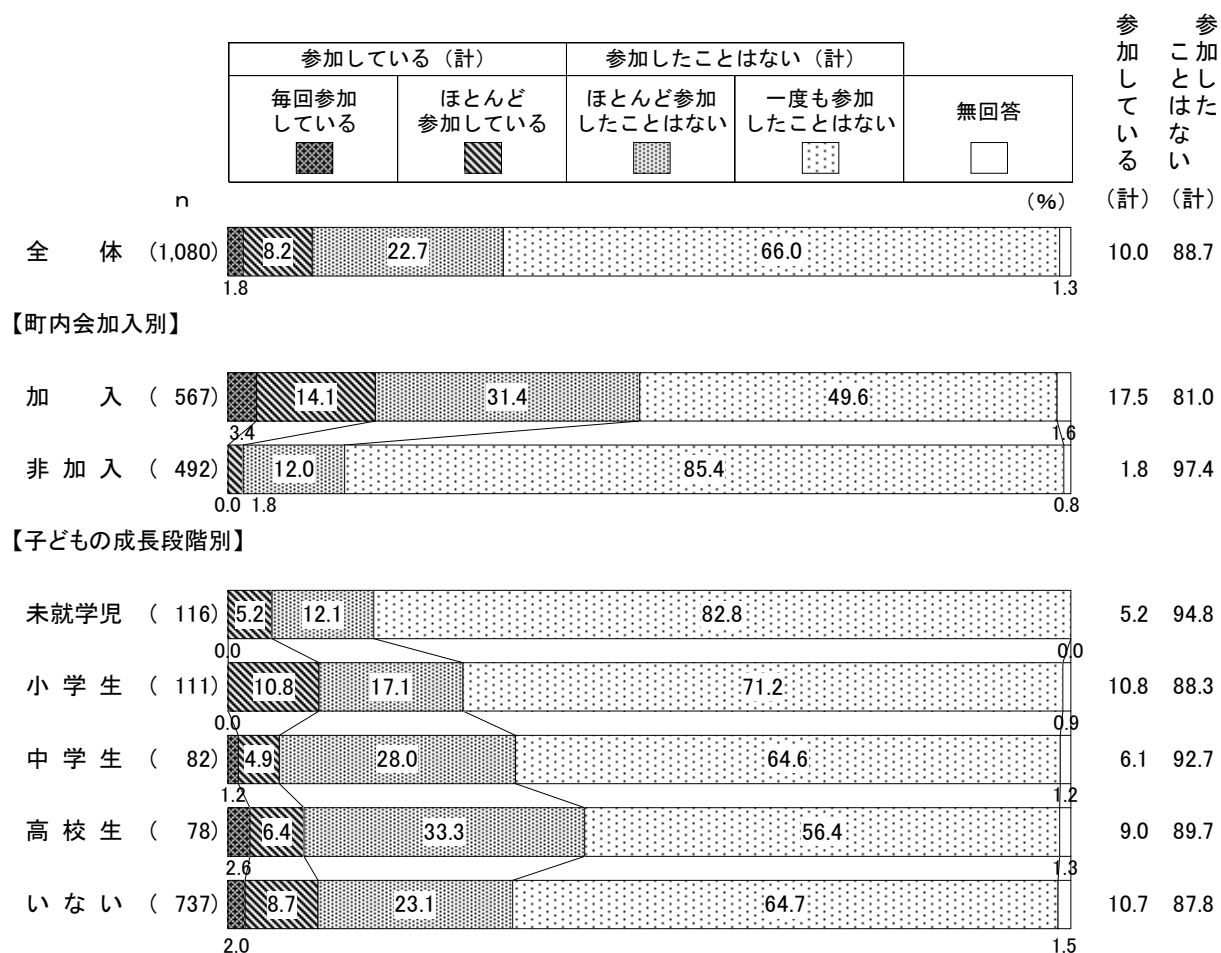
図3-16 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（職業別、居住年数別）



職業別にみると、『参加している（計）』は自営業主（20.4%）で2割と高くなっている。一方、『参加したことはない（計）』は学生（97.1%）と勤め（全日）（93.0%）で9割台と高くなっている。

居住年数別にみると、『参加している（計）』は20年以上（15.5%）で1割半ばとなっている。一方、『参加したことはない（計）』は1年未満（98.1%）と3年～5年未満（97.5%）で10割近くと高くなっている。（図3-16）

図 3-17 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（町内会加入別、子どもの成長段階別）



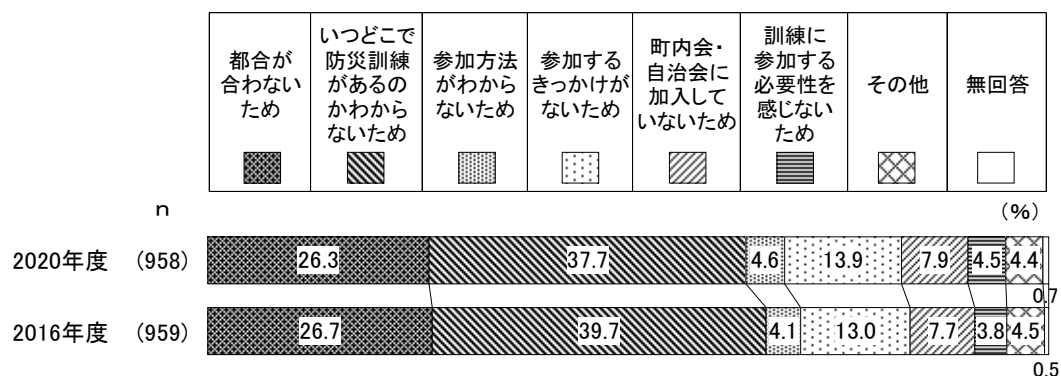
町内会加入別にみると、『参加している（計）』は加入（17.5％）が非加入（1.8％）より 15.7 ポイント高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、『参加したことはない（計）』は未就学児がいる世帯（94.8％）と中学生がいる世帯（92.7％）で 9 割台と高くなっている。（図 3-17）

## （５）町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由

（問 47 で、「ほとんど参加したことはない」「一度も参加したことはない」と回答した方に）  
問 47－１ 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。（１つだけ○）

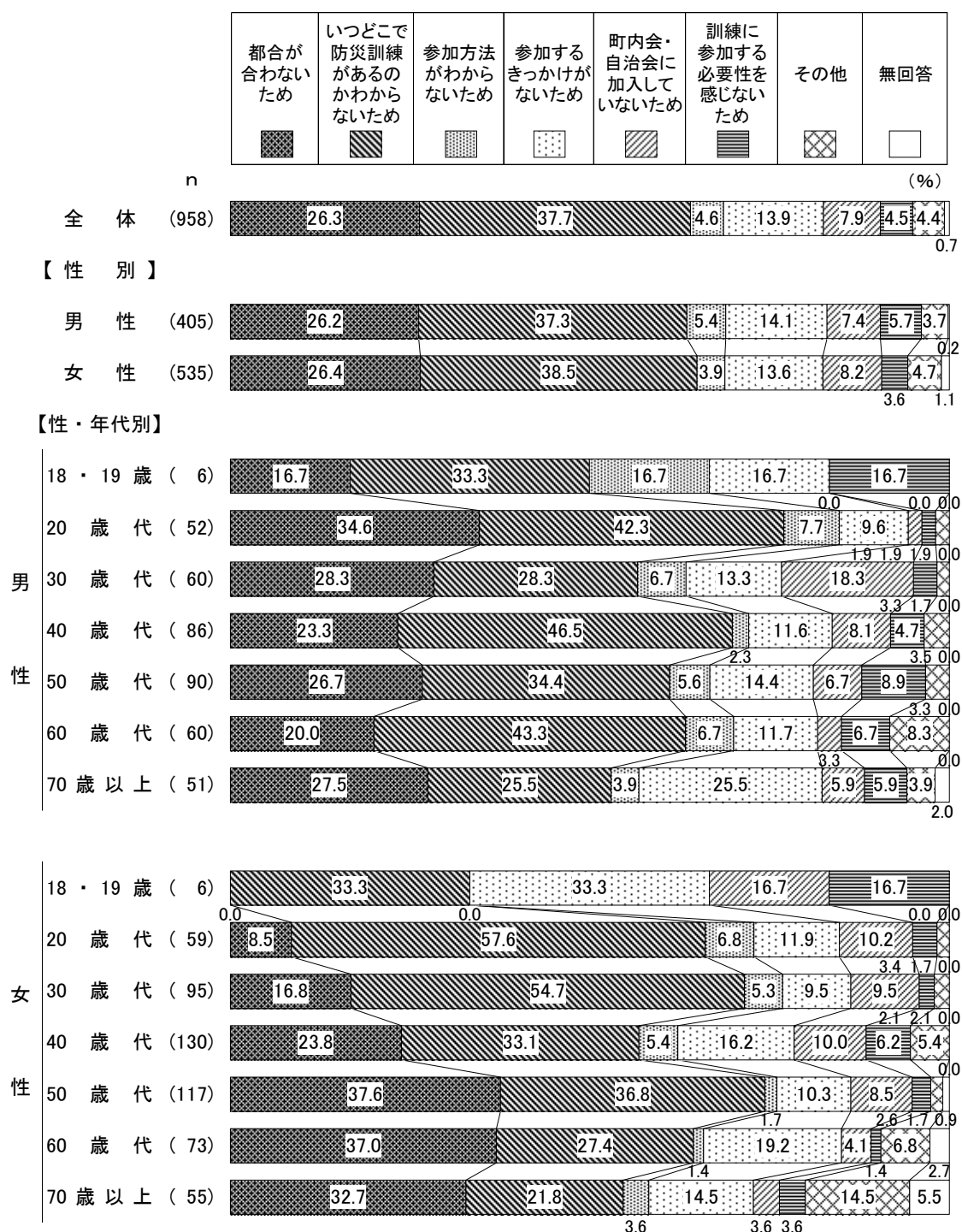
図 3-18 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由



町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由を聞いたところ、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」(37.7%) が４割近くで最も高く、次いで「都合が合わないため」(26.3%)、「参加するきっかけがないため」(13.9%)、「町内会・自治会に加入していないため」(7.9%) となっている。

2016 年度と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-18)

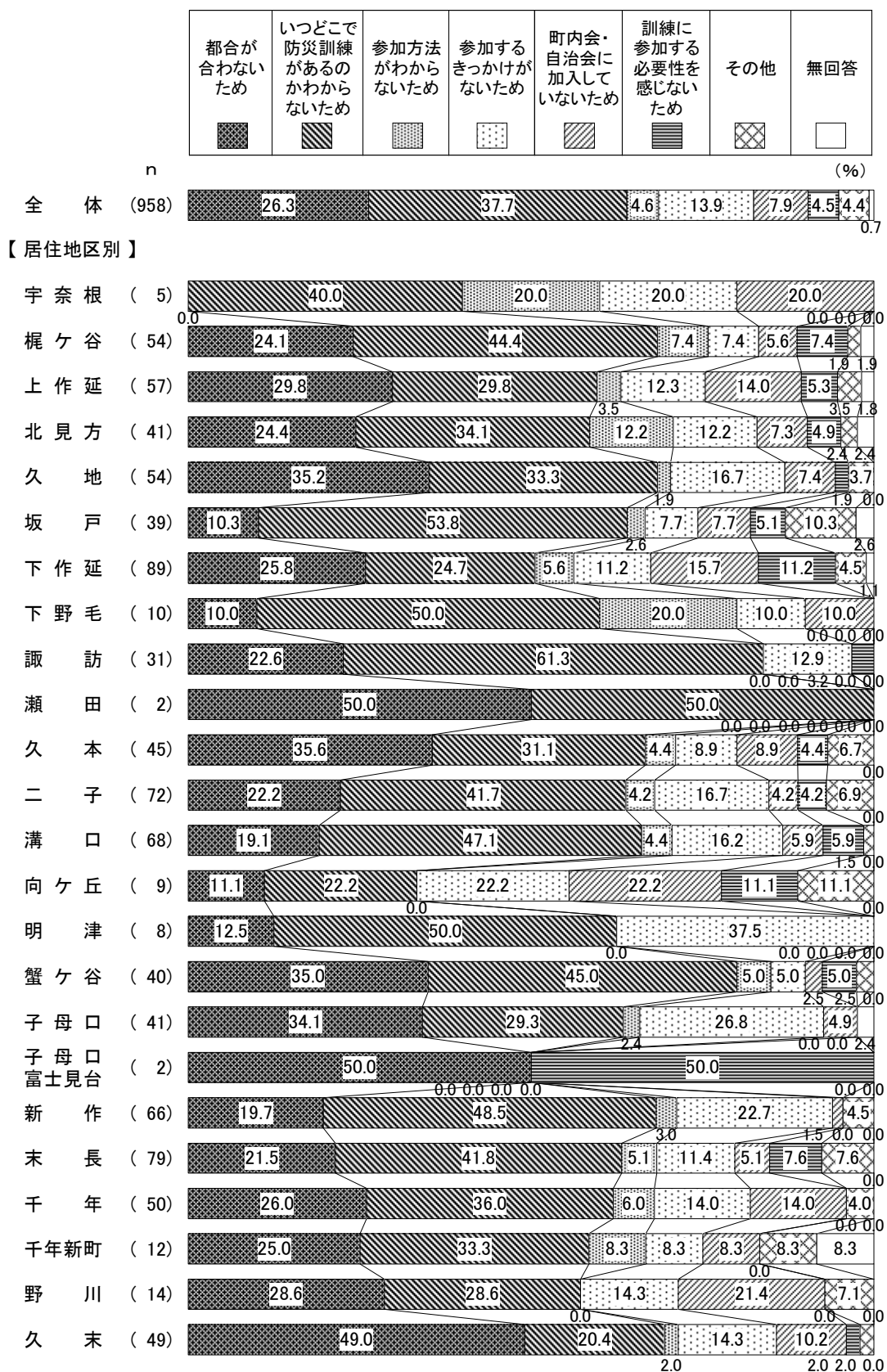
図 3-19 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由（性別、性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

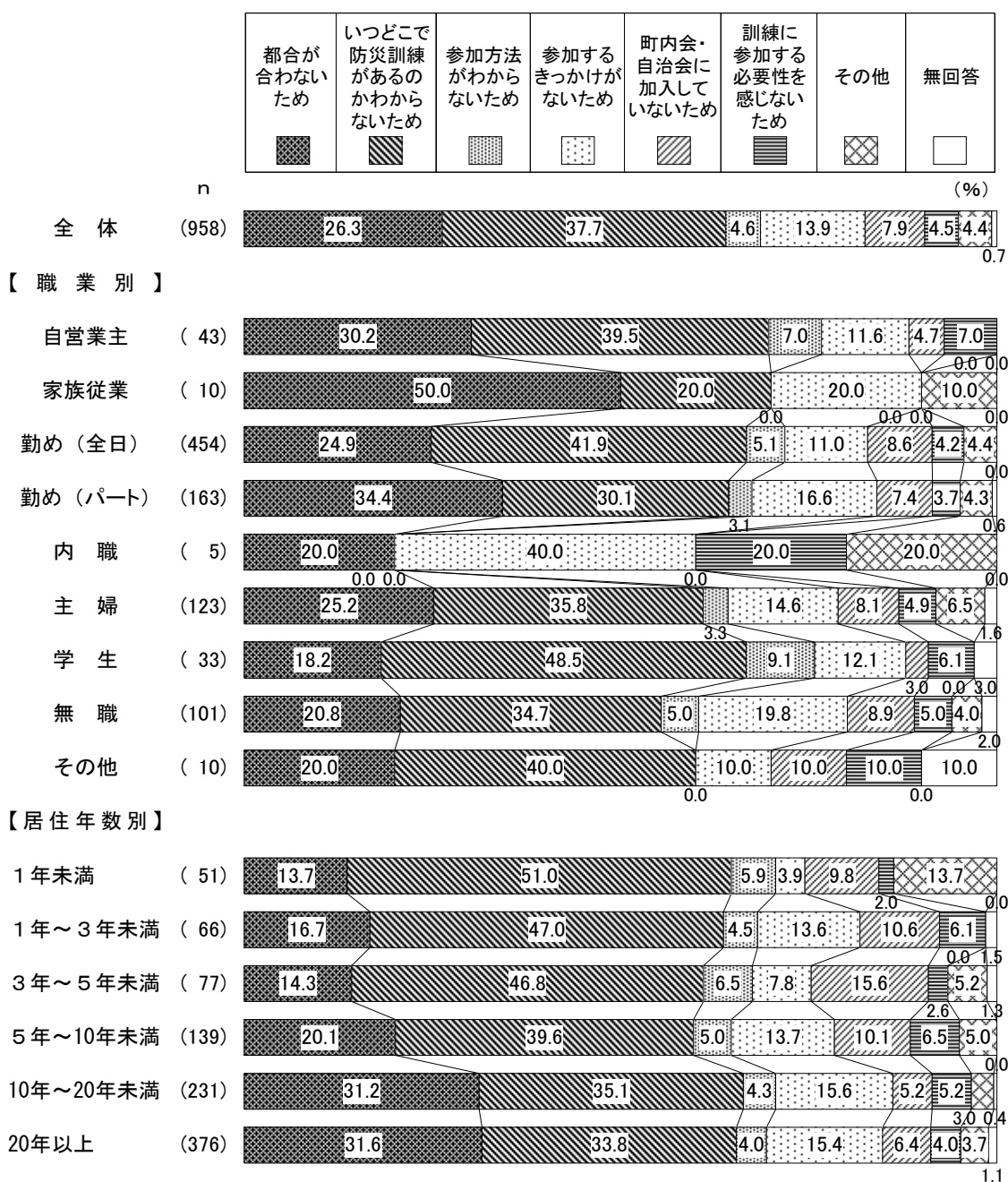
性・年代別にみると、「都合が合わないため」は女性 50 歳代 (37.6%) と女性 60 歳代 (37.0%) で 4 割近くと高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は女性 20 歳代 (57.6%) で 6 割近くと高くなっている。「参加するきっかけがないため」は男性 70 歳以上 (25.5%) で 2 割半ばと高くなっている。(図 3-19)

図3-20 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由（居住地区別）



居住地区別にみると、「都合が合わないため」は久末（49.0%）で約5割と高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は諏訪（61.3%）で6割を超えて高くなっている。「参加するきっかけがないため」は子母口（26.8%）で3割近くと高くなっている。（図3-20）

図 3-21 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由（職業別、居住年数別）

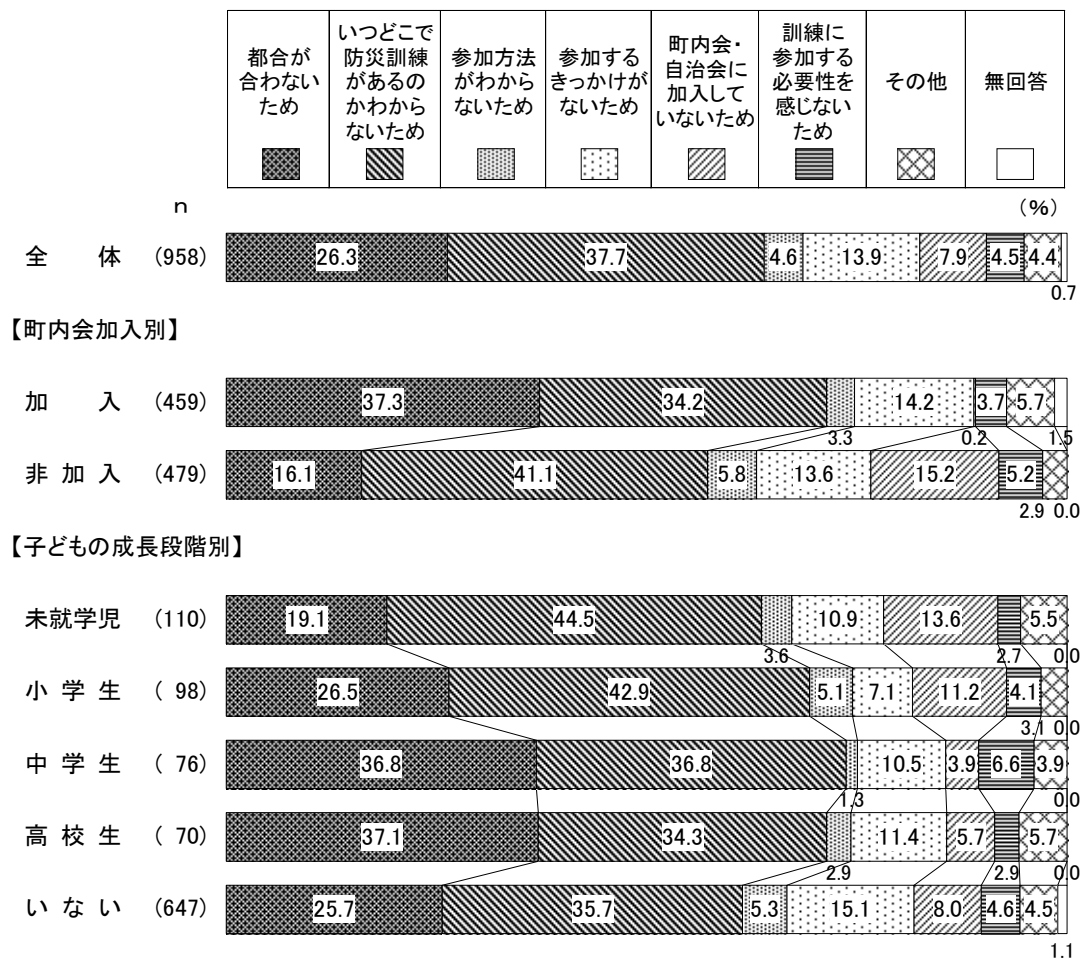


職業別にみると、「都合が合わないため」は勤め（パートタイム）（34.4%）で3割半ばと高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は学生（48.5%）で5割近くと高くなっている。

居住年数別にみると、「都合が合わないため」は10年～20年未満（31.2%）と20年以上（31.6%）で3割を超えて高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は居住年数が短くなるほど割合が高くなっており、1年未満（51.0%）で5割を超えて高くなっている。

（図 3-21）

図 3-22 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由  
(町内会加入別、子どもの成長段階別)



町内会加入別にみると、「都合が合わないため」は加入（37.3%）が非加入（16.1%）より 21.2 ポイント高くなっている。一方、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は非加入（41.1%）が加入（34.2%）より 6.9 ポイント高くなっている。

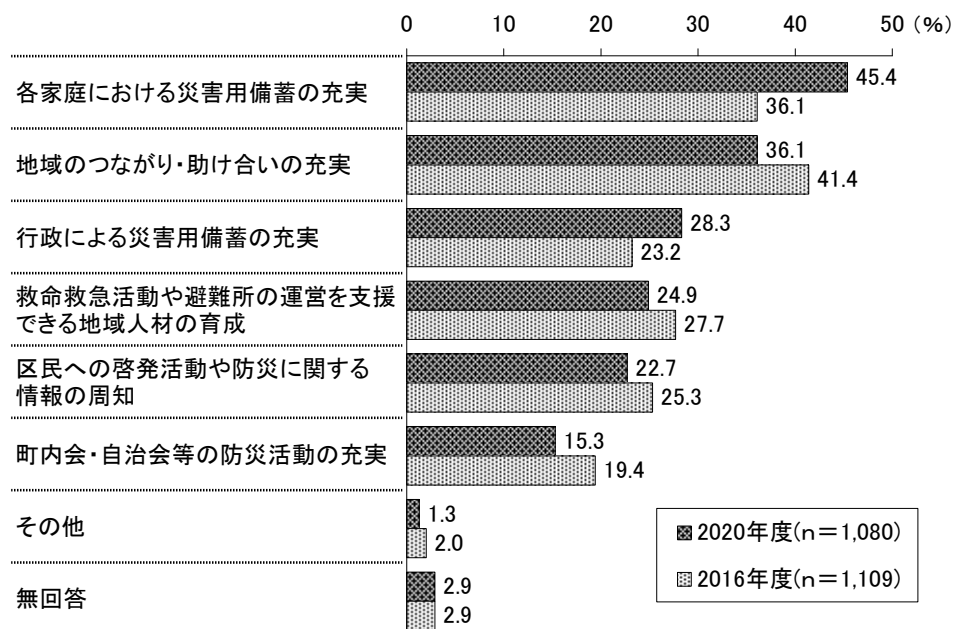
子どもの成長段階別にみると、「都合が合わないため」は高校生がいる世帯（37.1%）と中学生がいる世帯（36.8%）で 4 割近くと高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は未就学児がいる世帯（44.5%）で 4 割半ばと高くなっている。（図 3-22）



## （６）防災力を高めるために必要なこと

問 48 地域の防災力を高めるには、何が大切だと思いますか。（２つまで○）

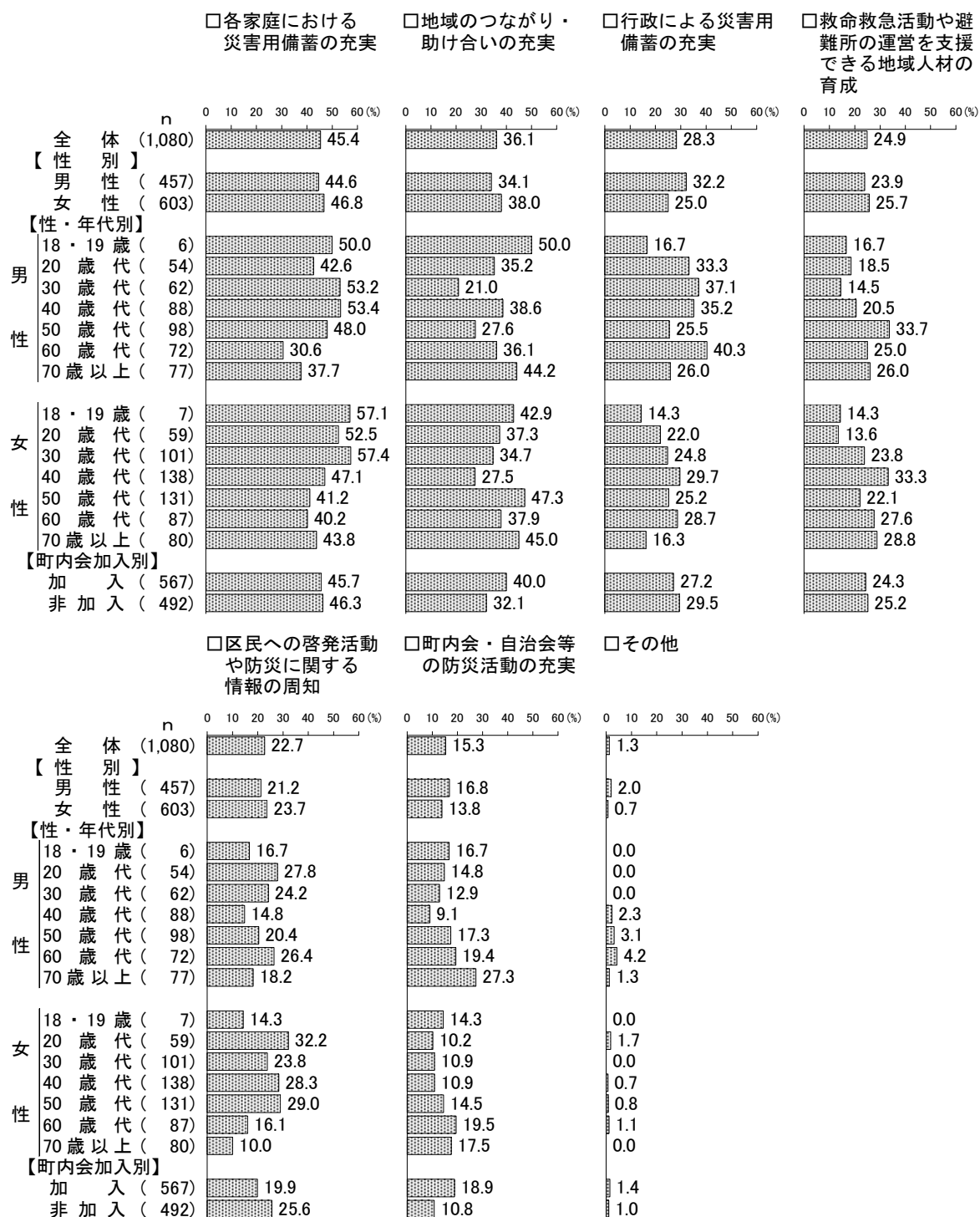
図 3-23 防災力を高めるために必要なこと



防災力を高めるために大切だと思うことを聞いたところ、「各家庭における災害用備蓄の充実」（45.4%）が４割半ばで最も高く、次いで「地域のつながり・助け合いの充実」（36.1%）、「行政による災害用備蓄の充実」（28.3%）、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」（24.9%）となっている。

2016年度と比較すると、「各家庭における災害用備蓄の充実」は9.3ポイント、「行政による災害用備蓄の充実」は5.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「地域のつながり・助け合いの充実」は5.3ポイント、「町内会・自治会等の防災活動の充実」は4.1ポイント、それぞれ減少している。（図3-23）

図3-24 防災力を高めるために必要なこと（性別、性・年代別、町内会加入別）



性別にみると、「行政による災害用備蓄の充実」は男性（32.2%）が女性（25.0%）より 7.2 ポイント高くなっている。一方、「地域のつながり・助け合いの充実」は女性（38.0%）が男性（34.1%）より 3.9 ポイント高くなっている。

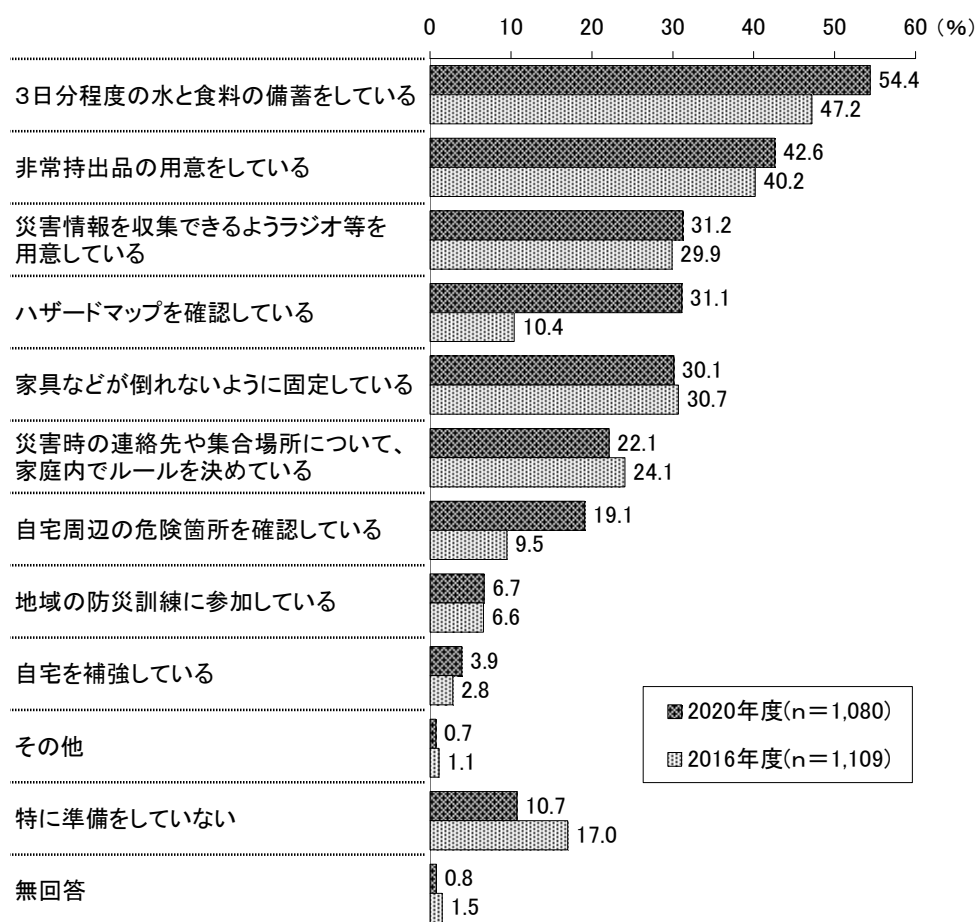
性・年代別にみると、「各家庭における災害用備蓄の充実」は女性 30 歳代（57.4%）で 6 割近くと高くなっている。「地域のつながり・助け合いの充実」は女性 50 歳代（47.3%）で 5 割近くと高くなっている。「行政による災害用備蓄の充実」は男性 60 歳代（40.3%）で 4 割と高くなっている。

町内会加入別にみると、「町内会・自治会等の防災活動の充実」は加入（18.9%）が非加入（10.8%）より 8.1 ポイント、「地域のつながり・助け合いの充実」は加入（40.0%）が非加入（32.1%）より 7.9 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」は非加入（25.6%）が加入（19.9%）より 5.7 ポイント高くなっている。（図3-24）

## (7) 大規模災害発生への備え

問 49 あなたの家庭では、普段から大規模災害の発生に備え、どのようなことをしていますか。(あてはまるもの全てに○)

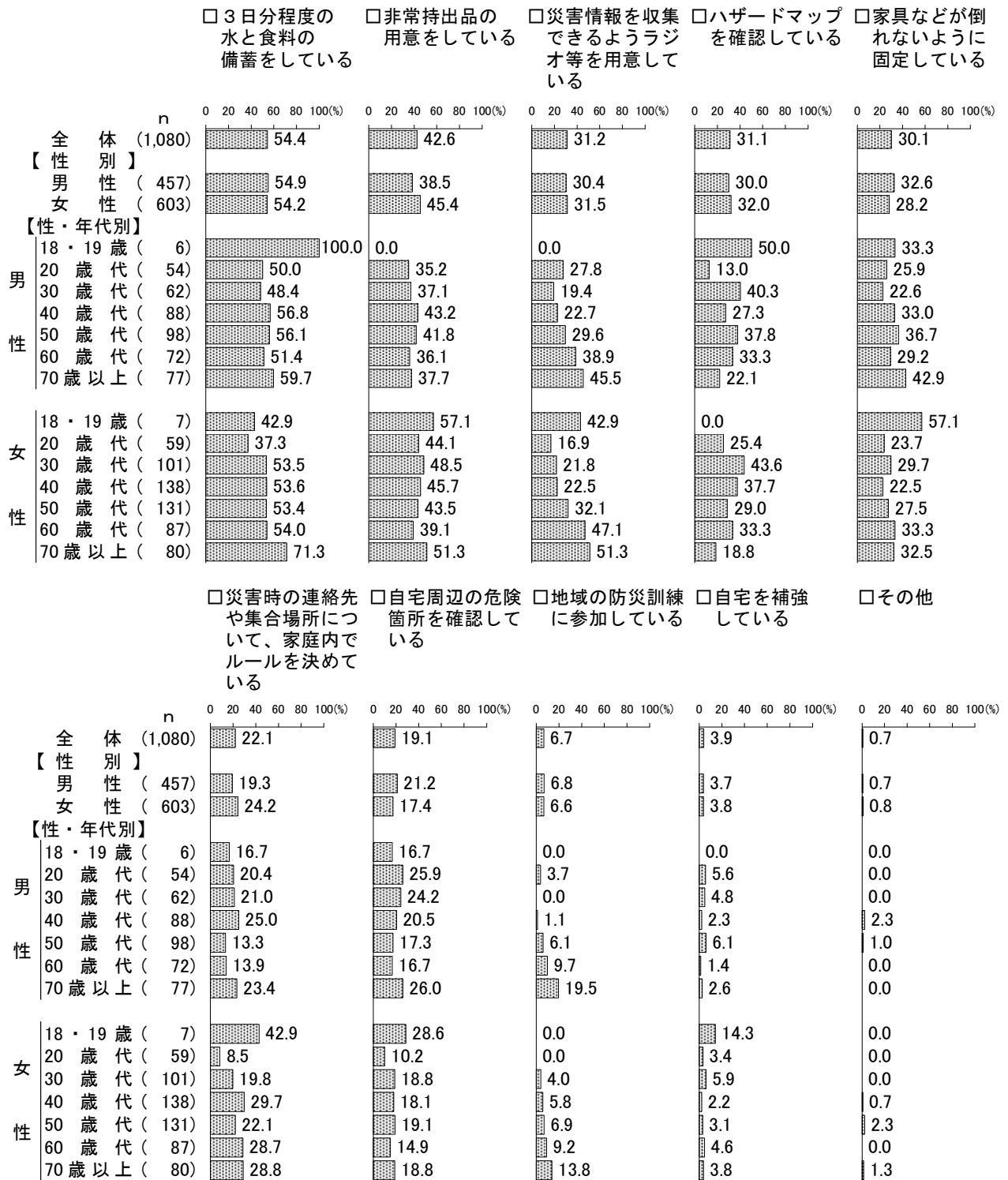
図 3-25 大規模災害発生への備え



大規模災害発生への備えを聞いたところ、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」(54.4%)が5割半ばで最も高く、次いで「非常持出品の用意をしている」(42.6%)、「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」(31.2%)、「ハザードマップを確認している」(31.1%)となっている。

2016年度と比較すると、「ハザードマップを確認している」は20.7ポイント、「自宅周辺の危険箇所を確認している」は9.6ポイント、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」は7.2ポイント、それぞれ増加している。(図3-25)

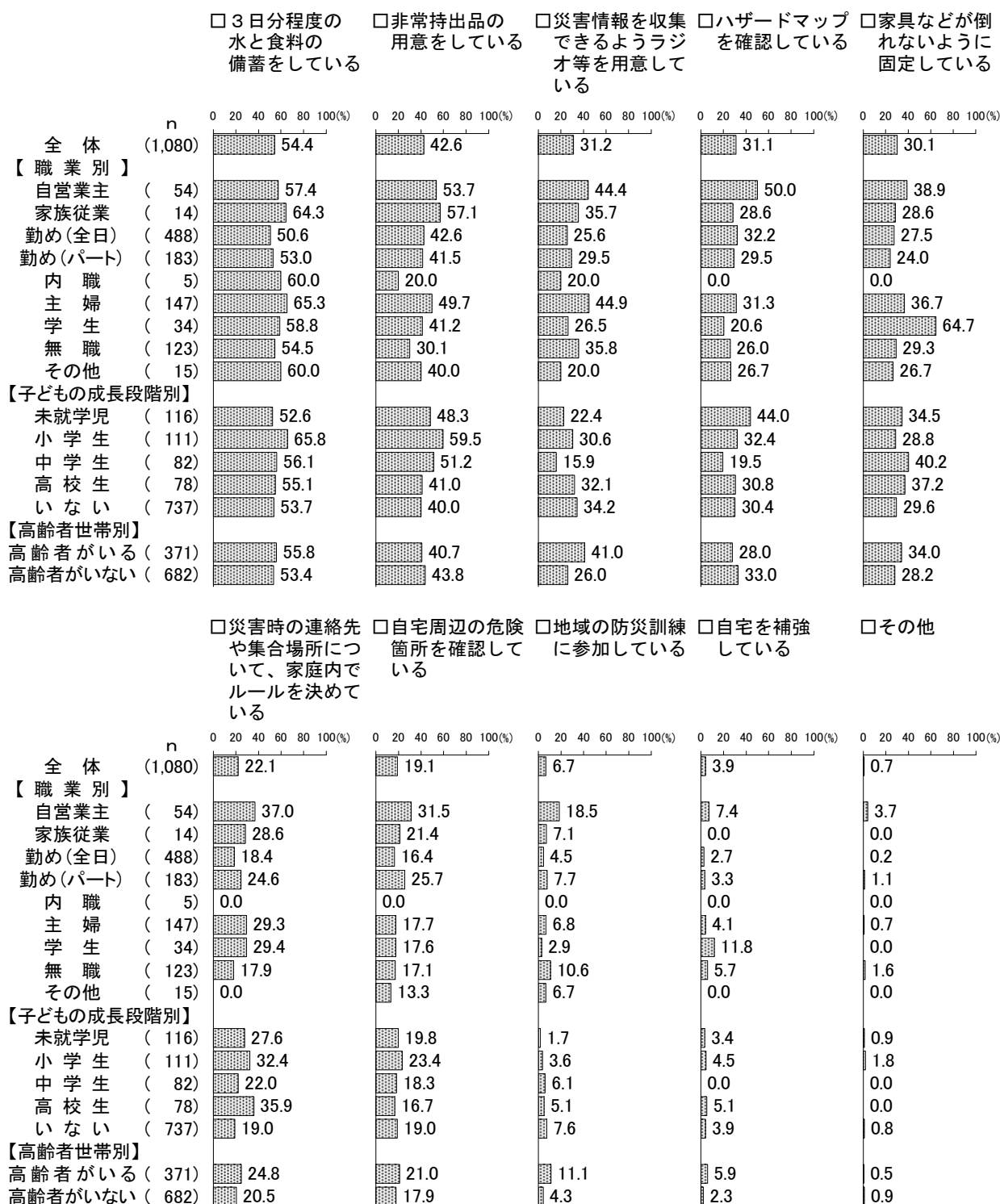
図 3-26 大規模災害発生への備え（性別、性・年代別）



性別にみると、「非常持出品の用意をしている」は女性（45.4%）が男性（38.5%）より 6.9 ポイント高くなっている。一方、「家具などが倒れないように固定している」は男性（32.6%）が女性（28.2%）より 4.4 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「3 日分程度の水と食料の備蓄をしている」は女性 70 歳以上（71.3%）で 7 割を超えて高くなっている。「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」は女性 70 歳以上（51.3%）で 5 割を超えて高くなっている。（図 3-26）

図3-27 大規模災害発生への備え（職業別、子どもの成長段階別、高齢者世帯別）

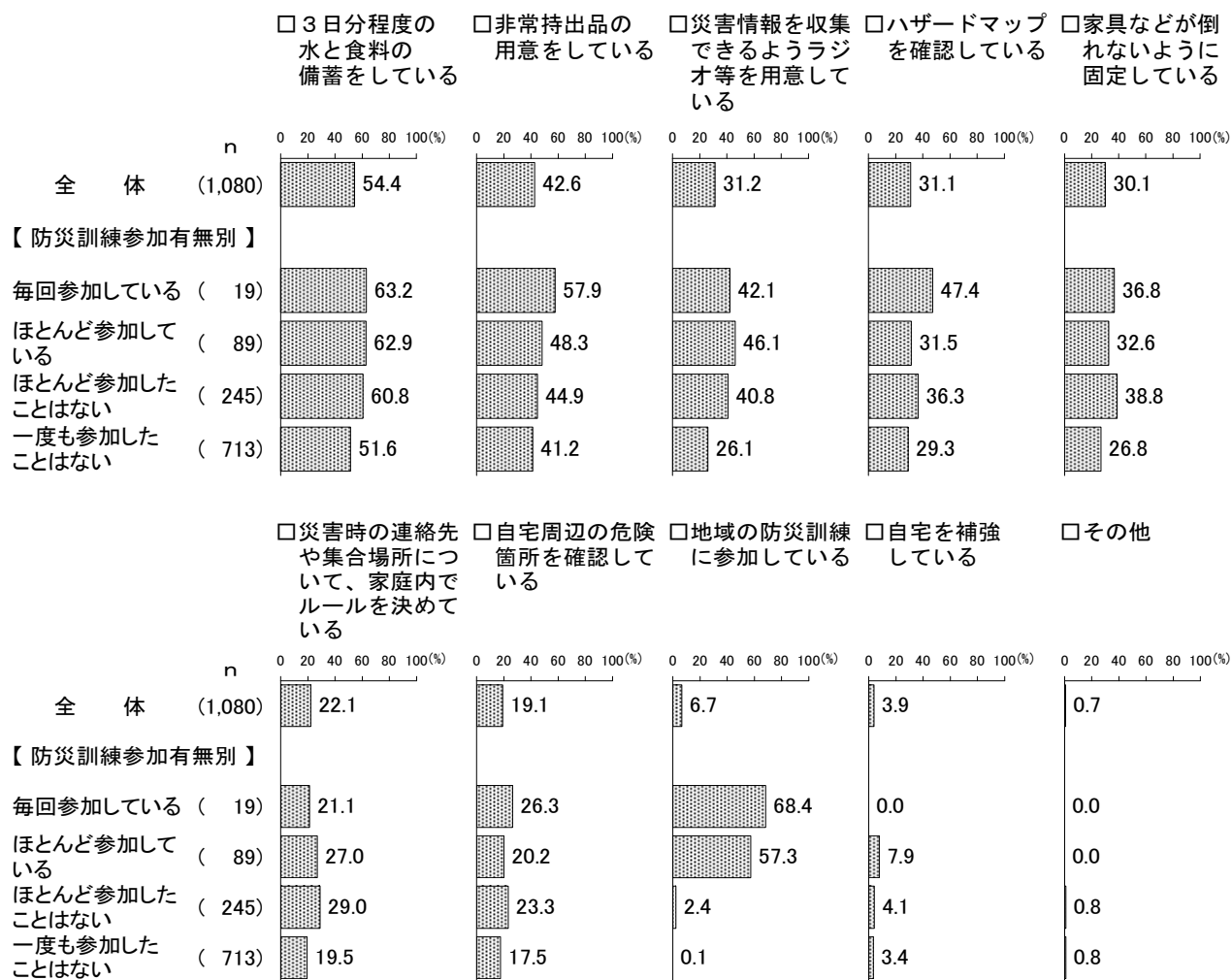


職業別にみると、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」は主婦(仕事はしていない)(65.3%)で6割半ばと高くなっている。「家具などが倒れないように固定している」は学生(64.7%)で6割半ばと高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」は小学生がいる世帯(65.8%)で6割半ばと高くなっている。「非常持出品の用意をしている」は小学生がいる世帯(59.5%)で6割と高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」は高齢者がいる世帯(41.0%)が高齢者がいない世帯(26.0%)より15.0ポイント高くなっている。(図3-27)

図 3-28 大規模災害発生への備え（町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別）



町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別にみると、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」と「非常持出品の用意をしている」は参加頻度が高くなるほど割合が高くなっている。

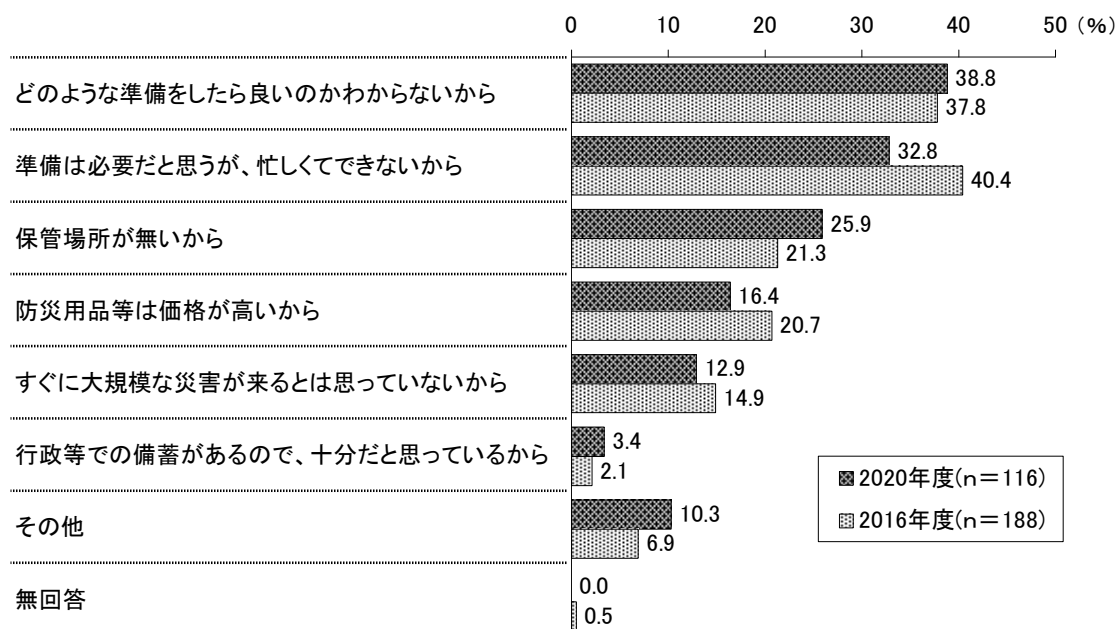
(図 3-28)

## （８）大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由

（問 49 で、「特に準備をしていない」と回答した方に伺います）

問 49－１ 特に準備していない主な理由は次のうちどれですか。（２つまで○）

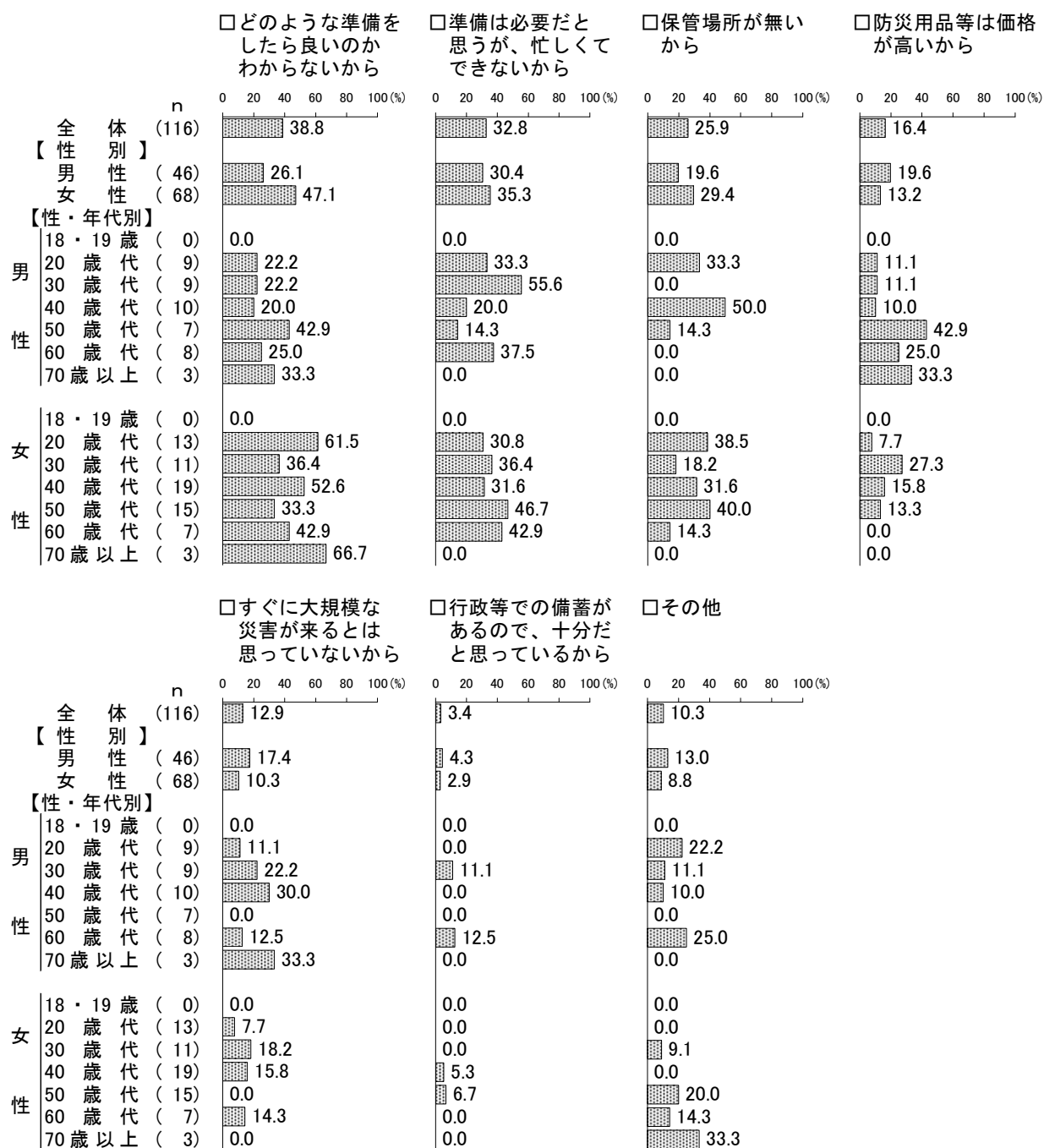
図 3-29 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由



大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由を聞いたところ、「どのような準備をしたら良いのかわからないから」（38.8%）が４割近くで最も高く、次いで「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」（32.8%）、「保管場所が無いから」（25.9%）、「防災用品等は価格が高いから」（16.4%）となっている。

2016年度と比較すると、「保管場所が無いから」は4.6ポイント増加している。一方、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」は7.6ポイント、「防災用品等は価格が高いから」は4.3ポイント、それぞれ減少している。（図 3-29）

図 3-30 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由（性別、性・年代別）

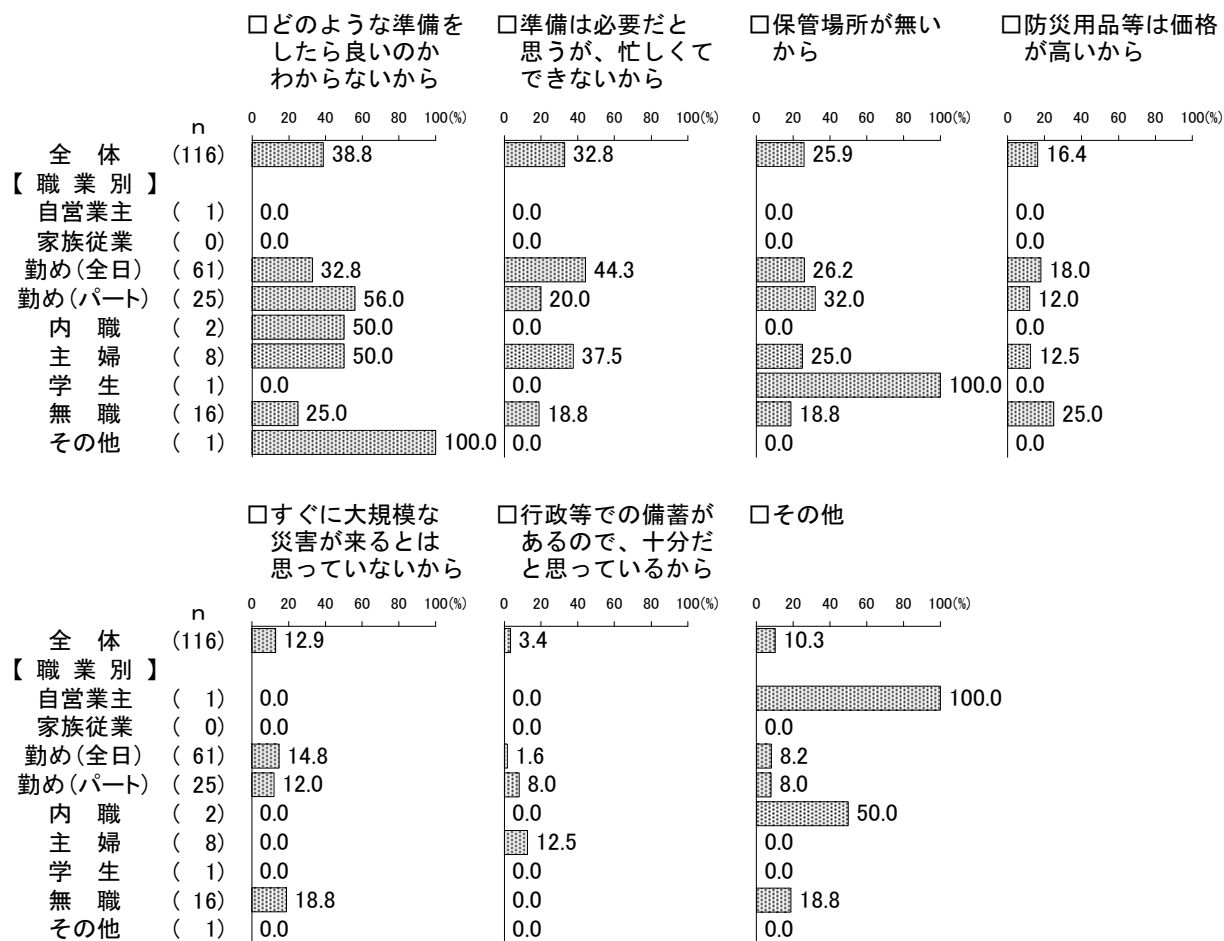


性別にみると、「どのような準備をしたら良いのかわからないから」は女性（47.1%）が男性（26.1%）より 21.0 ポイント、「保管場所が無いから」は女性（29.4%）が男性（19.6%）より 9.8 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「すぐに大規模な災害が来るとは思っていないから」は男性（17.4%）が女性（10.3%）より 7.1 ポイント、「防災用品等は価格が高いから」は男性（19.6%）が女性（13.2%）より 6.4 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別は、基数が少ないため参考に図示する。（図 3-30）

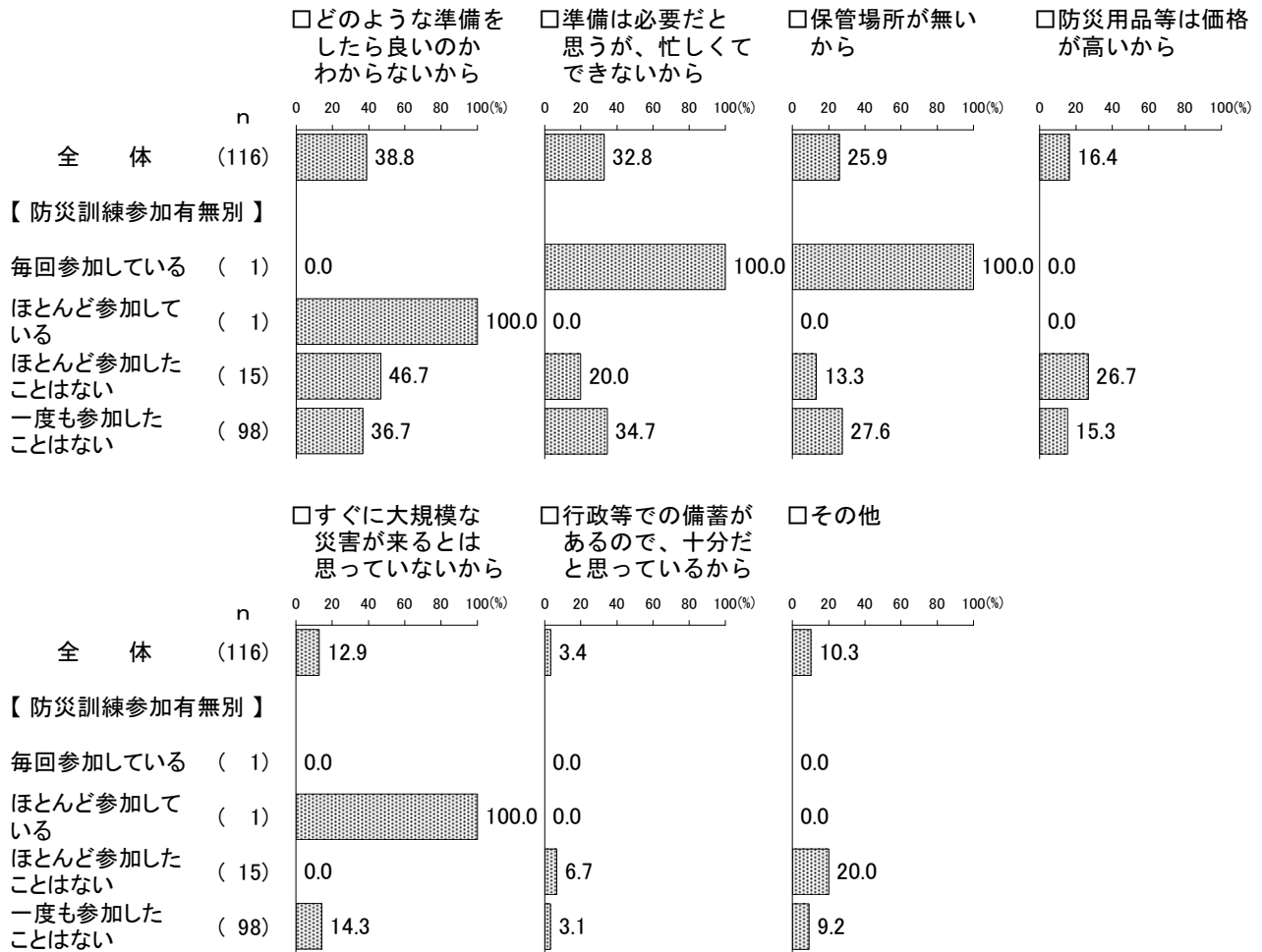


図3-31 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由（職業別）



職業別にみると、「どのような準備をしたら良いかわからないから」は勤め（パートタイム）（56.0%）で5割半ばと高くなっている。「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」は勤め（全日）（44.3%）で4割半ばと高くなっている。（図3-31）

図 3-32 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由  
(町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別)



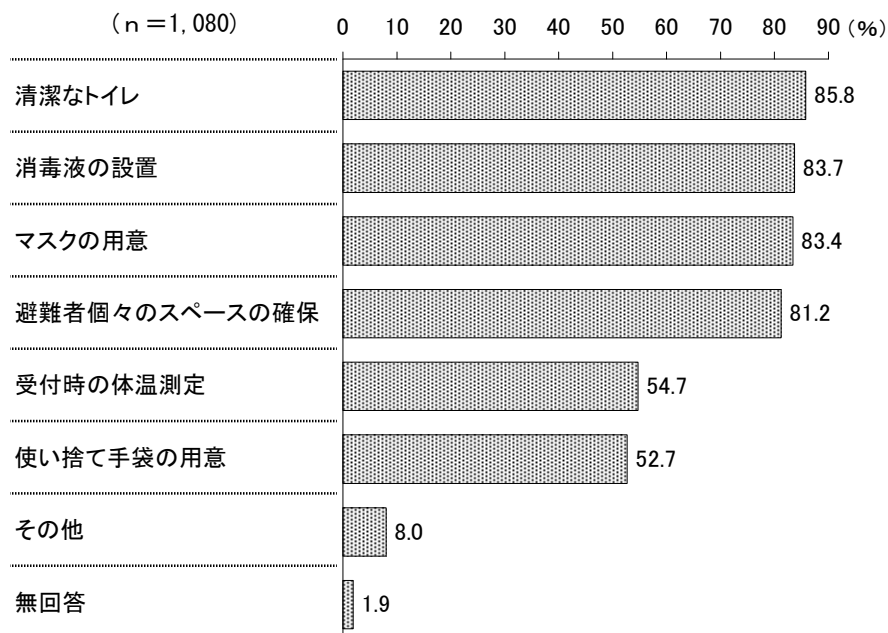
町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別は、基数が少ないため参考に図示する。(図 3-32)

(9) 避難所における感染症対策（2020年度新設）

問 50 避難所における感染症対策として、どのようなことが必要だと思いますか。

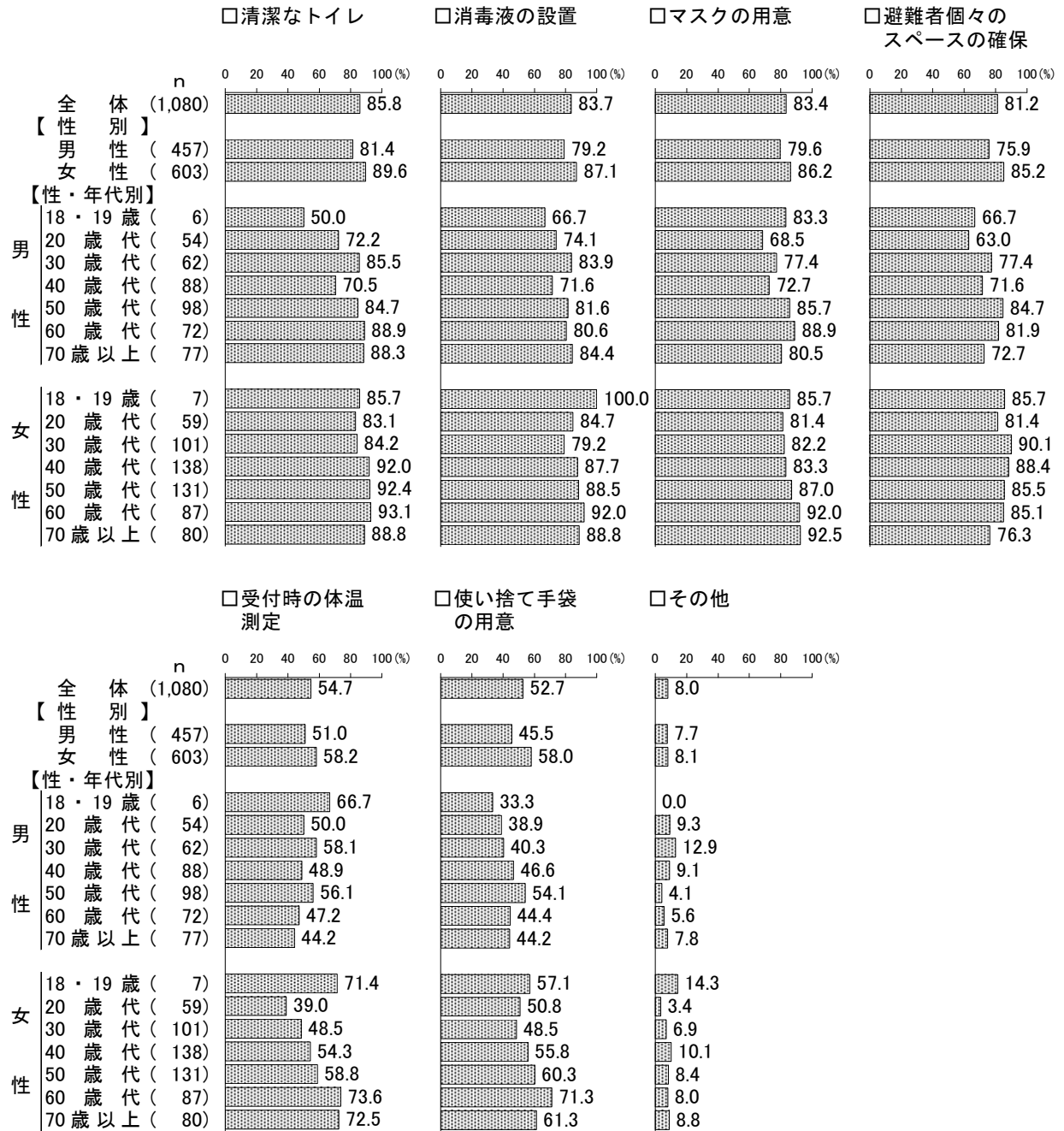
（あてはまるもの全てに○）

図 3-33 避難所における感染症対策



避難所における感染症対策を聞いたところ、「清潔なトイレ」（85.8%）が8割半ばで最も高く、次いで「消毒液の設置」（83.7%）、「マスクの用意」（83.4%）、「避難者個々のスペースの確保」（81.2%）となっている。（図 3-33）

図 3-34 避難所における感染症対策（性別、性・年代別）



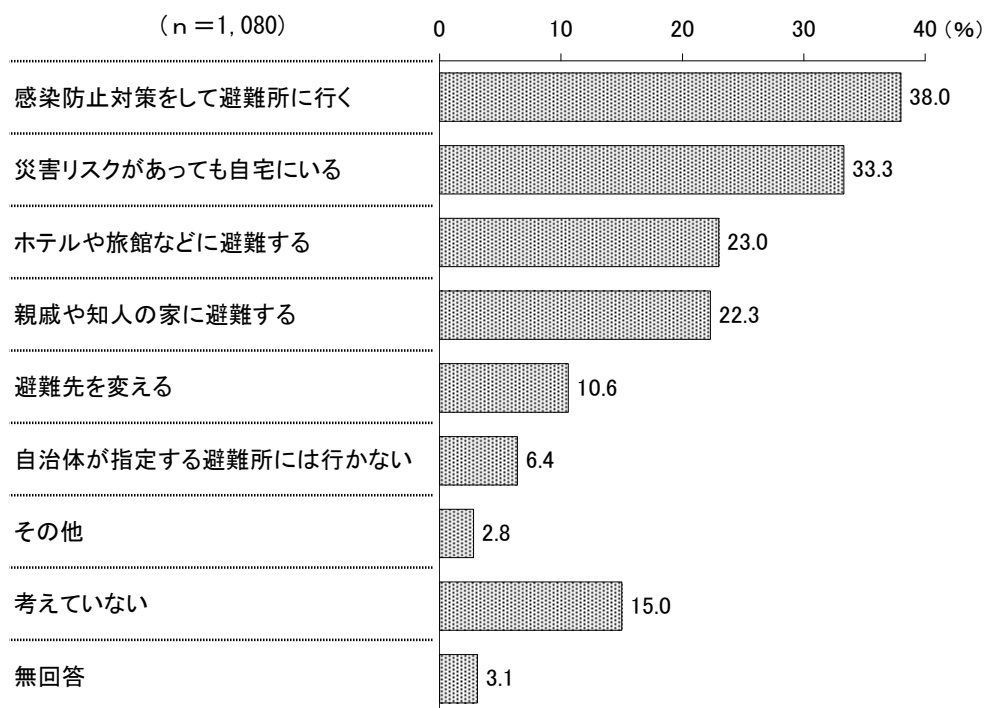
性別にみると、「使い捨て手袋の用意」は女性（58.0%）が男性（45.5%）より 12.5 ポイント、「避難者個々のスペースの確保」は女性（85.2%）が男性（75.9%）より 9.3 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「清潔なトイレ」は女性 40 歳代（92.0%）、女性 50 歳代（92.4%）、女性 60 歳代（93.1%）で 9 割を超えて高くなっている。「消毒液の設置」は女性 60 歳代（92.0%）で 9 割を超えて高くなっている。「マスクの用意」は女性 60 歳代（92.0%）と女性 70 歳以上（92.5%）で 9 割を超えて高くなっている。（図 3-34）

(10) 避難方法について検討していること（2020年度新設）

問 51 避難所における感染症拡大防止のため避難方法について検討していることはありますか。（あてはまるもの全てに○）

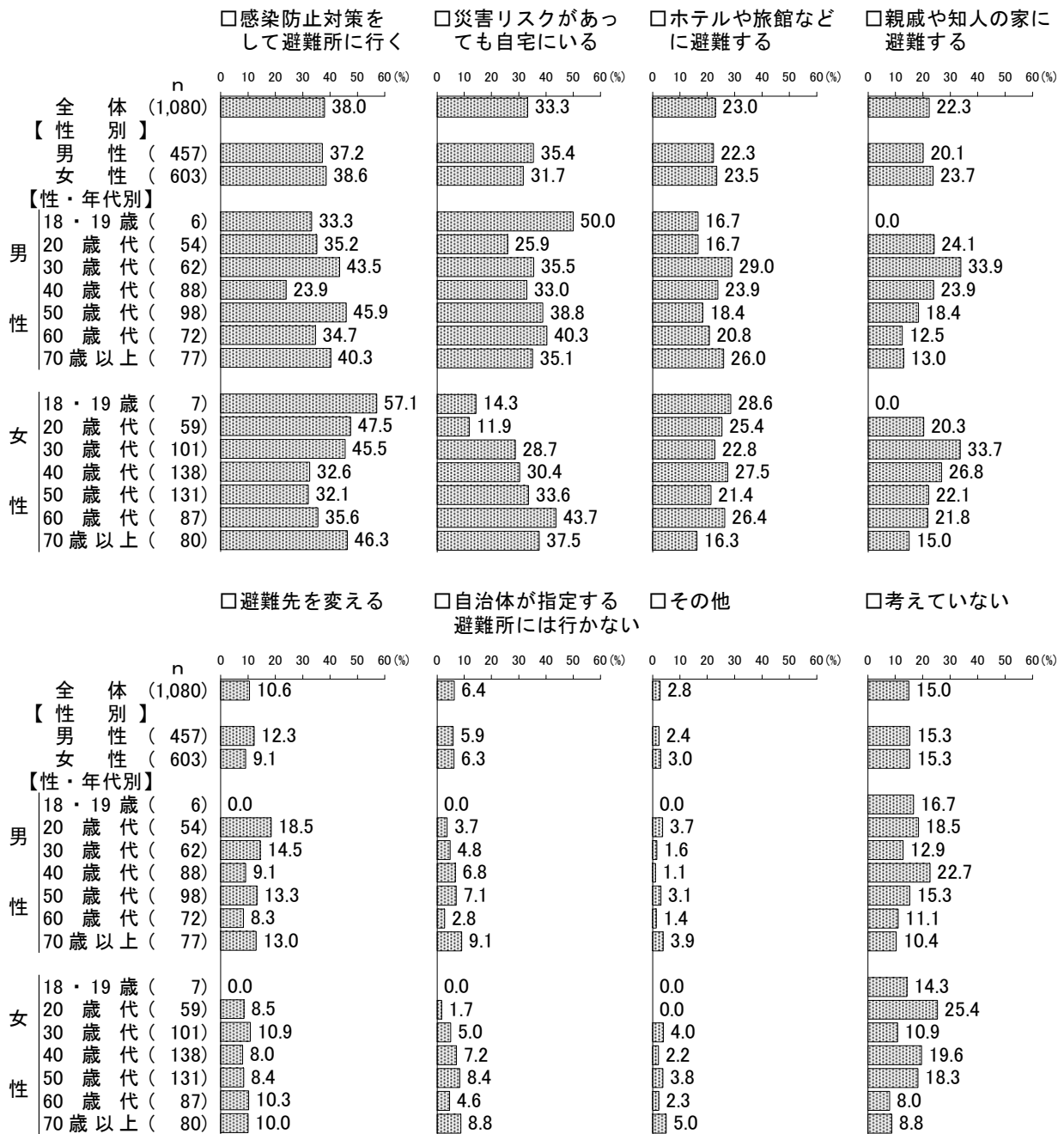
図 3-35 避難方法について検討していること



避難方法について検討していることを聞いたところ、「感染防止対策をして避難所に行く」（38.0%）が4割近くで最も高く、次いで「災害リスクがあっても自宅にいる」（33.3%）、「ホテルや旅館などに避難する」（23.0%）、「親戚や知人の家に避難する」（22.3%）となっている。

（図 3-35）

図3-36 避難方法について検討していること（性別、性・年代別）



性別にみると、「災害リスクがあっても自宅にいる」は男性（35.4%）が女性（31.7%）より3.7ポイント高くなっている。一方、「親戚や知人の家に避難する」は女性（23.7%）が男性（20.1%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「感染防止対策をして避難所に行く」は女性20歳代（47.5%）で5割近くと高くなっている。「災害リスクがあっても自宅にいる」は女性60歳代（43.7%）で4割を超えて高くなっている。「親戚や知人の家に避難する」は男性30歳代（33.9%）と女性30歳代（33.7%）で3割を超えて高くなっている。（図3-36）

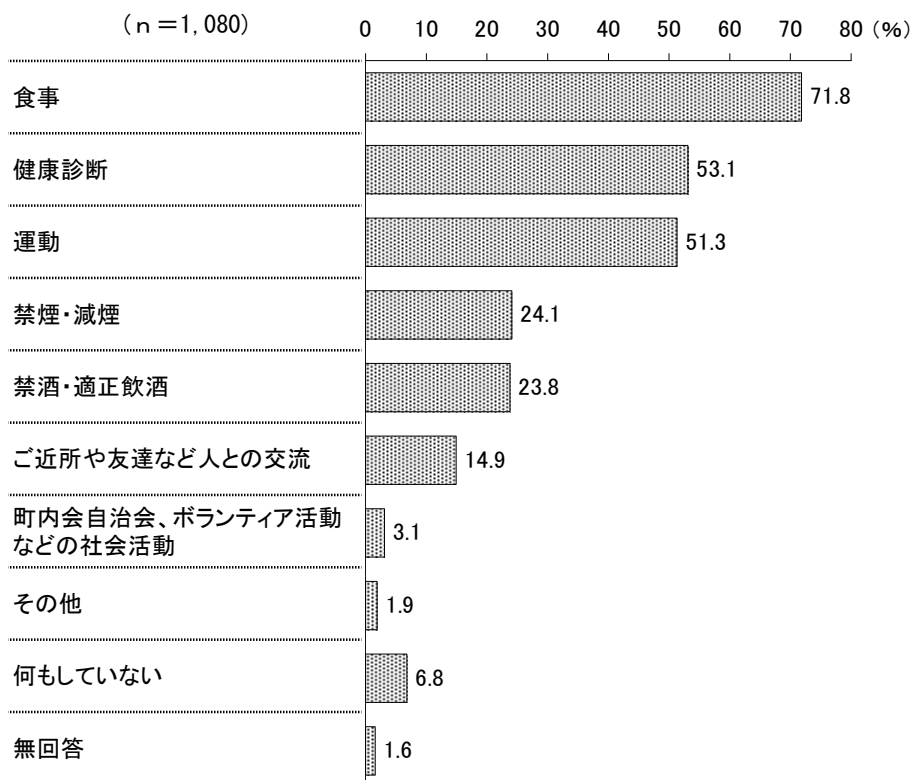
## 4. 自身の健康について

### (1) 健康のために気をつけていること (2020年度新設)

問 52 ご自身の健康のためにどのようなことに気をつけていますか。

(あてはまるもの全てに○)

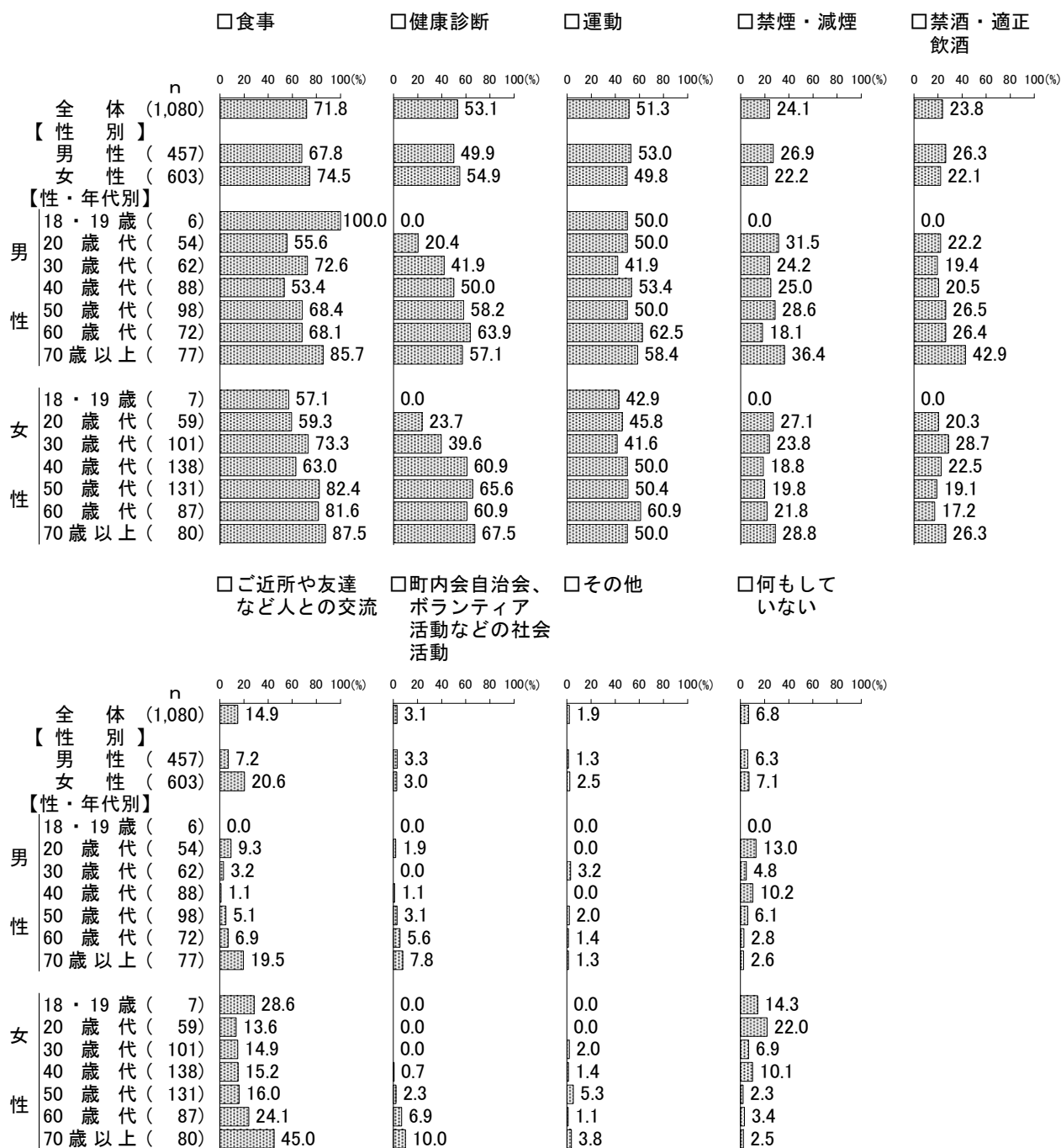
図 4-1 健康のために気をつけていること



健康のために気をつけていることを聞いたところ、「食事」(71.8%)が7割を超えて最も高く、次いで「健康診断」(53.1%)、「運動」(51.3%)、「禁煙・減煙」(24.1%)となっている。

(図 4-1)

図 4-2 健康のために気をつけていること（性別、性・年代別）

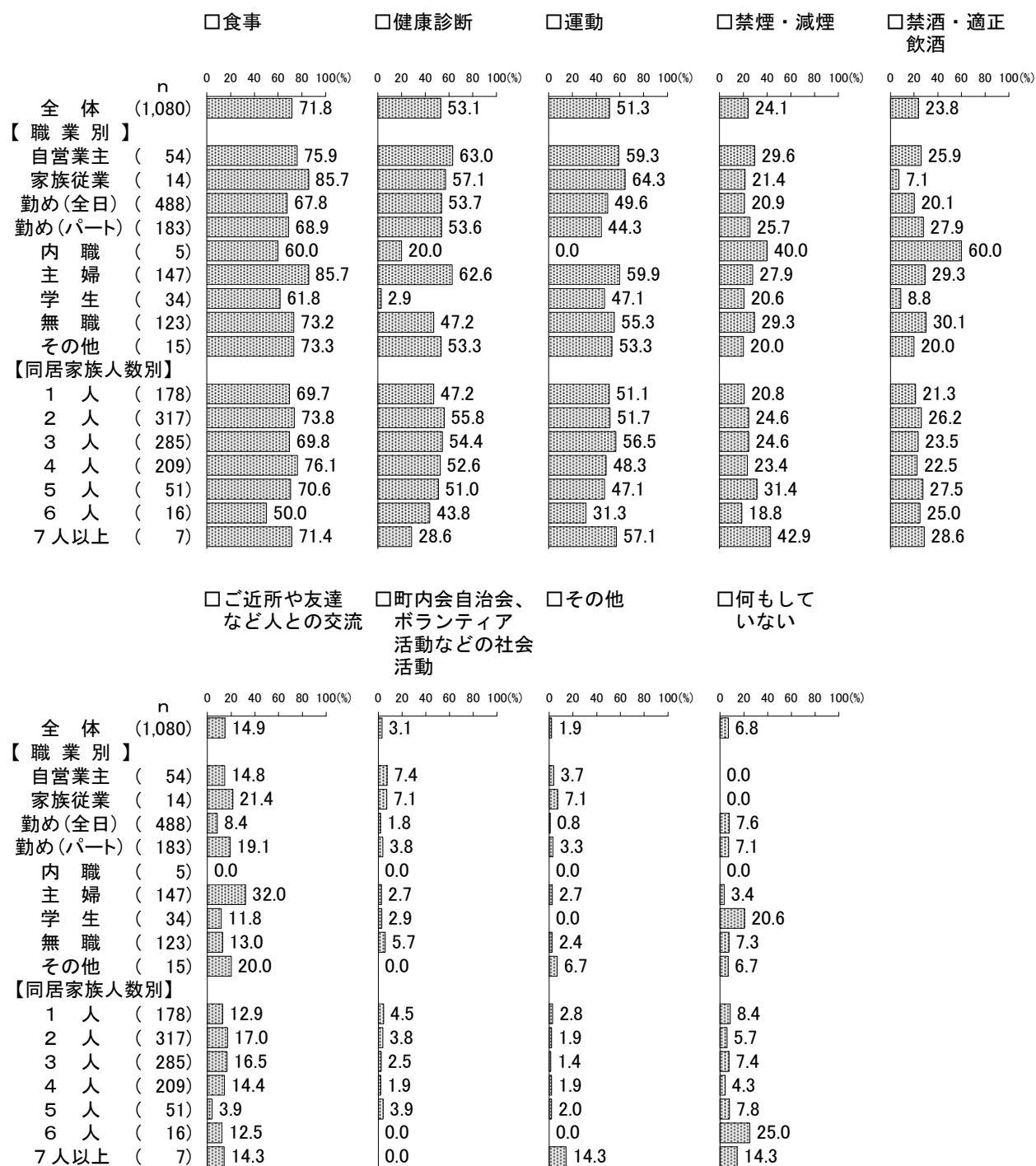


性別にみると、「ご近所や友達など人との交流」は女性（20.6%）が男性（7.2%）より 13.4 ポイント、「食事」は女性（74.5%）が男性（67.8%）より 6.7 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「禁煙・減煙」は男性（26.9%）が女性（22.2%）より 4.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「食事」は女性 70 歳以上（87.5%）で 9 割近くと高くなっている。「健康診断」は女性 70 歳以上（67.5%）で 7 割近くと高くなっている。「運動」は男性 60 歳代（62.5%）と女性 60 歳代（60.9%）で 6 割台と高くなっている。（図 4-2）



図4-3 健康のために気をつけていること（職業別、同居家族人数別）



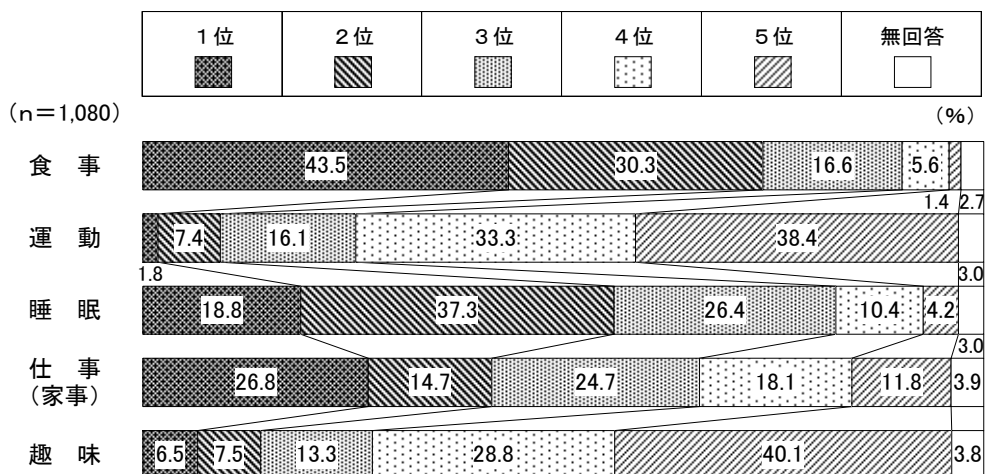
職業別にみると、「食事」は主婦（仕事はしていない）（85.7%）で8割半ばと高くなっている。「健康診断」は自営業主（63.0%）と主婦（仕事はしていない）（62.6%）で6割を超えて高くなっている。「運動」は主婦（仕事はしていない）（59.9%）と自営業主（59.3%）で約6割と高くなっている。

同居家族人数別にみると、「食事」は4人家族（76.1%）で7割半ばと高くなっている。「運動」は3人家族（56.5%）で6割近くと高くなっている。（図4-3）

(2) 食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位（2020年度新設）

問 53 あなたの生活の中で、食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位を記入してください。

図 4-4 食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位

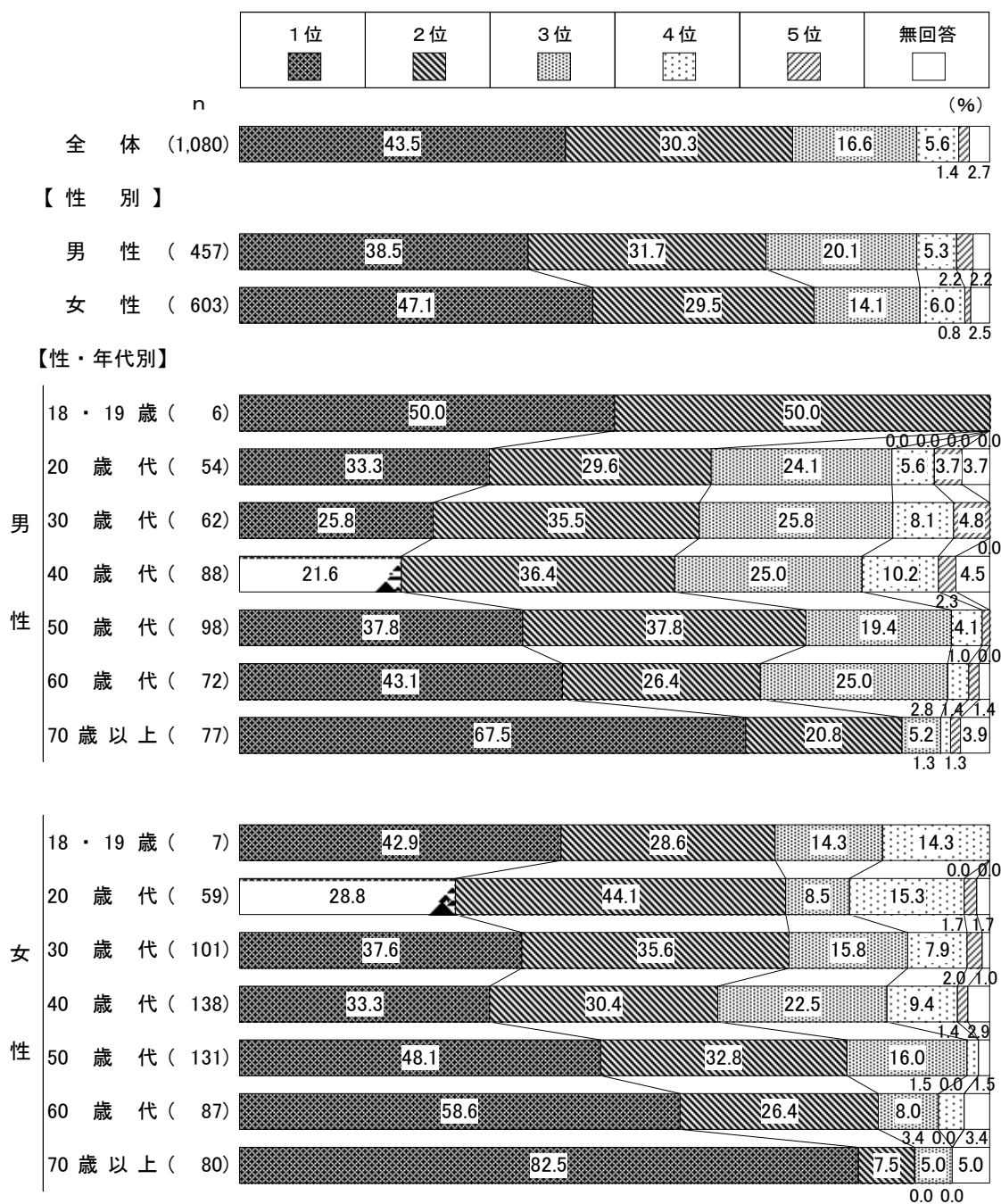


食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位を聞いたところ、1 位では「食事」（43.5%）が 4 割を超えて最も高く、次いで「仕事（家事）」（26.8%）、「睡眠」（18.8%）となっている。

一方、5 位では「趣味」（40.1%）が 4 割で最も高く、次いで「運動」（38.4%）、「仕事（家事）」（11.8%）となっている。（図 4-4）

図 4-5 食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位（性別、性・年代別）

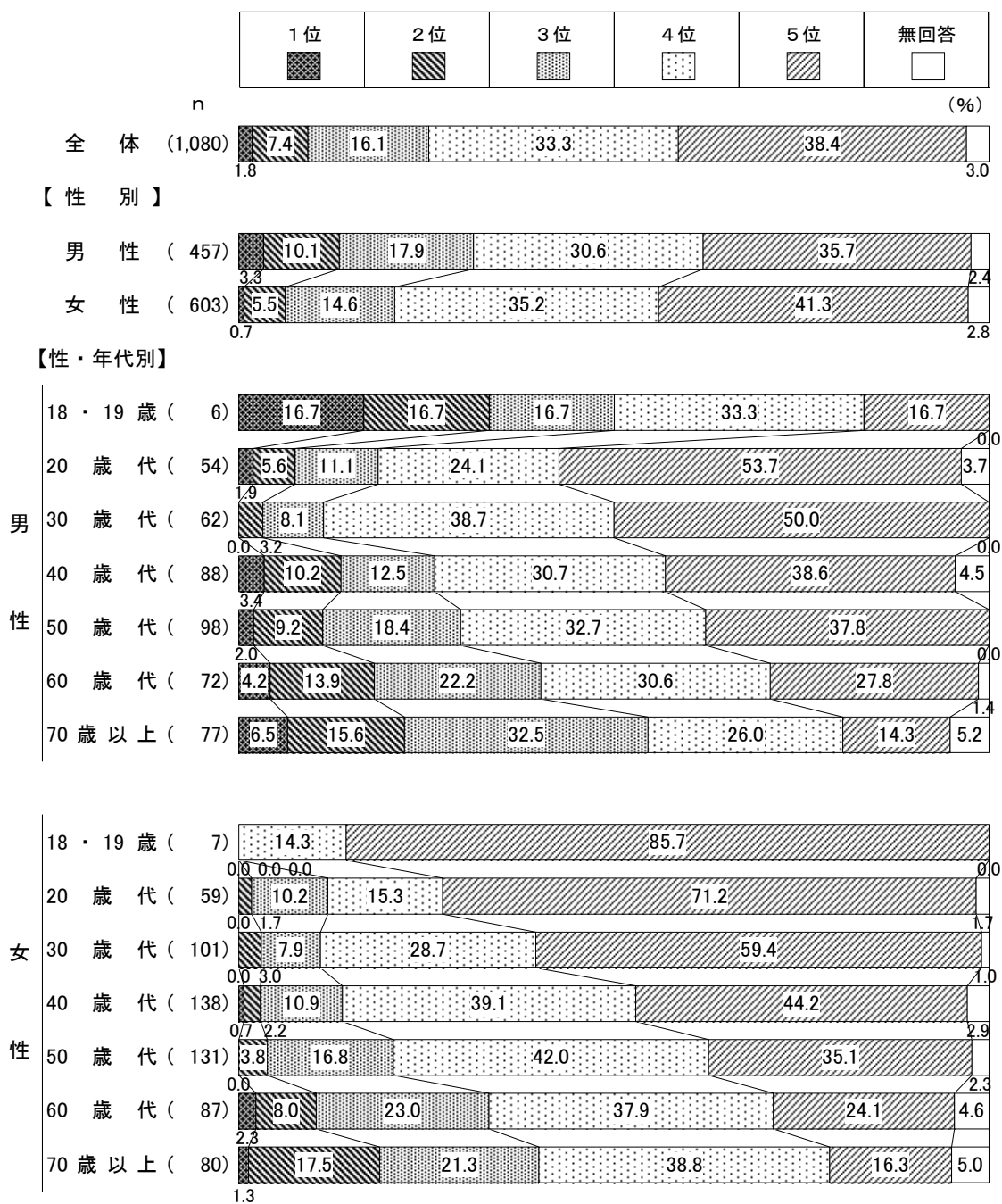
【食 事】



食事を性別にみると、「1 位」は女性（47.1%）が男性（38.5%）より 8.6 ポイント高くなっている。

同様に性・年代別にみると、「1 位」は女性 70 歳以上（82.5%）で 8 割を超え、男性 70 歳以上（67.5%）で 7 割近くと高くなっている。「2 位」は女性 20 歳代（44.1%）で 4 割半ばと高くなっている。（図 4-5）

図 4-6 食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位（性別、性・年代別）  
【運 動】

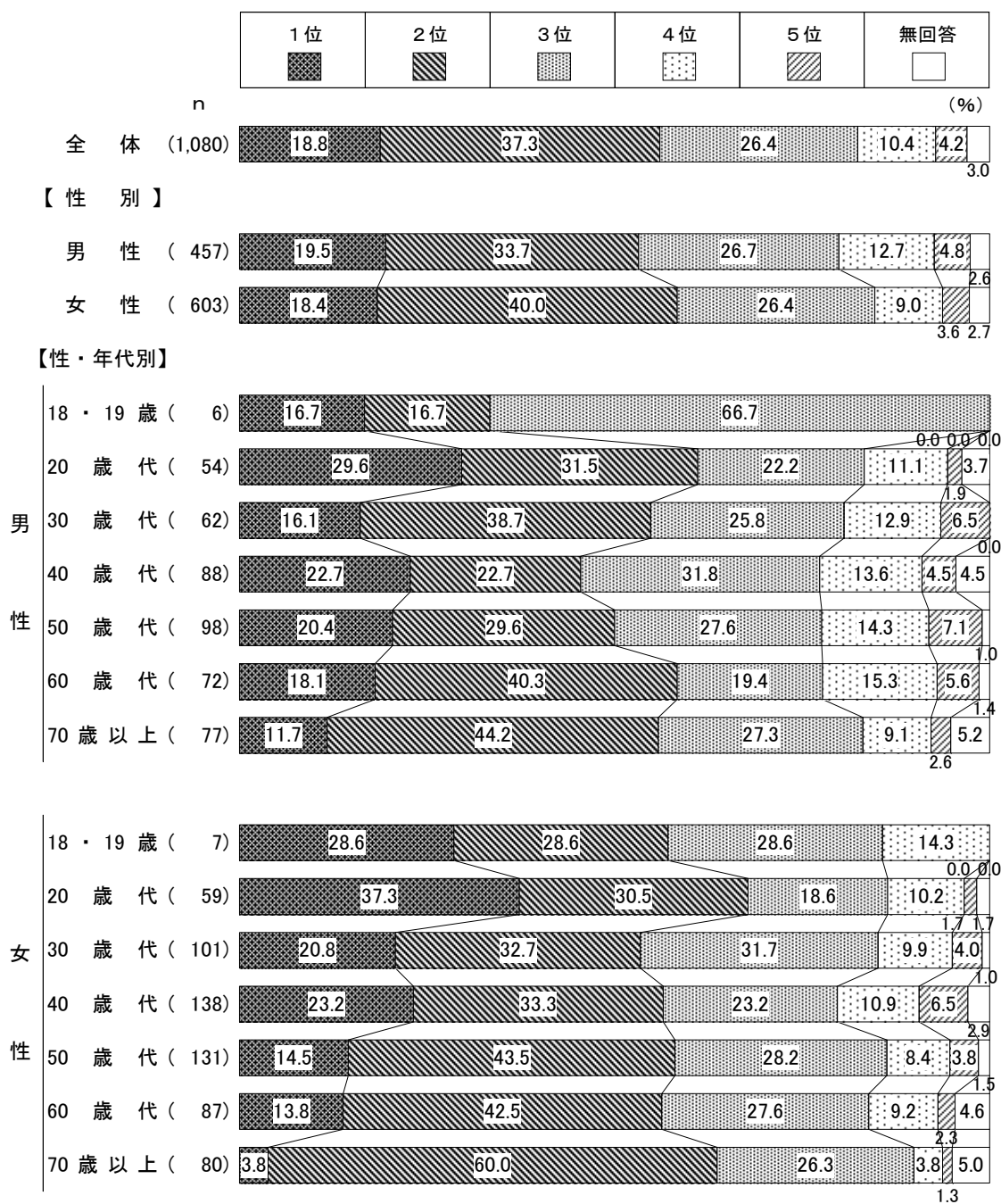


運動を性別にみると、「2 位」は男性（10.1%）が女性（5.5%）より 4.6 ポイント高くなっている。一方、「5 位」は女性（41.3%）が男性（35.7%）より 5.6 ポイント高くなっている。

同様に性・年代別にみると、「3 位」は男性 70 歳以上（32.5%）で 3 割を超えて高くなっている。「4 位」は女性 50 歳代（42.0%）で 4 割を超えて高くなっている。「5 位」は男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が高くなっている。（図 4-6）

図4-7 食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位（性別、性・年代別）

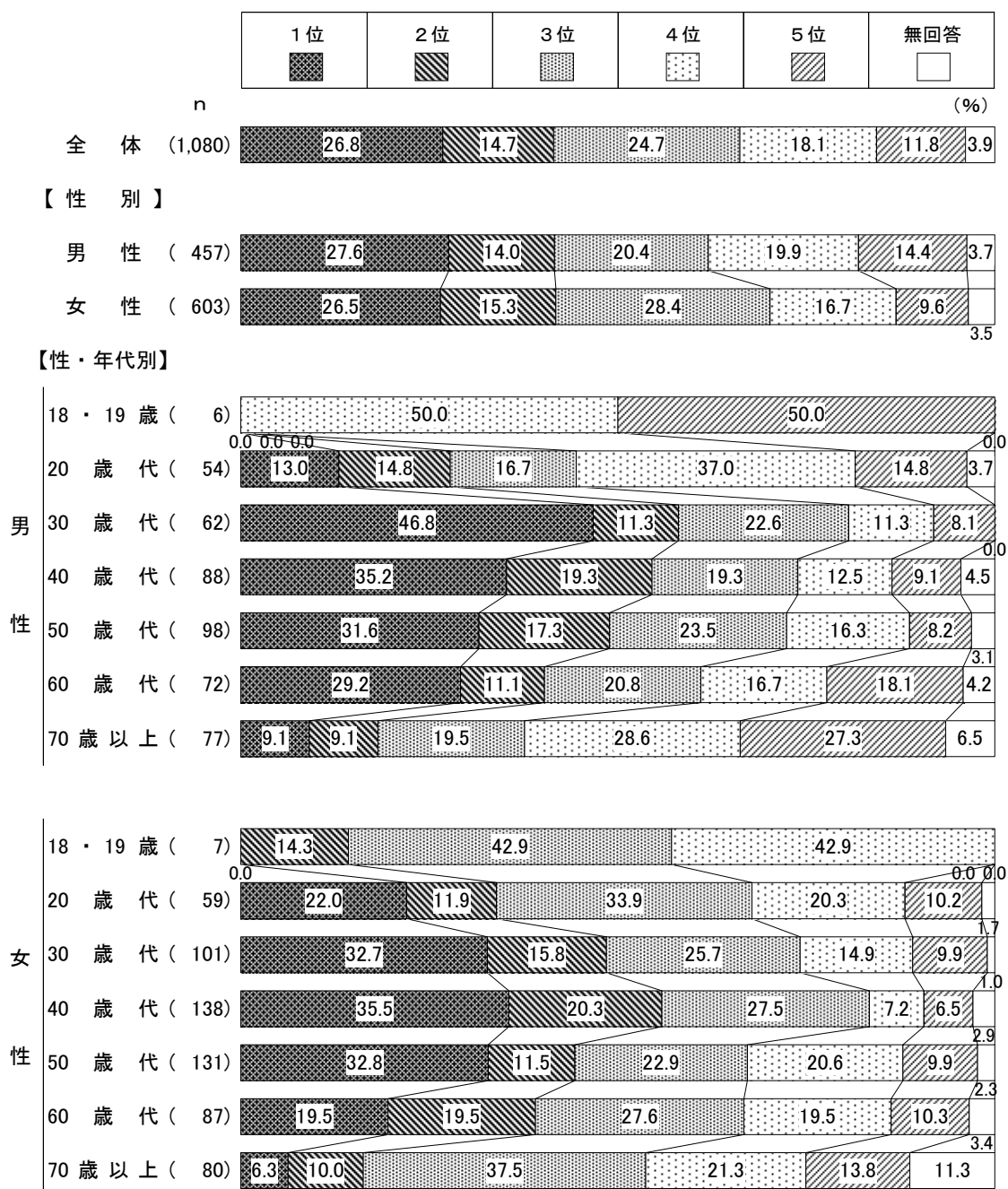
【睡眠】



睡眠を性別にみると、「2位」は女性（40.0%）が男性（33.7%）より6.3ポイント高くなっている。一方、「4位」は男性（12.7%）が女性（9.0%）より3.7ポイント高くなっている。

同様に性・年代別にみると、「1位」は女性20歳代（37.3%）で4割近くと高くなっている。「2位」は女性70歳以上（60.0%）で6割と高くなっている。「3位」は男性40歳代（31.8%）と女性30歳代（31.7%）で3割を超えて高くなっている。（図4-7）

図4-8 食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位（性別、性・年代別）  
【仕事（家事）】

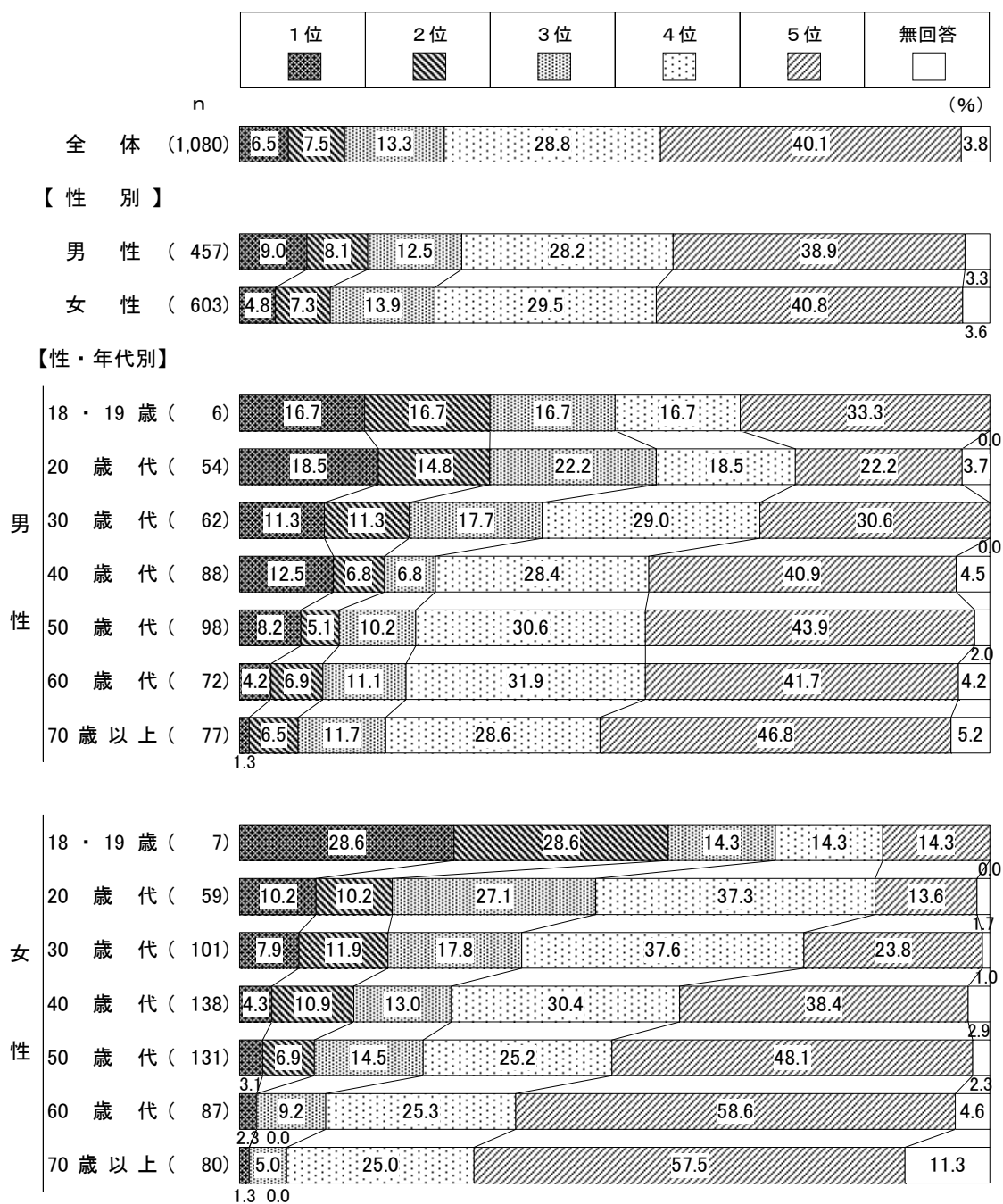


仕事（家事）を性別にみると、「3位」は女性（28.4%）が男性（20.4%）より 8.0 ポイント高くなっている。一方、「5位」は男性（14.4%）が女性（9.6%）より 4.8 ポイント高くなっている。

同様に性・年代別にみると、「1位」は男性 30 歳代（46.8%）で 5 割近くと高くなっている。「3位」は女性 70 歳以上（37.5%）で 4 割近くと高くなっている。「5位」は男性 70 歳以上（27.3%）で 3 割近くと高くなっている。（図4-8）

図4-9 食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位（性別、性・年代別）

【趣味】



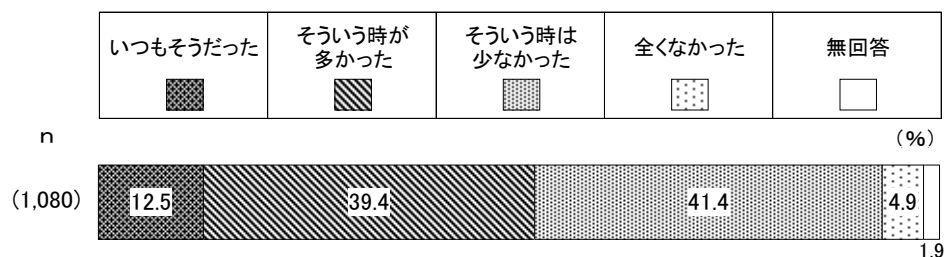
趣味を性別にみると、「1位」は男性（9.0%）が女性（4.8%）より4.2ポイント高くなっている。

同様に性・年代別にみると、「4位」は女性20歳代（37.3%）と女性30歳代（37.6%）で4割近くと高くなっている。「5位」は女性ではおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、女性60歳代（58.6%）と女性70歳以上（57.5%）で6割近くと高くなっている。（図4-9）

### (3) 最近2週間の睡眠の状態（2020年度新設）

問 54 最近2週間の睡眠の状態について、ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めましたか。  
次の近いもの1つに○をつけて下さい。（1つだけ○）

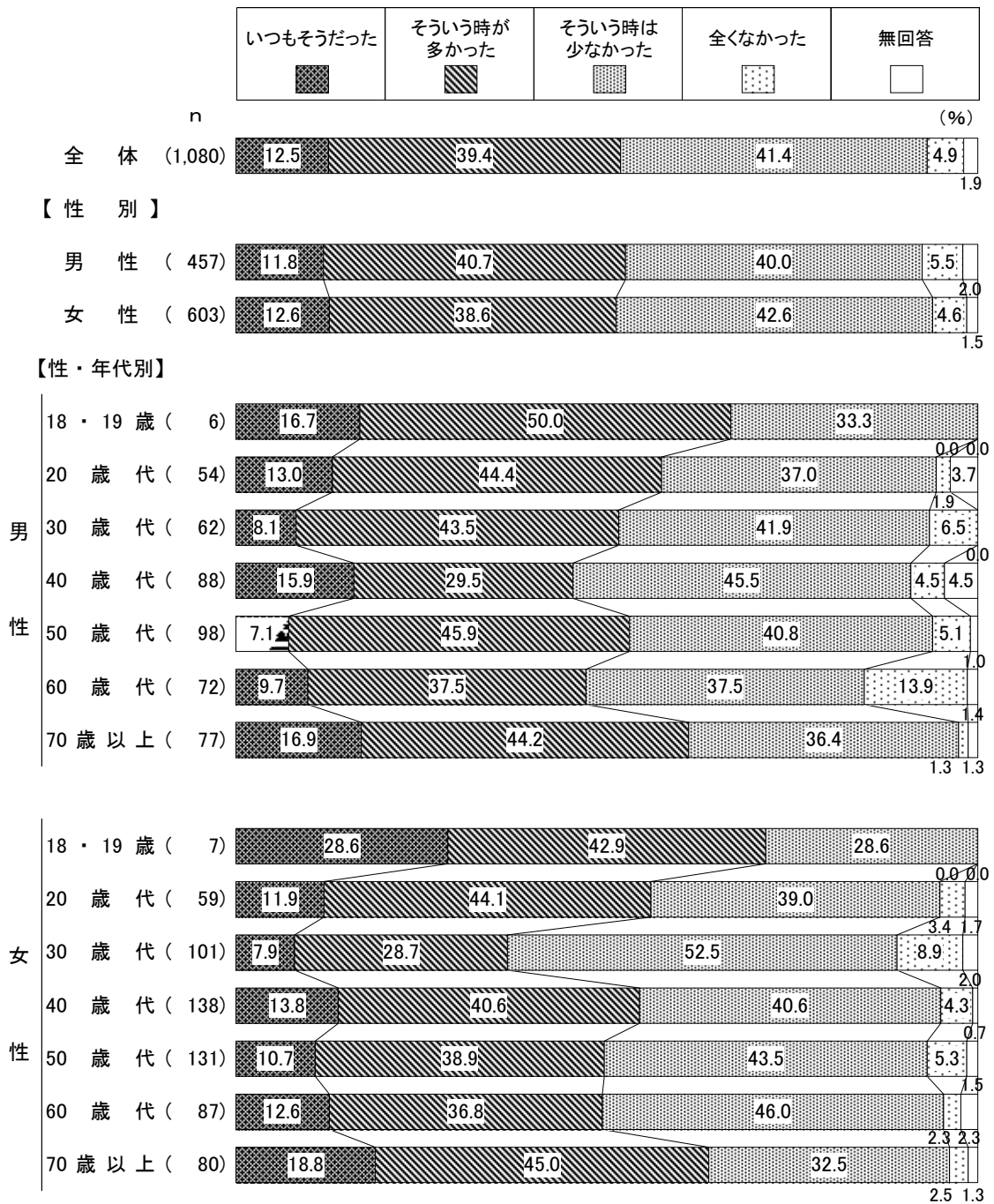
図 4-10 最近2週間の睡眠の状態



最近2週間の睡眠の状態について、ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めたか聞いたところ、「いつもそうだった」（12.5％）は1割を超え、「そういう時が多かった」（39.4％）は約4割となっている。一方、「そういう時は少なかった」（41.4％）は4割を超え、「全くなかった」（4.9％）は1割未満となっている。（図 4-10）



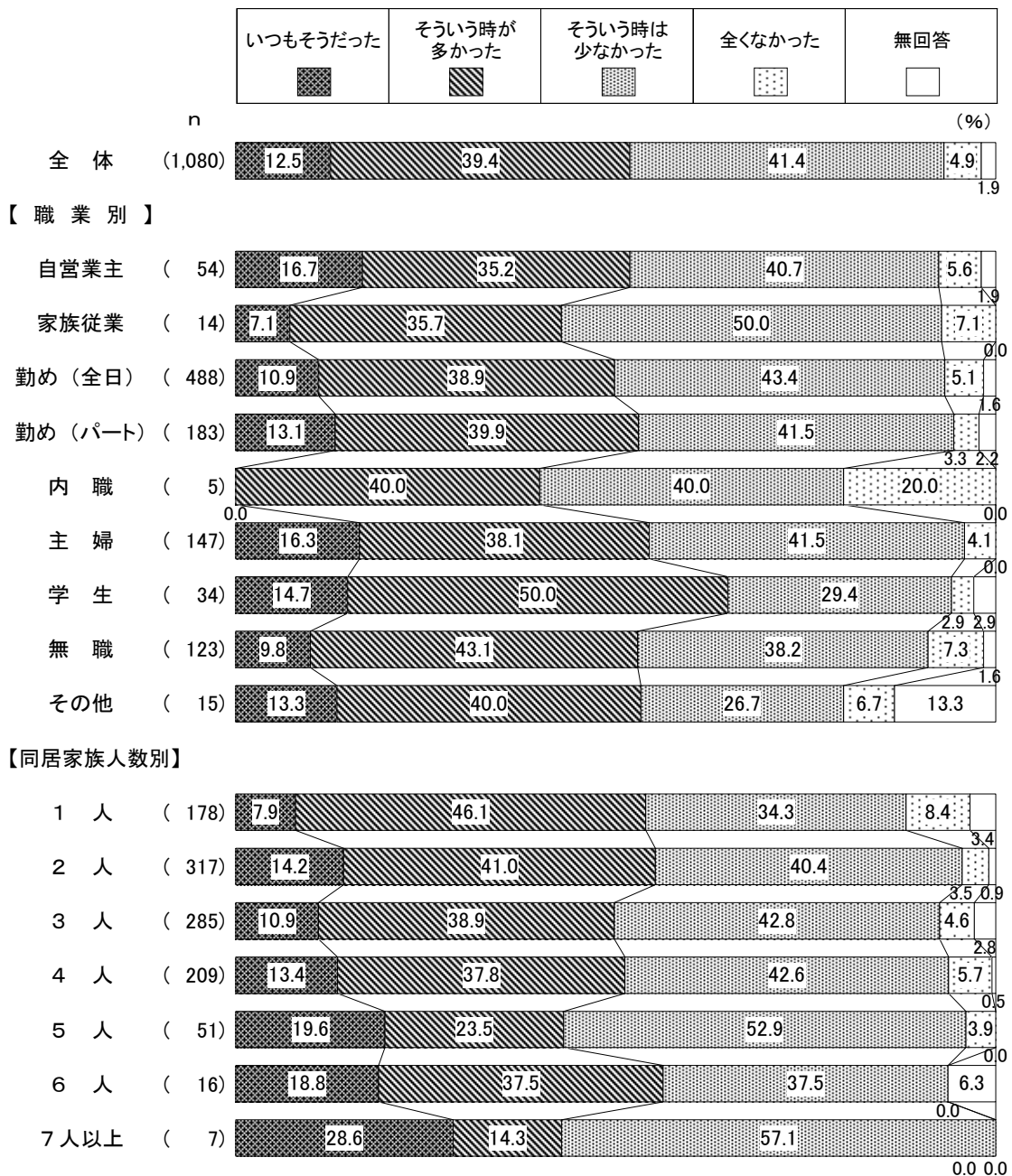
図 4-11 最近 2 週間の睡眠の状態（性別、性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「そういう時は少なかった」は女性 30 歳代 (52.5%) で 5 割を超えて高くなっている。(図 4-11)

図 4-12 最近 2 週間の睡眠の状態（職業別、同居家族人数別）



職業別にみると、「そういう時が多かった」は学生（50.0％）で5割、無職（43.1％）で4割を超えて高くなっている。

同居家族人数別にみると、「そういう時が多かった」は1人家族（46.1％）で4割半ばと高くなっている。「そういう時は少なかった」は5人家族（52.9％）で5割を超えて高くなっている。

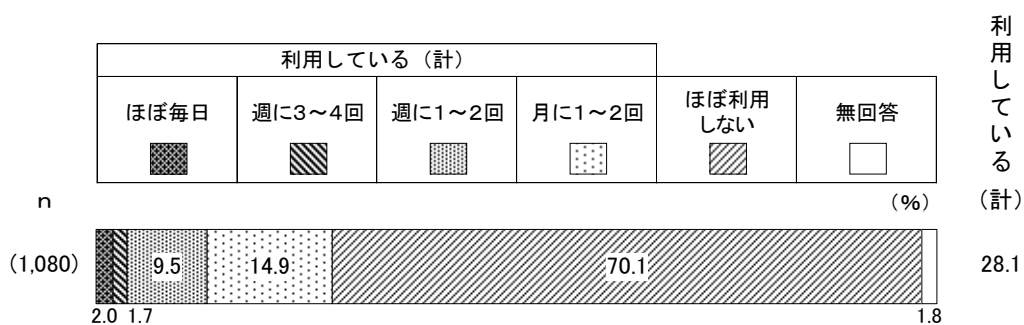
（図 4-12）

## 5. 公園整備について

### (1) 公園の利用頻度 (2020年度新設)

問 55 あなたは公園をどのくらいの頻度で利用していますか。(1つだけ○)

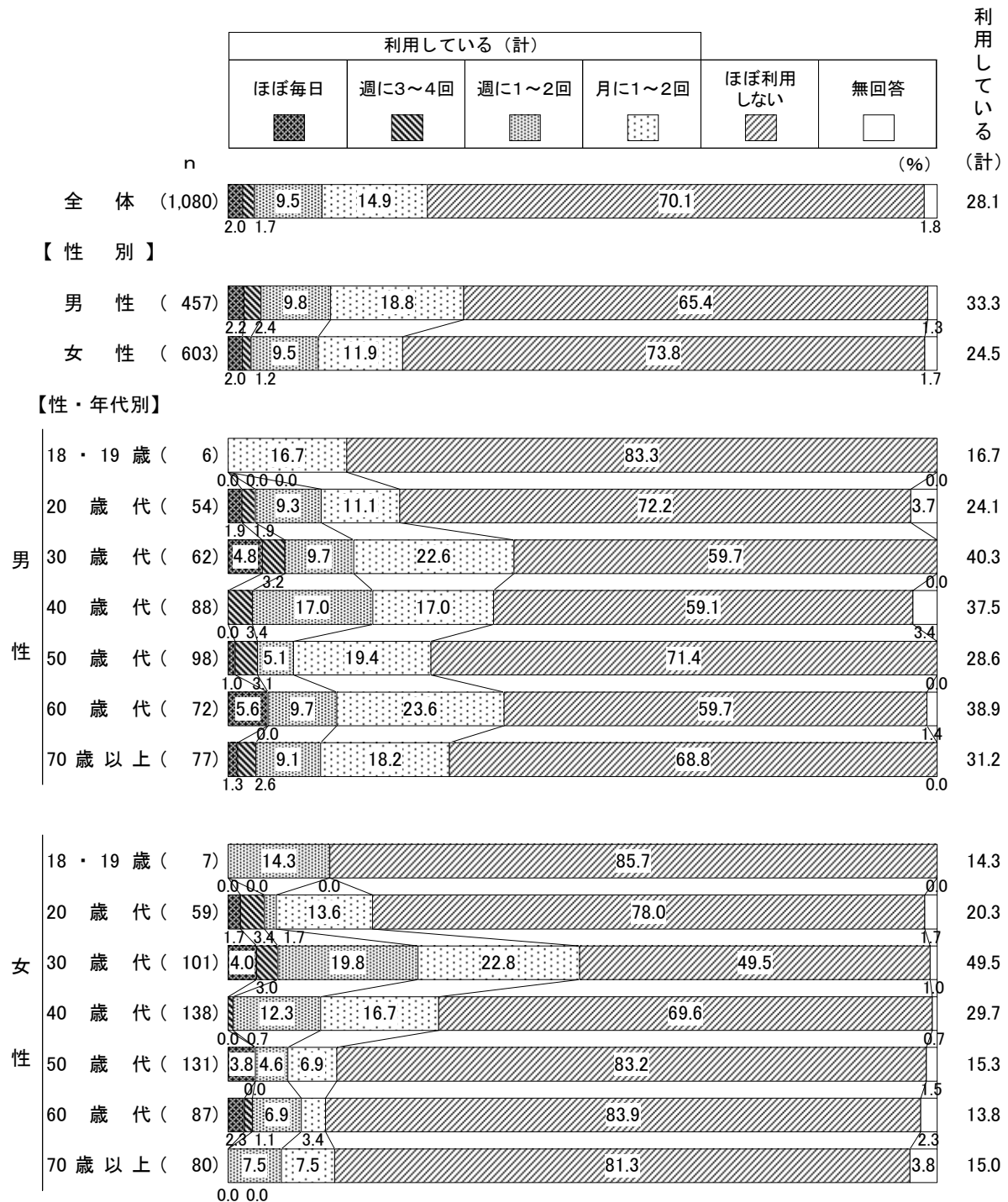
図 5-1 公園の利用頻度



公園をどのくらいの頻度で利用しているか聞いたところ、「ほぼ毎日」(2.0%)、「週に3~4回」(1.7%)、「週に1~2回」(9.5%)、「月に1~2回」(14.9%)を合わせた『利用している(計)』(28.1%)は3割近くとなっている。一方、「ほぼ利用しない」(70.1%)は7割となっている。

(図 5-1)

図5-2 公園の利用頻度（性別、性・年代別）



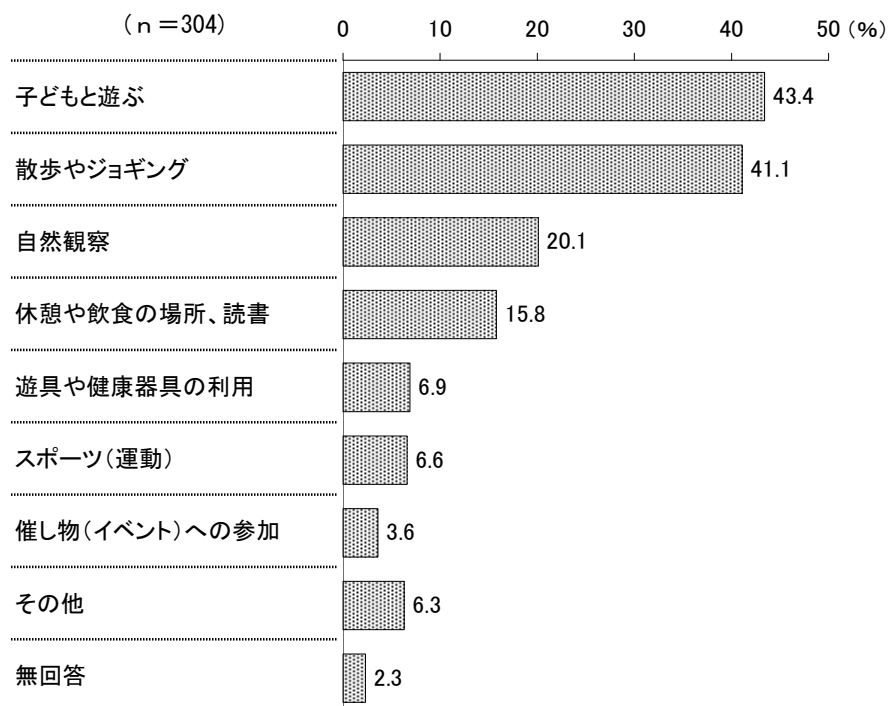
性別にみると、『利用している（計）』は男性（33.3%）が女性（24.5%）より8.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『利用している（計）』は女性30歳代（49.5%）で5割と高くなっている。一方、「ほぼ利用しない」は女性50歳代（83.2%）、女性60歳代（83.9%）、女性70歳以上（81.3%）で8割を超えて高くなっている。（図5-2）

## (2) 公園を訪れる目的 (2020年度新設)

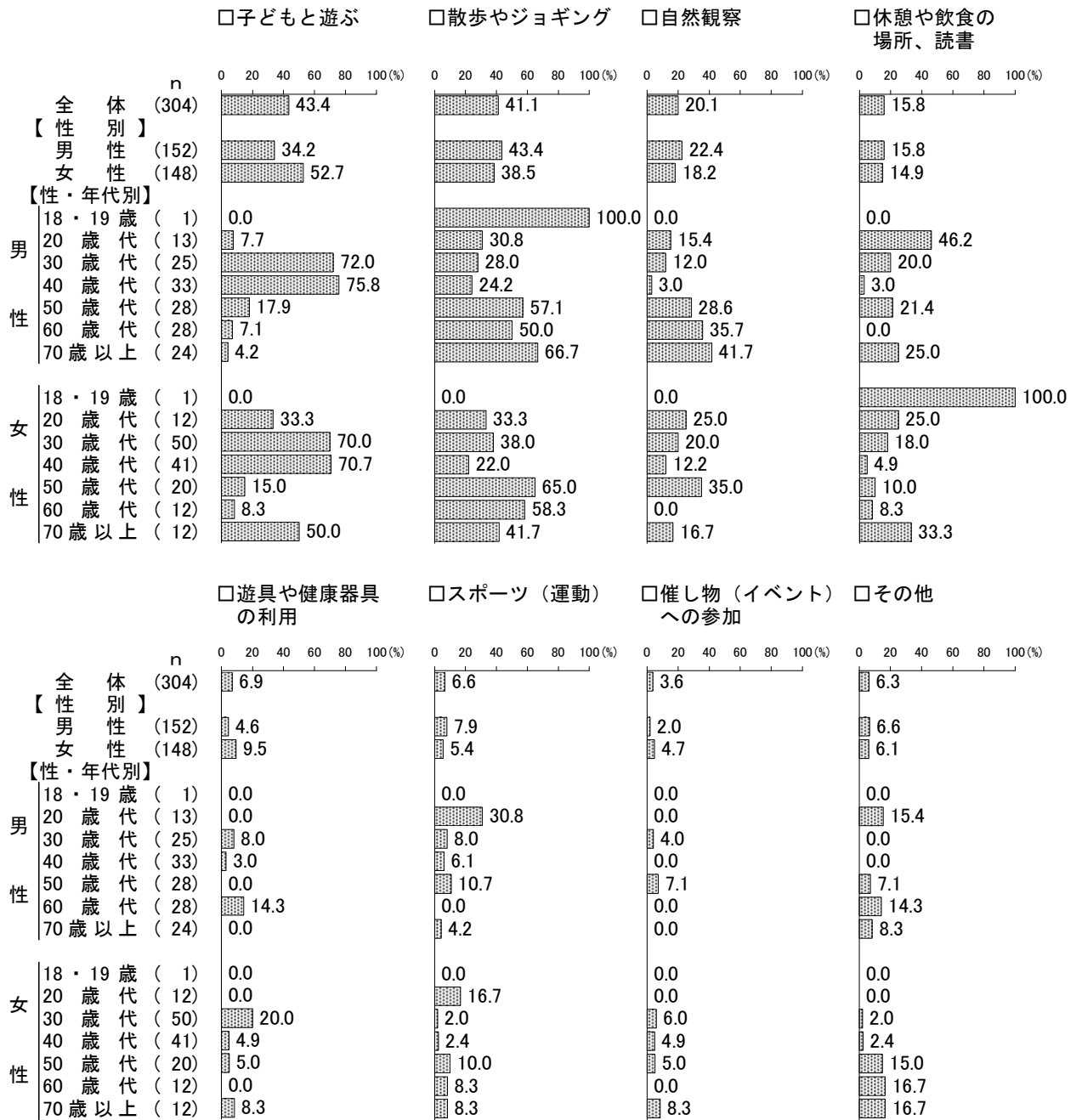
(問 55 で、「ほぼ毎日」「週に3～4回」「週に1～2回」「月に1～2回」と回答した方に)  
問 55－1 公園を訪れる目的はなんですか。(あてはまるもの全てに○)

図 5-3 公園を訪れる目的



公園を訪れる目的を聞いたところ、「子どもと遊ぶ」(43.4%)が4割を超えて最も高く、次いで「散歩やジョギング」(41.1%)、「自然観察」(20.1%)、「休憩や飲食の場所、読書」(15.8%)となっている。(図 5-3)

図5-4 公園を訪れる目的（性別、性・年代別）



性別にみると、「子どもと遊ぶ」は女性（52.7%）が男性（34.2%）より18.5ポイント高くなっている。一方、「散歩やジョギング」は男性（43.4%）が女性（38.5%）より4.9ポイント高くなっている。

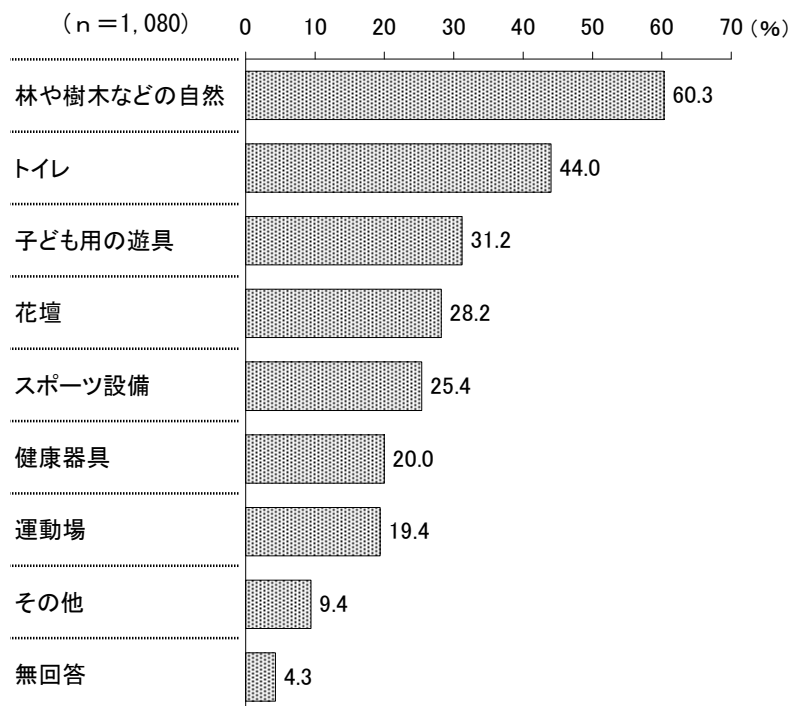
性・年代別にみると、「子どもと遊ぶ」は男女ともに30歳代と40歳代で7割台と高くなっている。「散歩やジョギング」は男性70歳以上（66.7%）で7割近く、女性50歳代（65.0%）で6割半ばと高くなっている。「自然観察」は男性70歳以上（41.7%）で4割を超えて高くなっている。

（図5-4）

### (3) 公園に望む施設（2020年度新設）

問 56 公園にどんな施設を望みますか。（あてはまるもの全てに○）

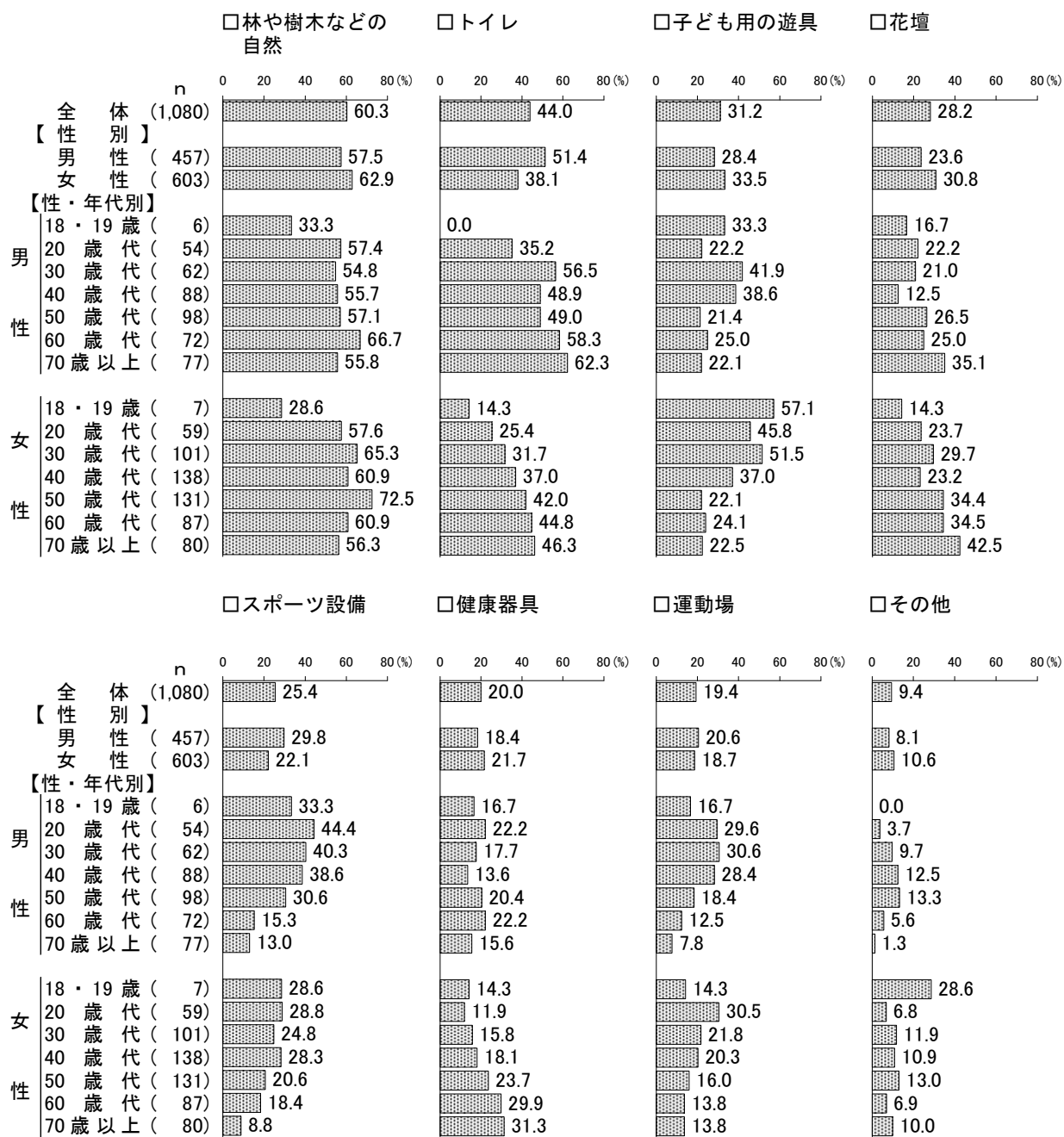
図 5-5 公園に望む施設



公園にどんな施設を望むか聞いたところ、「林や樹木などの自然」（60.3%）が6割で最も高く、次いで「トイレ」（44.0%）、「子ども用の遊具」（31.2%）、「花壇」（28.2%）となっている。

（図 5-5）

図 5-6 公園に望む施設（性別、性・年代別）



性別にみると、「トイレ」は男性（51.4％）が女性（38.1％）より 13.3 ポイント、「スポーツ設備」は男性（29.8％）が女性（22.1％）より 7.7 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「花壇」は女性（30.8％）が男性（23.6％）より 7.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「林や樹木などの自然」は女性 50 歳代（72.5％）で 7 割を超えて高くなっている。「トイレ」は男性 70 歳以上（62.3％）で 6 割を超えて高くなっている。「子ども用の遊具」は女性 30 歳代（51.5％）で 5 割を超えて高くなっている。（図 5-6）

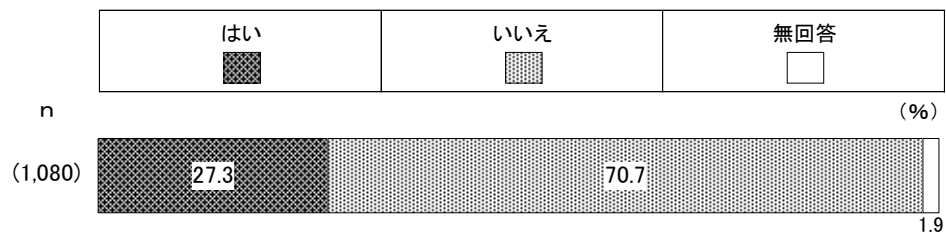


## 6. 地域におけるつながり・コミュニティについて

### (1) 気軽に人とつながることのできる場所や活動（2020年度新設）

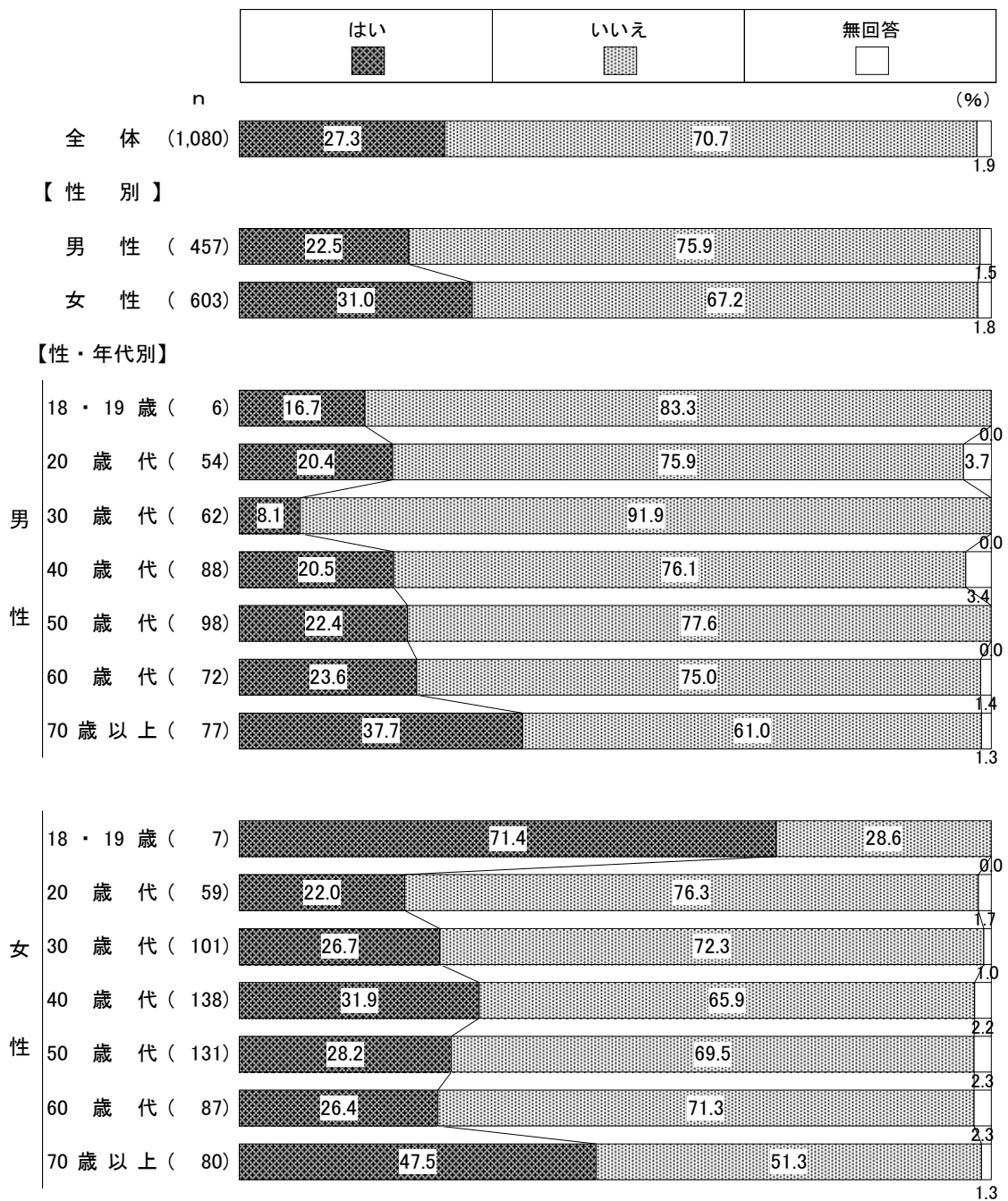
問 58 身近な地域において、あなた自身が気軽に人とつながることのできる場所や活動など  
はありますか。（1つだけ○）

図 6-1 気軽に人とつながることのできる場所や活動



身近な地域において、気軽に人とつながることのできる場所や活動などはあるか聞いたところ、「はい」（27.3％）が3割近く、「いいえ」（70.7％）は約7割となっている。（図6-1）

図6-2 気軽に人とつながることのできる場所や活動（性別、性・年代別）



性別にみると、「はい」は女性（31.0％）が男性（22.5％）より8.5ポイント高くなっている。

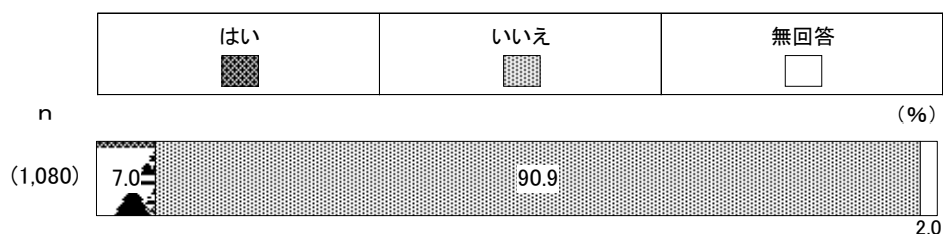
性・年代別にみると、「はい」は女性70歳以上（47.5％）で5割近く、男性70歳以上（37.7％）で4割近くと高くなっている。一方、「いいえ」は男性30歳代（91.9％）で9割を超えて高くなっている。（図6-2）

(2)「まちのひろば」の認知度（2020年度新設）

問 59 あなたは、「まちのひろば」という言葉を聞いたことがありますか。（1つだけ○）。

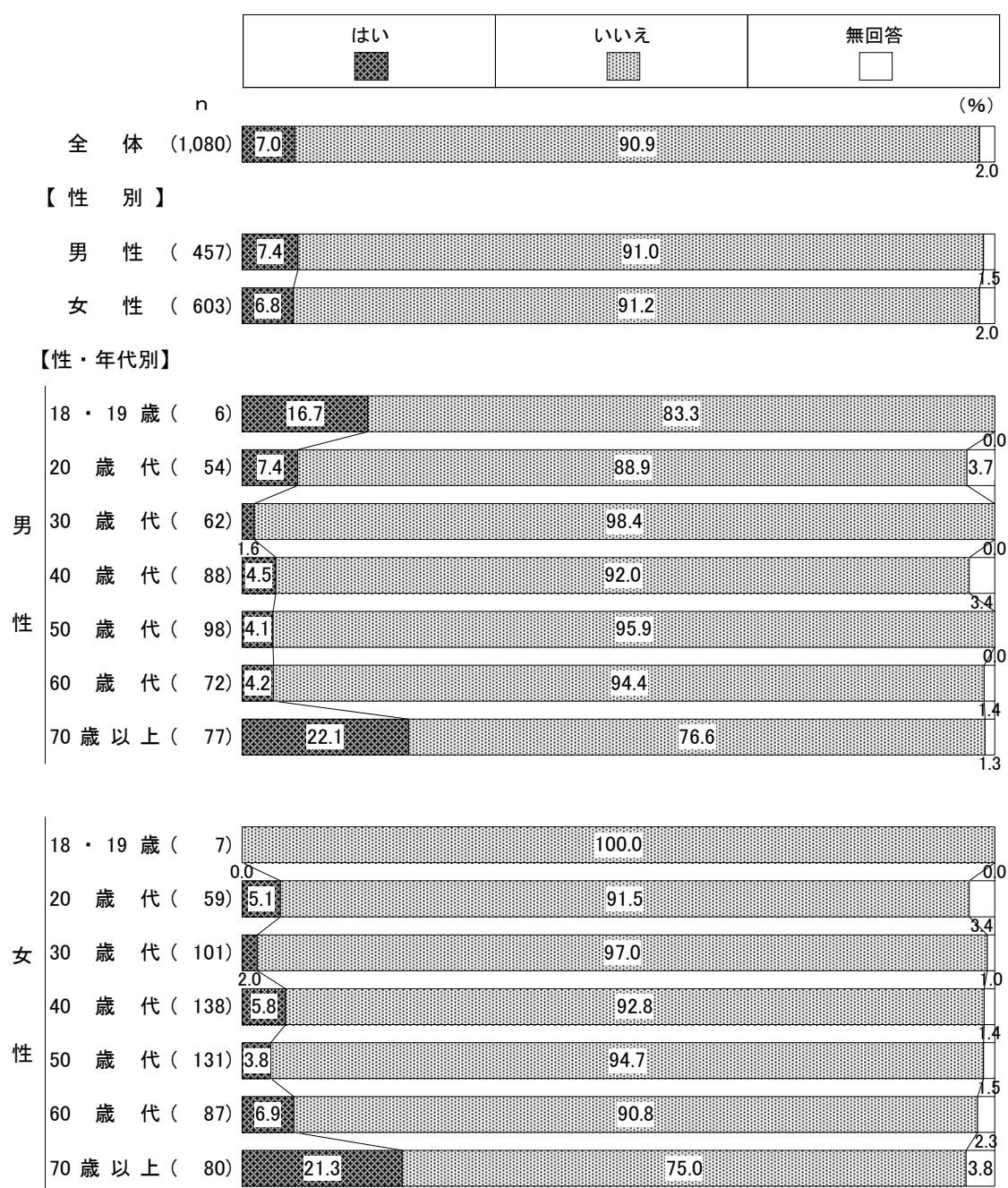
※川崎市では、これからのコミュニティ施策に関する考え方の中で身近な地域における誰もが気軽に集える出会いの場（場所だけでなく活動なども含む。）を「まちのひろば」と呼んでいます。

図 6-3 「まちのひろば」の認知度



「まちのひろば」という言葉を聞いたことがあるか聞いたところ、「はい」（7.0％）が1割未満、「いいえ」（90.9％）は約9割となっている。（図 6-3）

図 6-4 「まちのひろば」の認知度（性別、性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

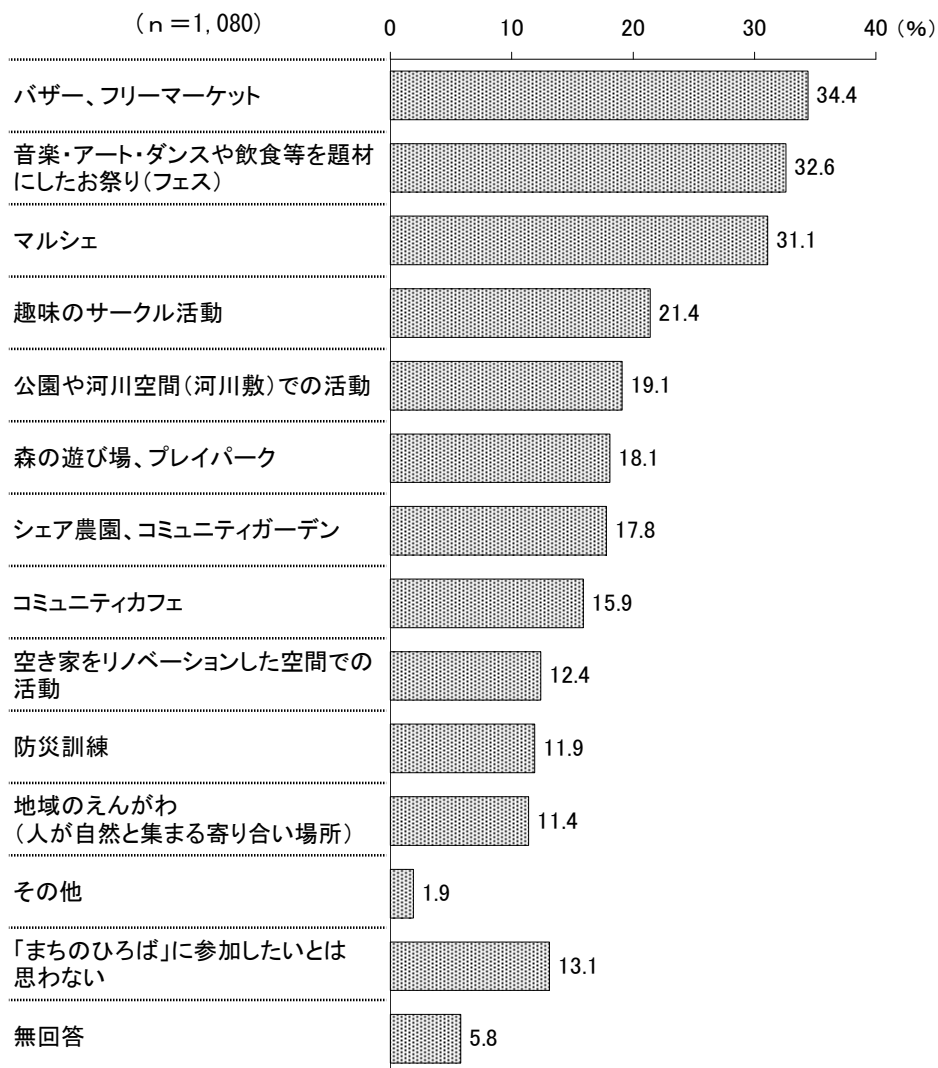
性・年代別にみると、「はい」は男性 70 歳以上（22.1%）と女性 70 歳以上（21.3%）で 2 割を超えて高くなっている。一方、「いいえ」は男性 30 歳代（98.4%）と女性 30 歳代（97.0%）で 10 割近くと高くなっている。（図 6-4）

(3) 参加してみたいと思う「まちのひろば」(2020年度新設)

問 60 次の中で、あなたが参加してみたいと思う「まちのひろば」はありますか。

(あてはまるもの全てに○)

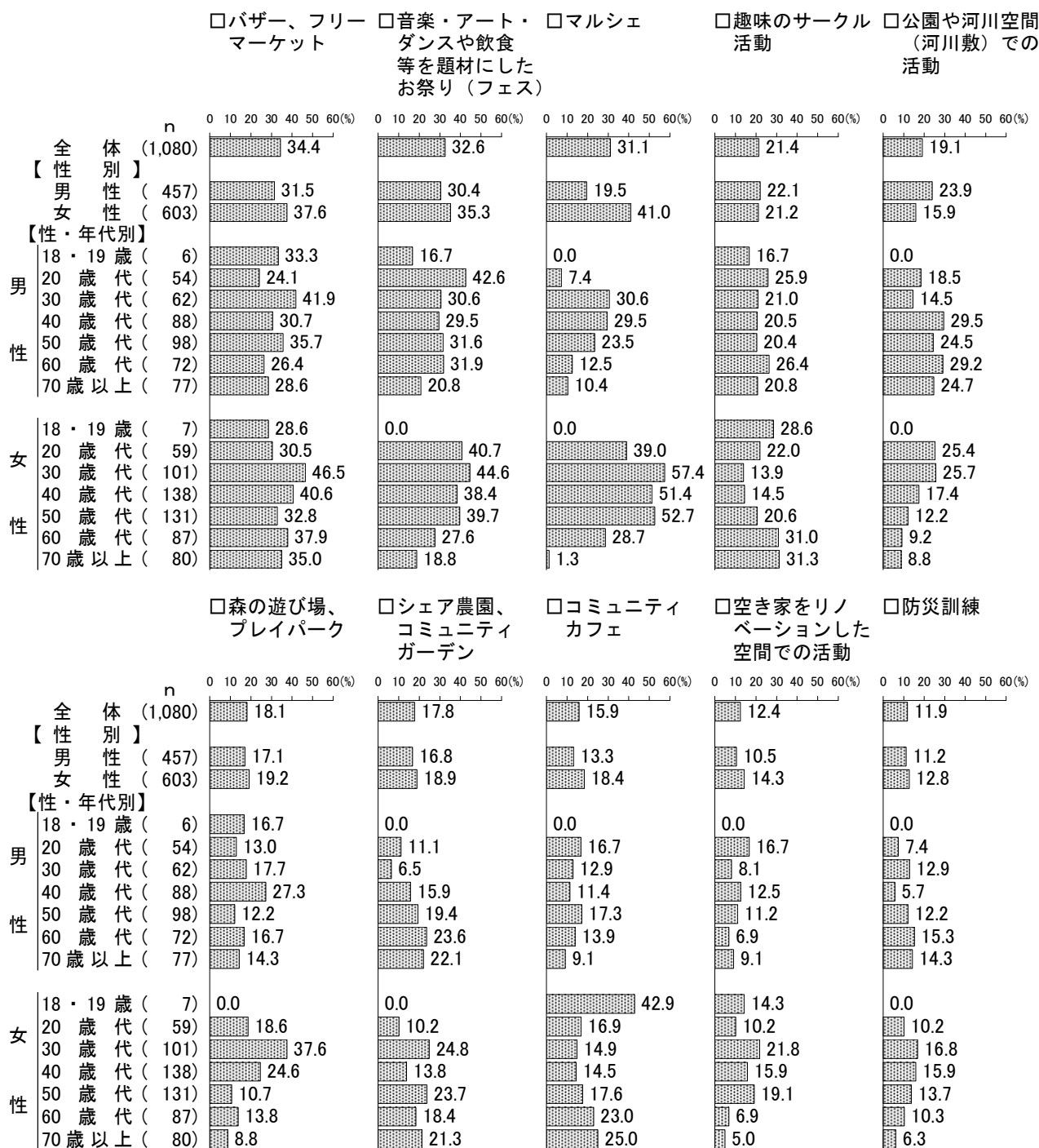
図 6-5 参加してみたいと思う「まちのひろば」



参加してみたいと思う「まちのひろば」はあるか聞いたところ、「バザー、フリーマーケット」(34.4%)が3割半ばで最も高く、次いで「音楽・アート・ダンスや飲食等を題材にしたお祭り(フェス)」(32.6%)、「マルシェ」(31.1%)、「趣味のサークル活動」(21.4%)となっている。

(図 6-5)

図6-6 参加してみたいと思う「まちのひろば」（性別、性・年代別）ー上位10項目



性別にみると、「マルシェ」は女性（41.0%）が男性（19.5%）より 21.5 ポイント高くなっている。一方、「公園や河川空間（河川敷）での活動」は男性（23.9%）が女性（15.9%）より 8.0 ポイント高くなっている。

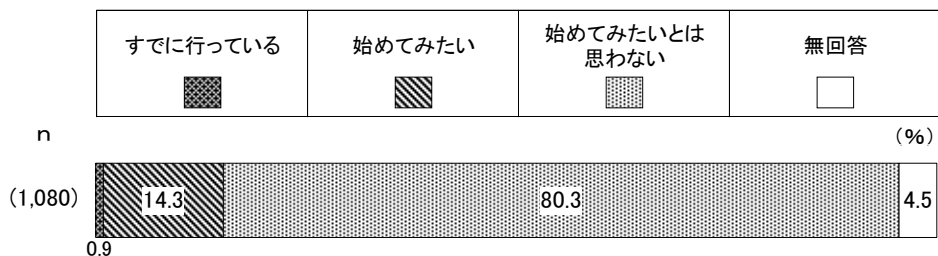
性・年代別にみると、「バザー、フリーマーケット」は女性 30 歳代（46.5%）で 5 割近くと高くなっている。「音楽・アート・ダンスや飲食等を題材にしたお祭り（フェス）」は女性 30 歳代（44.6%）で 4 割半ばと高くなっている。「マルシェ」は女性 30 歳代（57.4%）で 6 割近くと高くなっている。

(図 6-6)

(4)「まちのひろば」を始めてみたいか(2020年度新設)

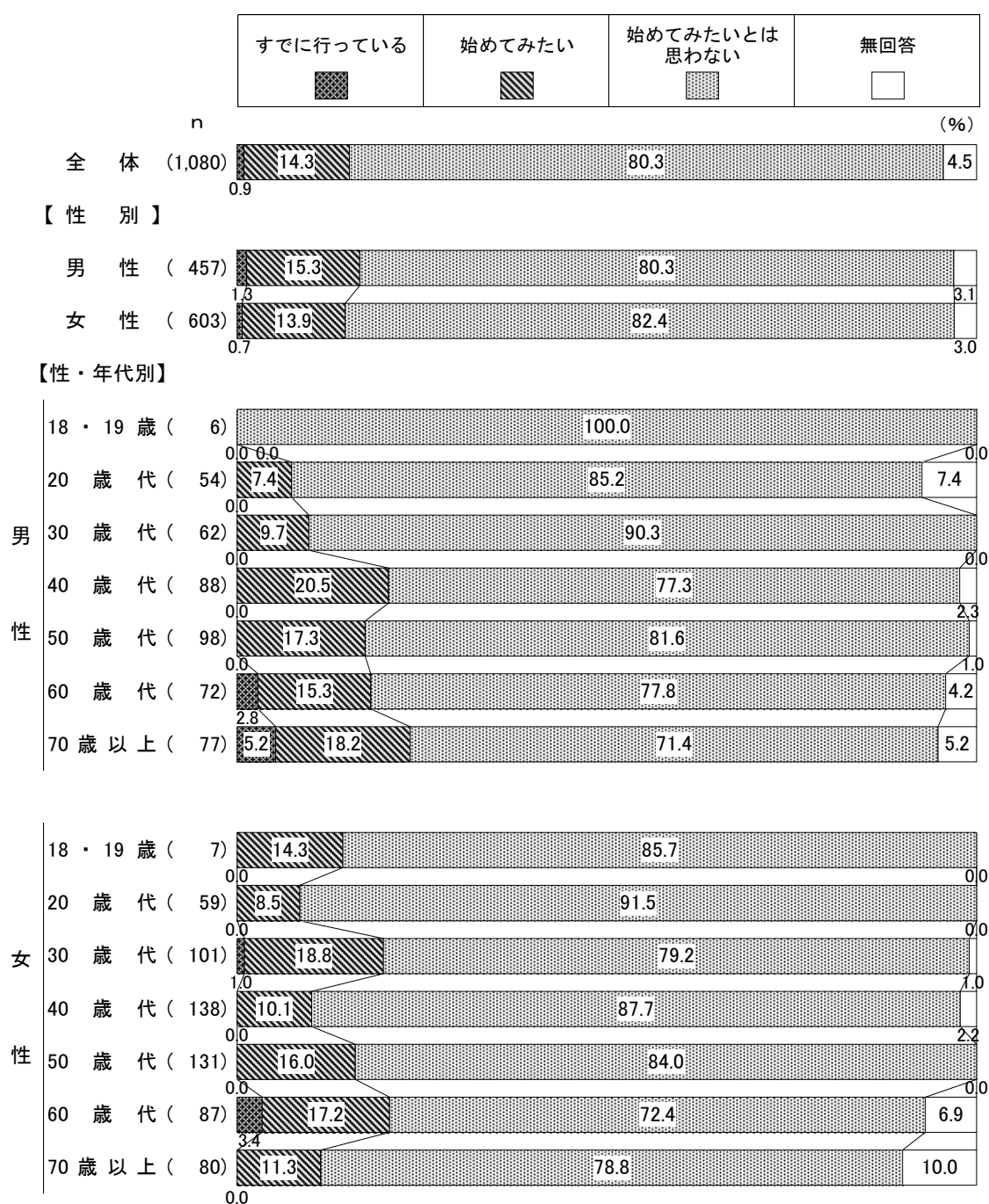
問 61 あなたは、「まちのひろば」のような、気軽に集える場所・活動を、自分自身で始めてみたいと思いますか。(1つだけ○)

図 6-7 「まちのひろば」を始めてみたいか



「まちのひろば」のような気軽に集える場所・活動を、自分自身で始めてみたいか聞いたところ、「すでに行っている」(0.9%)はわずかとなっており、「始めてみたい」(14.3%)は1割半ばとなっている。一方、「始めてみたいとは思わない」(80.3%)は8割となっている。(図6-7)

図6-8 「まちのひろば」を始めてみたいか（性別、性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「始めてみたい」は男性40歳代（20.5%）で約2割と高くなっている。一方、「始めてみたいとは思わない」は女性20歳代（91.5%）と男性30歳代（90.3%）で9割台と高くなっている。（図6-8）

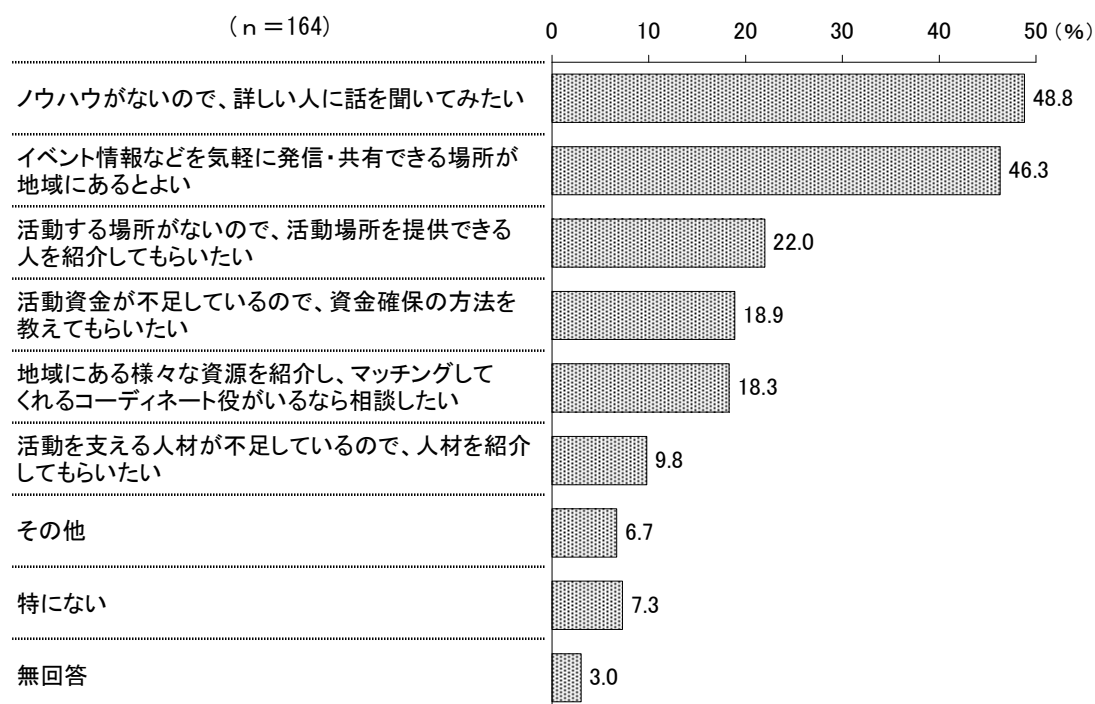


(5) 気軽に集える場所・活動を始める（続ける）にあたり望むこと（2020年度新設）

（問 61 で、「すでに行っている」又は「始めてみたい」と回答した方に）

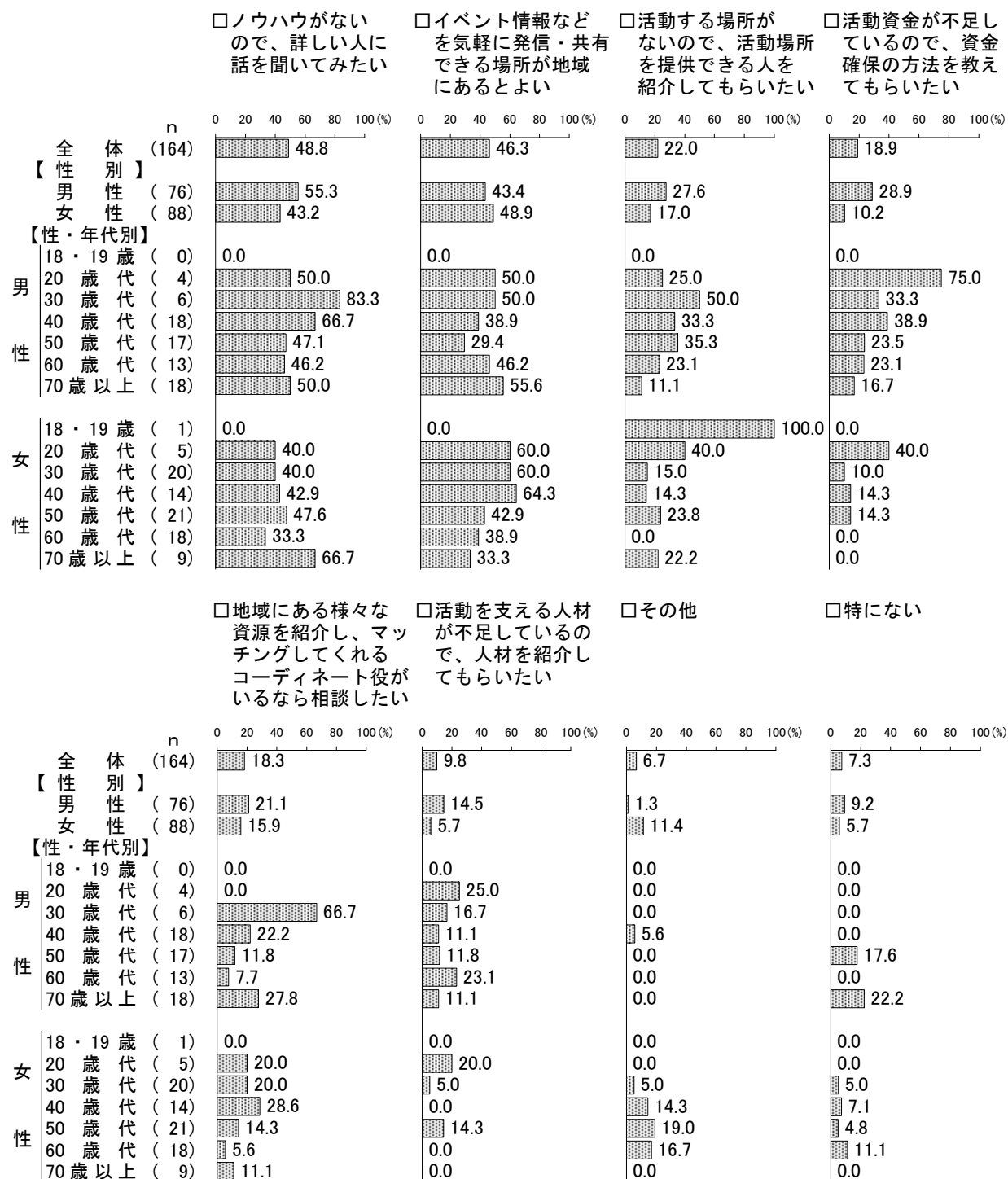
問 61－1 次の中で、あなたが気軽に集える場所・活動を始める（続ける）にあたって、当てはまるものはありますか（あてはまるもの全てに○）

図 6－9 気軽に集える場所・活動を始める（続ける）にあたり望むこと



気軽に集える場所・活動を始める（続ける）にあたり望むことを聞いたところ、「ノウハウがないので、詳しい人に話を聞いてみたい」（48.8%）が5割近くで最も高く、次いで「イベント情報などを気軽に発信・共有できる場所が地域にあるとよい」（46.3%）、「活動する場所がないので、活動場所を提供できる人を紹介してもらいたい」（22.0%）、「活動資金が不足しているので、資金確保の方法を教えてもらいたい」（18.9%）となっている。（図 6－9）

図 6-10 気軽に集える場所・活動を始め（続ける）にあたり望むこと（性別、性・年代別）



性別にみると、「活動資金が不足しているので、資金確保の方法を教えてください」は男性（28.9%）が女性（10.2%）より 18.7 ポイント、「ノウハウがないので、詳しい人に話を聞いてみたい」は男性（55.3%）が女性（43.2%）より 12.1 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「イベント情報などを気軽に発信・共有できる場所が地域にあるとよい」は女性（48.9%）が男性（43.4%）より 5.5 ポイント高くなっている。

性・年代別は、基数が少ないため参考に図示する。（図 6-10）

## IV 使用した調査票

# 高津区区民生活に関わるニーズ調査

2020年10月

高津区では、区政を進める上での参考資料を得ることを目的として、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を実施いたします。

今年度の実施に当たり、全区民の方々を対象に、偏ることのないよう統計的な方法（住民基本台帳から無作為抽出）で選ばせていただきましたところ、あなた様にご意見をお伺いすることになりました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力の程お願い申し上げます。

調査の結果は、「こういう方々のご意見が何パーセント」というように数表としてまとめますので、あなた様のお名前が外部に洩れたり、ご意見をお聞きしたことでご迷惑をおかけするようなことは絶対にございません。ご安心ください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに、**10月31日（土）**までにご投函ください。

なお、調査結果につきましては、2021年3月頃に、区役所ホームページに掲載するほか、区役所に閲覧用の調査結果報告書を設置する予定です。

～ご記入に際してのお願い～

1. アンケートのご回答は、必ずご本人が行ってください。
2. ご回答は、次の要領で行ってください。
  - 各項目について、お気軽に感じたままをお答えください。
  - 回答項目のうち、あてはまると思われる番号に○をつけてください。
  - の数は、（3つまで○）（いくつでも○）といった（ ）内の指示に合わせてつけてください。
  - 「その他」の（ ）内や  内には、ご意見を具体的にお書きください。

この調査についてご不明な点等がございましたら、下記までお気軽にお問合せください。

川崎市高津区役所 まちづくり推進部企画課

電 話 044-861-3131

FAX 044-861-3103

## 【第1部 通常アンケート】

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。(いくつでも○)

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(いくつでも○)

|                                                  | 問1<br>よくやっている<br>と思うもの<br>(いくつでも○) | 問2<br>特に力を入れて<br>ほしいと思うもの<br>(いくつでも○) |
|--------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
| 回答例 ⇒                                            | ①                                  | ①                                     |
| (1) 放置自転車対策                                      | 1                                  | 1                                     |
| (2) 交通事故防止対策                                     | 2                                  | 2                                     |
| (3) 路上喫煙防止対策                                     | 3                                  | 3                                     |
| (4) 街頭犯罪の防止                                      | 4                                  | 4                                     |
| (5) 地震や風水害への対策                                   | 5                                  | 5                                     |
| (6) 駅周辺の環境整備                                     | 6                                  | 6                                     |
| (7) 道路、歩道の整備                                     | 7                                  | 7                                     |
| (8) 公園、緑地の整備                                     | 8                                  | 8                                     |
| (9) 水辺の整備                                        | 9                                  | 9                                     |
| (10) 建築、開発計画、景観ルールなどまちづくりに関する相談・支援               | 10                                 | 10                                    |
| (11) 健康づくりに関する事業                                 | 11                                 | 11                                    |
| (12) 高齢者関係の事業                                    | 12                                 | 12                                    |
| (13) 子どもや子育ての支援                                  | 13                                 | 13                                    |
| (14) 心身の不自由な人の支援                                 | 14                                 | 14                                    |
| (15) 区内で多様な主体による連携を進める事業                         | 15                                 | 15                                    |
| (16) 地域の住民同士のつながりを深める事業                          | 16                                 | 16                                    |
| (17) 市民活動の支援                                     | 17                                 | 17                                    |
| (18) 区の広報の充実                                     | 18                                 | 18                                    |
| (19) 区の広聴 <sup>※1</sup> や参加 <sup>※2</sup> の機会の充実 | 19                                 | 19                                    |
| (20) 花と緑のまちづくりの推進                                | 20                                 | 20                                    |
| (21) 文化的な催し（音楽祭、コンサートなど）の開催                      | 21                                 | 21                                    |
| (22) スポーツの振興                                     | 22                                 | 22                                    |
| (23) 区のイメージアップ                                   | 23                                 | 23                                    |
| (24) 地域の魅力を生かした事業                                | 24                                 | 24                                    |
| (25) 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みづくり                   | 25                                 | 25                                    |

|                                   | 問 1                          | 問 2                             |
|-----------------------------------|------------------------------|---------------------------------|
|                                   | よくやっている<br>と思うもの<br>(いくつでも○) | 特に力を入れて<br>ほしいと思うもの<br>(いくつでも○) |
| (26) 区役所の窓口サービスの向上                | 26                           | 26                              |
| (27) 地球温暖化対策に関する事業                | 27                           | 27                              |
| (28) 区内在住の外国人に対する支援               | 28                           | 28                              |
| (29) 生涯学習※ <sup>3</sup> の支援・推進    | 29                           | 29                              |
| (30) 地域包括ケアシステム※ <sup>4</sup> の推進 | 30                           | 30                              |
| (31) 特になし                         | 31                           | 31                              |
| (32) わからない                        | 32                           | 32                              |
| (33) その他 ( )                      | 33                           | 33                              |

※ 1) 広聴：行政機関などが広く一般の人の意見や要望などを聞くこと

※ 2) 参加：市民の参加の下で市政が行われ、市民の意思を自治体運営に反映すること。(この調査では、  
区民の皆さまの声を区政に反映することを指します。)

※ 3) 生涯学習：人々が生涯にわたって、様々な場や機会において行う学習

※ 4) 地域包括ケアシステム：住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、自助・互助・共助・公助の  
適切な役割分担のもと、住まい・医療・介護・予防・福祉・生活支援などが切れ  
目なく、一体的に提供される体制づくり

### 問 3 放置自転車対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

|                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1 駅周辺に駐輪場を整備・増設する | 6 バス・電車など公共交通機関の利用を促す |
| 2 放置自転車の撤去を強化する   | 7 駅まで歩くように啓発する        |
| 3 整理誘導員による指導を強化する | 8 過料・反則金を科す           |
| 4 自転車利用者へマナーを啓発する | 9 その他 ( )             |
| 5 自転車共用システム※を導入する |                       |

※) 自転車共用システム：共用の自転車を用意し、システムに登録した人がその自転車を利用できるようにする。自宅からの利用者は、共用の自転車に乗り、駅前の駐輪場に停める。  
駅から駅周辺の会社・学校に通う人がその自転車を利用することにより、駐輪  
場に停めておく自転車を減少させるというもの。

問4 街の安全を守るためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 1 住民が自分たちで地域をパトロールする      | 6 広報物などにより防犯の啓発活動をする |
| 2 区内で発生する犯罪情報を発信する        | 7 防犯灯を増設する           |
| 3 防犯教室を開催する               | 8 防犯カメラを増設する         |
| 4 防犯グッズの配布や街頭に立つての啓発活動をする | 9 その他 ( )            |
| 5 地域の危険箇所を記した安全マップを作成する   |                      |

問5 地震や風水害への対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                      |                              |
|----------------------|------------------------------|
| 1 防災訓練を充実させる         | 6 防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する |
| 2 被災時に必要な物資を充実させる    | 7 耐震診断を充実させる                 |
| 3 消火や救命活動のできる人材を育成する | 8 地域の防災組織の活性化を図る             |
| 4 地域のつながりの充実を図る      | 9 その他 ( )                    |
| 5 防災に関する啓発活動を行う      |                              |

問6 区民の健康づくりを推進していくためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 健康づくりに関する情報を提供する       | 5 禁煙相談をする             |
| 2 健康づくりに関する講座・イベントを開催する  | 6 健康診断受診について啓発する      |
| 3 市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する | 7 レストランや食品の栄養表示を充実させる |
| 4 タバコの害から健康を守る啓発活動をする    | 8 その他 ( )             |

問7 高齢者を支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 高齢者が集まれる場所をつくる          | 5 悩みなどの相談を受け付ける場を設ける  |
| 2 高齢者が活躍できる機会をつくる         | 6 送迎サービス・ボランティアの拡充を図る |
| 3 高齢者の支援などに関する情報を提供する     | 7 配食サービスを充実させる        |
| 4 ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する | 8 高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する |
|                           | 9 その他 ( )             |

問8 子どもや子育てを支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 子どもや子育てに関する情報を発信する
- 2 子どもの遊び場を提供する
- 3 子育て中の親が交流できる場を提供する
- 4 家事を補助する仕組みを作る
- 5 区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る
- 6 幼稚園・保育園等の施設を増設する
- 7 保育園における保育の質を向上させる
- 8 子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する
- 9 子どもや青少年の育ちを支援するような講座等を開催する
- 10 その他 ( )

問9 地域の住民同士のつながりを深めるためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する
- 2 小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会(イベント等)をつくる
- 3 身近に集い、憩える場所を作る
- 4 市民活動団体、企業などが行う地域の活動を行政が支援する
- 5 町内会、自治会の活動を行政が支援する
- 6 地域のつながりづくりを行っている区民と行政が連携を図っていく
- 7 「地域のコミュニティ」というテーマで講演会・シンポジウムを開催する
- 8 その他 ( )

問10 市民活動の支援としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| 1 活動資金を助成する             | 4 市民活動の情報を共有する      |
| 2 団体同士が交流する機会を設ける       | 5 区内で活動する人材バンクをつくる  |
| 3 市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける | 6 有益な活動をしている団体を表彰する |
|                         | 7 その他 ( )           |

問11 区の情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 市政だより区版を拡充する          | 5 メールマガジンを発行する        |
| 2 施設に置くパンフレットやチラシを充実させる | 6 新聞、タウン誌などのメディアを活用する |
| 3 ホームページを充実させる          | 7 町内会で回覧する            |
| 4 SNS※を活用する             | 8 その他 ( )             |

※) SNS (Social Networking Service) : 個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと



問 12 区民の意見を収集し、または、区民の意見を区政に反映するためには、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

- 1 「区役所にどのようなことを行ってほしいか」のアンケート調査を行う
- 2 区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる
- 3 公開の場で区長に直接意見を言えるようなタウンミーティングを開く
- 4 区の将来像や地域課題等について、区民同士が話し合う大規模なワークショップを開く
- 5 多様な主体※<sup>1</sup>が連携して、地域課題解決のアイデア等を具体的に話し合うワークショップを開く
- 6 SNS等を活用し、区役所と電子上で意見交換できる仕組みをつくる
- 7 区政情報を発信するパネル展示等の会場で区職員に気軽に意見や質問をすることができる「オープンハウス※<sup>2</sup>」の場を設ける
- 8 区役所の取組を区民が体験し、意見や感想等を伝えるモニター制度をつくる
- 9 その他（ ）

※1）多様な主体：区内の企業や市民活動団体、町内会・自治会など

※2）「オープンハウス」：パネルの展示やリーフレット資料の配布により、事業や、その進め方に関する情報を区から提供するとともに、参加者がその場で担当の区職員に対して質問・意見できる市民参加の機会

問 13 平成5年度より高津区が取り組んでいる「花と緑のまちづくり」を推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。（3つまで○）

- 1 街路樹による緑化を推進する
- 2 シンボルとなる魅力ある公園づくりをする
- 3 公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする
- 4 公園緑地や学校での環境教育・学習をする
- 5 ガーデニングなど個人的に活動している人を表彰する
- 6 その他（ ）

問 14 区の文化を振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

- |                            |                     |
|----------------------------|---------------------|
| 1 音楽会、コンサートを開く             | 6 区の文化に関する冊子などを作成する |
| 2 映画鑑賞会を開く                 | 7 区民参加型の文化イベントを開催する |
| 3 伝統芸能に触れる機会を作る            | 8 区内で文化活動を行う人を支援する  |
| 4 「文化」をテーマとした講演会、シンポジウムを開く | 9 区における文化拠点をつくる     |
| 5 区内の文化財・史跡を巡る催しを開く        | 10 その他（ ）           |

問 15 川崎市が掲げている「音楽のまち」を高津区において推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 1 区役所などの公共施設でコンサートを開催する | 5 区のイメージソングを作成する  |
| 2 市民の音楽活動の発表の場を設ける      | 6 区民の音楽団体の活動を支援する |
| 3 路上で歌うミュージシャンを支援する     | 7 良質な音楽イベントを誘致する  |
| 4 小学校、中学校に音楽教育をする       | 8 その他 ( )         |

問 16 区のイメージアップを図るためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                           |
|---------------------------|
| 1 区を紹介する広報誌を発行する          |
| 2 高津区を特徴づけるイベントを開催する      |
| 3 駅前など人が多く集まるところをきれいにする   |
| 4 安心・安全なまちづくりを推進する        |
| 5 区内に花や緑を増やす              |
| 6 名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する |
| 7 高津区のイメージキャラクターをつくる      |
| 8 その他 ( )                 |

問 17 区の地域資源の魅力をより効果的に発信するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1 地域資源をめぐるウォーキングコースを整備する             |
| 2 区内をめぐるランニングコース又はサイクリングコース等を整備する    |
| 3 区民公募により、重要な地域資源を選出する(例：(仮)たかつ百景など) |
| 4 地域資源を紹介する冊子又はマップを発行する              |
| 5 SNSや動画を活用してインターネット等で地域資源を紹介する      |
| 6 地域資源を来訪者に説明できるような市民ガイドを養成する        |
| 7 その他 ( )                            |

問 18 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する                 |
| 2 窓口の案内表示を分かりやすくする                    |
| 3 申請書の書き方を分かりやすくする                    |
| 4 土曜・日曜・祝日に窓口を開く                      |
| 5 職員の窓口対応を区民が評価する                     |
| 6 職員に接遇方法の研修を受けさせる                    |
| 7 区役所の窓口足に運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす |
| 8 その他 ( )                             |

問 19 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みとしては、どのようなものがよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者（区民）と区役所で協力して実施する
- 2 区役所が区民ボランティアを募集する
- 3 電子会議室（掲示板）を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする
- 4 区役所の予算編成に区民の意見や視点を反映させる
- 5 若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる
- 6 その他（ ）

問 20 地域における地球温暖化の緩和策※<sup>1</sup>としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 環境問題について啓発するため、環境に関する体験型イベントを開催する
- 2 日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする
- 3 区内小学校等において、環境教育・学習を推進する
- 4 区内に花や緑を増やす
- 5 シェアリングエコノミー※<sup>2</sup>を推進する
- 6 再生可能エネルギーを導入している区民を支援する
- 7 区内の環境に関する技術開発をしている企業等を支援する
- 8 その他（ ）

※ 1）緩和策：温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制するための取り組み

※ 2）シェアリングエコノミー：物・サービス・場所などを、多くの人と共有・交換して利用する社会的な仕組み（自転車、自動車、傘など）

問 21 地域における地球温暖化に伴う自然災害への適応策※として、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 日常生活で身近にできる適応策の普及・啓発を行う
- 2 区内小学校等において、適応策に関する学習を推進する
- 3 局地的な豪雨による洪水、土砂崩れのなどの災害について、地域の地形に応じた危険性がわかるようなマップを作成する
- 4 まち歩きイベントなどを通じて、地域の地形の特徴や災害リスクを学ぶ機会を設ける
- 5 学校や空き地などに、雨水を一時的に貯めるための調整池の整備を推進する
- 6 森林や緑地を適切に管理し、保水力を維持する
- 7 その他（ ）

※）適応策：ゲリラ豪雨による洪水や土砂崩れなどの地球温暖化の影響に「適応」するための取り組み（雨水の貯留や地面の保水力向上など）

問 22 スポーツを振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 気軽に参加できるスポーツイベントを開催する
- 2 有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する
- 3 スポーツに関する情報提供を充実させる
- 4 スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる
- 5 地域のクラブやサークルの活動を活性化する
- 6 スポーツ指導者の育成をする
- 7 スポーツに係るボランティアの育成をする
- 8 その他 ( )

問 23 生涯学習の支援や推進をするためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 講座やイベントを開催する
- 2 生涯学習に関する情報を提供する
- 3 自主グループや団体の生涯学習活動を支援する
- 4 生涯学習活動を支援するボランティアを育成する
- 5 地域人材を講師として活用する
- 6 その他 ( )

問 24 あなたのまち（お住まいの地域や区内の生活圏）の課題・問題点と思うものは何ですか。  
(いくつでも○)

- 1 地震や風水害に対する準備が不足している
- 2 子どもの登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある
- 3 路上喫煙や歩きたばこが多い
- 4 駅周辺に放置自転車が多い
- 5 道路や歩道の整備が不十分である
- 6 駅前広場の整備が不十分である
- 7 駅までの交通の利便性がよくない
- 8 高齢者を地域ぐるみで支える仕組みが不十分である
- 9 近所に公園が少ない
- 10 公園の維持管理が行き届いていない
- 11 子どもや子育てを地域ぐるみで支援する仕組みが不十分である
- 12 まちに木や草花など、緑が少なくなっている
- 13 水辺に親しめる環境がない
- 14 ごみの散乱や壁への落書きなど、まちが汚い
- 15 ごみの分け方や出し方などのルールが守られていない
- 16 カラスによる人への威嚇やごみの散乱などの被害が多い
- 17 商店街に活気がない
- 18 地域の中で住宅と工場が混在し、周辺の問題がある
- 19 名所・旧跡などの地域の魅力が知られていない
- 20 近隣の住民同士の関係が薄れている
- 21 シニア世代が地域に貢献できる仕組みがない
- 22 その他 ( )
- 23 特になし
- 24 わからない

問 25 区役所に希望すること、期待することをご自由に記入してください。

## 【第2部 事業に対する認知度・評価】

あなたは高津区の行っている事業についてご存知でしょうか。

- (1) については事業の認知度およびその事業の評価について該当するものに○をつけてください。(認知度について、選択肢1を選んだ方のみ評価について○をつけてください)
- (2) については事業へのご意見等や改善策の御提案等がございましたら御記入ください。

### 問26 「エコシティたかつ」推進事業

内容：地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化などの環境問題に取り組む「エコシティたかつ」推進方針に沿って、緑ヶ丘霊園内の森の整備を進めるなどする「たかつ水と緑の探検隊」や区内小学校においてビオトープを整備し、それを活用した環境学習支援を行う「学校流域プロジェクト」など様々なプロジェクトを実施している。

|                   |             |            |           |        |
|-------------------|-------------|------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 内容まで知っている | 2 聞いたことはある | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い     | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |            |           |        |

### 問27 大山街道周辺整備活性化事業

内容：地域と連携して取り組む大山街道周辺のまちづくりの目標や方向性をまとめた「高津大山街道マスタープラン」を平成21年3月に策定した。現在は、地域の皆さんと一緒にプランの実現に向けた具体的な取組みを進めるとともに、プロジェクトの情報を「大山街道アクションフォーラム」、ホームページ、チラシなどで広く受発信している。

|                   |             |            |           |        |
|-------------------|-------------|------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 内容まで知っている | 2 聞いたことはある | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い     | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |            |           |        |

### 問28 「たちばな農のあるまちづくり」推進事業

内容：橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取組みを推進する。平成21年3月に「たちばな農のあるまちづくり」推進方針を策定し、区内産野菜の地産地消推進などの取組みを行っている。

|                   |             |            |           |        |
|-------------------|-------------|------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 内容まで知っている | 2 聞いたことはある | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い     | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |            |           |        |

### 問 29 たかつ区健康福祉まつり

内容：区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年7月に「てくのかわさき」で開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。

|                   |             |                   |           |        |
|-------------------|-------------|-------------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 参加したことがある | 2 知っているが参加したことはない | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い            | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |                   |           |        |

### 問 30 健やか地域推進事業

内容：区内の関係機関や「ヘルスパートナー高津」、町内会などの住民組織と連携し、住民が身近な公園などで「高津公園体操」を実施できるよう、地域ごとの研修会を実施している。また、普及啓発のため、地域住民や関係機関を対象に講演会などを実施するとともに、リーフレットの作成、DVD等の販売を行っている。

|                   |             |                   |           |        |
|-------------------|-------------|-------------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 参加したことがある | 2 知っているが参加したことはない | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い            | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |                   |           |        |

### 問 31 高津区「音楽のまち」推進事業

内容：音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花コンサート」、区民参加型の音楽祭である「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。

|                   |             |                   |           |        |
|-------------------|-------------|-------------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 参加したことがある | 2 知っているが参加したことはない | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い            | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |                   |           |        |

### 問 32 高津区子どもフェア

内容：子どもの健全育成を図るため、8月最後の日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、ダンボール舟のレース、うなぎ・どじょう・あゆの掴み捕り、移動動物園、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。

|                   |             |                   |           |        |
|-------------------|-------------|-------------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 参加したことがある | 2 知っているが参加したことはない | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い            | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |                   |           |        |

### 問 33 高津地区親子運動会事業

内容：毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子等を対象に運動会を行っている。町会対抗リレーやむかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

|                   |                                                                                       |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | <div> <div>1 参加したことがある</div> <div>2 知っているが参加したことはない</div> <div>3 知らない</div> </div>    |
| ↓                 |                                                                                       |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | <div> <div>1 良い</div> <div>2 概ね良い</div> <div>3 あまり良くない</div> <div>4 良くない</div> </div> |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |                                                                                       |

### 問 34 橘地区親子運動会事業

内容：毎年10月の第3日曜日に、橘中学校で橘地区の親子等を対象に運動会を行っている。100m 競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

|                   |                                                                                       |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | <div> <div>1 参加したことがある</div> <div>2 知っているが参加したことはない</div> <div>3 知らない</div> </div>    |
| ↓                 |                                                                                       |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | <div> <div>1 良い</div> <div>2 概ね良い</div> <div>3 あまり良くない</div> <div>4 良くない</div> </div> |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |                                                                                       |

### 問 35 橘ふるさと祭り こどもイベント

内容：「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される「橘ふるさと祭り」(8月上旬の日曜日)において、広く子どもも大人も楽しめるイベントを実施している。また、ふるさと祭りの広報等のため、地区内小学生によるポスターコンクールを実施し、優秀作品からポスターを作製するとともに、市バス車内や公共施設等へ掲出する。

|                   |                                                                                       |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | <div> <div>1 参加したことがある</div> <div>2 知っているが参加したことはない</div> <div>3 知らない</div> </div>    |
| ↓                 |                                                                                       |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | <div> <div>1 良い</div> <div>2 概ね良い</div> <div>3 あまり良くない</div> <div>4 良くない</div> </div> |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |                                                                                       |

### 問 36 高津区文化振興事業

内容：区内の歴史的・文化的資源の活用により、地域の魅力を再認識する機会を提供し、ふるさと意識の醸成を図るため、区の歴史・地理・文化等についての学習とガイド養成を目的とした「高津のさんぽみちガイド養成講座」を実施している。

|                   |                                                                                       |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | <div> <div>1 参加したことがある</div> <div>2 知っているが参加したことはない</div> <div>3 知らない</div> </div>    |
| ↓                 |                                                                                       |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | <div> <div>1 良い</div> <div>2 概ね良い</div> <div>3 あまり良くない</div> <div>4 良くない</div> </div> |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |                                                                                       |



### 問 37 高津区まちづくり推進事業

内容：区民の参加と協働によるまちづくりの様々な取り組みや活動団体のPRなどを目的に、キラリたかつニュースの発行、区内市民活動のポータルサイト「たかつまちねっと」の運営を行うとともに、「市民活動見本市（通称：どんなもんじゃまつり）」を開催している。また、「高津学」と題して、まちづくり講座の開催を行うなどしている。

|                   |             |              |           |        |
|-------------------|-------------|--------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 内容まで知っている | 2 あることは知っている | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い       | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |              |           |        |

### 問 38 高津区総合ガイドマップ作成事業

内容：区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、防災情報、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。

|                   |            |              |           |        |
|-------------------|------------|--------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 読んだことがある | 2 あることは知っている | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い       | 2 概ね良い       | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |            |              |           |        |

### 問 39 子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（情報ガイドブック））

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に区民協働で立ち上げた「ホッとこそだて・たかつ」という情報ガイドブックを区民と協働で作成し、情報発信を行っている。

|                   |            |                  |           |        |
|-------------------|------------|------------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 読んだことがある | 2 知っているが読んだことはない | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い       | 2 概ね良い           | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |            |                  |           |        |

### 問 40 子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（ホームページ））

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に、高津区ホームページの中のメニュー「ホッとこそだて・たかつ」にタイムリーな情報を掲載し、情報提供を行っている。

|                   |           |                 |           |        |
|-------------------|-----------|-----------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 見たことがある | 2 知っているが見たことはない | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い      | 2 概ね良い          | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |           |                 |           |        |

#### 問 41 子ども・子育てフェスタ事業

内容：毎年11月の土曜日に高津市民館において開催し、親子で参加できる楽しいイベント、学習・講演会、地域子育てグループ等の紹介などを実施している。その中で、市民と行政との協働により子どもの育ちを支えあうネットワークづくりを行っている。

|                   |             |                   |           |        |
|-------------------|-------------|-------------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 参加したことがある | 2 知っているが参加したことはない | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い            | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |                   |           |        |

#### 問 42 高津区地域連携スポーツ事業

内容：スポーツを通じた地域コミュニティの活性化や世代間交流、地域におけるスポーツ参加機会の拡充を図るため、「ファミリースポーツ縁日」、「スポーツインクルージョン縁日」といったスポーツイベントを開催している。

|                   |             |                   |           |        |
|-------------------|-------------|-------------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 参加したことがある | 2 知っているが参加したことはない | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い            | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |                   |           |        |

#### 問 43 高津区ふるさとアーカイブ事業

内容：区民に高津区の魅力を伝え、地域に愛着と親しみを持ってもらうため、高津区のまちなみを伝える資料を収集し、それを活用したワークショップやまち歩きを開催している。

|                   |             |              |           |        |
|-------------------|-------------|--------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 内容まで知っている | 2 あることは知っている | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い       | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |              |           |        |

#### 問 44 花と緑のたかつ推進事業

内容：区内に潤いのある空間を創出するため、市民との協働による花と緑のまちづくりの推進を図ることを目的として、区民ボランティアを中心に区内各所に設置した花苗のコンテナ及び花壇の植栽・管理を行っている。

|                   |             |                   |           |        |
|-------------------|-------------|-------------------|-----------|--------|
| (1) 認知度 (○は1つだけ)  | 1 参加したことがある | 2 知っているが参加したことはない | 3 知らない    |        |
| (1-1) 評価 (○は1つだけ) | 1 良い        | 2 概ね良い            | 3 あまり良くない | 4 良くない |
| (2) 御意見(改善策のご提案等) |             |                   |           |        |

### 【第3部 区民意識アンケート】

特定のテーマについて、区民意識を把握するためのアンケート調査です。

#### <地域の防災について>

地域防災推進の参考とするため、以下の設問にお答えください。

問 45 現在お住まいの地域での大規模地震の発生について、あなたはどの程度不安ですか。

(1つだけ○)

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1 とても不安だ  | 3 あまり不安ではない |
| 2 ある程度不安だ | 4 不安ではない    |

(問 45 で、「1 とても不安だ」「2 ある程度不安だ」と回答した方に伺います)

▶ 問 45-1 特に不安なことは何ですか。(2つまで○)

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1 家族や自分自身の身の安全 | 5 食料や水の確保 |
| 2 家族の安否確認の方法   | 6 避難所での生活 |
| 3 避難所までの避難方法   | 7 その他 ( ) |
| 4 自宅(家屋・建物)の倒壊 |           |

(全員の方へ伺います)

問 46 現在お住まいの地域で、次の災害に対する不安はありますか。(あてはまるもの全てに○)

- |         |            |
|---------|------------|
| 1 崖崩れ   | 6 火山の噴火    |
| 2 河川の氾濫 | 7 雪害       |
| 3 家屋の浸水 | 8 その他 ( )  |
| 4 道路冠水  | 9 感じたことはない |
| 5 落雷    |            |

問 47 あなたは町内会・自治会等が主催する地域の防災訓練に参加していますか。(1つだけ○)

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1 毎回参加している   | 3 ほとんど参加したことはない |
| 2 ほとんど参加している | 4 一度も参加したことはない  |

(問 47 で、「3 ほとんど参加したことはない」「4 一度も参加したことはない」と回答した方に)

▶ 問 47-1 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。(1つだけ○)

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 都合が合わないため                 | 4 参加するきっかけがないため     |
| 2 いっどこで防災訓練があるのか<br>わからないため | 5 町内会・自治会に加入していないため |
| 3 参加方法がわからないため              | 6 訓練に参加する必要性を感じないため |
|                             | 7 その他 ( )           |

(全員の方へ伺います)

問 48 地域の防災力を高めるには、何が大切だと思いますか。(2つまで○)

- 1 救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成
- 2 地域のつながり・助け合いの充実
- 3 町内会・自治会等の防災活動の充実
- 4 区民への啓発活動や防災に関する情報の周知
- 5 各家庭における災害用備蓄の充実
- 6 行政による災害用備蓄の充実
- 7 その他 ( )

問 49 あなたの家庭では、普段から大規模災害の発生に備え、どのようなことをしていますか。  
(あてはまるもの全てに○)

- 1 3日分程度の水と食料の備蓄をしている
- 2 非常持出品の用意をしている
- 3 家具などが倒れないように固定している
- 4 自宅を補強している
- 5 災害時の連絡先や集合場所について、家庭内でルールを決めている
- 6 地域の防災訓練に参加している
- 7 災害情報を収集できるようラジオ等を用意している
- 8 ハザードマップを確認している
- 9 自宅周辺の危険箇所を確認している
- 10 その他 ( )
- 11 特に準備をしていない

(問 49 で、「11 特に準備をしていない」と回答した方に伺います)

▶ 問 49-1 特に準備していない主な理由は次のうちどれですか。(2つまで○)

- 1 どのような準備をしたら良いのかわからないから
- 2 準備は必要だと思うが、忙しくてできないから
- 3 防災用品等は価格が高いから
- 4 保管場所が無いから
- 5 すぐに大規模な災害が来るとは思っていないから
- 6 行政等での備蓄があるので、十分だと思っているから
- 7 その他 ( )

(全員の方へ伺います)

問 50 避難所における感染症対策として、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるもの全てに○)

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1 マスクの用意        | 5 受付時の体温測定  |
| 2 消毒液の設置        | 6 使い捨て手袋の用意 |
| 3 避難者個々のスペースの確保 | 7 その他 ( )   |
| 4 清潔なトイレ        |             |

問 51 避難所における感染症拡大防止のため避難方法について検討していることはありますか。

(あてはまるもの全てに○)

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1 避難先を変える           | 5 災害リスクがあっても自宅にいる |
| 2 感染防止対策をして避難所に行く   | 6 ホテルや旅館などに避難する   |
| 3 自治体が指定する避難所には行かない | 7 その他 ( )         |
| 4 親戚や知人の家に避難する      | 8 考えていない          |

### <ご自身の健康について>

現在高津区では、健康づくり推進会議において運動や睡眠をテーマに取り組んでいます。区民の皆様  
の健康に関する状況を伺い、健康づくり施策に生かしていきたいと考えており、次の設問に、お答え  
ください。

問 52 ご自身の健康のためにどのようなことに気をつけていますか。(あてはまるもの全てに○)

|                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1 食事                         | 5 禁煙・減煙         |
| 2 運動                         | 6 禁酒・適正飲酒       |
| 3 健康診断                       | 7 ご近所や友達など人との交流 |
| 4 町内会自治会、ボランティア活動など<br>の社会活動 | 8 その他 ( )       |
|                              | 9 何もしていない       |

問 53 あなたの生活の中で、食事・運動・睡眠・仕事(家事)・趣味の優先順位を記入してください。

|       | 食事  | 運動  | 睡眠  | 仕事(家事) | 趣味  |
|-------|-----|-----|-----|--------|-----|
| 回答例 ⇒ | 1 位 | 3 位 | 2 位 | 4 位    | 5 位 |
| 優先順位  | 位   | 位   | 位   | 位      | 位   |

問 54 最近2週間の睡眠の状態について、ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めましたか。次の近い  
もの1つに○をつけて下さい。(1つだけ○)

|              |               |
|--------------|---------------|
| 1 いつもそうだった   | 3 そういう時は少なかった |
| 2 そういう時が多かった | 4 全くなかった      |

## <公園整備について>

公園整備の参考とするため、次の設問にお答えください。

問 55 あなたは公園をどのくらいの頻度で利用していますか。(1つだけ○)

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 1 ほぼ毎日   | 3 週に1～2回 | 5 ほぼ利用しない |
| 2 週に3～4回 | 4 月に1～2回 |           |

(問 55 で、「1 ほぼ毎日」「2 週に3～4回」「3 週に1～2回」「4 月に1～2回」と回答した方に伺います)

▶ 問 55-1 公園を訪れる目的はなんですか。(あてはまるもの全てに○)

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1 休憩や飲食の場所、読書 | 5 スポーツ(運動)      |
| 2 散歩やジョギング    | 6 催し物(イベント)への参加 |
| 3 子どもと遊ぶ      | 7 自然観察          |
| 4 遊具や健康器具の利用  | 8 その他( )        |

(全員の方へ伺います)

問 56 公園にどんな施設を望みますか。(あてはまるもの全てに○)

- |             |          |
|-------------|----------|
| 1 林や樹木などの自然 | 5 スポーツ設備 |
| 2 花壇        | 6 運動場    |
| 3 子ども用の遊具   | 7 トイレ    |
| 4 健康器具      | 8 その他( ) |

問 57 その他公園の整備にあたり、御要望を記入してください。

|                                          |
|------------------------------------------|
| <br><br><br><br><br><br><br><br><br><br> |
|------------------------------------------|

## <地域におけるつながり・コミュニティについて>

問 58 身近な地域において、あなた自身が気軽に人とつながることのできる場所や活動などがありますか。(1つだけ○)

- |      |       |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 59 あなたは、「まちのひろば」という言葉を聞いたことがありますか。(1つだけ○)

※川崎市では、これからのコミュニティ施策に関する考え方の中で身近な地域における誰もが気軽に集える出会いの場(場所だけでなく活動なども含む。)を「まちのひろば」と呼んでいます。

- |      |       |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 60 次の中で、あなたが参加してみたいと思う「まちのひろば」はありますか。

(あてはまるもの全てに○)

- 1 マルシェ
- 2 バザー、フリーマーケット
- 3 防災訓練
- 4 シェア農園、コミュニティガーデン
- 5 趣味のサークル活動
- 6 音楽・アート・ダンスや飲食等を題材にしたお祭り（フェス）
- 7 空き家をリノベーションした空間での活動
- 8 森の遊び場、プレイパーク
- 9 コミュニティカフェ
- 10 地域のえんがわ（人が自然と集まる寄り合い場所）
- 11 公園や河川空間（河川敷）での活動
- 12 その他（ ）
- 13 「まちのひろば」に参加したいとは思わない

問 61 あなたは、「まちのひろば」のような、気軽に集える場所・活動を、自分自身で始めてみたいと思いますか。（1つだけ○）

- |            |          |                |
|------------|----------|----------------|
| 1 すでに行っている | 2 始めてみたい | 3 始めてみたいとは思わない |
|------------|----------|----------------|

（問 61 で、「1 すでに行っている」又は「2 始めてみたい」と回答した方に伺います）

▶ 問 61－1 次の中で、あなたが気軽に集える場所・活動を始める（続ける）にあたって、当てはまるものはありますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 ノウハウがないので、詳しい人に話を聞いてみたい
- 2 活動する場所がないので、活動場所を提供できる人を紹介してもらいたい
- 3 活動資金が不足しているので、資金確保の方法を教えてください
- 4 活動を支える人材が不足しているので、人材を紹介してもらいたい
- 5 地域にある様々な資源を紹介し、マッチングしてくれるコーディネート役がいるなら相談したい
- 6 イベント情報などを気軽に発信・共有できる場所が地域にあるとよい
- 7 その他（ ）
- 8 特にない

## <あなた御自身について>

### F 1 性別（１つだけ○）

|      |      |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

### F 2 年齢（１つだけ○）

|          |          |          |           |
|----------|----------|----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 4 30～34歳 | 7 45～49歳 | 10 60～64歳 |
| 2 20～24歳 | 5 35～39歳 | 8 50～54歳 | 11 65～69歳 |
| 3 25～29歳 | 6 40～44歳 | 9 55～59歳 | 12 70歳以上  |

### F 3 職業（１つだけ○）

|               |                |          |
|---------------|----------------|----------|
| 1 自営業主        | 4 勤め（パートタイム）   | 7 学生     |
| 2 家族従業（家業手伝い） | 5 内職           | 8 無職     |
| 3 勤め（全日）      | 6 主婦（仕事はしていない） | 9 その他（ ） |

### F 4 お住まいの地域（１つだけ○）

|       |       |        |            |         |
|-------|-------|--------|------------|---------|
| 1 宇奈根 | 6 坂戸  | 11 久本  | 16 蟹ヶ谷     | 21 千年   |
| 2 梶ヶ谷 | 7 下作延 | 12 二子  | 17 子母口     | 22 千年新町 |
| 3 上作延 | 8 下野毛 | 13 溝口  | 18 子母口富士見台 | 23 野川   |
| 4 北見方 | 9 諏訪  | 14 向ヶ丘 | 19 新作      | 24 久末   |
| 5 久地  | 10 瀬田 | 15 明津  | 20 末長      |         |

### F 5 高津区にお住まいになって、何年になりますか。（１つだけ○）

|           |            |             |
|-----------|------------|-------------|
| 1 1年未満    | 3 3年～5年未満  | 5 10年～20年未満 |
| 2 1年～3年未満 | 4 5年～10年未満 | 6 20年以上     |

### F 6 あなたは町内会・自治会に加入していますか。（１つだけ○）

|      |       |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

### F 7 あなたはインターネットを利用していますか。（１つだけ○）

|      |       |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|



F 8 現在、一緒にお住まいのご家族は、あなたを含めて何人いらっしゃいますか。(1つだけ○)

|   |    |   |    |   |    |   |      |
|---|----|---|----|---|----|---|------|
| 1 | 1人 | 3 | 3人 | 5 | 5人 | 7 | 7人以上 |
| 2 | 2人 | 4 | 4人 | 6 | 6人 |   |      |

F 9 あなたを含めてご家族の中に、次に該当する人はいらっしゃいますか。

(該当する年代全てに○をつけてください)

|   |      |   |     |   |     |
|---|------|---|-----|---|-----|
| 1 | 未就学児 | 3 | 中学生 | 5 | いない |
| 2 | 小学生  | 4 | 高校生 |   |     |

F 10 65歳以上の方は同居していらっしゃいますか。(ご自分が65歳以上の方は「1」に○をつけてください。)(1つだけ○)

|   |    |   |     |
|---|----|---|-----|
| 1 | いる | 2 | いない |
|---|----|---|-----|

以上でアンケートは終了です。

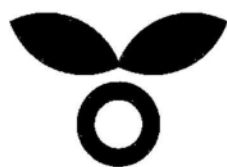
同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、10月31日(土)までにご投函ください。

ご協力誠にありがとうございました。

高津区区民生活に関わるニーズ調査  
報 告 書

2021（令和3）年3月

|      |                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| 調査主体 | 高津区役所まちづくり推進部企画課<br>〒213-8570 川崎市高津区下作延2-8-1<br>電話 044-861-3131 |
| 調査実施 | 株式会社エスピー研<br>〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-20<br>電話 03-3239-0071     |



高 津 区